千葉県文化財センター調査報告第391集

主要地方道成田松尾線Ⅺ

―― 芝山町山田宝馬古墳群 ――

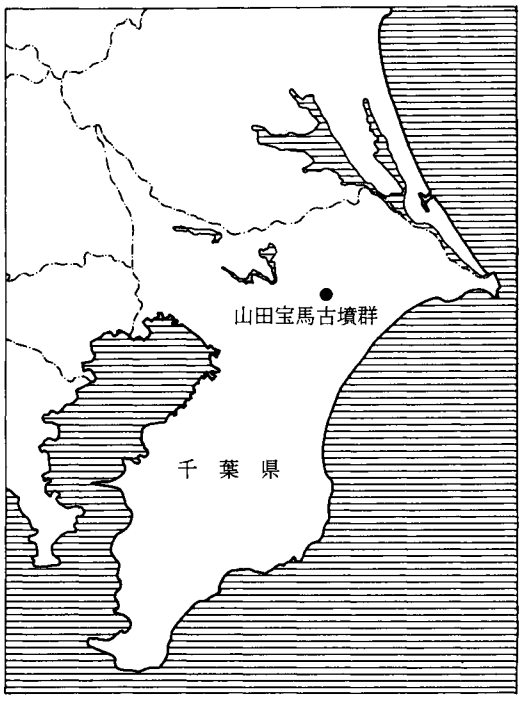
平成12年3月

千　葉　県　土　木　部

財団法人　千葉県文化財センター

主要地方道成田松尾線XI

——芝山町山田宝馬古墳群——



巻頭図版

序　文

財団法人千葉県文化財センターは，埋蔵文化財の調査研究，文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され，以来，数多くの遺跡の発掘調査を実施し，その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび，千葉県文化財センター調査報告書第391集として，千葉県土木部の主要地方道成田松尾線改良事業に伴って実施した山武郡芝山町山田宝馬古墳群の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では，円筒埴輪や鶏形埴輪を始めとする形象埴輪が出土するなど，この地域の古墳時代の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり，この報告書が学術資料として，また郷土の歴史を理解するための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに，調査に際し御指導，御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関，また，発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成12年３月31日

財団法人千葉県文化財センター

理事長　中　村　好　成

凡　例

1　本書は，千葉県土木部による主要地方道成田松尾線地方道道路改良事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。

2　本書に収録した遺構は，千葉県山武郡芝山町高田字権現333ほかに所在する山田宝馬古墳群（遺跡コード409－023）である。

3　発掘調査から報告書作成に至る業務は，千葉県土木部の委託を受け，財団法人千葉県文化財センターが実施した。

4　発掘調査と整理作業の実施期間及び組織と担当者は本文中に記述した。

5　作業の分担は，第１章・第２章・第３章第１節・第２節３・第４章を調査室長　石倉亮治，第３章第２節１・２を主任技師　安井健一が執筆した。

6　発掘調査から報告書の刊行に至るまで，千葉県教育庁生涯学習部文化課，千葉県土木部道路建設課，千葉県成田土木事務所，芝山町教育委員会の御指導，御協力を得た。

7　現地の発掘調査及び整理作業に従事していただいた調査補助員の方々には終始御協力をいただき感謝致します。

8　本書で使用した地形図は，下記のとおりである。

第１図　国土地理院発行　1/25,000地形図「多古」（Ｎ１－54－19－10－２）

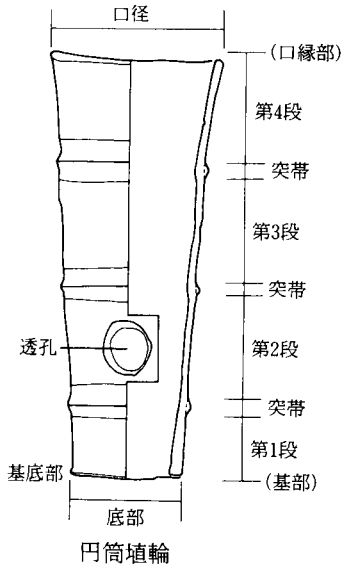
第２図　芝山町発行　　1/2,500 都市計画図「芝山町」(17)

9　周辺地形航空写真は，京葉測量株式会社による平成11年撮影 1/5,000のものを使用した。

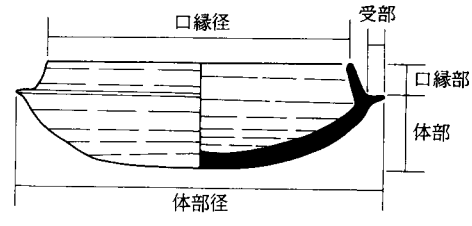
10　本書で使用した図面の方位は，すべて座標北である。

11　巻頭図版は山田宝馬にわとり塚古墳出土の鶏形埴輪である。

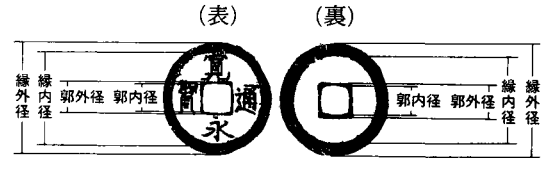
12　本書で記述及び計測に使用した部位は，次のとおりである。



円筒埴輪



土　器



銭　貨

本文目次

第１章　遺跡の立地と周辺の古墳及び古墳群 …… 1
　第１節　遺跡の立地 …… 1
　第２節　周辺の古墳及び古墳群 …… 1
第２章　調査の概要と方法 …… 5
　第１節　調査の概要 …… 5
　　1　調査の経緯 …… 5
　　2　調査の経過 …… 5
　第２節　調査の方法 …… 6
第３章　遺構と遺物 …… 9
　第１節　遺構 …… 9
　第２節　遺物 …… 20
　　1　石器 …… 20
　　2　縄文土器 …… 22
　　3　埴輪 …… 24
第４章　まとめ …… 107

挿図目次

第１図　山田宝馬古墳群と周辺古墳（群）(1/25,000) …… 2
第２図　周辺の地形図（1/2,500） …… 7
第３図　グリッド配置図及び調査範囲 (1/1,000) …… 8
第４図　にわとり塚古墳セクションポイント配置図（1/150） …… 10
第５図　墳丘セクション図 …… 11
第６図　墳丘セクション図及び周溝セクション図 …… 12
第７図　円筒埴輪出土状況図（1/150） …… 14
第８図　形象埴輪出土状況図(1)（1/150） …… 15
第９図　形象埴輪出土状況図(2)（1/150） …… 16
第10図　形象埴輪出土状況図(3)（1/150） …… 17
第11図　形象埴輪出土状況図(4)（1/150） …… 18
第12図　形象埴輪出土状況図(5)（1/150） …… 19
第13図　石器 …… 21
第14図　縄文土器(1) …… 23
第15図　縄文土器(2) …… 24
第16図　円筒埴輪(1) …… 26
第17図　円筒埴輪(2) …… 27
第18図　円筒埴輪(3) …… 29
第19図　円筒埴輪(4) …… 31
第20図　円筒埴輪(5) …… 32
第21図　円筒埴輪(6) …… 33
第22図　円筒埴輪(7) …… 34
第23図　円筒埴輪(8) …… 36
第24図　円筒埴輪(9) …… 37
第25図　円筒埴輪(10) …… 38
第26図　円筒埴輪(11) …… 40

第27図　円筒埴輪(12) …… 42
第28図　円筒埴輪(13) …… 44
第29図　円筒埴輪(14) …… 46
第30図　円筒埴輪(15) …… 47
第31図　円筒埴輪(16) …… 49
第32図　円筒埴輪(17) …… 50
第33図　円筒埴輪(18) …… 52
第34図　円筒埴輪(19) …… 54
第35図　円筒埴輪(20) …… 55
第36図　円筒埴輪(21) …… 56
第37図　円筒埴輪(22) …… 57
第38図　形象埴輪(1) …… 72
第39図　形象埴輪(2) …… 73
第40図　形象埴輪(3) …… 74
第41図　形象埴輪(4) …… 75
第42図　形象埴輪(5) …… 76
第43図　形象埴輪(6) …… 77
第44図　形象埴輪(7) …… 78
第45図　形象埴輪(8) …… 79
第46図　形象埴輪(9) …… 80
第47図　形象埴輪(10) …… 81
第48図　形象埴輪(11) …… 82
第49図　形象埴輪(12) …… 85
第50図　形象埴輪(13) …… 86
第51図　形象埴輪(14) …… 87
第52図　形象埴輪(15) …… 88
第53図　形象埴輪(16) …… 89
第54図　形象埴輪(17) …… 90
第55図　形象埴輪(18) …… 92
第56図　形象埴輪(19) …… 93
第57図　形象埴輪(20) …… 94
第58図　形象埴輪(21) …… 95
第59図　形象埴輪(22) …… 96
第60図　形象埴輪(23) …… 97
第61図　形象埴輪(24) …… 98
第62図　形象埴輪(25) …… 99
第63図　形象埴輪(26) …… 100
第64図　形象埴輪(27) …… 101
第65図　その他の出土遺物 …… 106
第66図　周辺古墳の埴輪列模式図(1) …… 108
第67図　周辺古墳の埴輪列模式図(2) …… 109

表 目 次

第１表　山田宝馬古墳群にわとり塚古墳周辺の古墳及び古墳群 …… 3
第２表　円筒埴輪観察表（２－１） …… 58
円筒埴輪観察表（２－２） …… 59
円筒埴輪観察表（２－３） …… 60
円筒埴輪観察表（２－４） …… 61
円筒埴輪観察表（２－５） …… 62
円筒埴輪観察表（２－６） …… 63
円筒埴輪観察表（２－７） …… 64
円筒埴輪観察表（２－８） …… 65
円筒埴輪観察表（２－９） …… 66
円筒埴輪観察表（２－10） …… 67
円筒埴輪観察表（２－11） …… 68
円筒埴輪観察表（２－12） …… 69
第３表　形象埴輪観察表（人物） …… 83
形象埴輪観察表（よろい形） …… 84
形象埴輪観察表（家形） …… 91
形象埴輪観察表（動物） …… 102
形象埴輪観察表（基台部） …… 102
第４表　土器観察表 …… 103

図版目次

巻頭図版　山田宝馬にわとり塚古墳出土の鶏形埴輪
図版１　遺跡周辺航空写真
図版２　にわとり塚古墳近景
（南から・南西から・北西から）
図版３　墳丘土層堆積状況
（北から・南から・北西から）
図版４　墳丘土層堆積状況
（西から・周溝・遺物出土状況）
図版５　埴輪出土状況
図版６　石器
図版７　縄文土器(1)
図版８　縄文土器(2)
図版９　円筒埴輪(1)
図版10　円筒埴輪(2)
図版11　円筒埴輪(3)
図版12　円筒埴輪(4)
図版13　円筒埴輪(5)
図版14　円筒埴輪(6)
図版15　円筒埴輪(7)
図版16　円筒埴輪(8)
図版17　円筒埴輪(9)
図版18　円筒埴輪(10)
図版19　円筒埴輪(11)
図版20　円筒埴輪(12)
図版21　円筒埴輪(13)
図版22　円筒埴輪(14)
図版23　円筒埴輪(15)
図版24　円筒埴輪(16)
図版25　円筒埴輪(17)
図版26　円筒埴輪(18)
図版27　円筒埴輪(19)
図版28　円筒埴輪(20)
図版29　円筒埴輪(21)
図版30　形象埴輪(1)
図版31　形象埴輪(2)
図版32　形象埴輪(3)
図版33　形象埴輪(4)
図版34　形象埴輪(5)
図版35　形象埴輪(6)
図版36　形象埴輪(7)
図版37　形象埴輪(8)
図版38　形象埴輪(9)
図版39　形象埴輪(10)
図版40　形象埴輪(11)
図版41　形象埴輪(12)
図版42　形象埴輪(13)
図版43　形象埴輪(14)
図版44　形象埴輪(15)
図版45　形象埴輪(16)
図版46　形象埴輪(17)
図版47　形象埴輪(18)
図版48　その他の出土遺物

第１章　遺跡の立地と周辺の古墳及び古墳群

第１節　遺跡の立地

山田宝馬古墳群の所在する山武郡芝山町は房総半島の北東部，下総台地の南東部に位置する。下総台地は，浅海性の砂層である成田層とその上に堆積した下末吉層・武蔵野ローム層・立川ローム層から成り，山田宝馬古墳群付近では標高44ｍ前後の比較的起伏の少ない台地となっている。新東京国際空港付近は分水界となっており，天神峰，東峰付近の水源から利根川に流入する大須賀川，尾羽根川，取香川などの中小の河川や栗源町高萩付近の水源から太平洋に注がれる栗山川やその支流である高谷川，木戸川などにより台地は樹枝状に浸食されている。

山田宝馬古墳群の位置する台地は，東を流れる高谷川と西を流れる木戸川が接近し，東から台地の奥深くまで浸食された谷津が迫り台地の幅も約１㎞ほどに絞り込まれ，尾根状に残された僅かな平坦面を伝うように古墳が構築されている。現在の県道成田松尾線はこの狭い平坦部分の東端を谷津を避け，蛇行しながら北西から南東へと貫いている。

また，この台地は高谷川によって広く開析された標高８ｍ前後の平坦面と木戸川によって開析された手狭な標高20ｍ前後の平坦面に挟まれ，東から西に傾斜する。平坦面は現在は水田に利用されており，その比高差は台地の東端で約30ｍ，西端で約20ｍとなっている。

第２節　周辺の古墳及び古墳群

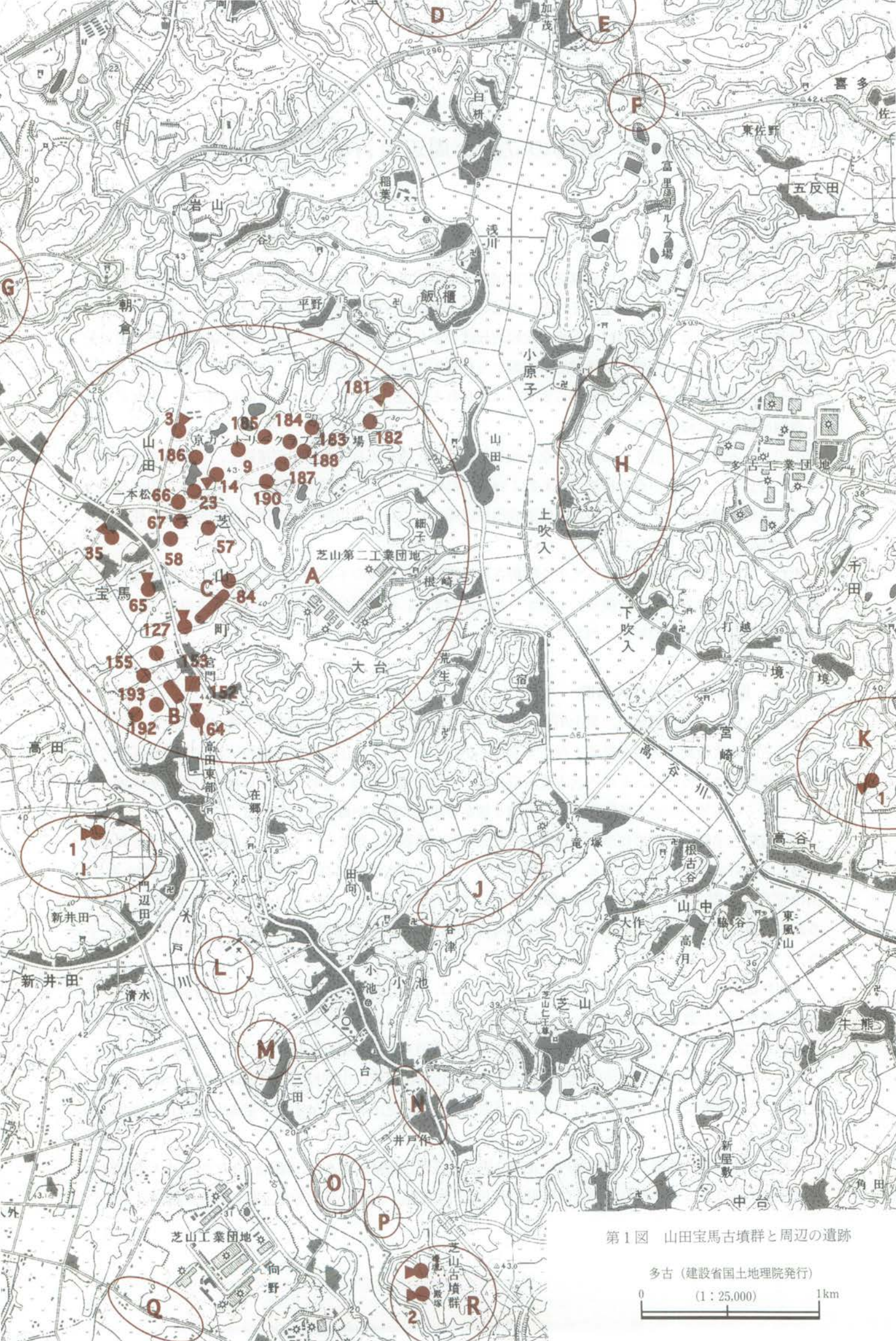
芝山町山田及び宝馬地域は，栗山川支流の木戸川と高谷川に挟まれた標高41ｍ前後の台地上に，埴輪を擁する古墳時代後期の古墳が数多く存在することが知られている。山田宝馬古墳群(A)内には195基の古墳の所在が確認されており，その内前方後円墳９基，円墳23基，方墳１基については現在も存在が確認できる。これらの古墳の内前方後円墳６基，円墳８基から埴輪の存在が確認されている。

山田宝馬古墳群内の古墳については地元の芝山はにわ博物館を始めとして多くの調査機関が発掘調査を実施し，その成果を公表している。調査機関によって同一の古墳に別の名称が付与されていた経緯もあり，山田宝馬古墳群の解明に少なからぬ障害となっていた。そこで，これまでの山田宝馬古墳群に関する調査の履歴と名称の対比を第１表（山田宝馬古墳群にわとり塚古墳周辺の古墳及び古墳群）に表記する。[1)]

今回発掘調査した山田宝馬にわとり塚古墳（164）は，成田松尾線の路線域に周溝と後円部の一部がかかり主要な部分は路線域東に隣接し，山田宝馬古墳群の中では南端に位置している。かつては宝馬６号墳とされていたが平成４年に刊行された芝山町史の中で山田・宝馬古墳群164号墳と新たに改称されている。

また，山田宝馬古墳群のほぼ中央，従来の主要道成田松尾線芝山中学校入口付近に位置し，昭和57年に芝山はにわ博物館によって調査された宝馬１号墳（35）は，芝山町史では山田・宝馬古墳群35号墳と改称されている。

にわとり塚古墳に隣接した路線域内の北西位置には浅間台遺跡(B)があり，昭和63年に財団法人千葉県文化財センターによって行われた調査の結果，前方後円墳１基、円墳２基，方墳１基の存在が確認されてい



第1図　山田宝馬古墳群と周辺の遺跡

多古（建設省国土地理院発行）

0　(1：25,000)　1km

第１表　山田宝馬古墳群にわとり塚古墳周辺の古墳及び古墳群

位置番号		古墳群	芝山町史	調査年次	千葉県文化財センター	既存呼称	墳形	全長・径・辺(m)	高さ(m)	前方部幅/高さ(m)	後円部径/高さ(m)	埴輪	埋蔵施設	文献
A		山田宝馬古墳群												
	3		3号墳				前方後円墳	34.0		23.0/2.4	21.0/2.2	有		3
	9		9号墳	昭和57年芝山はにわ博物館調査			円墳	17.7	1.1			無	木棺直葬	1
	14		14号墳				前方後円墳	31.0		14.2/2.2	17.3/3.2	有		3
	23		23号墳				円墳	14.5	2.2			有		3
	35		35号墳	昭和37年早稲田大学考古学研究会調査		宝馬１号墳	前方後円墳	27.0－30.0	10.2	10.2/2.5	15.7/2.5	有	箱式石棺	2
	57		57号墳	昭和37年早稲田大学考古学研究会調査		金鈴１号墳	円墳	31.0	4.0			無	箱式石棺	2
	58		58号墳	昭和32年早稲田大学考古学研究会調査		金鈴３号墳	円墳	17.0	1.8			無		2
	65		65号墳	昭和37年早稲田大学考古学研究会調査		ひょうたん塚	前方後円墳	34.0		17.0/3.0	12.0/4.0	無	横穴式石室	3
	66		66号墳	昭和37年早稲田大学考古学研究会調査		金鈴４号墳	円墳	13.0	2.5			無	箱式石棺	2
	67		67号墳	昭和37年早稲田大学考古学研究会調査		金鈴２号墳	円墳	24.0				無	箱式石棺	2
	84		84号墳	平成元年山武郡市文化財センター調査			円墳	40.0				無	箱式石棺	5
C	93	(山田出口遺跡)	93号墳	昭和56年千葉県文化財センター調査	３号墳		円墳	11.8				無		8
C	94	(山田出口遺跡)	94号墳	昭和56年千葉県文化財センター調査	２号墳		円墳	10.5				無		8
C	95	(山田出口遺跡)	95号墳	昭和56年千葉県文化財センター調査	１号墳	金鈴42号墳	円墳	12.4				無		8
C	103	(山田出口遺跡)	103号墳	昭和56年千葉県文化財センター調査	４号墳	金鈴46号墳	円墳	22.0				無	箱式石棺	8
C	104	(山田出口遺跡)	104号墳	昭和56年千葉県文化財センター調査	５号墳	金鈴47号墳	円墳	9.4				無		8
C	106	(山田出口遺跡)	106号墳	昭和56年千葉県文化財センター調査	６号墳		方墳	11.0				無		8
C	107	(山田出口遺跡)	107号墳	昭和56年千葉県文化財センター調査	７号墳		円墳	8.0				無		8
C	116	(山田出口遺跡)	116号墳	昭和56年千葉県文化財センター調査	８号墳	金鈴53号墳	円墳	18.3				無	木棺直葬	8
C	118	(山田出口遺跡)	118号墳	昭和56年千葉県文化財センター調査	11号墳		円墳	20.0				無		8
C	119	(山田出口遺跡)	119号墳	昭和56年千葉県文化財センター調査	10号墳		円墳	24.3				無		8
C	120	(山田出口遺跡)	120号墳	昭和56年千葉県文化財センター調査	９号墳	金鈴57号墳	円墳	21.6				無	箱式石棺	8
	127		127号墳	昭和41年芝山はにわ博物館			前方後円墳	45.5		21/	21.6/	有		4
				昭和56年山武考古学研究所		ふたご塚	前方後円墳							
B	152	(浅間台遺跡)	152号墳	昭和62年千葉県文化財センター調査	３号墳 (４号墳)		方墳(円墳)	21.0(18.0)				無	箱式石棺	12
				昭和62年千葉県文化財センター調査	１号墳		前方後円墳	24.0				無	石棺	
B	153	(浅間台遺跡)	153号墳	昭和62年千葉県文化財センター調査	２号墳		円墳	26.0				無		12
	155		155号墳	昭和32年早稲田大学考古学研究会調査			円墳					無	箱式石棺	6
	164		164号墳	昭和32年芝山はにわ博物館・早稲田大学考古学研究会調査	にわとり塚	宝馬６号墳	前方後円墳	27.2		/4.85	/4.85	有	箱式石棺	7
	180		180号墳				円墳	22.5	2.4			有		3
	181		181号墳				前方後円墳	31.0		/2.6	/2.6	有		3
	182		182号墳				円墳	22.0	4.3			有		3
	183		183号墳	昭和62年山武考古学研究所調査			円墳	13.6	1.6			無	木棺直葬	3
	184		184号墳	昭和62年山武考古学研究所調査			円墳	13.6	0.6			無		
	185		185号墳	昭和62年山武考古学研究所調査			円墳	10.3	0.5			無		3
	186		186号墳	昭和62年山武考古学研究所調査			円墳	25.3	1.7			有		3
	187		187号墳	昭和62年山武考古学研究所調査			円墳	20.2	2.3			有		
	188		188号墳	昭和62年山武考古学研究所調査			円墳	26.0	3.0			有	木棺直葬	3
	190		190号墳	昭和62年山武考古学研究所調査			円墳	27.5	2.2			無	木棺直葬	3
	192		192号墳	昭和62年山武考古学研究所調査			円墳	27.0				無	箱式石棺	6
	193		193号墳				円墳	24.0				無	箱式石棺	6
D		大里田辺台古墳群												
E		大殿台古墳群												
F		大里古墳群												
G		五十石古墳群												
H		上吹入・林古墳群												
I		高田古墳群												
	1		木戸前１号墳	昭和40年本郷学園調査		高田第１号墳	前方後円墳	40.0	3.1			有	箱式石棺	9
J		谷津古墳群												
K		殿部田古墳群												
	1		殿部田１号墳	昭和49年・50年早稲田大学考古学研究会・芝山はにわ博物館調査				33.3		20.9/	20.6/3.6	有		1
L		小池上人塚古墳群												
M		下之内古墳群												
N		小池古墳群												
O		三田古墳群												
P		船塚古墳群												
Q		向野古墳群												
R		芝山古墳群												
	1		姫塚古墳	昭和31年早稲田大学考古学研究会調査			前方後円墳	58.0		35.0/6.0	35.0/5.4	有	横穴式石室	10・11
	2		殿塚古墳	昭和31年早稲田大学考古学研究会調査			前方後円墳	88.0		58.0/10.0	58.0/10.4	有	横穴式石室	10・11

文献

1　1980　上総殿部田古墳・宝馬古墳
2　1963　宍倉昭一郎「千葉県芝山町山田古墳群調査報告」『金鈴17』早大考古学研究会
3　1992　『芝山町史　史料集・原始・古代編』芝山町教育委員会
4　1982　山田古墳群調査会『山田・宝馬古墳群』山武考古学研究所
5　1991　『山武郡市文化財センター年報No.６』山武郡市文化財センター
6　1991　『山田・宝馬古墳群』(学術調査研究第２集) 山武考古学研究所
7　1989　『九十九里地域の古墳研究』山武考古学研究所
8　1982　『芝山町山田古墳群・山田出口遺跡』千葉県文化財センター
9　1966　坂井利明「千葉県芝山町高田第１号墳発掘調査概報」塔影第１集　本郷学園
10　1956　滝口　宏「千葉県芝山古墳群調査速報」古代19・20号日本経済新聞社
11　1963　滝口　宏・久地岡椋雄「はにわ」
12　2000　『芝山町浅間台遺跡』千葉県文化財センター

る。

山田宝馬古墳群内には，芝山第二工業団地の進入路敷内に昭和56年に財団法人千葉県文化財センターによって調査された山田出口遺跡(C)がある。この遺跡は円墳10基，方墳１基からなり，径及び辺の規模はおよそ８ｍから24ｍ程の比較的小型の古墳が密集している。

山田宝馬古墳群の北方，新東京国際空港の南東端付近には，昭和39年に鮭の形象埴輪を出土した大里田辺台古墳群(D)があり，高谷川を挟んだ対岸の標高43ｍの台地上には前方後円墳，円墳各１基が確認されている大殿台古墳群(E)がある。なお，大殿台古墳群は加茂古墳群とも別称されている。

大殿台古墳群の南，国道296号線付近には大里古墳群(F)が，この古墳群も多古町埋蔵文化財分布図では大塚台古墳群の別称が付されている。

山田宝馬古墳群の北西には，高谷川左岸の標高40ｍ前後の台地上に五十石古墳群(G)がある。前方後円墳２基，円墳３基が確認されており，この内前方後円墳２基は若干の削平を受けているが他の古墳の遺存状態は良い。

山田宝馬古墳群とは高谷川を隔てた対岸に上吹入・林古墳群(H)がある。標高40ｍ前後の台地上に前方後円墳１基，円墳６基が確認されている。高谷川の下流域には殿部田古墳群が(K)あり，昭和49年・50年に早稲田大学考古学研究会と芝山はにわ博物館により調査された殿部田１号墳（Ｋ－１）がある。殿部田１号墳は，前方後円墳で墳丘東南側上段及び中段に二重の埴輪列があり，人物・家形・靫形埴輪・飾馬形埴輪・円筒埴輪など多種にわたる埴輪の存在は葬送儀礼とのかかわりが想定されている。なお，殿部田１号墳は，芝山町史では殿部田古墳群５号墳と改称されている。

山田宝馬古墳群の木戸川を挟んだ南西に位置する標高40ｍ前後の台地には，木戸前１号墳を（Ｉ－１）含む高田古墳群(I)がある。木戸前１号墳は，昭和40年に早稲田大学考古学研究会・本郷高等学校歴史研究会によって調査され，墳丘頂部と裾部に埴輪列を有する前方後円墳である。埴輪列は，上下の二段で構成が異なっており，上段列は円筒埴輪のみ，下段列は人物形象埴輪・家形形象埴輪・器財形象埴輪・円筒埴輪の順となっている。これらの埴輪列とは別に前方部北西コーナー付近には鶏形形象埴輪４個体が出土している。

山田宝馬古墳群の南東約１kmの高谷川に面した半島状の台地には，前方後円墳１基，円墳１基からなる小規模な谷津古墳群(J)がある。また，高田古墳群より南東の木戸川沿いには西岸の向野古墳群(Q)，東岸の小池上人塚古墳群(L)，下之内古墳群(M)，三田古墳群(O)，小池古墳群(N)，船塚古墳群(P)など比較的小規模な古墳群が点在し，その先には姫塚・殿塚で知られている山武郡横芝町中台の芝山古墳群(R)がある。姫塚古墳（Ｒ－１）・殿塚古墳（Ｒ－２）はともに昭和31年に早稲田大学考古学研究会によって調査され，姫塚古墳は全長58ｍ，前方部幅35ｍ，高さ６ｍ，後円部径35ｍ高さ5.42ｍ，殿塚古墳は全長88ｍ，前方部幅58ｍ高さ10.04ｍ，後円部径58ｍ高さ10.04ｍの規模を有している。姫塚古墳は円筒埴輪・形象埴輪（人物・馬・家・靫・さしば）が埴輪列をなし，殿塚古墳は円筒埴輪・形象埴輪（人物・馬）が出土しており，ともに横穴式石室を有している。

注１　1992『芝山町史　原始古代編資料集１』芝山町教育委員会
　　1999『山武郡の古墳』（開館10周年記念資料集）芝山町教育委員会，芝山古墳・はにわ博物館

第２章　調査の概要と方法

第１節　調査の概要

１　調査の経緯

財団法人千葉県文化財センターでは，主要地方道成田松尾線路線内に所在する遺跡について，昭和53年から千葉県教育委員会の指導のもとに計画的，継続的に発掘調査を実施してきている。千葉県土木部は主要地方道成田松尾線の道路改良事業に伴い計画路線内の芝山町高田字権現地先について千葉県教育委員会に遺跡の有無を照会した。当該地先には昭和32年に早稲田大学考古学研究会と芝山はにわ博物館により調査された山田宝馬にわとり塚古墳の一部が計画路線内にかかることが確認されたため，千葉県教育委員会文化課と協議の結果やむおえず遺跡の記録保存の措置を講ずることとなった。調査は，財団法人千葉県文化財センターが実施することとなり，山田宝馬にわとり塚古墳の含まれる本調査範囲は昭和62年９月18日から10月30日の期間に，南に隣接する範囲は平成元年３月１日から３月16日の期間にそれぞれ次の組織と担当者により調査が実施された。

昭和62年度調査

調査部長　堀部昭夫，部長補佐　岡川宏道，古内　茂，班長　矢戸三男，調査研究員　新田浩三

平成元年度調査

調査部長　堀部昭夫，部長補佐　岡川宏道，古内　茂，班長　矢戸三男，調査研究員　渡邊高弘

２　調査の経過

山田宝馬にわとり塚古墳は，かつて宝馬６号墳と別称され最近芝山町教育委員会によって山田・宝馬古墳群全体の通番表記の見直作業が行われた際，宝馬164号墳と新たな新呼称が付与された経緯がある。

成田松尾線路線内にかかる部分は，後円部の一部と後円部から前方部に沿って確認された西側の周溝部分が該当する。昭和32年の早稲田大学考古学研究会と芝山はにわ博物館による調査の際，人物埴輪，動物埴輪，家形埴輪が出土し，埋葬施設として箱式石棺を有し，内部から耳環，銀製刀子，雲珠，ガラス小玉，直刀，鉄鏃等が出土したとされている。

今回の調査区内には該当する埋葬施設の痕跡は認められなかったが，調査直前の測量図を見ると，調査区外ではあるが後円部東側に大きく削平された部分が有り，このあたりにあったものと考えられる。

なお，平成元年３月１日から平成元年３月16日まで，昭和62年度の調査区の南に隣接する1,450㎡の確認調査が行われたが，上層の確認調査では遺構は検出されず，下層についても遺物は検出されなかった。

整理作業は，次の期間と調査組織及び担当者で実施された。

平成３年４月８日～平成４年３月３１日

調査部長　天野　努，部長補佐　阪田正一・佐久間　豊，班長　宮　重行，調査研究員　渡邊高弘

平成10年４月１日～平成11年３月31日

調査部長　沼澤　豊，調査事務所長　三浦和信，調査室長　香取正彦，主任技師　安井健一

平成11年４月１日～平成12年３月31日

調査部長　沼澤　豊，調査事務所長　三浦和信，調査室長　石倉亮治

第２節　調査の方法

山田宝馬古墳群の調査は，主要地方道成田松尾線の路線域に含まれる西側周溝を中心に，昭和62年度と平成元年度の２年次にわたり実施された。

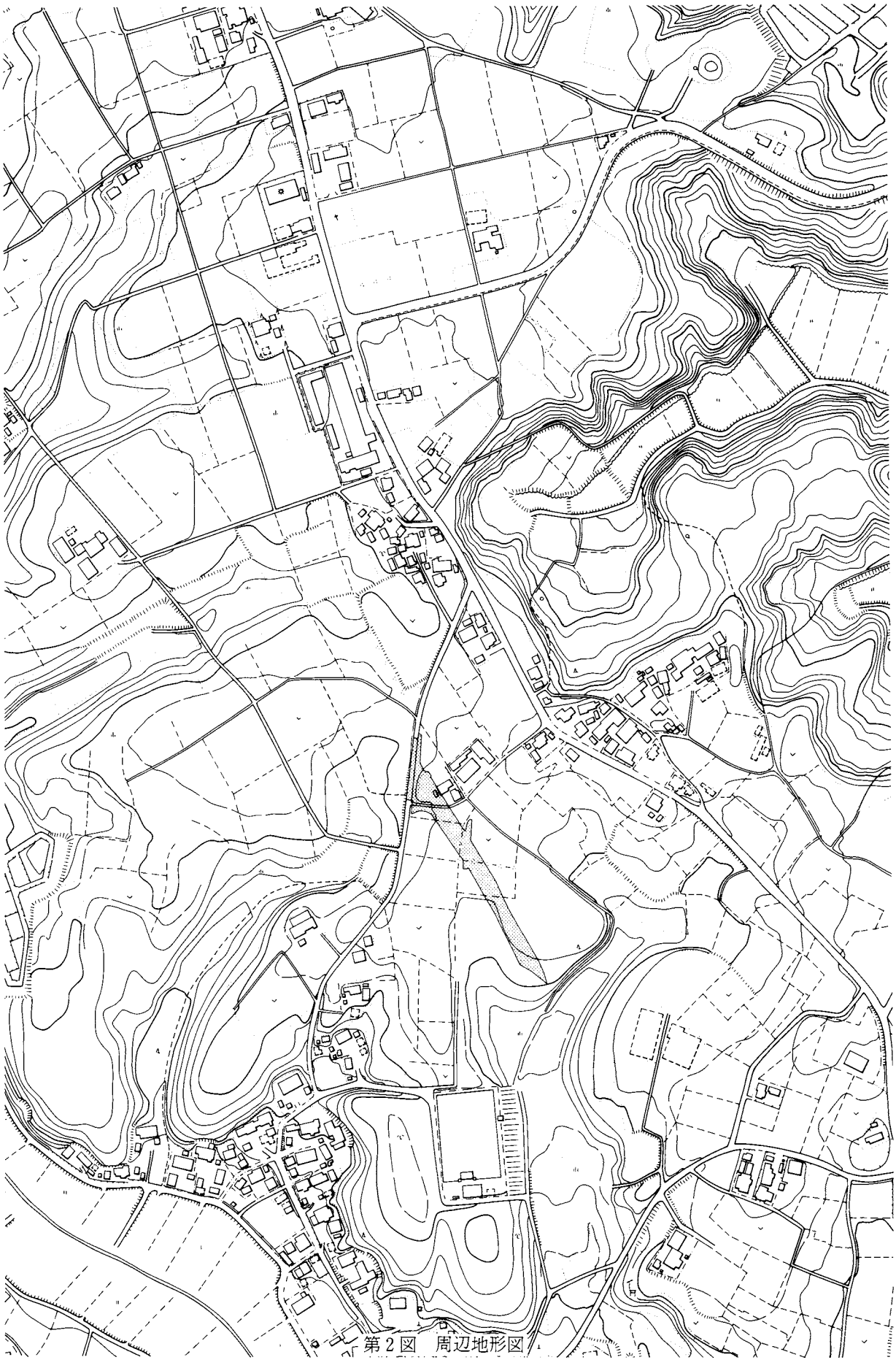
昭和62年度調査では，調査対象面積1,680㎡のうち上層は山田宝馬にわとり塚古墳の調査，下層は南に隣接する路線域に対象面積の４％にあたる30か所60㎡の調査が実施された。発掘調査はローム層より上層での遺構確認後，下層の旧石器時代の調査を実施した。上層の調査は，調査区域内の山田宝馬にわとり塚古墳の周溝と後円部の調査が主となった。下層の調査は，２ｍ×２ｍの発掘区を設定し，武蔵野ローム層まで掘り下げた。（第３図）

平成元年度調査では，調査対象面積1,450㎡のうち上層は対象面積の10％にあたる36か所145㎡，下層は同じく４％にあたる30か所58㎡の調査が実施された。

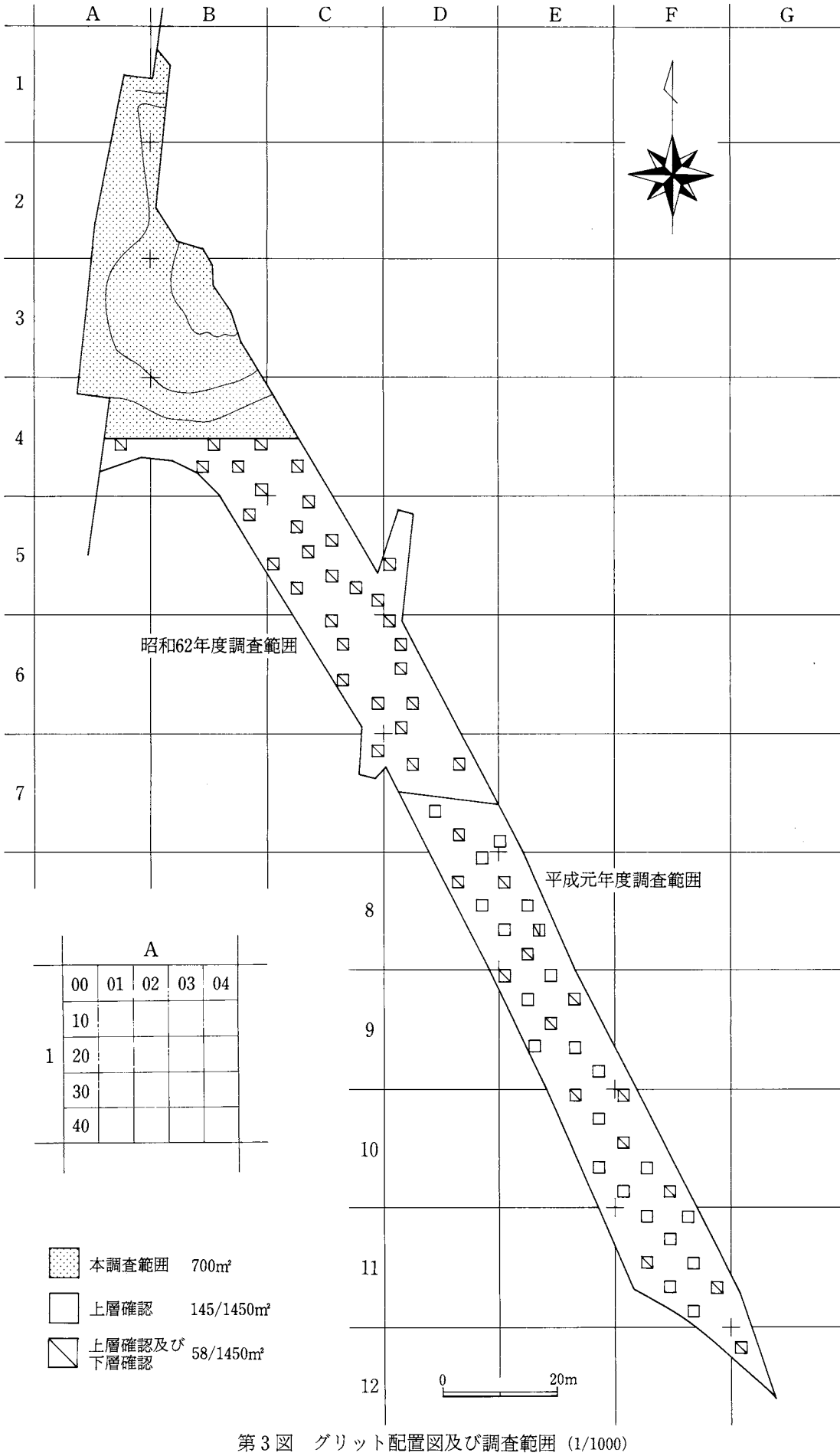
発掘調査はローム層より上層での遺構確認後，下層の旧石器時代の調査を実施した。上層の調査では２ｍ×２ｍの発掘区を設定し遺構確認面まで掘り下げた。下層の調査は，上層での遺構確認の際設定した発掘区のうち対象面積の４％にあたる58㎡分を武蔵野ローム層上面まで掘り下げた。（第３図）

発掘調査は，昭和62年度及び平成元年度調査区域全体に共通する20ｍ方眼の区画を設定し，東西はＡ～Ｇ区，南北は１～12区の大グリッドを設定した。それぞれの大グリッドの中をさらに４ｍ×４ｍの小グリッドを設定し，北西端から東方向に00・01・02・03・04，南方向に00・10・20・30・40の25分割とし，南東端を44と呼称する。したがって，大グリッドは１Ａ～12Ｇ，小グリッドは１Ａ－00～12Ｇ－44と表記する。

出土遺物は，遺構に帰属しないものはグリッド名を付して一括して取り上げた。他のものは可能な限り出土位置を記録して取り上げた。



第2図　周辺地形図



第3図　グリット配置図及び調査範囲（1/1000）

第3章　遺構と遺物

第1節　遺構

山田宝馬古墳群の調査では，旧石器時代や縄文時代の遺物の集中地点及び遺構は検出されなかった。道路建設予定地がにわとり塚古墳の周溝及び後円部をかすめるため，本調査の主要な範囲も山田宝馬にわとり塚古墳の西側周溝と後円部西半分の地点となった。

1　山田宝馬にわとり塚古墳

山田宝馬にわとり塚古墳の調査は，昭和32年に早稲田大学考古学研究会によって墳丘部分の調査が行われ，埋葬施設のあったことが確認されている。墳形は前方後円墳で，全長は周溝の外縁からは約45m（現存する墳丘部分は約27.2m），後円部径約16m，後円部高さ約4.85m，前方部長約19m，前方部高さ約4.85mの規模である。なお，前方部幅については西端部以外は調査範囲外であり，規模の確定には至らない。

現存する墳丘は前方部と後円部の西側約半分であるが，今回の調査では後円部墳丘部分は調査域に含まれるものの埋葬施設に伴う掘方の痕跡は確認されておらず，すでに掘削されていた東側の後円部からくびれ部にかけて存在したものと考えられる。[1)]

旧地表は標高42m前後であり，周溝はそれより約0.73mほど掘り下げられている。周溝の幅は前方部付近で約4m，くびれ部で7m以上，前方部の北西端で約2mが確認された。墳丘の主軸方向はN－10°－Eであり前方部を北に向けている。

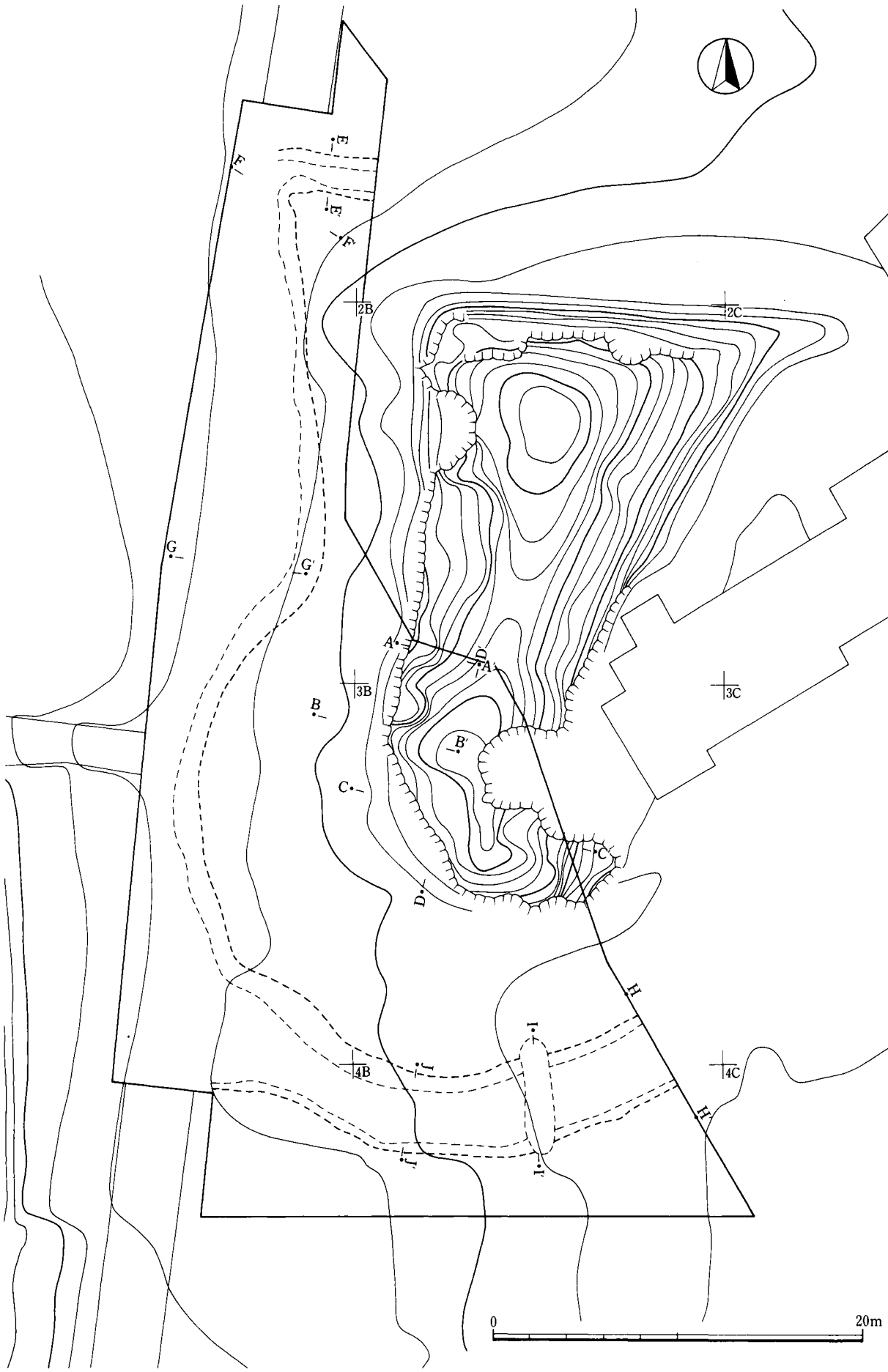
墳丘の土層観察によれば，A－A′は墳丘のくびれ部付近にあたり，旧地表面から1m程の高さまで水平な堆積が見られる。その上に一群のレンズ状の土層堆積が見られ墳丘の流出を防いでいる。

B－B′は，後円部のほぼ中央西側の墳丘土層堆積状況である。端部の薄いレンズ状の土層を水平を基調に折り重ね，裾部には土留めを兼ねた土層を配するものと考えられるが，墳丘裾側は大きく抉られており堆積状況を観察することはできない。しかし，B－B′よりも4m程南で観察された墳丘の堆積状況（C－C′）では，後円部の東側裾部の土留めを兼ねた層序が観察される。墳丘上部の土層は人為的に大きく抉られており，あるいは昭和32年の調査時の痕跡であるとも考えられるが，東から墳丘中央に向かってやや傾斜気味に下降する細かく入り組んだレンズ状の堆積土層が明瞭に観察される。墳丘中央部分では概ね水平な土層堆積であるが，B－B′と同様に墳丘西側の裾部付近は大きく抉り取られている。

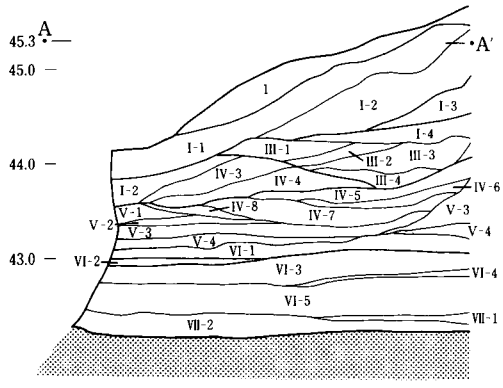
D－D′は，後円部のほぼ中央部における南北方向の墳丘土層堆積状況である。後円部中央寄りの部分では厚さの比較的均等な中央部分が大きく沈み込む皿状の土層がほぼ水平に堆積している。後円部北側の墳丘裾部分では小規模のレンズ状土層が互層を成して土手状の高まりを形成している。また，後円部南側の墳丘裾部は，西側裾部と同様に切断されている。なお，調査範囲が比較的遺存状態の良好な前方部を含まないため，前方部と後円部の構築に関わる前後関係を観察することはできない。

周溝の土層観察によれば，E－E′は前方部西端付近の周溝における土層堆積状況である。周溝の幅は約2.5m，深さ約56cmで，一度埋没した後墳丘沿いに溝状の掘込みが見られる。また，墳丘側の旧地表面は，周溝外縁の確認面よりも20cm程高い。

F－F′は，前方部西端のコーナー付近の土層堆積状況である。周溝の幅は3.6m程あるものの深さは約

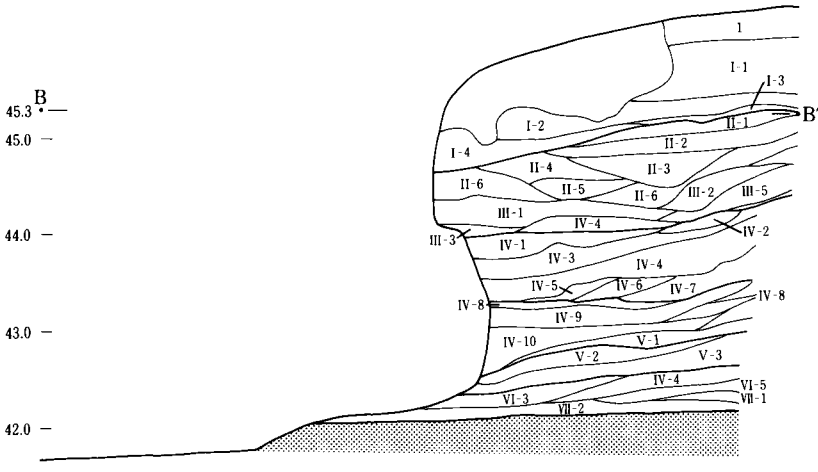


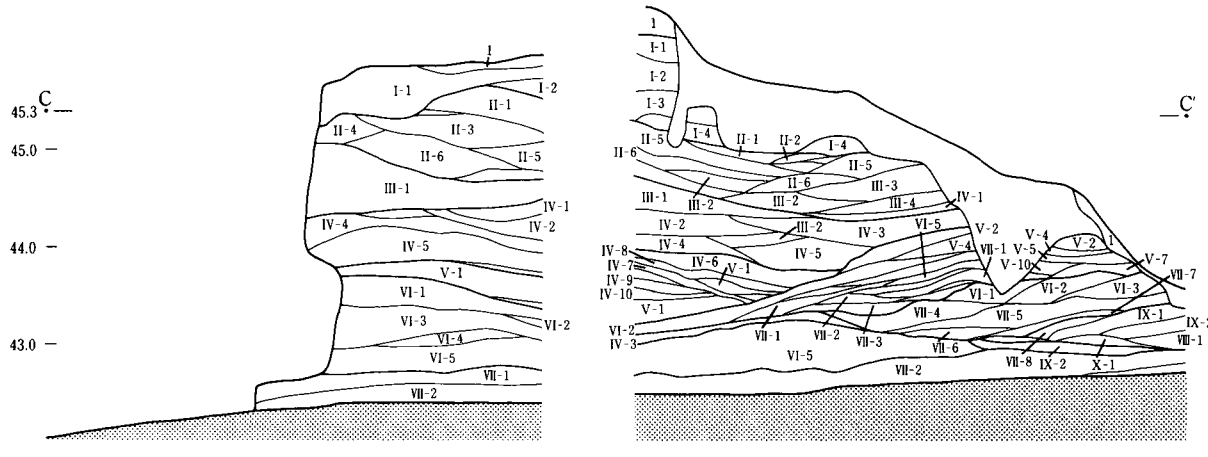
第4図　にわとり塚古墳セクションポイント配置図（1/150）



A-A′～D-D′

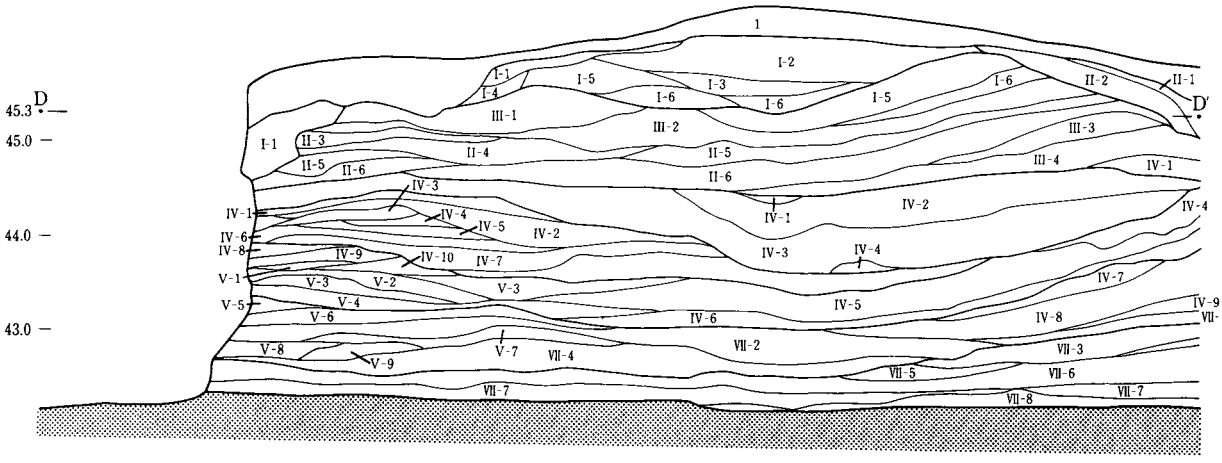
1	黒褐色表土層	
I-1	暗茶褐色土層	ソフトローム
I-2	褐色土層	
I-3	赤褐色土層	
I-4	明褐色土層	
I-5	赤褐色土層	ロームブロックを含む
I-6	暗茶褐色土層	ロームブロックを含む
II-1	茶褐色土層	
II-2	褐色土層	ロームブロックを含む
II-3	にぶい赤褐色土層	旧表土、ソフトローム、ハードローム
II-4	明茶褐色土層	ハードローム
II-5	暗茶褐色土層	ソフトローム
II-6	明茶褐色土層	ハードローム
III-1	暗赤褐色土層	旧表土、ソフトローム
III-2	赤褐色土層	ソフトローム
III-3	にぶい赤褐色土層	旧表土、ソフトローム
III-4	明茶褐色土層	ソフトローム
IV-1	暗赤褐色土層	旧表土
IV-2	暗茶褐色土層	旧表土、ソフトローム
IV-3	赤褐色土層	ソフトローム
IV-4	暗赤褐色土層	旧表土、ソフトローム
IV-5	明赤褐色土層	ソフトローム、ハードローム
IV-6	にぶい赤褐色土層	旧表土、ソフトローム
IV-7	黒褐色表土層	旧表土、ソフトローム
IV-8	赤褐色土層	ソフトローム
IV-9	黒褐色表土層	旧表土、ソフトローム
IV-10	黒褐色表土層	旧表土層、ソフトローム
V-1	赤褐色土層	ソフトローム
V-2	にぶい赤褐色土層	旧表土、ソフトローム
V-3	にぶい赤褐色土層	旧表土、ソフトローム
V-4	明赤褐色土層	ソフトローム
V-5	にぶい赤褐色土層	旧表土、ソフトローム
V-6	明赤褐色土層	ソフトローム
V-7	にぶい赤褐色土層	旧表土、ソフトローム
V-8	明赤褐色土層	ソフトローム
V-9	にぶい赤褐色土層	旧表土、ソフトローム
V-10	明茶褐色土層	ソフトローム
VI-1	暗茶褐色土層	旧表土、ソフトローム
VI-2	黄褐色土層	ソフトローム、ハードローム
VI-3	赤褐色土層	ソフトローム
VI-4	暗赤褐色土層	旧表土、ソフトローム
VI-5	暗褐色土層	ハードローム
VII-1	黒褐色表土層	旧表土、ソフトローム
VII-2	赤褐色土層	ソフトローム
VII-3	にぶい赤褐色土層	旧表土、ソフトローム
VII-4	赤褐色土層	ソフトローム、ハードローム
VII-5	暗赤褐色土層	旧表土、ソフトローム
VII-6	黒褐色表土層	旧表土、ソフトローム
VII-7	暗褐色土層	旧表土、ソフトローム
VII-8	黒褐色表土層	旧表土、ソフトローム
VIII-1	赤褐色土層	ソフトローム、ハードローム
IX-1	黒褐色土層	旧表土、ソフトローム
IX-2	暗赤褐色土層	旧表土
X-1	暗赤褐色土層	ハードローム
XI-1	褐色土層	旧表土、ソフトローム
XI-2	黒褐色表土層	旧表土

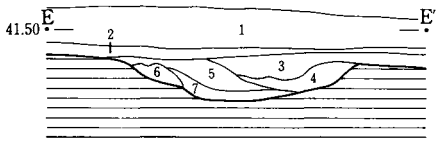


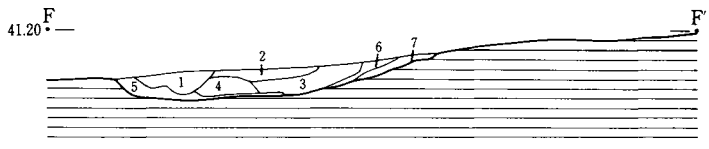


0　　4m

第5図　墳丘セクション図

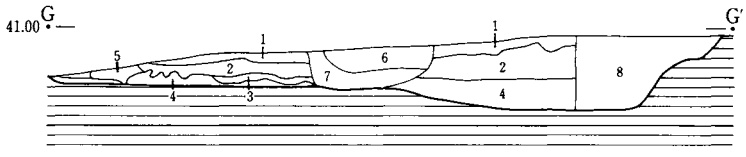




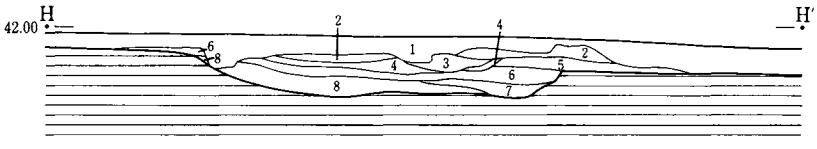


E－E′
1 暗褐色耕作土層
2 黒褐色耕作土層
3 黒褐色土層
4 褐色土層
5 暗褐色土層
6 褐色土層
7 褐色土層

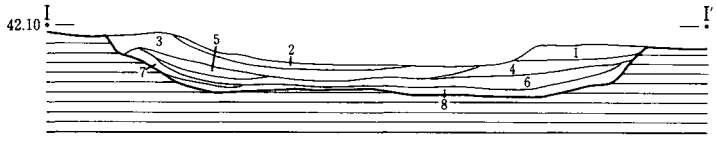
F－F′
1 暗褐色土層
2 暗褐色土層
3 黒褐色土層
4 暗褐色土層
5 褐色土層
6 黄褐色土層
7 黄褐色土層



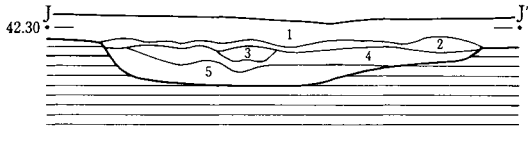
G－G′
1 黒色土層
2 黒褐色土層
3 暗褐色土層
4 褐色土層
5 暗褐色土層
6~7 撹乱土層



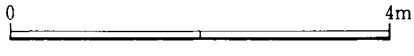
H－H′
1 黒褐色耕作土層
2 暗褐色土層
3 黒褐色土層
4 褐色土層
5 にぶい赤褐色土層
6 灰褐色土層
7 黒褐色土層
8 明赤褐色土層



I－I′
1 暗褐色土層
2 赤褐色土層
3 暗赤褐色土層
4 にぶい赤褐色土層
5 暗赤褐色土層
6 暗赤褐色土層
7 赤褐色土層
8 赤褐色土層



J－J′
1 暗褐色耕作土層
2 にぶい赤褐色土層
3 明赤褐色土層
4 黒褐色土層
5 明赤褐色土層



第6図　墳丘セクション図及び周溝セクション図

32cm程度であり，きわめて浅くなっている。また，墳丘側の旧地表面は，周溝外縁の旧地表確認面よりも60cm程高い。

G－G′は，西側周溝のくびれ部付近の土層堆積状況である。周溝の幅7.2m，もっとも深い部分は約72cmで周溝の外縁は削平されており，周溝の底は墳丘側がやや深く外縁に向けて浅くなっている。墳丘側の旧地表面は，周溝外縁における旧地表確認面よりも80cm程高い。また，周溝中央部には溝状の堀込みが見られるものの，周溝底部への影響はない。

H－H′は，後円部の周溝を遮断する調査区ラインの壁に見られる土層堆積状況である。周溝の幅は3.8m，深さは約48cmである。墳丘側の旧地表面は，周溝外縁における旧地表確認面よりも40cm程高い。

I－I′は後円部周溝に対して直角方向に設けられた長楕円形の土坑である。長軸長5.8m，幅1.5m，深さ約48cmであるが，底部は周溝の内縁・外縁の推定ラインを切っており，掘込みは周溝底部より16cm程深い。この土坑は古墳時代のものではなく後世の掘込みと考えられる。

J－J′は，にわとり塚古墳の長軸延長上にあたる周溝覆土の堆積状況である。周溝の幅は4.1m，深さ約48cmでH－H′の周溝部分と同様な深さとなっている。後円部南端の墳丘裾部は大きく削平されていることもあり，周溝内縁と外縁の高さには差がない。

2　埴輪の出土状況

山田宝馬にわとり塚古墳は，周溝内から円筒埴輪片及び形象埴輪片を多数出土しており，埴輪列を伴っていたと考えられる古墳である。山田宝馬古墳群では，芝山町史の新呼称による3号墳・14号墳・23号墳・35号墳・118号墳・127号墳・164号墳（山田宝馬にわとり塚古墳）・180号墳・181号墳・182号墳・186号墳・187号墳・188号墳（第1表）において埴輪の存在が確認されている。この内，35号墳は円筒埴輪・形象埴輪（人物・靫）が，127号墳では円筒埴輪・形象埴輪（人物・馬）が墳丘及び周溝内から出土し，検出された埴輪の出土位置から埴輪列の存在が考えられている。

今回の調査では，前方部の墳丘は調査範囲外であるため墳丘上の確認作業は行われていない。しかし，検出された埴輪片は墳丘沿いの周溝内に流入しており，埴輪の種別と設置位置の復元に関して状況的な証左を示している。

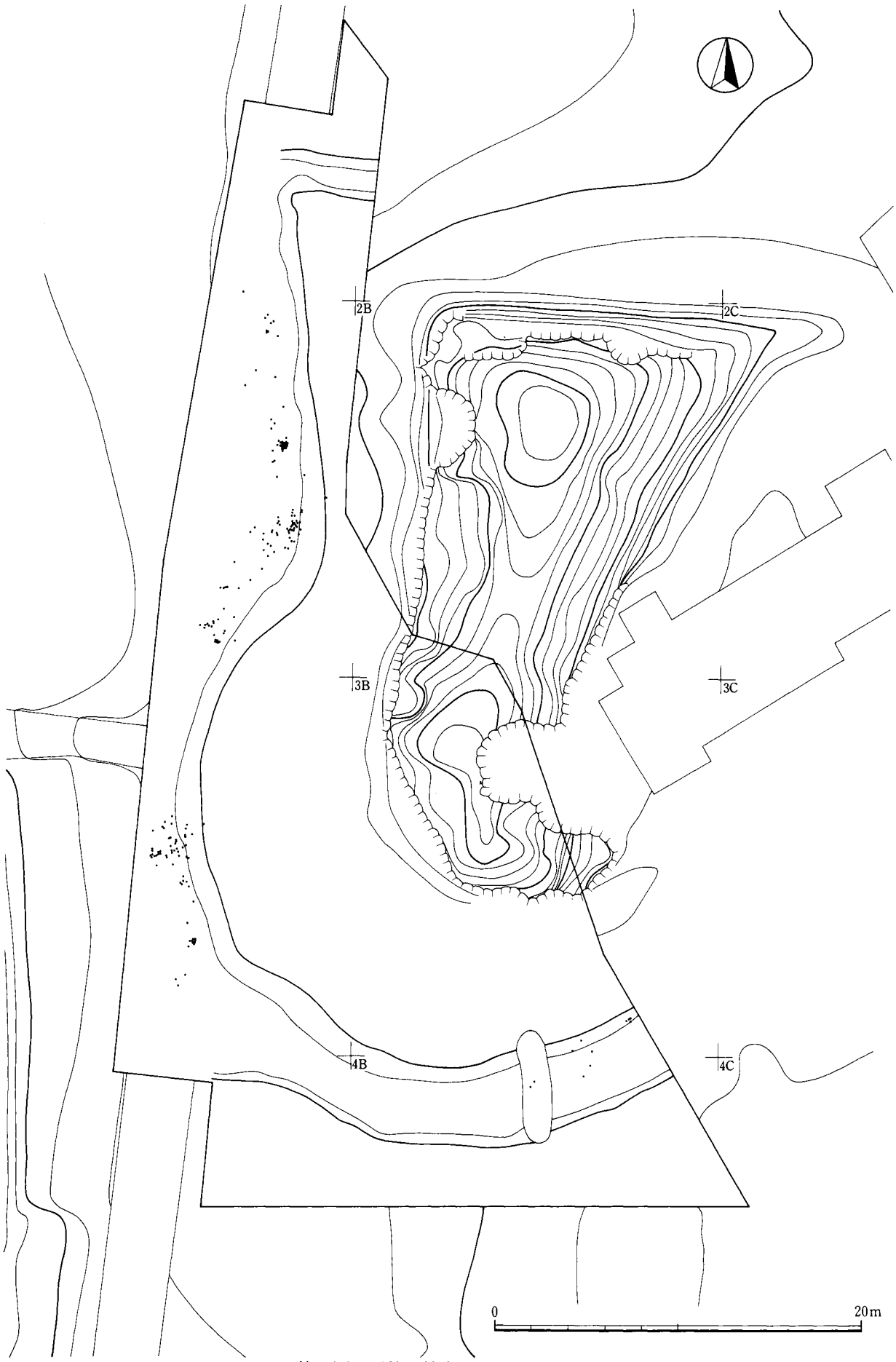
埴輪の出土状況は，円筒埴輪と形象埴輪で若干の違いが見られる。円筒埴輪の出土状況（第7図）を観察すると，出土地点はいずれも周溝内で，前方部先端からくびれ部にかけてと後円部が西に大きく膨らむ頂部付近に集中している様子が観察される。墳丘の周溝沿いに樹立されていたものが周溝内に倒壊，流入したものと考えられる。また，後円部南東部分の調査区境界付近の周溝内にも数点の出土が確認され，調査区外の墳丘東側にも円筒埴輪列が存在した可能性を窺わせている。

また，後円部西側の周溝内に集中する円筒埴輪片は調査区西側境界に接近しており，この付近の周溝外縁が検出されておらず，調査区外に円筒埴輪片の存在が予測される。[2)]

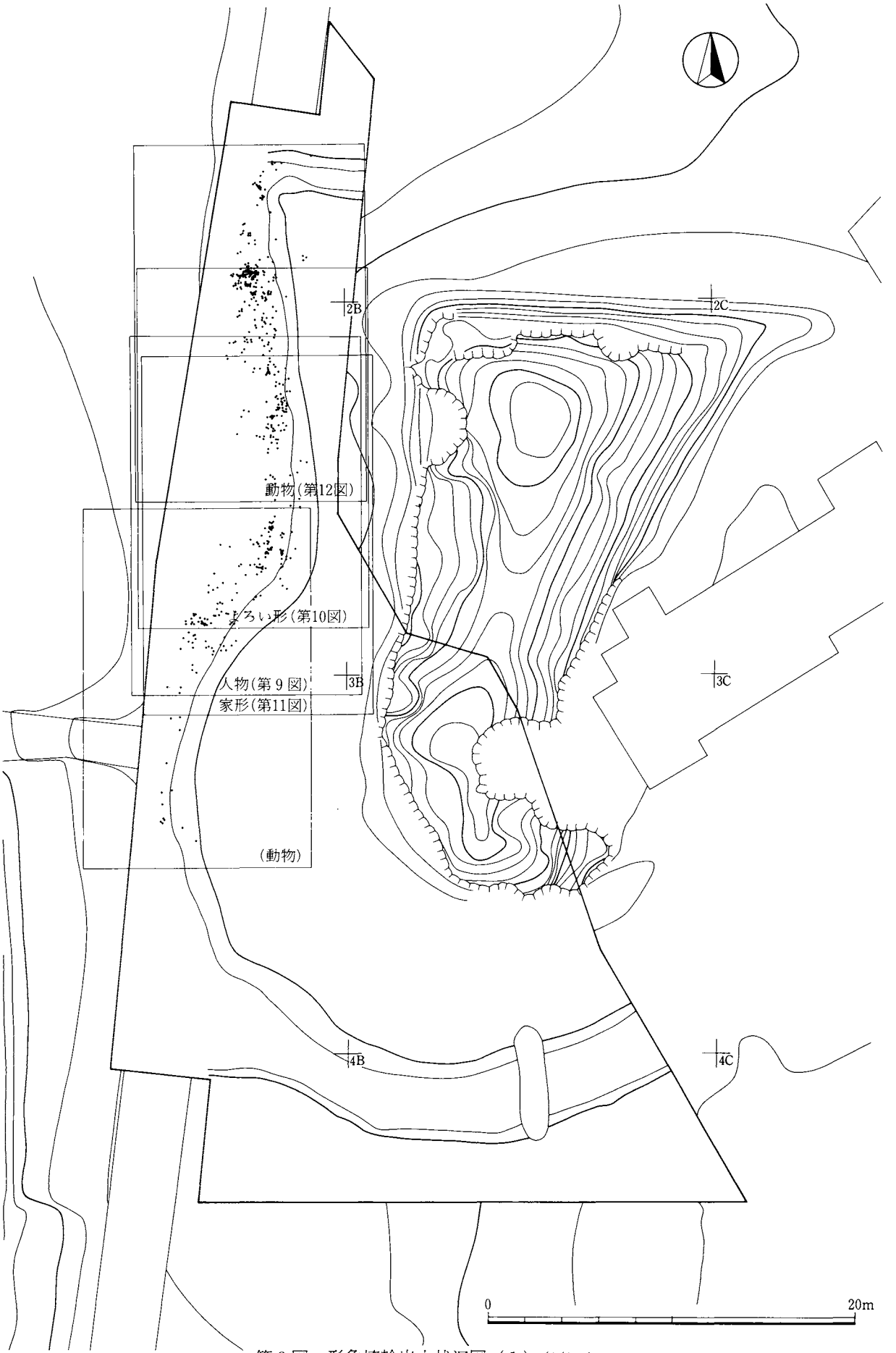
次に，形象埴輪の出土状況（第8図）を観察すると，前方部西端コーナー付近からくびれ部を経て後円部の中央西側付近までの範囲に限定される。形象埴輪の種別では，人物・甲冑・家・動物が見られる。

甲冑形の埴輪は，器財埴輪という呼称で分類されることもあるが，器財を模した場合でも形象であることに差違はなく，本報告書では形象埴輪の中で扱うこととする。

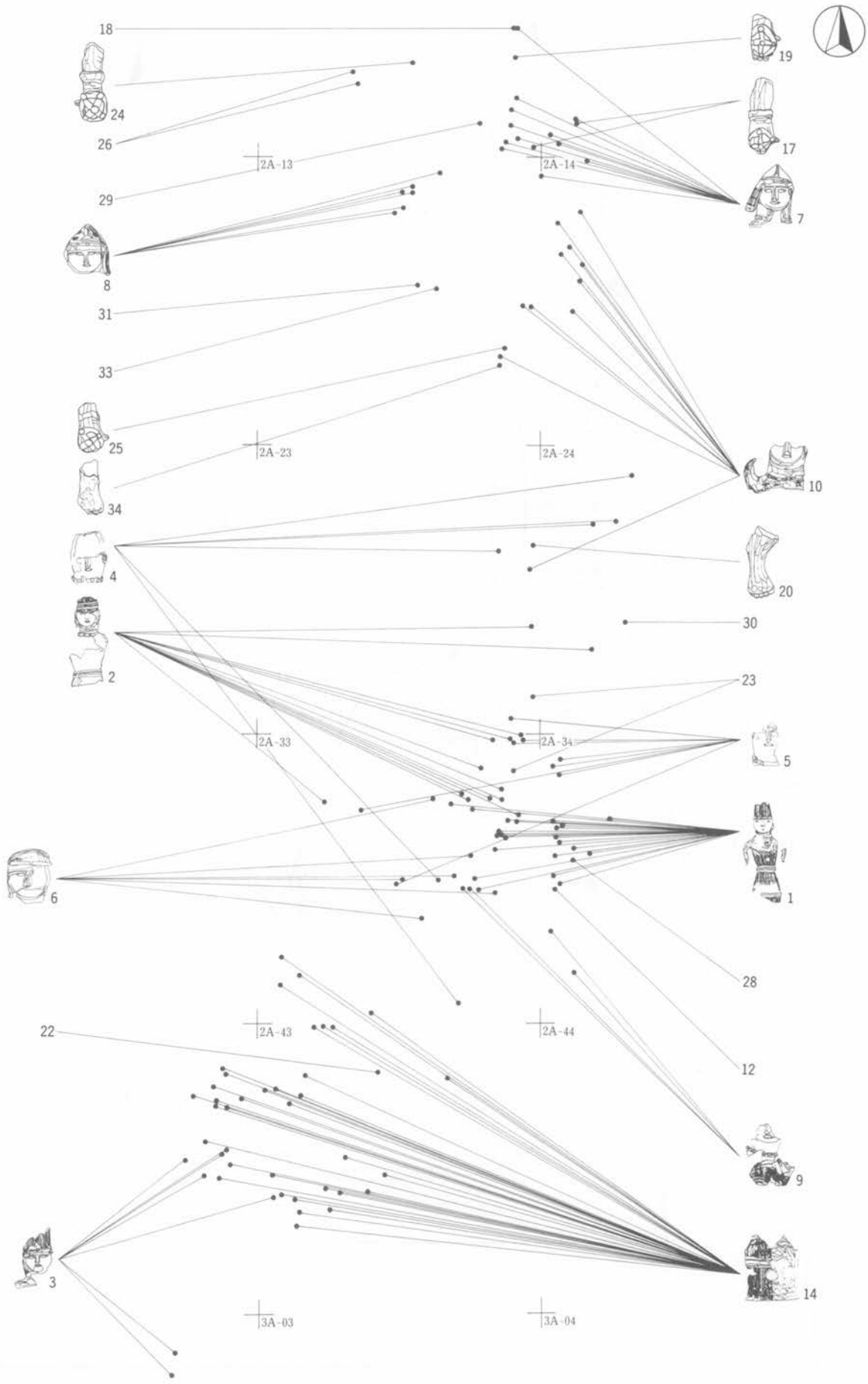
山田宝馬にわとり塚古墳から出土した形象埴輪のうち，人物埴輪は出土範囲が比較的限られており，前方部と後円部の境のくびれ部付近に集中している。第9図は，第8図中の人物埴輪の出土範囲の拡大図で



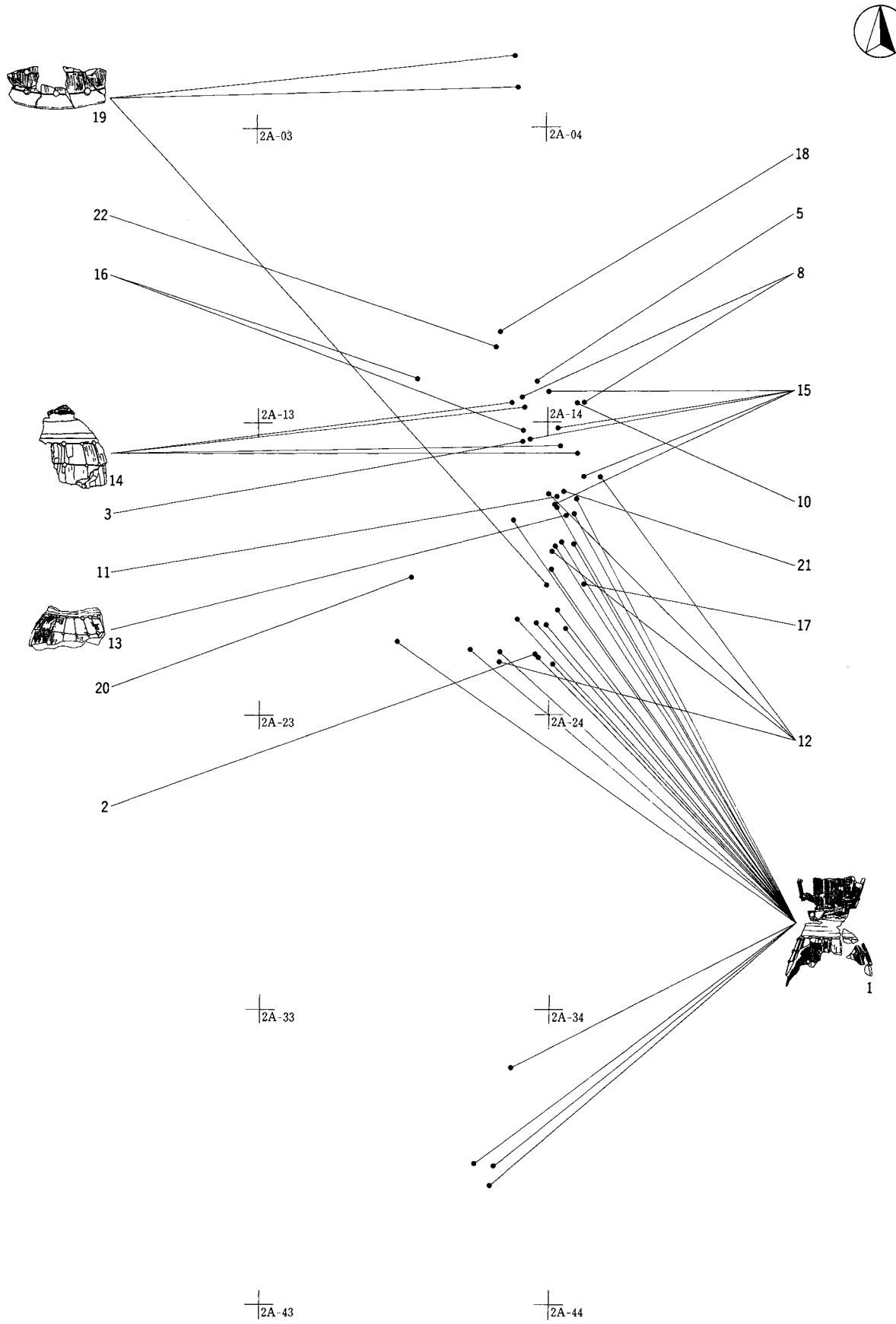
第７図　円筒埴輪出土状況図（1/150）



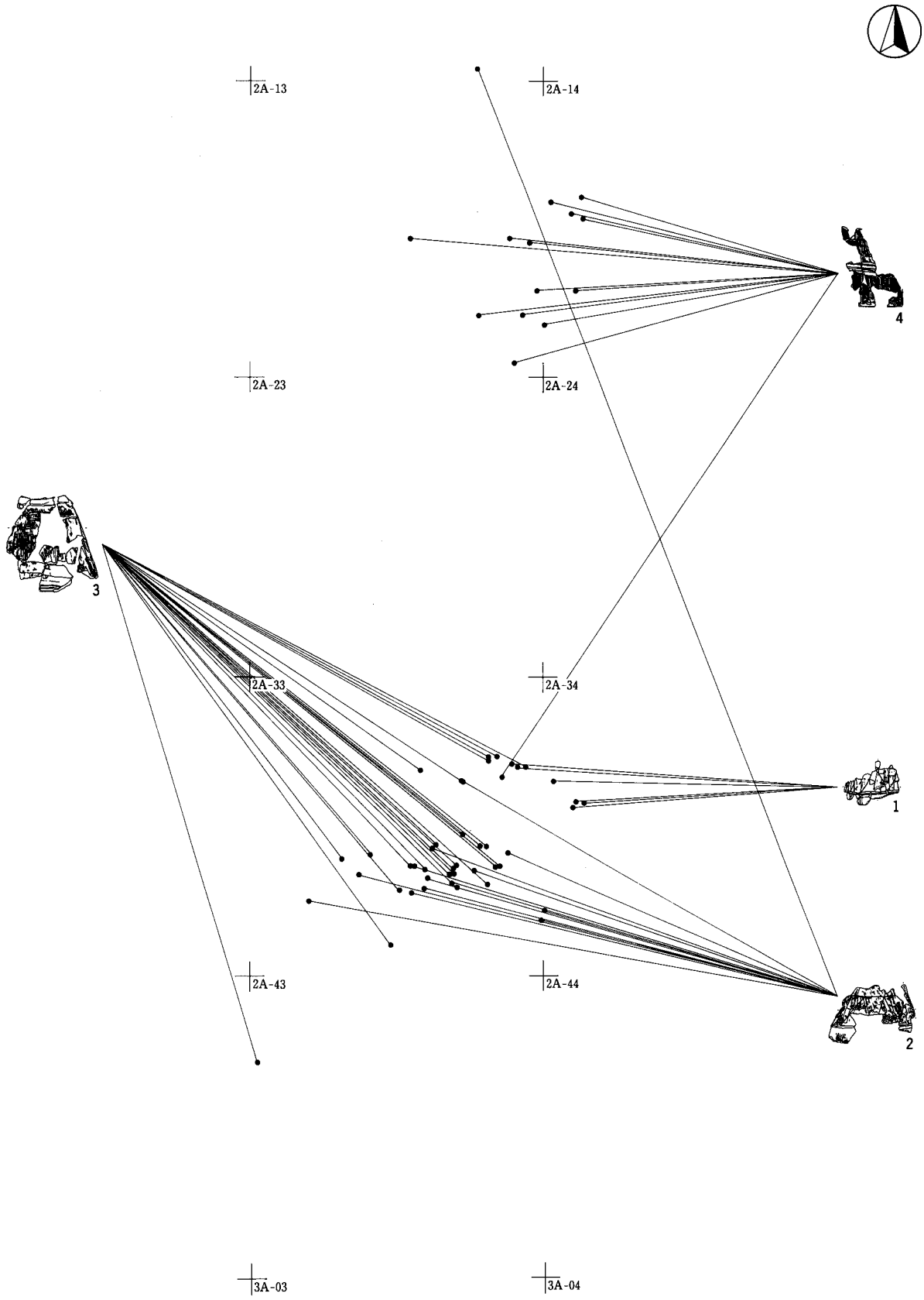
第8図　形象埴輪出土状況図（1）(1/150)



第９図　形象埴輪出土状況図（２）(1/150)



第10図　形象埴輪出土状況図（３）(1/150)



第11図　形象埴輪出土状況図（４）(1/150)

第12図　形象埴輪出土状況図（５）（1/150）

ある。第９図によれば，後円部の西側へ張り出す部分を中心に人物(3)と人物埴輪の基台部(14)が見られる。人物(3)は，人物埴輪としては最南端に位置している。

これよりやや北のくびれ部に近い部分には，いずれも頭部のみの人物(6)と人物(9)が続いている。くびれ部の墳丘直下の周溝内には比較的遺存状態の良い人物(1)が出土している。人物(1)と近接する位置に人物(2)が続き，いずれも頭部のみの人物(4)人物(10)がこれに続く。

人物(3)から人物(10)までは欠損のため細部は不明な点も多いが，甲冑等の武具を伴う様子は見られない。人物(4)は顔面を欠損しているが首には首飾り状の装飾が見られ，人物(10)は顔面上部を欠損するものの遺存する首から胸部にかけては着衣の痕跡は見られない。付近からは裸足の足(20)・(34)が出土しておりこの足は人物(10)のものと考えられる。

人物(7)と人物(8)は頭部に冑を装着しており武人である。周辺から出土している人物埴輪の腕及び手(17)・(19)・(24)・(25)の手の甲には小手状防具の表現が見られることも両人物埴輪が武人であることを裏付けている。

第10図は，第８図中のよろい形埴輪の出土範囲の拡大図である。第10図によれば，よろい形埴輪の分布はくびれ部から前方部の西端手前約４ｍまでの範囲である。

よろい(1)は腰部に絞り込みのある大型の挂甲である。出土位置は人物埴輪の武人(7)・(8)と近く，比較的集中して検出されており，付近から検出されたよろいの小破片は，大きさや形状から見てよろい(1)と同一個体の欠片である可能性が高い。

第11図は，第8図中の家形埴輪の出土範囲の拡大図である。第11図によれば，家形埴輪は人物埴輪やよろい形埴輪と近い位置から検出されている。原位置での検出ではないため，どのような順に列を構成していたかは不明であるが，出土した地点はくびれ部付近の周溝内である。

第12図は，第８図中の動物埴輪の出土範囲の拡大図である。第12図によれば，動物埴輪の出土位置は大きく２か所に分けられる。前方部沿いの周溝内とくびれ部から南の後円部沿いの周溝内である。特に前方部沿いの周溝内の一群は，北から鶏形埴輪２羽分，馬形埴輪２頭分と続き，このすぐ南は人物埴輪や家形埴輪・よろい形埴輪が集中する地点となる。

鶏形埴輪は２羽分検出されたが，異なる姿態を表現している。また，その南に検出された馬形埴輪２頭分の観察からは，やはり異なる姿態の馬を表現していることが明らかとなった。

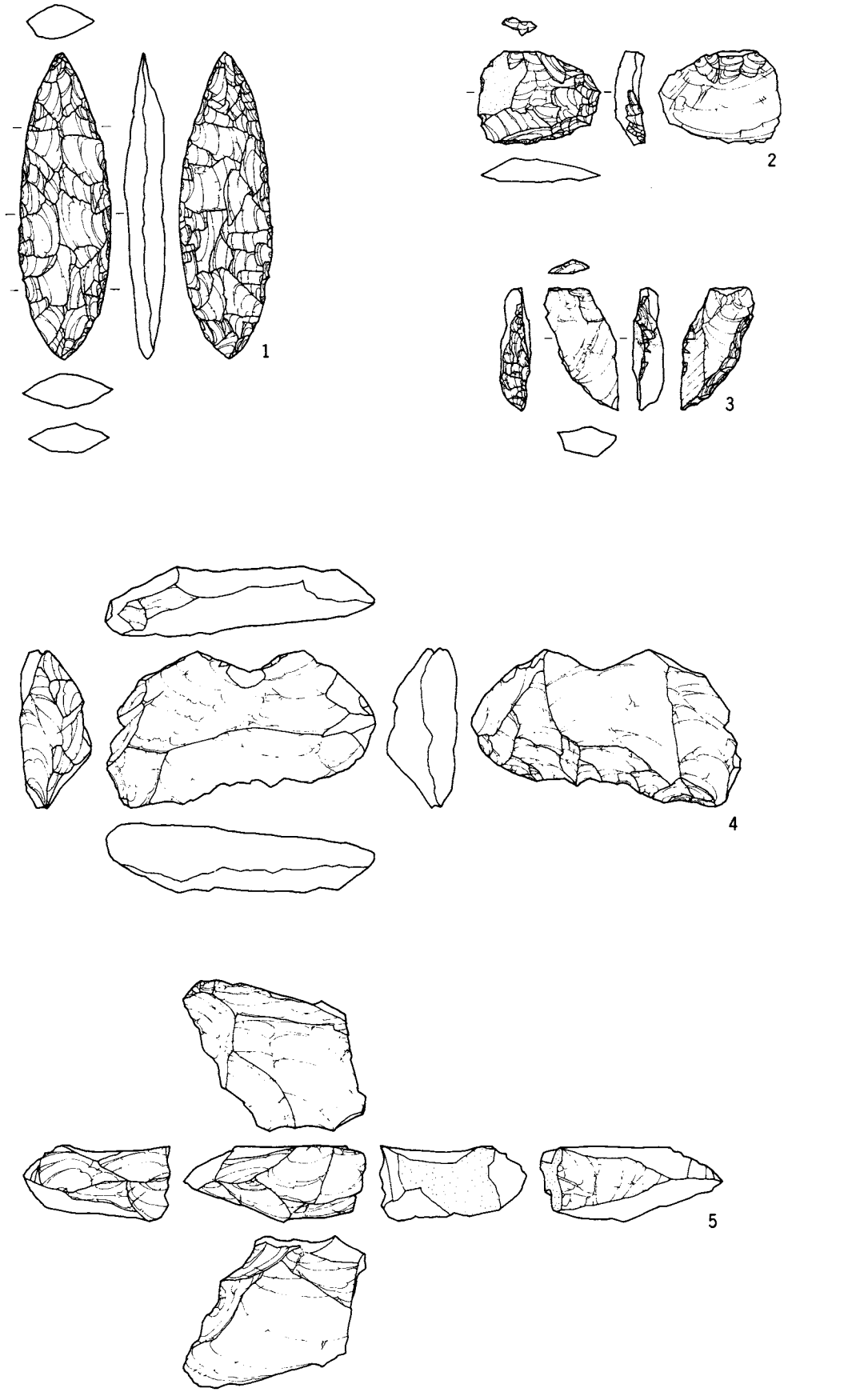
形象埴輪の出土状況からは，前方後円墳のくびれ部を意識した器種配置を窺わせる埴輪列が存在したものと考えられる。

第２節　遺物

出土した遺物は全て古墳の表土及び周溝覆土から出土したものである。

１　旧石器時代（第13図，図版６）

石器は極めて少なく，図示したもののほかは剥片類や礫が数点出土しているのみである。１はチャートの尖頭器未成品である。最大長62.1㎝，最大幅19.8㎝，最大厚7.2㎝，重量9.1ｇである。形状としてはほぼ完成しているといえるが，左側縁背面側に一部加工が終わっていない部分が観察されるため，未成品とした。２は二次加工のある剥片で，黒曜石を用いている。最大長18.8ｇ，最大幅24.8ｇ，最大厚6.1ｇ，重量2.5ｇである。右側縁から先端側にかけて，連続した二次加工が観察される。３は同じく二次加工のあ



第13図　石器

る剥片で，珪質頁岩を用いている。最大長24.5cm，最大幅15.0cm，最大厚6.2cm，重量2.0ｇである。４，５はいずれも安山岩の石核である。４は最大長15.0cm，最大幅37.2cm，最大厚30.0cm，重量22.3ｇ，５は最大長31.6cm，最大幅54.3cm，最大厚14.4cm，重量16.7ｇである。

２　縄文土器（第14図～第15図，図版７～８）

出土した縄文式土器は全部で150点ほどで，大半を後期加曽利Ｂ式が占める。１，２は中期初頭のものである。胎土の粒子は粗く，器表面は摩耗している。３は阿玉台式である。胎土に雲母粒を多量に含む。

４～８は加曽利Ｅ式である。４，５は２本一組の隆帯が貼り付けられる。６は縦方向の太沈線が施され，縄文が磨り消されるものである。７は撚糸文が施される。８は口縁に沿って微隆起線が貼り付けられ，口唇側が無文帯となるものである。

９～31，33～39は加曽利Ｂ式である。９は外面はケズリ状の調整のみを施し，内面側に連続刺突，貼付隆帯，平行沈線と磨消縄文が組み合わされるもので，全体に精緻な作りである。10は同じ個体の下側と考えられる。以上は加曽利Ｂ１式である。

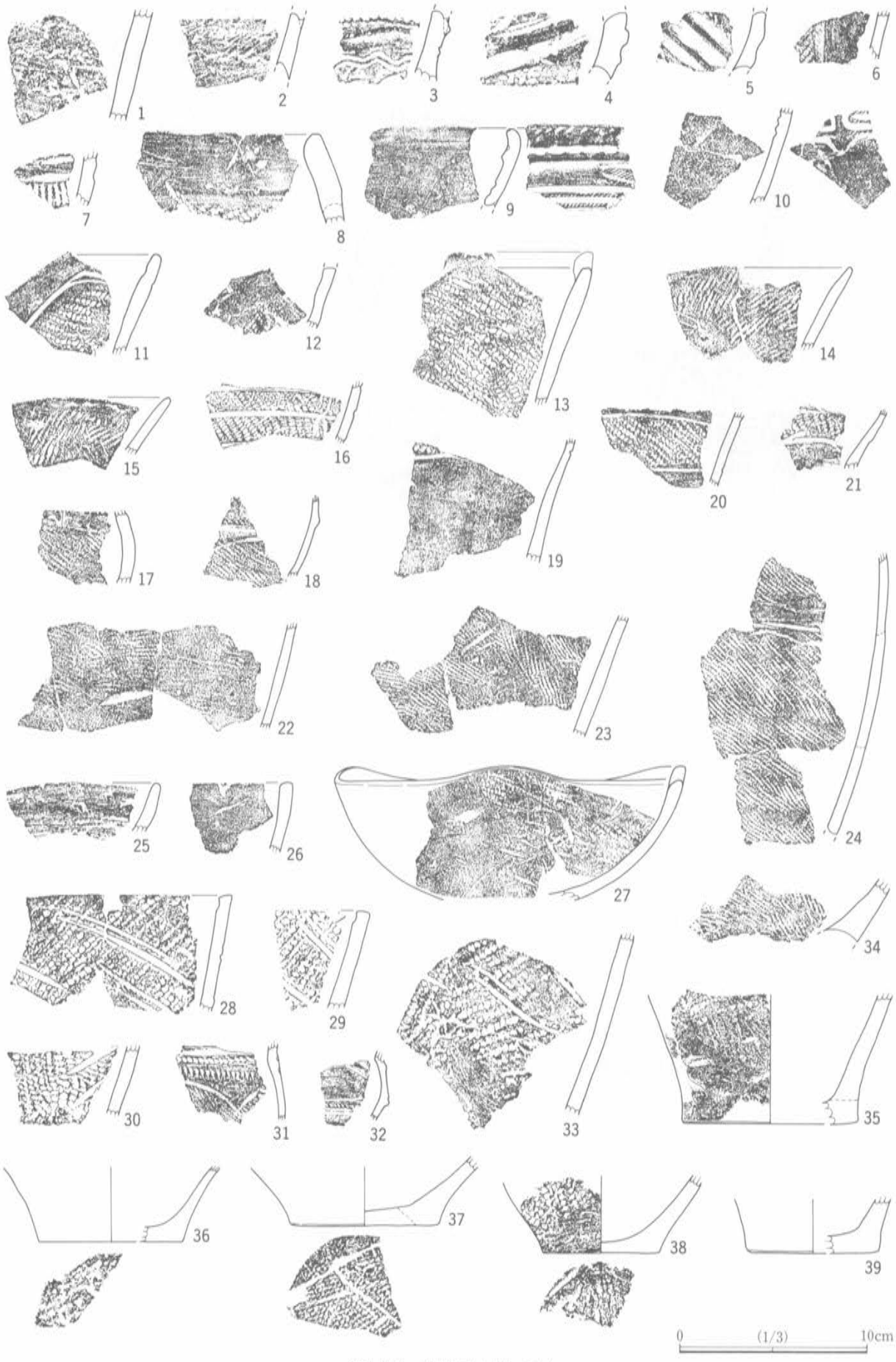
11～13は波状口縁になるもので，12，13は波頂部に突起が貼り付けられる。14，15は小型の浅鉢と考えられるもので，縄文施文のみである。16は平行沈線と帯状の磨消縄文を主体とするもの，17，19～21は縄文帯がそれより幅広くなり，上下のみに沈線が施されるものである。18は縄文施文の細い隆起帯が貼り付けられ，その下側に弧状の沈線と縄文が組み合わされた磨消縄文が配されるものである。22～24，34は縄文地紋と曲線的な沈線が施されるものである。23，24，34は同一個体と考えられる。25，26は無文の浅鉢と思われる土器で，横方向のケズリ調整がなされる。27は波状口縁の浅鉢で，器面には単節縄文が斜め方向に施文される。以上は加曽利Ｂ２式と考えられる。

28～30，33は粗製土器で，縄文地紋に斜行沈線が施されるものである。28，29は口縁部破片で，内面に口唇に沿って太沈線が施される。30，33は胴部破片である。なお，加曽利B式に特徴的な，紐線文を持つ土器は全く出土しなかった。31は加曽利Ｂ３式と考えられるもので，屈曲を持つ胴部に円弧状の磨消縄文が観察され，屈曲に沿って横方向に連続刺突が施される。

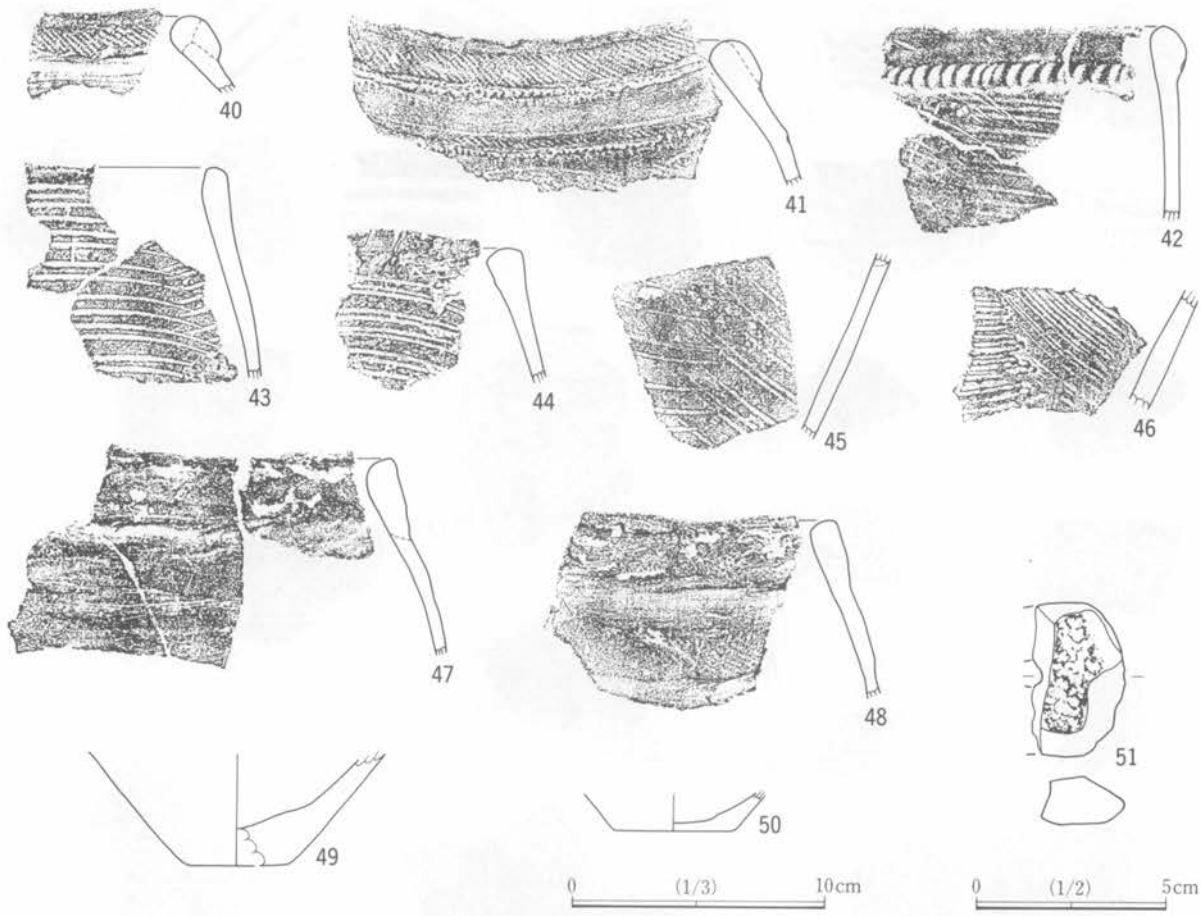
32は安行２式の浅鉢と思われる土器の破片で，器面に丁寧なミガキ状の調整を施し，細かいキザミの入った隆起帯を貼り付ける。

35～39は底部破片で，底径は35が9.4cm，36が7.8cm，37が8.0cm，38が6.3cm，39が7.0cmである。いずれも底面にアンペラの圧痕が観察される。40～50は晩期安行式である。

40，41は精製土器の口縁部である。いずれも平口縁で大きく内湾する。42～46は同じく粗製土器である。47，48は横方向にケズリ状の調整が施され，太くて浅い沈線が枠状に巡る。49，50は底部である。底径は49が4.0cm，50が4.8cmである。51は有孔円盤の破片で，重量は12.9ｇである。加曽利Ｅ式と思われる厚手の土器片を素材として，打ち欠き調整を施している。研磨調整はごく一部にのみ施されている。


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
0
(1/3)
10cm

第14図　縄文式土器（1）



第15図　縄文式土器（2）

3　埴輪

にわとり塚古墳の周溝内から出土の埴輪はいずれも小破片で，復原可能な個体も限られており，原位置は特定できないものが多い。検出された埴輪の種類は円筒埴輪，人物・動物・武具及び家形を主とする形象埴輪である。

(1)　円筒埴輪（第16図～第37図，図版９～図版29）

円筒埴輪は箍状の突帯で分け，下から第一段，第二段，第三段，第四段とし，最上段にあたる第四段を口縁部，第二段及び第三段を胴部，最下段である第一段を基部，基部の接地面を基底部とし，さらに突帯は下のものから順に第１突帯，第２突帯，第３突帯とする。観察に当たっては粘土紐の巻き上げの方向，胎土の含有物，外面及び内面の調整方向，透孔，突帯の断面について注意を払い，確認できたものについては記述する。また，施文工具の特徴を検証するため刷毛目の本数についても計測を実施した。[3] 計測値は刷毛目の一定幅（本報告書では２㎝を基準値として採用）における本数を（本数/２㎝）と表記し，本数に幅のある場合は（最大値－最小値/２㎝）と表記した。なお，特に表記の無いものは計測不可の場合である。

山田宝馬にわとり塚古墳出土の円筒埴輪は，外面タテ方向の刷毛目と内面口縁部付近のヨコ及びナナメ方向の刷毛目を特徴としている。

第16図１～第22図72は円筒埴輪の口縁部付近である。円筒埴輪の刷毛目は細く繊細な縦方向の仕上げとなっているが，円筒埴輪の内面を丁寧にナデ調整した後に口縁端部付近のみヨコ方向またはナナメ方向の

刷毛目が施されている。いずれも焼成は良好である。

第16図1は口径18.5cm，底径11.7cm，器高43.8cmのほぼ完形の円筒埴輪であり，胴部には第1突帯から第3突帯まで三条の突帯が存在し，四段区画の二段目と三段目にほぼ円形の透孔を有する。また，透孔は二段目と三段目では直交する位置関係にある。第一段外面タテ方向の刷毛目の本数は20－19/2cm，内面25/2cmのナナメ方向の刷毛目を短く継ぎ重ねている。，第二段・第三段外面の刷毛目の本数はは21－20/2cm，第四段の外面タテ方向の刷毛目の本数は25－22/2cmである。突帯の断面はいずれも頂部の尖った三角形である。第一段は6.4cm，第二段は8.8cm，第三段は8.8cm，第四段は8.8cmであり，第一段が他の段に比べて狭くなっている。第四段の刷毛目は第一段から第三段の刷毛目と比べて細めである。

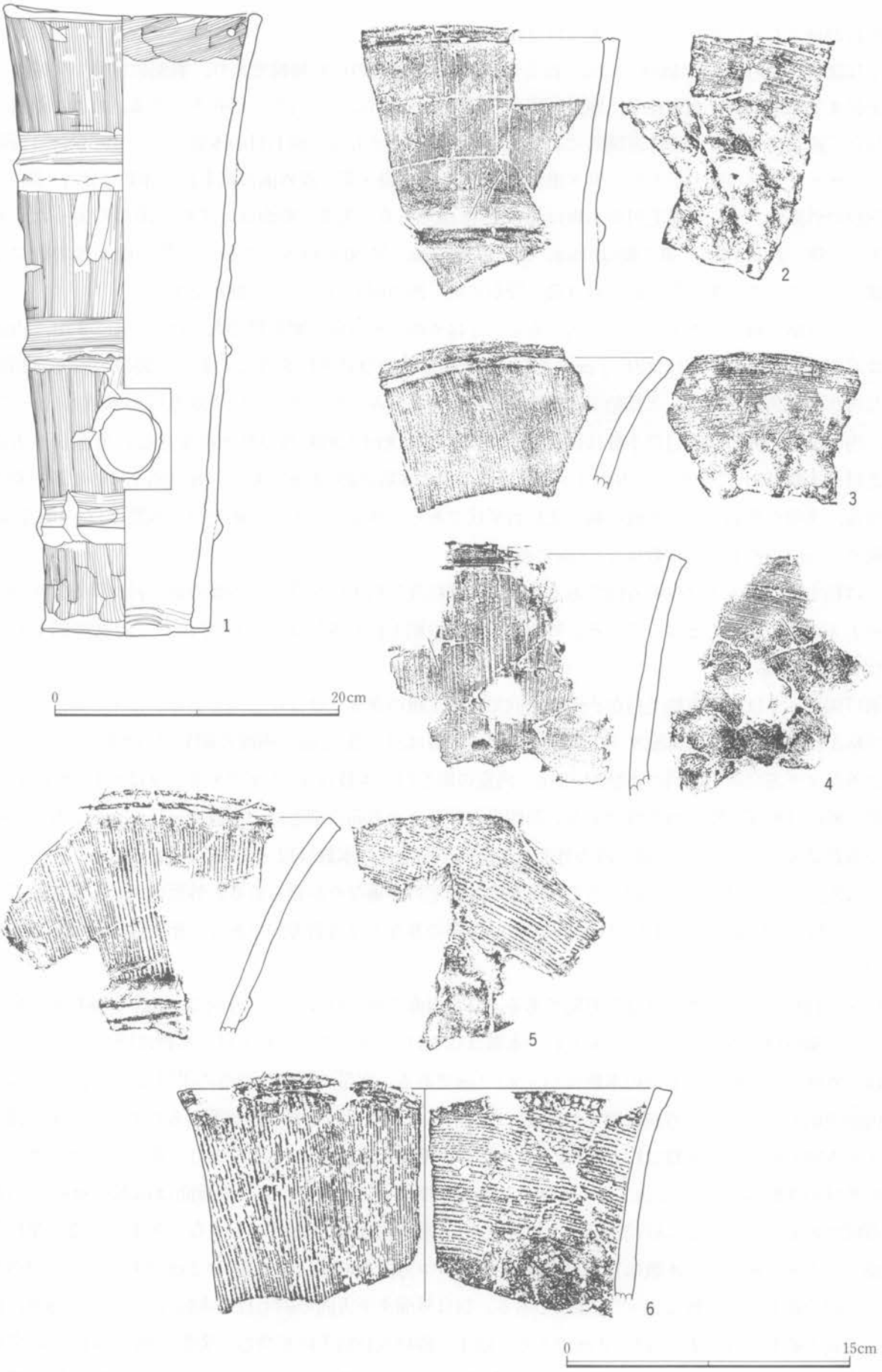
2～5は粘土紐の巻き上げは左方向である。2は外面タテ方向の刷毛目で太さは24－21/2cm，内面はヨコ方向の刷毛目の本数はは24/2cmである。胎土に砂粒及び粘土粒を含む。また，突帯の断面は頂部のなだらかな三角形である。3は胎土に砂粒及び粘土粒を含み，外面タテ方向の刷毛目の本数は19－17/2cm，内面ヨコ方向の刷毛目の本数は19/2cmである。4は胎土に砂粒及び粘土粒を含む。外面タテ方向の刷毛目の本数は26－21/2cm，内面ヨコ方向の刷毛目の本数は23/2cmである。5は胎土に砂粒及び粘土粒を含み，突帯の断面は頂部の低く幅の広い台形状である。外面タテ方向の刷毛目の本数は12－10/2cmで，内面ヨコ方向の刷毛目の本数は8/2cmである。

6は粘土紐の巻き上げは右方向である。胎土に砂粒及び粘土粒を含み，内面の刷毛目は第四段全面に及ぶナナメの広い刷毛目となっている。外面タテ方向の刷毛目の本数は14－8/2cmで，内面の刷毛目の本数は9/2cmである。

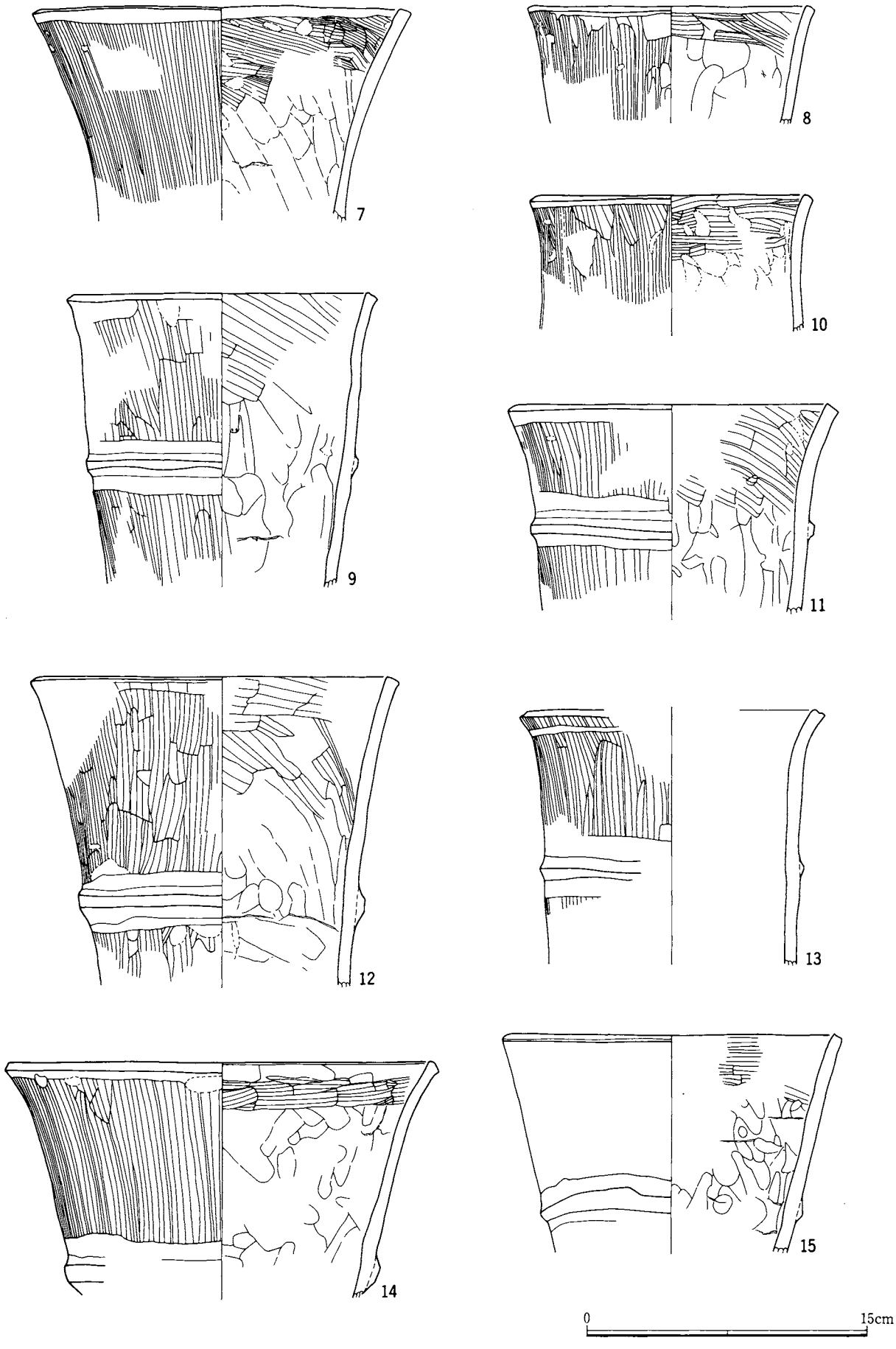
第17図7～9は内面の刷毛目がナナメ方向で，粘土紐の巻き上げは左方向である。7・8は胎土に砂粒及び粘土粒を含む。7は外面タテ方向の刷毛目の本数は23－22/2cm，内面の刷毛目の本数22/2cmである。8は外面タテ方向の刷毛目の本数23/2cm，内面の刷毛目の本数は26/2cmである。9は胎土に砂粒を含み，突帯の断面は頂部の狭い台形状である。第四段の外面タテ方向の刷毛目の本数18－15/2cm，内面の刷毛目の本数は8/2cmである。第三段の外面タテ方向の刷毛目の本数は12－8/2cmである。

10は内面の刷毛目はヨコ方向であるが不規則な刷毛目の重なりが見られる。外面のタテ方向の刷毛目は18－15/2cm，内面の刷毛目19/2cmである。粘土紐の巻き上げは右方向であり，胎土は砂粒及び粘土粒を含む。

11～15は粘土紐の巻き上げは左方向である。11は内面の刷毛目はナナメ方向で，胎土に砂粒及び粘土粒を含む。第四段の外面タテ方向の刷毛目の本数は12－11/2cm，内面の刷毛目の本数は13/2cmであり，第三段の外面タテ方向の刷毛目の本数は13－9/2cmである。突帯の断面は頂部の平坦な台形状である。12は内面の刷毛目がナナメ方向に施された後，口縁沿いにヨコ方向の刷毛目が重ねられている。第四段の外面タテ方向の刷毛目の本数は13－10/2cm，内面の刷毛目の本数は13/2cmであり，第三段の外面タテ方向の刷毛目の本数は11－8/2cmである。胎土に砂粒及び粘土粒を含み，突帯の断面は頂部の稜線の明瞭な台形状である。13は胎土に砂粒及び粘土粒を含み，突帯の断面は比較的小振りな三角形である。第四段の外面タテ方向の刷毛目の本数は18－14/2cm，内面ヨコ方向の刷毛目の本数14/2cmであり，第三段の外面タテ方向の刷毛目の本数は16－15/2cmである。14は外面タテ方向の刷毛目の本数は15－12/2cmで，内面ヨコ方向の刷毛目はの太さは15/2cmである。胎土に砂粒及び粘土粒を含む。突帯の断面は頂部の広い台形状である。15は内面ヨコ方向の刷毛目の本数は23/2cmである。胎土は砂粒及び粘土粒を含む。突帯の



第16図　円筒埴輪（1）



第17図　円筒埴輪（2）

断面は裾の広い三角形であるが，全体に歪んだ状態で貼り付けられている。

第18図16は胎土に砂粒及び粘土粒を含み，突帯の断面は頂部の尖った三角形である。第四段の外面タテ方向の刷毛目の本数は21－20/2㎝，内面ヨコ方向の刷毛目の本数は18/2㎝であり，第三段の外面タテ方向の刷毛目の本数は23－21/2㎝である。

17・19は粘土紐の巻き上げは右方向である。17は第四段の外面タテ方向の刷毛目の本数は21－20/2㎝，内面ヨコ方向の刷毛目の本数は23/2㎝であり，第三段の外面タテ方向の刷毛目の本数は22－20/2㎝である。胎土に砂粒及び粘土粒を含む。突帯の断面は頂部の低く裾の広い台形状である。19は内面の刷毛目はナナメ方向で，第四段全体に及ぶ範囲に施されている。第四段の外面タテ方向の刷毛目の本数は10－9/2㎝，内面ヨコ方向の刷毛目の本数は10/2㎝であり，第三段の外面タテ方向の刷毛目の本数は11/2㎝である。胎土に砂粒及び粘土粒を含み，突帯の断面は頂部の低い台形状である。

18は粘土紐の巻き上げは左方向である。第四段の外面タテ方向の刷毛目の本数は15－14/2㎝，内面ヨコ方向の刷毛目の本数は15/2㎝であり，第三段の外面タテ方向の刷毛目の本数は16－14/2㎝である。

20・22は粘土紐の巻き上げは左方向である。20は第四段の外面タテ方向の刷毛目の本数21－20/2㎝，内面ヨコ方向の刷毛目の本数は21/2㎝であり，第三段の外面タテ方向の刷毛目の本数は22－21/2㎝である。胎土に砂粒及び粘土粒を含む。突帯の断面は頂部の低い台形状である。22は胎土に砂粒及び粘土粒を含み，他の円筒埴輪と比べて口径が広いのが特色である。外面タテ方向の刷毛目の本数は17－16/2㎝である。

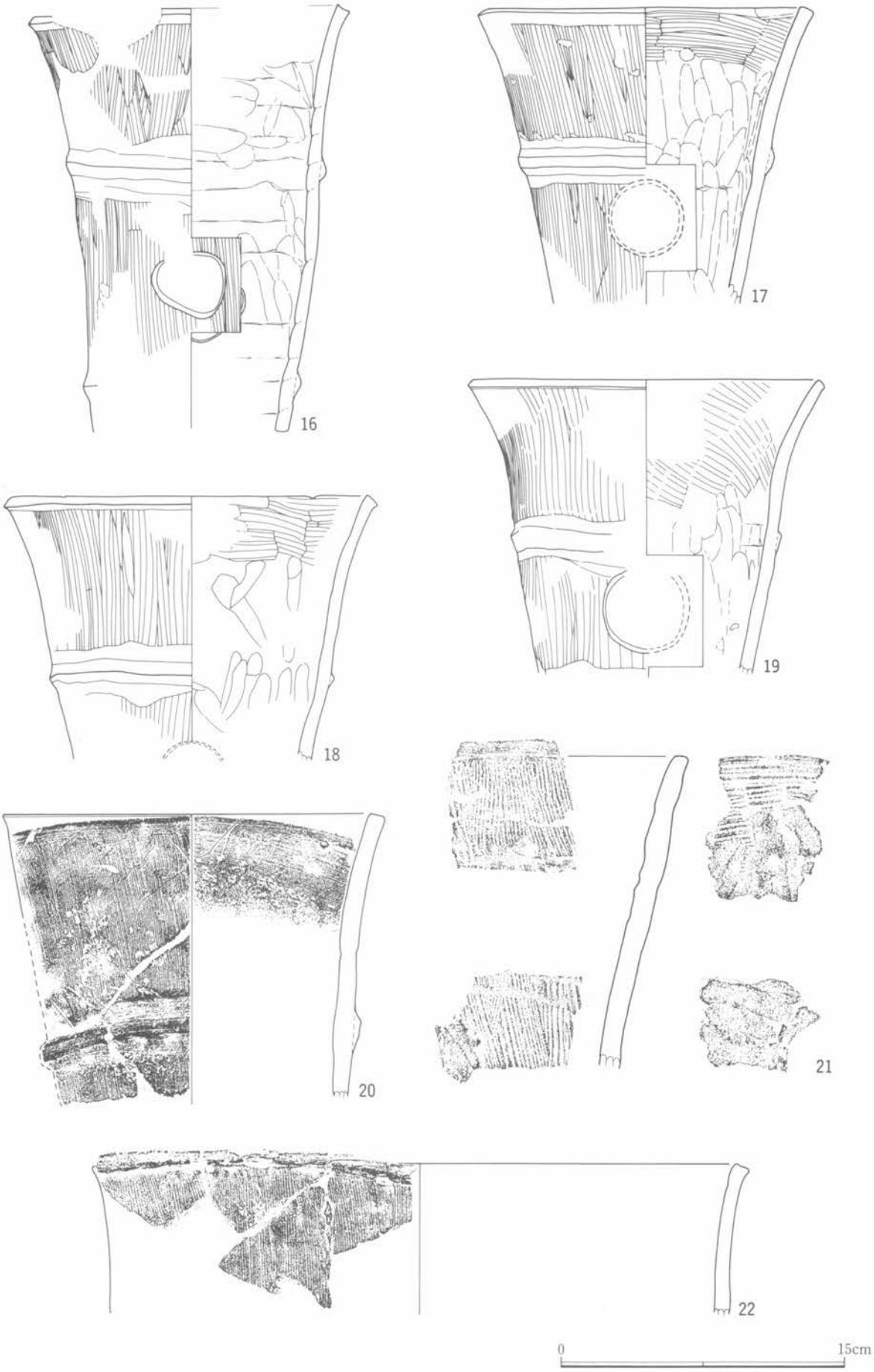
21は胎土に砂粒及び粘土粒を含み，口縁部内面の上端部分に幅3㎝程の比較的狭い範囲にヨコ方向の刷毛目が見られる。外面タテ方向の刷毛目の本数は13－10/2㎝，内面ヨコ方向の刷毛目の本数は8/2㎝である。横方向の直線状に刷毛目が消去された部分は，突帯裾のヨコナデ部分と見られ突帯の存在していた痕跡と考えられる。また，第三段に該当すると考えられる部位に透孔の痕跡も見られる。なお，図示した以外に同一個体と考えられる破片9点が確認されている。

第19図23～28は胎土に砂粒及び粘土粒を含む。23は外面タテ方向の刷毛目の本数は15－10/2㎝，内面ナナメ方向の刷毛目の本数は15－9/2㎝である。24は外面タテ方向の刷毛目の本数は19－15/2㎝，内面ヨコ方向の刷毛目の本数は15/2㎝である。25は外面タテ方向の刷毛目の本数は13－9/2㎝，内面ヨコ方向の刷毛目の本数は12/2㎝である。26は外面タテ方向の刷毛目の本数は19－15/2㎝，内面のヨコ方向の刷毛目の本数は15/2㎝である。27は外面タテ方向の刷毛目の本数は15－9/2㎝，内面ナナメ方向の刷毛目の本数は13－11/2㎝である。28は外面タテ方向の刷毛目の本数は17/2㎝，内面ナナメ方向の刷毛目の本数は14－8/2㎝である。

29は胎土に砂粒を含む。外面タテ方向の刷毛目の本数は15/2㎝，内面ヨコ方向の刷毛目の本数は16/2㎝である。

30～32は胎土に砂粒及び粘土粒を含む。30は外面タテ方向の刷毛目の本数は20－15/2㎝，内面のヨコ方向の刷毛目の本数は16/2㎝である。31は外面タテ方向の刷毛目の本数は17/2㎝，内面ヨコ方向の刷毛目の本数は14/2㎝である。32は外面タテ方向の刷毛目の本数は15－13/2㎝，内面ナナメ方向の刷毛目の本数は15/2㎝である。

33～35は胎土に砂粒及び粘土粒を含む。33は外面タテ方向の刷毛目の本数は15－13/2㎝，内面ナナメ方向の刷毛目の本数は13/2㎝，内面ヨコ方向の刷毛目の本数は14－11/2㎝である。34は外面タテ方向の



第18図　円筒埴輪（3）

刷毛目の本数は18－11/2㎝，内面ナナメ方向の刷毛目の本数は9/2㎝である。35は外面タテ方向の刷毛目の本数は17－14/2㎝，内面ヨコ方向の刷毛目の本数は15/2㎝である。

36は胎土に砂粒を含み，外面タテ方向の刷毛目の本数は14/2㎝，内面ナナメ方向の刷毛目の本数は16/2㎝である。

第19図37・第20図39は胎土に砂粒及び粘土粒を含む。37は外面タテ方向の刷毛目の本数は15/2㎝，内面ヨコ方向の刷毛目の本数は10/2㎝である。39は外面タテ方向の刷毛目の本数は15/2㎝，内面ヨコ方向の刷毛目の本数は15－9/2㎝である。

第20図の38・40は胎土に砂粒を含む。38は外面タテ方向の刷毛目の本数は17－13/2㎝，内面ナナメ方向の刷毛目の本数は15－10/2㎝である。40は焼成は不良で，外面タテ方向の刷毛目，内面ヨコ方向の刷毛目ともにその本数は10/2㎝である。

41は胎土に砂粒及び粘土粒を含み，焼成は不良である。外面タテ方向の刷毛目，内面ナナメ方向の刷毛目ともに10/2㎝である。また，内面の刷毛目はナナメ方向のものにヨコ方向のものを重ねている。

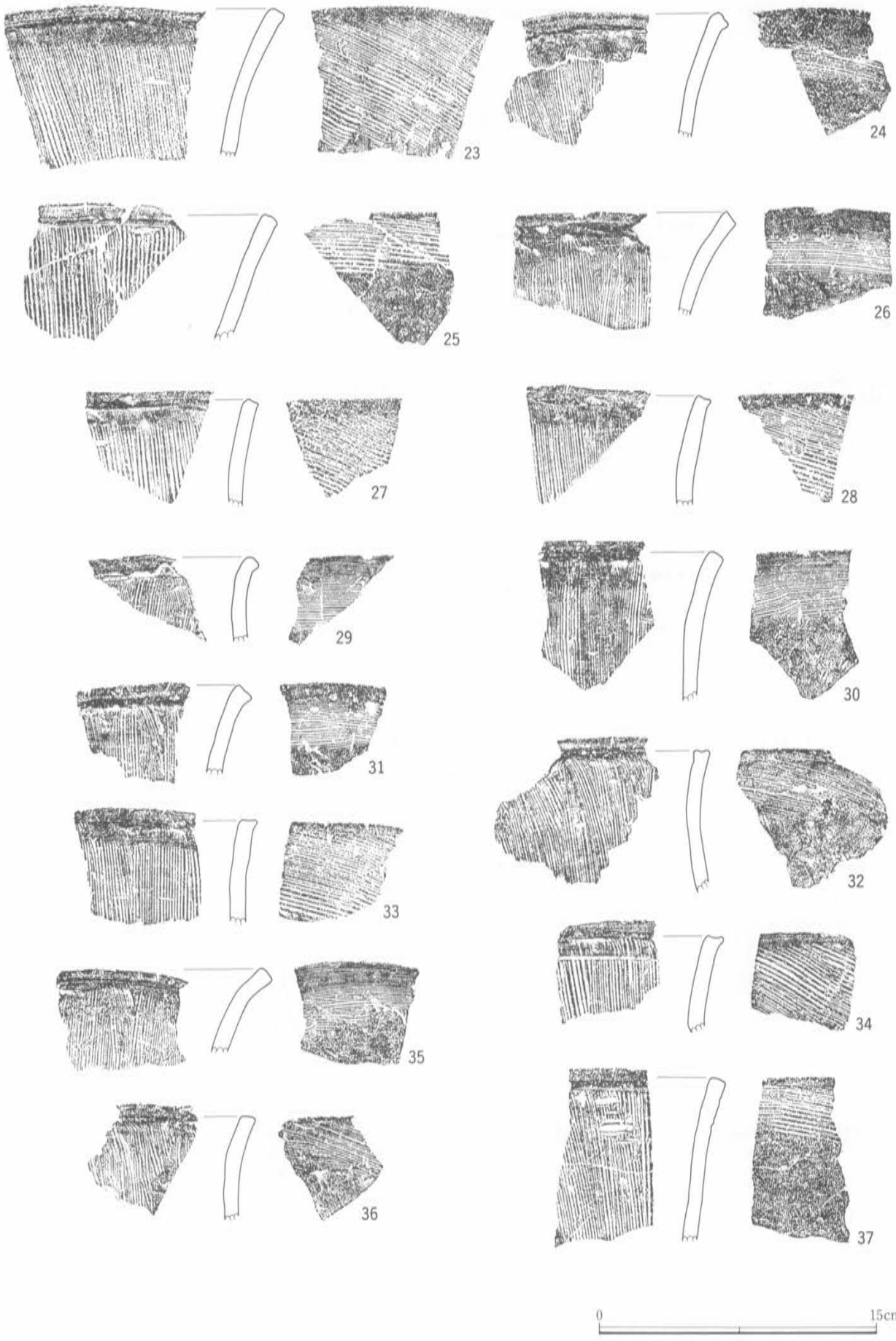
42・43は胎土に砂粒を含み，焼成は不良である。42は外面タテ方向の刷毛目，内面ナナメ方向の刷毛目ともに9/2㎝である。また，内面ナナメ方向のものにヨコ方向のものを重ねている。43は外面タテ方向の刷毛目の本数は18－9/2㎝，内面ヨコ方向の刷毛目の本数は11/2㎝である。

44～47は胎土に砂粒及び粘土粒を含む。44は外面タテ方向の刷毛目の本数は13－9/2㎝，内面ナナメ方向の刷毛目の本数は14－9/2㎝である。45～47は焼成は不良である。45・46は外面タテ方向の刷毛目の本数は9/2㎝，内面ヨコ方向の刷毛目の本数は10/2㎝である。47は外面タテ方向の刷毛目の本数は9/2㎝，内面ナナメ方向の刷毛目の本数は13/2㎝である。

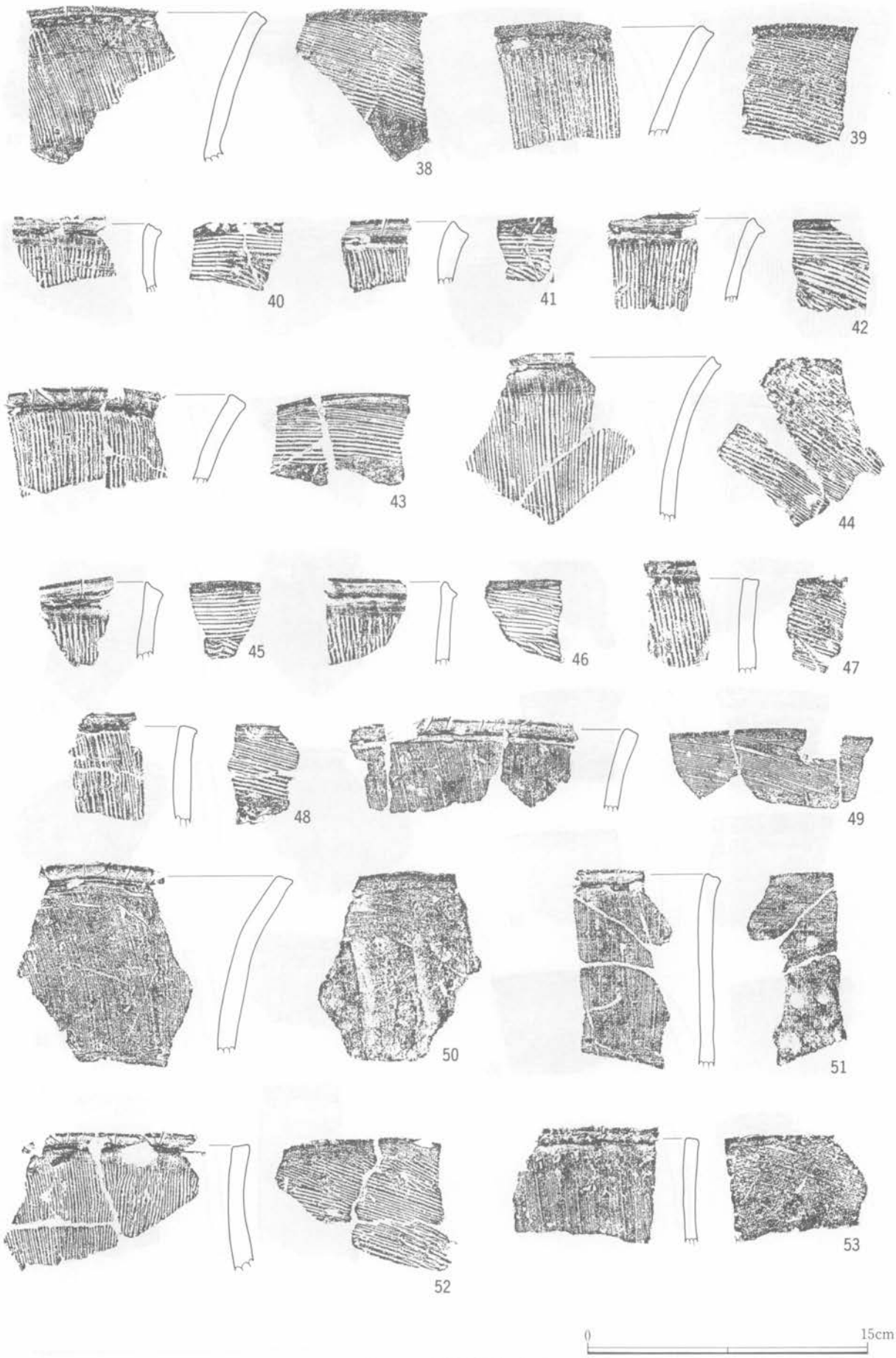
48は胎土に砂粒を含み，焼成は不良である。外面タテ方向の刷毛目の本数は12/2㎝，内面ナナメ方向の刷毛目の本数は10/2㎝である。

49～53は胎土に砂粒及び粘土粒を含む。49は焼成は不良であり，外面タテ方向の刷毛目の本数は26－22/2㎝，内面ナナメ方向の刷毛目の本数は多めの24/2㎝である。50は外面タテ方向の刷毛目の本数は24－20/2㎝，内面ヨコ方向の刷毛目の本数はやや多めの23/2㎝である。51は外面タテ方向の刷毛目の本数は22/2㎝，内面ヨコ方向の刷毛目の本数は多めの24/2㎝である。52は外面タテ方向の刷毛目の本数は14/2㎝，内面ナナメ方向の刷毛目の本数は15－13/2㎝である。53は外面タテ方向の刷毛目の本数は27－24/2㎝，内面ナナメ方向の刷毛目の本数は20/2㎝である。

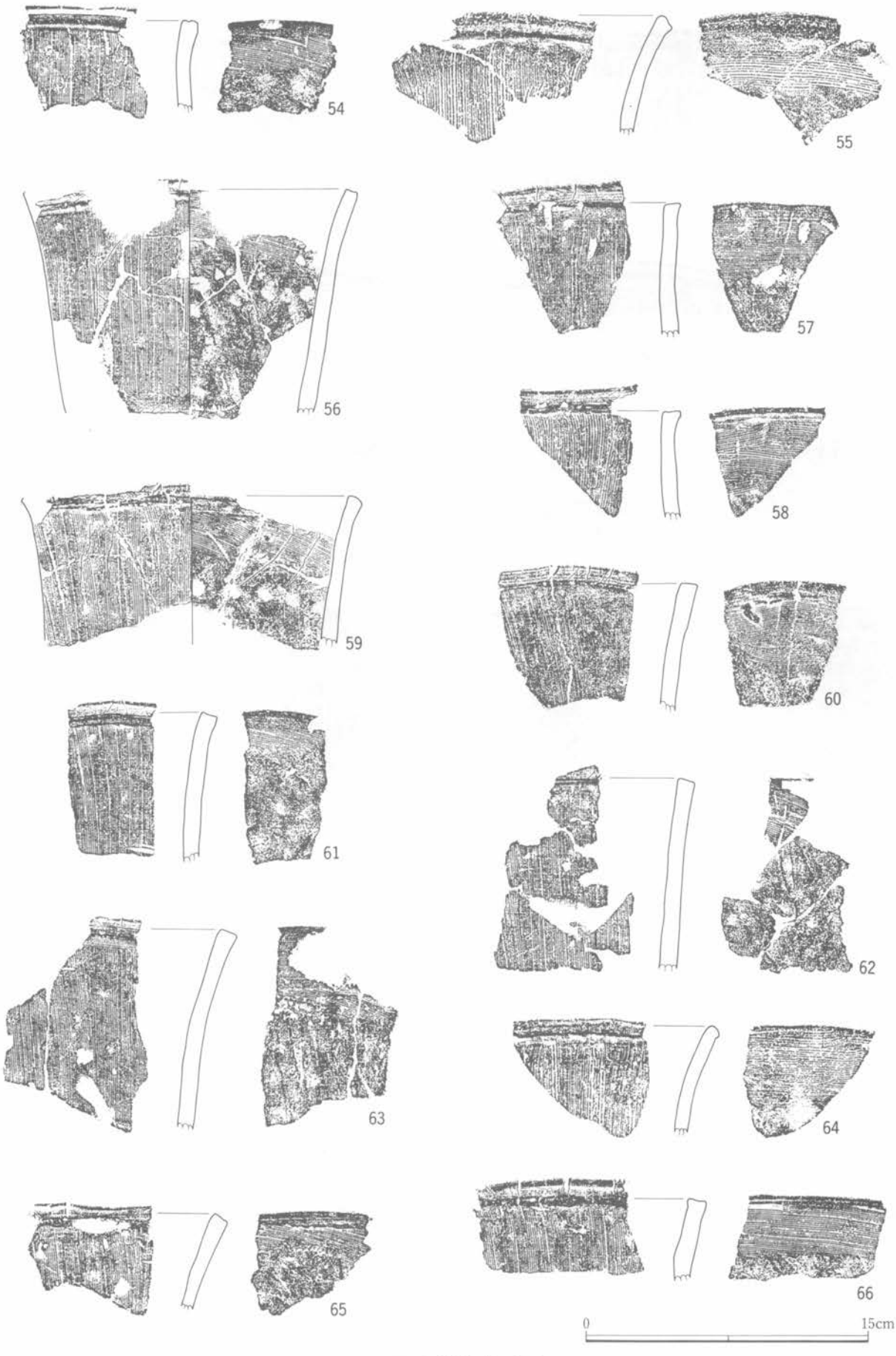
第21図54～66は胎土に砂粒及び粘土粒を含む。54は外面タテ方向の刷毛目の本数は29－22/2㎝，内面ナナメ方向の刷毛目の本数はやや多めの23/2㎝である。55は外面タテ方向の刷毛目の本数は19－15/2㎝，内面ヨコ方向の刷毛目の本数は15/2㎝である。56は外面タテ方向の刷毛目の本数は25/2㎝，内面の刷毛目はナナメ方向である。57は外面タテ方向の刷毛目の本数は23/2㎝，内面ヨコ方向の刷毛目の本数は25/2㎝である。58は外面タテ方向の刷毛目，内面ヨコ方向の刷毛目ともに本数は18/2㎝である。59は外面タテ方向の刷毛目の本数は29－23/2㎝，内面ナナメ方向の刷毛目の本数は多めの25/2㎝である。60は外面タテ方向の刷毛目の本数は19/2㎝，内面ヨコ方向の刷毛目の本数はきわめて繊細な描線で26－23/2㎝である。61は外面タテ方向の刷毛目の本数は25/2㎝，内面の刷毛目はナナメ方向である。62は焼成は不良で，外面タテ方向の刷毛目の本数は29－22/2㎝，内面ナナメ方向の刷毛目の本数は非常に多い27/2㎝である。63は外面タテ方向の刷毛目の本数は22/2㎝，内面ヨコ方向の刷毛目の本数は多めの24/2㎝であ



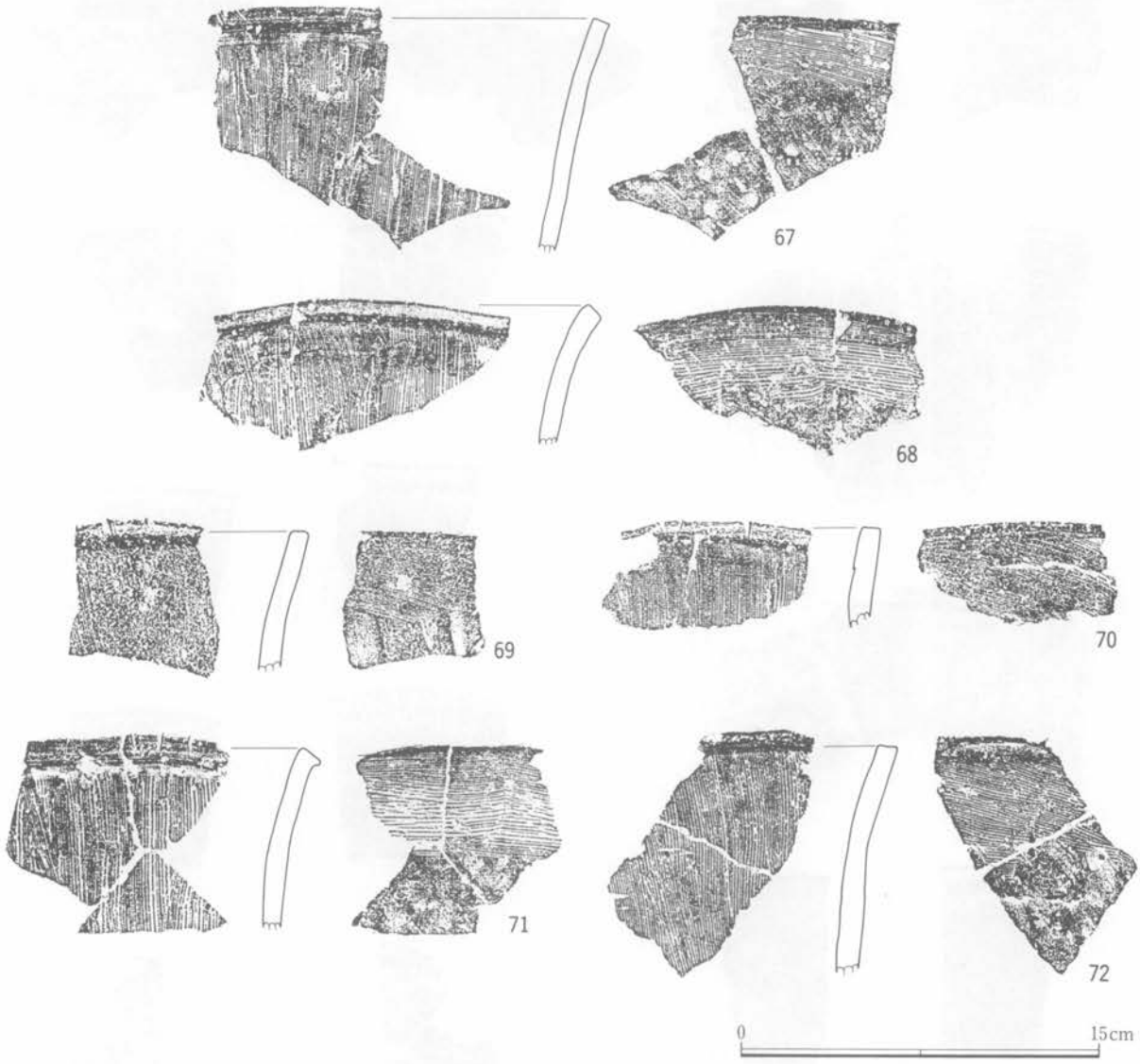
第19図　円筒埴輪（4）



第20図　円筒埴輪（5）



第21図　円筒埴輪（6）



第22図　円筒埴輪（7）

る。64は外面タテ方向の刷毛目の本数は17/2㎝，内面ヨコ方向の刷毛目の本数は18/2㎝である。65は外面タテ方向の刷毛目の本数は24－22/2㎝，内面の刷毛目はナナメ方向である。66は外面タテ方向の刷毛目の本数は26－22/2㎝，内面ヨコ方向の刷毛目の本数は多めの24/2㎝である。

第22図67～72は胎土に砂粒及び粘土粒を含む。67は外面タテ方向の刷毛目の本数は30－21/2㎝，内面ナナメ方向の刷毛目の本数はやや多めの23/2㎝である。68は外面タテ方向の刷毛目の本数は18－14/2㎝，内面ヨコ方向の刷毛目の本数は16/2㎝である。69は内面の刷毛目はナナメ方向である。70は外面タテ方向の刷毛目の本数は24/2㎝，内面の刷毛目はナナメ方向である。71は外面タテ方向の刷毛目の本数は16－14/2㎝，内面ヨコ方向の刷毛目の本数は18/2㎝である。72は外面タテ方向の刷毛目の本数は18－15/2㎝，内面ナナメ方向の刷毛目の本数は18/2㎝である。

第23図1～第33図の238は円筒埴輪の第二段から第三段にあたる胴部である。第一段の基底部の確認できないものや第四段の口縁部の確認できないものについてもこの範囲に含めて観察する。また。外面の刷毛目はタテ方向で，内面は輪積み成形後のナデによる器面調整のままである。

第23図１～４は粘土紐の巻き上げは左方向であり，胎土に砂粒及び粘土粒を含む。１は透孔はほぼ円形で，突帯の断面は頂部の低く裾の広い三角形である。外面タテ方向の刷毛目の本数は16－12/２cmである。２は透孔は円形で，突帯の断面は頂部の傾いた台形状である。焼成は不良で，外面タテ方向の刷毛目の本数は23－20/２cmである。３は透孔は円形で，突帯の断面は上段は稜線の尖った三角形，下段は頂部が傾き部分的に三角形となる台形状である。外面タテ方向の刷毛目の本数は11－９/２cmである。４は僅かに窺える透孔は円形と考えられ，突帯の断面は頂部のなだらかな三角形である。外面タテ方向の刷毛目の本数は26－23/２cmである。

５・６は粘土紐の巻き上げは左方向であり，胎土に砂粒及び粘土粒を含む。５は突帯の断面は頂部の尖った三角形である。外面タテ方向の刷毛目の本数は17－15/２cmである。６は透孔は楕円形で，突帯の断面は頂部の傾いた台形状である。外面タテ方向の刷毛目の本数は11－８/２cmである。

７は透孔は円形で，突帯の断面は頂部の丸味の強い三角形である。外面タテ方向の刷毛目の本数は19－15/２cmである。

第24図の８～10は胎土に砂粒及び粘土粒を含む。８は透孔は円形である。外面タテ方向の刷毛目の本数は16－14/２cmである。９は透孔は円形である。外面タテ方向の刷毛目の本数は23－21/２cmである。10は透孔は円形である。外面タテ方向の刷毛目の本数は23－16/２cmである。

11は胎土に砂粒を含み，透孔は円形である。外面タテ方向の刷毛目の本数は17/２cmである。

12～17は胎土に砂粒及び粘土粒を含む。12は外面タテ方向の刷毛目の本数は18/２cmである。13は外面タテ方向の刷毛目の本数は12/２cmで，透孔は円形である。14は外面タテ方向の刷毛目の本数は22/２cmで，透孔は円形である。15は外面タテ方向の刷毛目の本数は28－21/２cmで，透孔は円形である。16は外面タテ方向の刷毛目の本数は22/２cmで，透孔は円形である。17は外面タテ方向の刷毛目の本数は17－13/２cmで，透孔は円形である。

18は胎土に砂粒を含み，外面タテ方向の刷毛目の本数は18/２cmである。また，透孔は円形である。

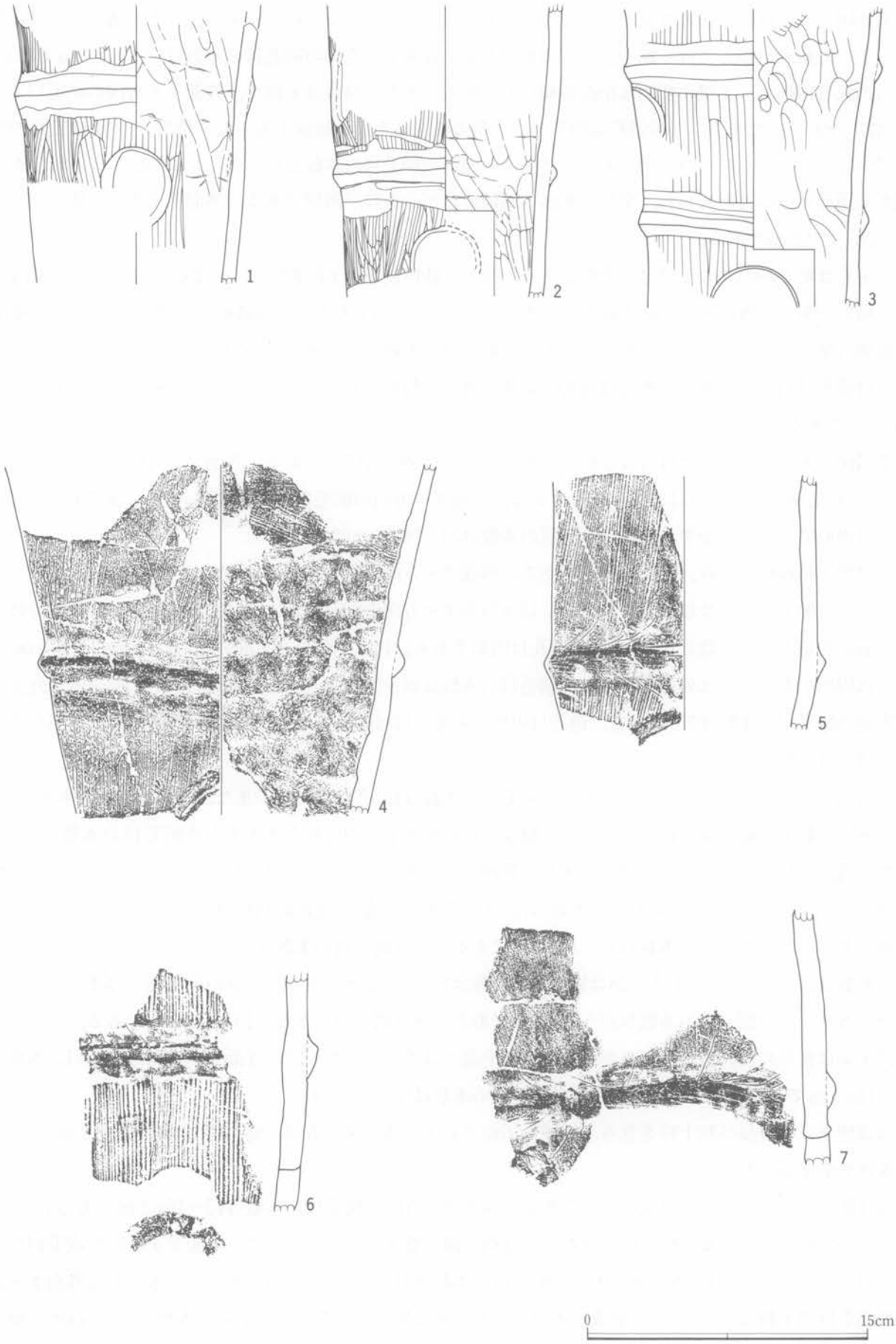
19～30は胎土に砂粒及び粘土粒を含み，焼成は良好である。19は外面タテ方向の刷毛目の本数は15/２cmで，透孔は円形である。20～28はいずれも外面のみにタテ方向の刷毛目が見られる。20は刷毛目の本数は28－16/２cmである。21は刷毛目の本数は22/２cmである。透孔の痕跡は見られるものの形状については不明である。22は刷毛目の本数は17－15/２cmである。23は刷毛目の本数は19－16/２cmである。24は刷毛目の本数は21－16/２cmである。25は刷毛目の本数は15－13/２cmである。26はの刷毛目の本数は21－15/２cmである。27は刷毛目の本数は21－16/２cmである。28は刷毛目の本数は19－15/２cmである。

29・30は突帯の痕跡も見られるが断面の形状や高さは不明である。29は外面タテ方向の刷毛目の本数は15－10/２cmである。30は外面タテ方向の刷毛目の本数は14/２cmである。

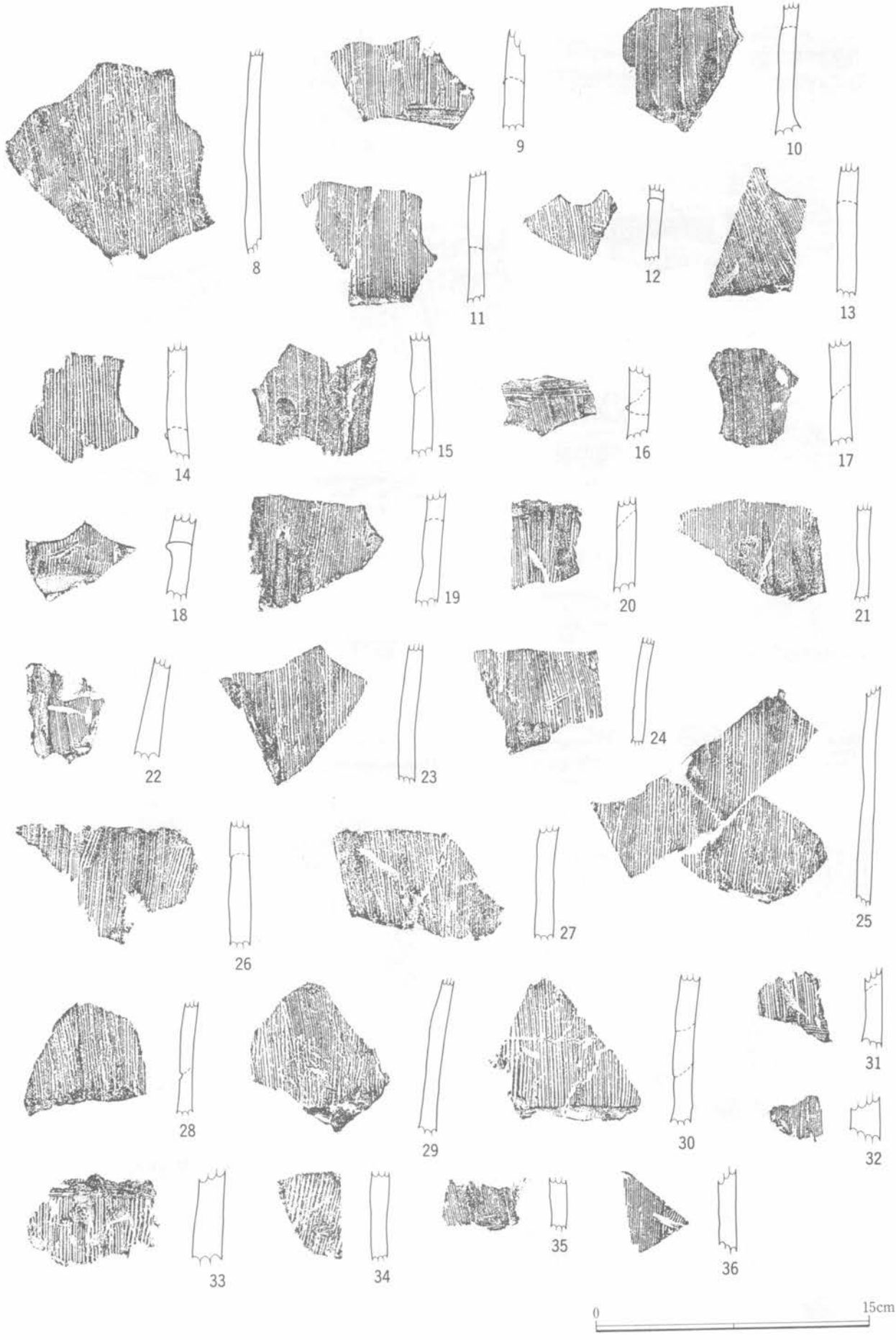
31は胎土に砂粒及び粘土粒を含み，焼成は不良である。外面タテ方向の刷毛目の本数は21/２cmである。焼成はやや不良である。

32は胎土に砂粒を含み，焼成は不良である。外面タテ方向の刷毛目の本数は15－10/２cmである。

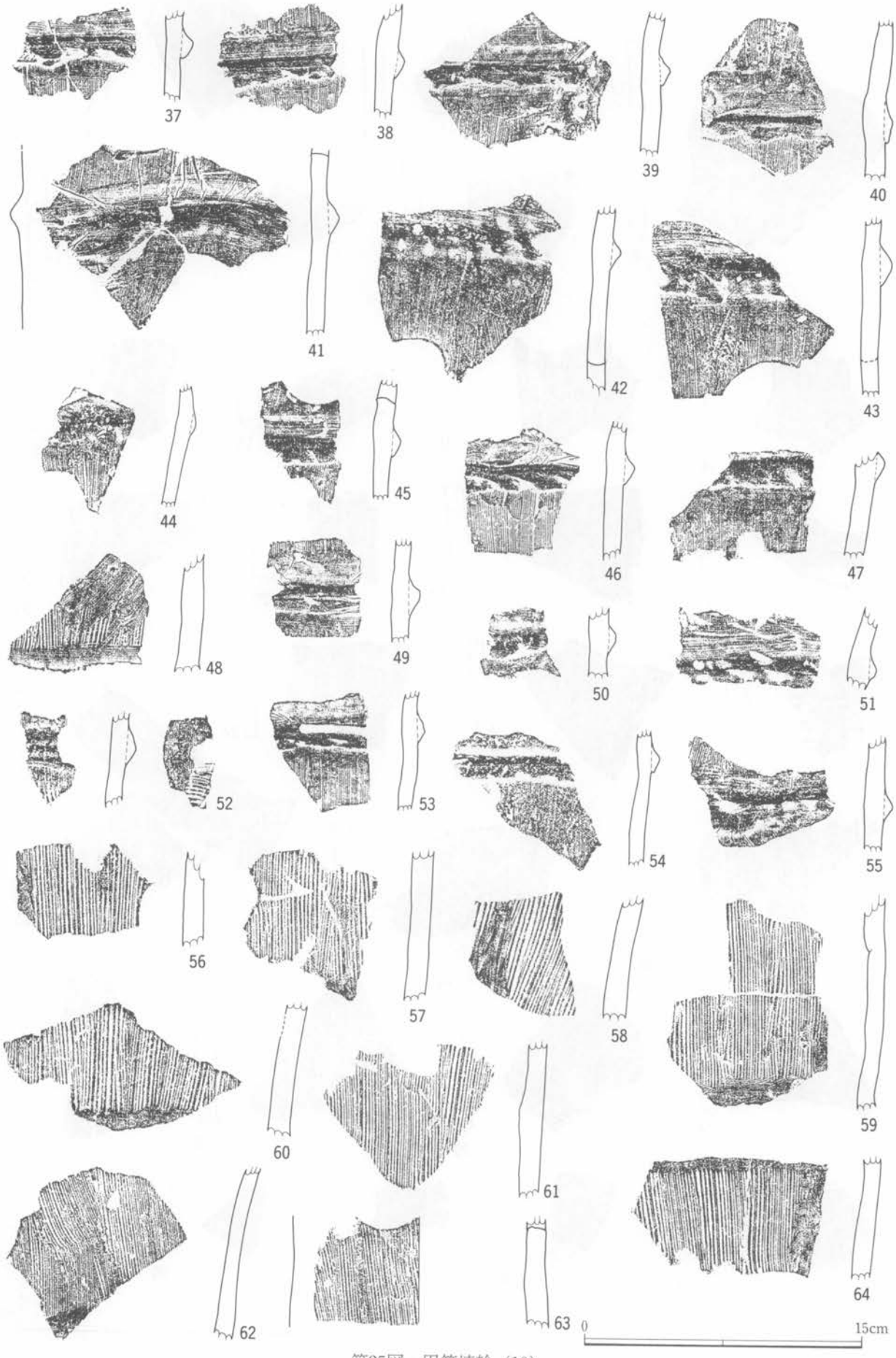
33～36は胎土に砂粒及び粘土粒を含む。33は粘土紐の巻き上げは左方向で，外面タテ方向の刷毛目の本数は11/２cmである。34は外面タテ方向の刷毛目の本数は21/２cmで，焼成は不良である。35は外面タテ方向の刷毛目の本数は18/２cmで，焼成は不良である。36は外面タテ方向の刷毛目の本数は18/２cmで，焼成は悪い。



第23図　円筒埴輪（8）


8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
0
15cm

第24図　円筒埴輪（9）


37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
0
15cm

第25図　円筒埴輪（10）

第25図の37～64は胎土に砂粒及び粘土粒を含む。37は突帯の断面は頂部の高い三角形である。外面タテ方向の刷毛目の本数は30－22/2㎝である。

38～43は粘土紐の巻き上げは右方向である。38は外面タテ方向の刷毛目の本数は24－19/2㎝であり，突帯の断面は頂部の低い三角形である。39は外面タテ方向の刷毛目の本数は22/2㎝で，突帯の断面は頂部の稜線の明瞭な三角形である。40は外面タテ方向の刷毛目の本数は21/2㎝で，突帯の断面は頂部の押し潰された台形状である。41は外面タテ方向の刷毛目の本数は26/2㎝で，透孔は円形である。突帯の断面は三角形である。42は外面タテ方向の刷毛目の本数は26/2㎝で，透孔は円形である。突帯の断面は小振りな三角形である。43は外面タテ方向の刷毛目の本数は24－22/2㎝であり，透孔は円形である。突帯の断面は頂部のなだらかな三角形となっている。

44・47は粘土紐の巻き上げは左方向である。44は透孔は円形で，突帯の断面は頂部の低い三角形である。外面タテ方向の刷毛目の本数は19/2㎝である。47は突帯の断面は頂部のなだらかな三角形である。

45・46は粘土紐の巻き上げは右方向である。45は外面タテ方向の刷毛目の本数は22－19/2㎝で，透孔は円形である。突帯の断面は頂部のなだらかな三角形である。46は外面タテ方向の刷毛目の本数は27－22/2㎝である。また，突帯の断面は頂部の稜線の明瞭な三角形である。

48・50は粘土紐の巻き上げは左方向である。48は外面タテ方向の刷毛目の本数は14/2㎝である。50は突帯の断面は頂部のなだらかな三角形である。

49・51・53・54・57は粘土紐の巻き上げは左方向である。49は外面タテ方向の刷毛目の本数は21/2㎝で，突帯の断面は頂部の高い三角形である。51は突帯の断面は頂部の丸味のある三角形である。53は外面タテ方向の刷毛目の本数は25/2㎝で，突帯の断面は三角形である。54は突帯の断面は小振りな三角形である。57は外面タテ方向の刷毛目の本数は15－10/2㎝である。

52は突帯の断面は頂部が低く裾の広い三角形である。

55・56・59は粘土紐の巻き上げは右方向である，55は外面タテ方向の刷毛目の本数は21/2㎝で，突帯の断面は頂部の高い小振りな三角形である。56は外面タテ方向の刷毛目の本数は13－11/2㎝である。59は外面タテ方向の刷毛目の本数は14－12/2㎝である。

58は外面タテ方向の刷毛目の本数は12－9/2㎝である。

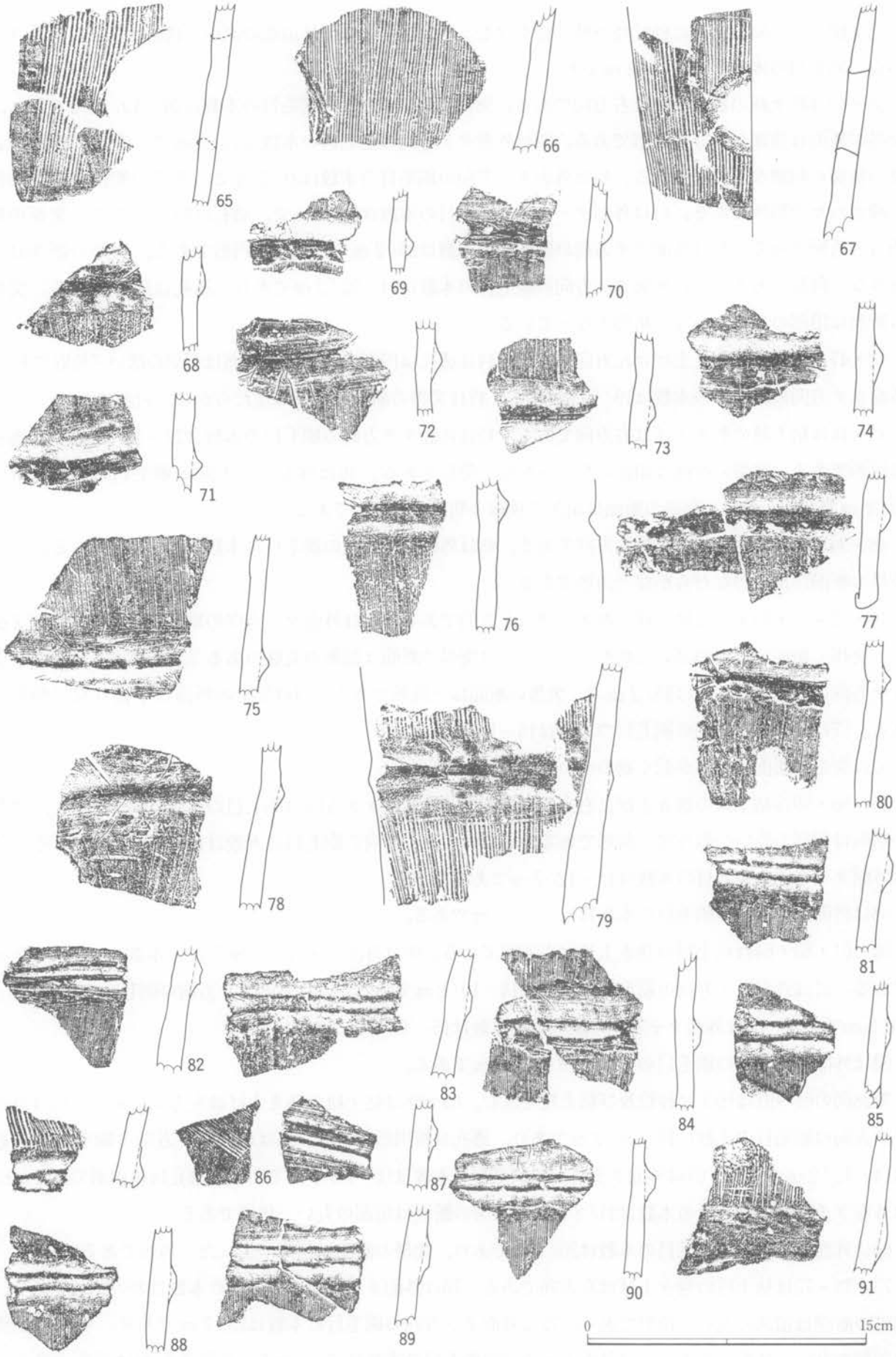
60・61・63・64は粘土紐の巻き上げは左方向である。60は外面タテ方向の刷毛目の本数は14－9/2㎝である。61は外面タテ方向の刷毛目の本数は14－10/2㎝である。63は外面タテ方向の刷毛目の本数は16－10/2㎝である。64は外面タテ方向の刷毛目の本数は15－9/2㎝である。

62は外面タテ方向の刷毛目の本数は19－14/2㎝である。

第26図の65～91は胎土に砂粒及び粘土粒を含む。65～68は粘土紐の巻き上げは左方向である。65は外面タテ方向の刷毛目の本数は11－9/2㎝であり，透孔は楕円形である。66は外面タテ方向の刷毛目の本数は14－12/2㎝である。67は外面タテ方向の刷毛目の本数は16－10/2㎝であり，透孔は楕円形である。68は外面タテ方向の刷毛目の本数は21/2㎝で，突帯の断面は頂部の丸い三角形である。

69は外面タテ方向の刷毛目の本数は20/2㎝であり，突帯の断面は頂部の尖った三角形である。

70・72・73は粘土紐の巻き上げは左方向である。70は外面タテ方向の刷毛目の本数は25/2㎝であり，突帯の断面は頂部の丸い三角形である。72は外面タテ方向の刷毛目の本数は23/2㎝であり，突帯の断面は頂部の丸い三角形である。73は外面タテ方向の刷毛目の本数は23/2㎝で，突帯の断面は頂部の低く丸


65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
0
15cm

第26図　円筒埴輪（11）

味のある三角形である。

71は突帯の断面は頂部の高く稜線の明瞭な三角形である。74は粘土紐の巻き上げは右方向で，突帯の断面は裾の広い三角形である。

75・76は粘土紐の巻き上げは左方向である。75は外面タテ方向の刷毛目の本数は26－22/2㎝で，突帯の断面は両面の尖った三角形である。76は外面タテ方向の刷毛目の本数は22/2㎝であり，突帯の断面は頂部の高い三角形である。

77は粘土紐の巻き上げは右方向で，突帯の断面は頂部の丸い三角形である。外面タテ方向の刷毛目の本数は20/2㎝である。

78・79は粘土紐の巻き上げは左方向である。78は突帯の断面は頂部の低い三角形である。79は外面タテ方向の刷毛目の本数は12/2㎝であり，突帯の断面は頂部の低い丸味の強い三角形である。

80は外面タテ方向の刷毛目の本数は22/2㎝で，突帯の断面は頂部の高い小振りの三角形である。81は外面タテ方向の刷毛目の本数は22/2㎝で，突帯の断面は頂部の広い台形状である。

82は粘土紐の巻き上げは左方向で，外面タテ方向の刷毛目の本数は25/2㎝である。また，突帯の断面は頂部の狭い台形状である。83は外面タテ方向の刷毛目の本数は24/2㎝であり，突帯の断面は頂部の低い幅の広い台形状である。

84・85・87は粘土紐の巻き上げは左方向である。84は外面タテ方向の刷毛目の本数は22－20/2㎝で，突帯の断面は頂部の傾斜した台形状である。85は外面タテ方向の刷毛目の本数は25－21/2㎝で，突帯の断面は頂部の低い台形状である。87は外面タテ方向の刷毛目の本数は24/2㎝で，突帯の断面は頂部の低い台形状である。

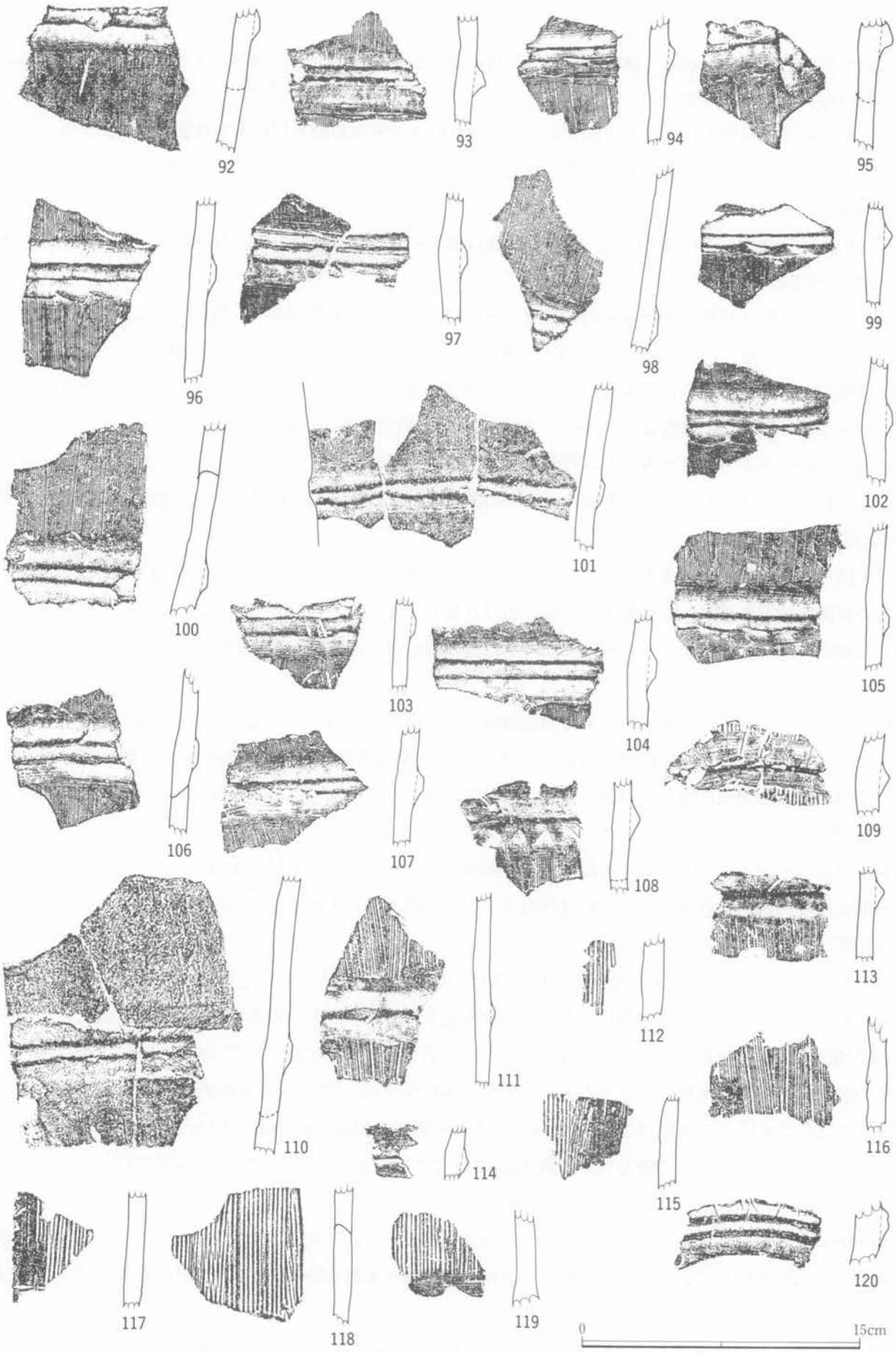
86は内面にナナメ方向の刷毛目のある円筒埴輪の第4段で，外面タテ方向の刷毛目の本数はやや少ない12/2㎝であり，突帯の断面は頂部の丸い三角形である。88は外面タテ方向の刷毛目の本数は25－22/2㎝で，突帯の断面は頂部の狭い台形状である。89は外面タテ方向の刷毛目の本数は23－20/2㎝で，突帯の断面は頂部の低い幅の広い台形状である。

90・91は粘土紐の巻き上げは左方向である。90は外面タテ方向の刷毛目の本数は21/2㎝であり，突帯の断面は頂部の高い台形状である。91は外面タテ方向の刷毛目の本数はやや少ない15/2㎝で，突帯の断面は頂部の緩やかな台形状である。

第27図の92～111は胎土に砂粒及び粘土粒を含む。92は外面タテ方向の刷毛目の本数は26－23/2㎝で，突帯の断面は頂部の傾斜した台形状である。93は外面タテ方向の刷毛目の本数は26－22/2㎝で，突帯の断面は頂部の高い三角形である。94は外面タテ方向の刷毛目の本数は24－20/2㎝で，突帯の断面は頂部の高い台形状である。95は外面タテ方向の刷毛目の本数は19/2㎝で，突帯の断面は台形状である。96は外面タテ方向の刷毛目の本数は30－20/2㎝で，突帯の断面は頂部の低く幅の広い台形状である。97は焼成は不良で，外面タテ方向の刷毛目の本数は22/2㎝である。また，突帯の断面は頂部の低い台形状である。

98・99は粘土紐の巻き上げは右方向である。98は外面タテ方向の刷毛目の本数は22/2㎝で，突帯の断面は頂部の低い台形状である。99は外面タテ方向の刷毛目の本数は25/2㎝で，突帯の断面は三角形である。

100・101は粘土紐の巻き上げは左方向である。100は外面タテ方向の刷毛目の本数は22/2㎝で，透孔は


92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
0
15cm

第27図　円筒埴輪（12）

楕円形である。突帯の断面は頂部の低い台形状である。101は外面タテ方向の刷毛目の本数は22－19/2㎝で，突帯の断面は頂部の低く幅の広い台形状である。

102は外面タテ方向の刷毛目の本数は22/2㎝で，突帯の断面は頂部の広い台形状である。103は外面タテ方向の刷毛目の本数は22/2㎝で，突帯の断面は頂部の低い台形状である。

104・105は粘土紐の巻き上げは右方向である。104は外面タテ方向の刷毛目の本数は21/2㎝で，突帯の断面は台形状である。105は外面タテ方向の刷毛目の本数は25－22/2㎝で，突帯の断面は頂部の狭い台形状である。

106は外面タテ方向の刷毛目の本数は22/2㎝で，突帯の断面は頂部の低く幅の広い台形状である。107は外面タテ方向の刷毛目の本数は23－20/2㎝で，突帯の断面は頂部の狭い台形状である。

108・110は粘土紐の巻き上げは左方向である。108は外面タテ方向の刷毛目の本数は18/2㎝で，突帯の断面は頂部の尖った三角形である。110は内面にヨコ方向の刷毛目のある円筒埴輪の第4段で，突帯の断面は頂部の低く幅の広い台形状である。

109は外面タテ方向の刷毛目の本数はきわめて少ない10/2㎝で，突帯の断面は頂部の稜線の明瞭な三角形である。111は外面タテ方向の刷毛目の本数は18－16/2㎝で，突帯の断面は頂部の低い三角形である。

112・115は胎土に砂粒を含む。115は外面タテ方向の刷毛目の本数は極めて少ない11/2㎝である。

113は外面タテ方向の刷毛目の本数は18－15/2㎝で，突帯の断面は頂部の稜線の明瞭な三角形である。114は突帯の断面は頂部の低い稜線の明瞭な三角形である。

116・118は粘土紐の巻き上げは左方向である。116は外面タテ方向の刷毛目の本数は15/2㎝である。118は外面タテ方向の刷毛目の本数は13－9/2㎝である。

117は胎土に砂粒を含む。外面タテ方向の刷毛目の本数は極めて少ない9/2㎝である。119は外面タテ方向の刷毛目の本数は極めて少ない9/2㎝である。120は突帯の断面は頂部の窪んだ台形状である。

第28図121・123～134は胎土に砂粒及び粘土粒を含む。

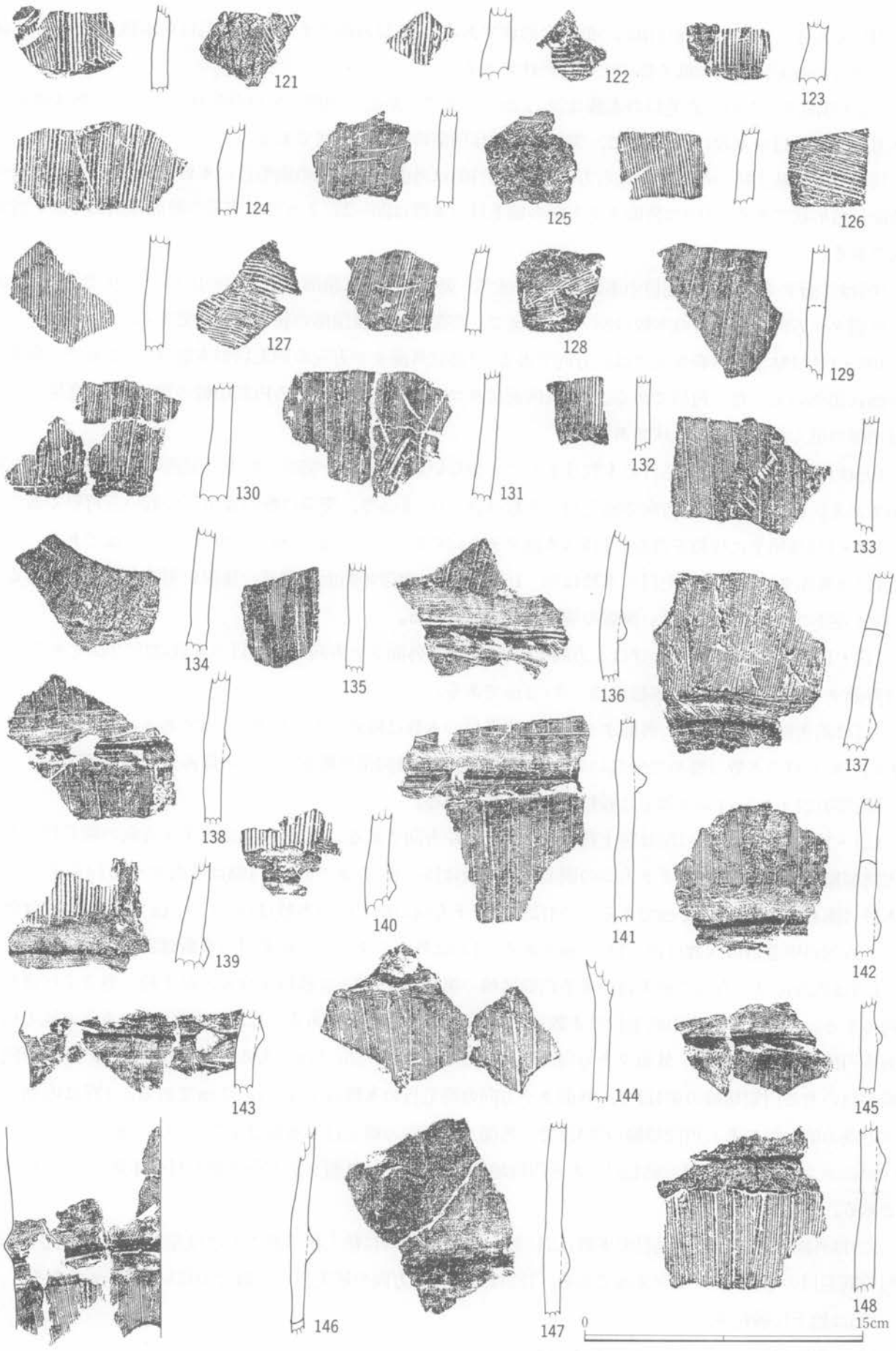
121・123・124・130・133は粘土紐の巻き上げは左方向である。121は内面にナナメ方向の刷毛目のある円筒埴輪の第4段で，外面タテ方向の刷毛目の本数は15－9/2㎝である。123は外面タテ方向の刷毛目の本数は極めて少ない12/2㎝である。124は外面タテ方向の刷毛目の本数は14－11/2㎝である。130は外面タテ方向の刷毛目の本数は16－14/2㎝である。133は外面タテ方向の刷毛目の本数は22/2㎝である。

122は内面にヨコ方向の刷毛目のある円筒埴輪の第4段で，胎土に砂粒を含み，粘土紐の巻き上げは左方向である。外面タテ方向の刷毛目の本数は非常に少ない8/2㎝である。125は内面にヨコ方向の刷毛目のある円筒埴輪の第4段で，外面タテ方向の刷毛目の本数は27－25/2㎝である。126は内面にナナメ方向の刷毛目のある円筒埴輪の第4段で，外面タテ方向の刷毛目の本数は少ない14/2㎝である。127は内面にヨコ方向の刷毛目のある円筒埴輪の第4段で，外面タテ方向の刷毛目の本数は少ない16/2㎝である。128は内面にヨコとナナメ方向の刷毛目のある円筒埴輪の第4段で，外面タテ方向の刷毛目の本数は20－18/2㎝である。

129は外面タテ方向の刷毛目の本数は24/2㎝である。131は粘土紐の巻き上げは左方向で，外面タテ方向の刷毛目の本数は25－22/2㎝である。132は外面タテ方向の刷毛目の本数は少ない16/2㎝である。

135は胎土に砂粒を含む。

136～148は胎土に砂粒及び粘土粒を含む。


121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
0
15cm

第28図　円筒埴輪（13）

136・138・146・148は粘土紐の巻き上げは右方向である。136は外面タテ方向の刷毛目の本数は22/2㎝で，突帯の断面は下部の斜辺が丸味のある三角形である。138は外面タテ方向の刷毛目の本数は26－23/2㎝であり，突帯の断面は頂部の稜線の明瞭な三角形である。146は外面タテ方向の刷毛目の本数は27－22/2㎝であり，突帯の断面は小振りな三角形である。148は外面タテ方向の刷毛目の本数は少ない17/2㎝で，突帯の断面は裾の幅の広い三角形である。

137・139・141～143・147は粘土紐の巻き上げは左方向である。137は外面タテ方向の刷毛目の本数は20－18/2㎝で，突帯の断面は頂部の低い三角形である。139は外面タテ方向の刷毛目の本数は非常に少ない9/2㎝で，突帯の断面は頂部の丸い三角形である。141は外面タテ方向の刷毛目の本数は24/2㎝で，突帯の断面は頂部の高い稜線の明瞭な三角形である。142は外面タテ方向の刷毛目の本数は24/2㎝で，突帯の断面は頂部の傾斜した台形状である。143は外面タテ方向の刷毛目の本数は22/2㎝で，突帯の断面は頂部のなだらかな三角形である。147は外面タテ方向の刷毛目の本数は24/2㎝で，突帯の断面は頂部の低い裾の広い三角形である。

140は外面タテ方向の刷毛目の本数は非常に少ない9/2㎝で，突帯の断面は頂部の尖った三角形である。144は外面タテ方向の刷毛目の本数は23/2㎝で，突帯の断面は頂部の尖った三角形である。145は外面タテ方向の刷毛目の本数は26－24/2㎝であり，突帯の断面は頂部の低い台形状である。

第29図の149～151は胎土に砂粒及び粘土粒を含み，粘土紐の巻き上げは左方向である。149は外面タテ方向の刷毛目の本数は21－19/2㎝であり，突帯の断面は頂部の丸い三角形である。150は内面にナナメ方向の刷毛目のある円筒埴輪の第4段で，突帯の断面は頂部の低い三角形である。151は外面タテ方向の刷毛目の本数は10－7/2㎝で，突帯の断面は頂部の低い裾の広い三角形である。

152は内面にヨコとナナメ方向の刷毛目のある円筒埴輪の第4段で，胎土に砂粒を含み，外面タテ方向の刷毛目の本数は極めて少ない10/2㎝である。突帯の断面は頂部の低い三角形である。

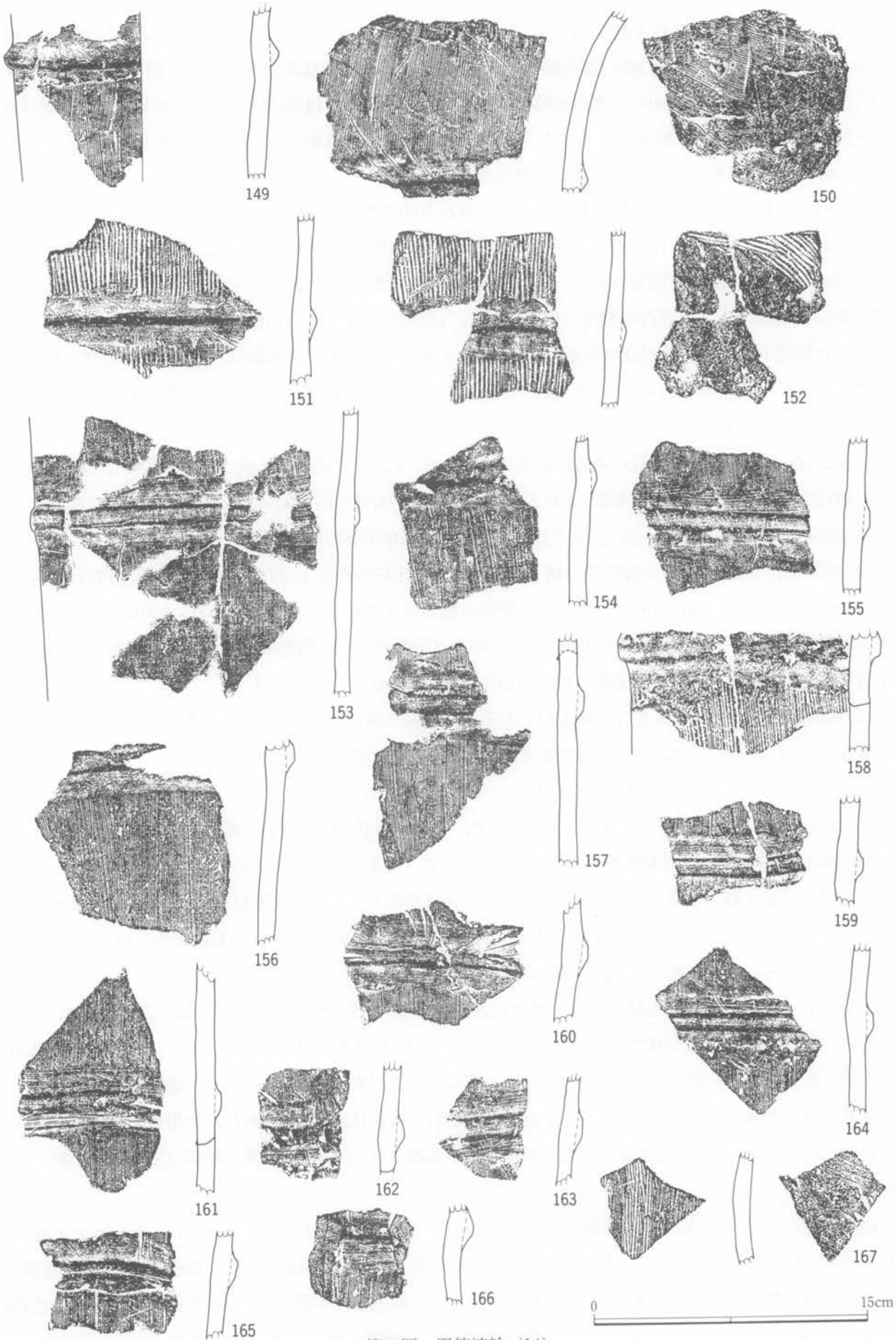
153～164は胎土に砂粒及び粘土粒を含む。

153は外面タテ方向の刷毛目の本数は22/2㎝で，突帯の断面は頂部の低く幅の広い台形状である。154は外面タテ方向の刷毛目の本数がやや少ない16/2㎝で，突帯の断面は頂部の丸い三角形である。

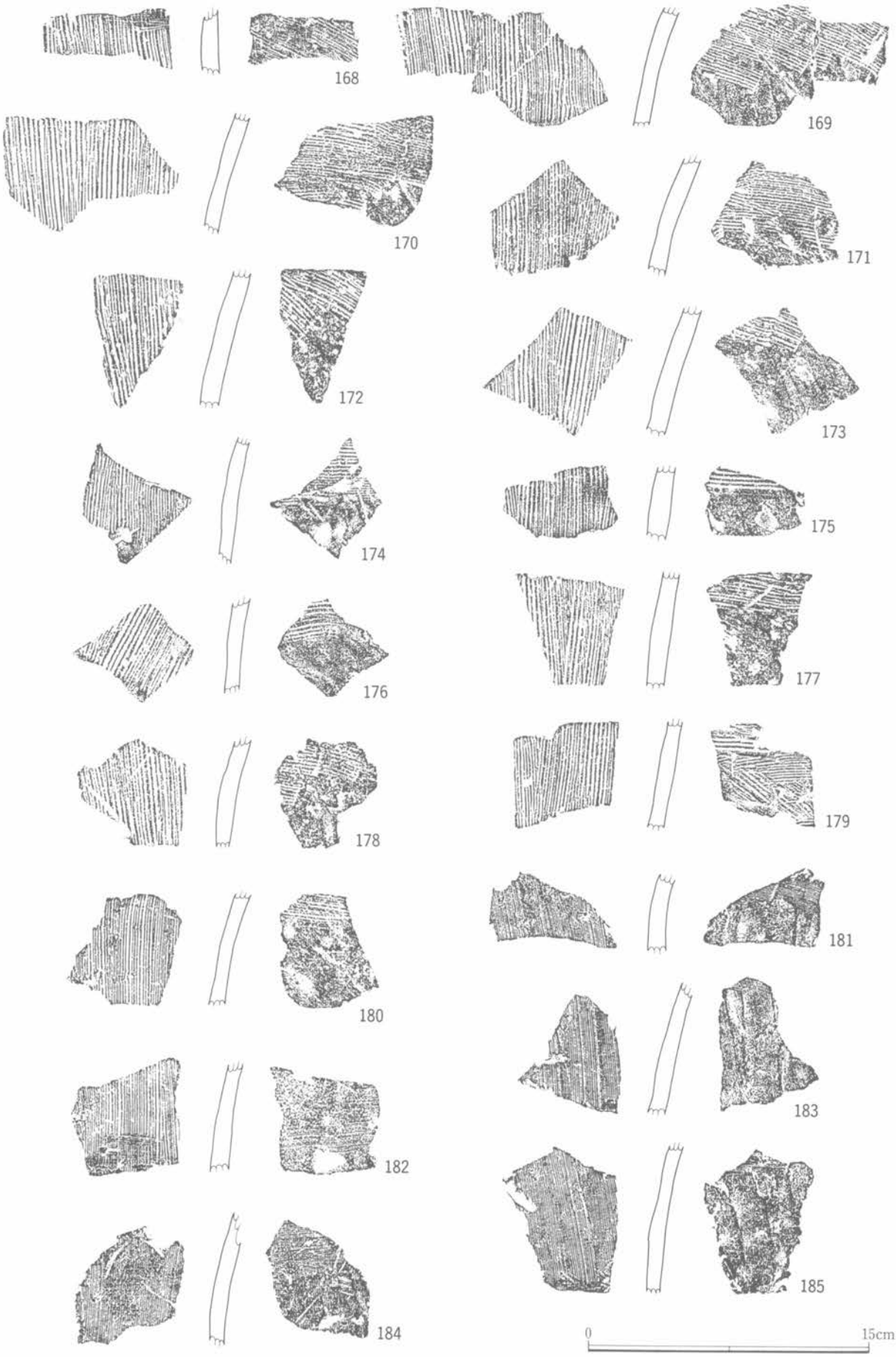
155・158は粘土紐の巻き上げは右方向である。155は外面タテ方向の刷毛目の本数は24－21/2㎝で，突帯の断面は頂部の低く幅の広い台形状である。158は外面タテ方向の刷毛目の本数は15－12/2㎝で，透孔は楕円形である。突帯の断面は頂部の広い台形状である。

156・157・161～163は粘土紐の巻き上げは左方向である。156は外面タテ方向の刷毛目の本数は21/2㎝であり，突帯の断面は台形状である。157は外面タテ方向の刷毛目の本数は22/2㎝で，突帯の断面は頂部の平坦で幅の広い台形状である。161は外面タテ方向の刷毛目の本数は24/2㎝で，透孔は円形である。突帯の断面は台形状である。162は外面タテ方向の刷毛目の本数は22/2㎝であり，突帯の断面は頂部のなだらかな三角形である。163は外面タテ方向の刷毛目の本数は21/2㎝で，突帯の断面は頂部の低い幅の広い台形状である。

159は外面タテ方向の刷毛目の本数は22－20/2㎝で，突帯の断面は台形である。160は外面タテ方向の刷毛目の本数は24－21/2㎝で，突帯の断面は台形状である。164は外面タテ方向の刷毛目の本数は23/2㎝で，突帯の断面は台形状である。165は外面タテ方向の刷毛目の本数は20/2㎝で，突帯の断面は台形状である。166は外面タテ方向の刷毛目の本数は22/2㎝で，突帯の断面は台形状である。167は内面にヨコ


149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
0
15cm

第29図　円筒埴輪（14）


168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
0
15cm

第30図　円筒埴輪（15）

方向の刷毛目のある円筒埴輪の第4段で，外面タテ方向の刷毛目の本数は18/2㎝である。

第30図168～185は胎土に砂粒及び粘土粒を含む。168は内面にナナメ方向の刷毛目のある円筒埴輪の第4段で，外面タテ方向の刷毛目の本数は12－9/2㎝である。

169～171は内面にヨコ方向の刷毛目のある円筒埴輪の第4段である。169は外面タテ方向の刷毛目の本数は12－10/2㎝である。170は外面タテ方向の刷毛目の本数は12－8/2㎝である。171は外面タテ方向の刷毛目の本数は
13/2㎝である。

172は内面にナナメ方向の刷毛目のある円筒埴輪の第4段で，外面タテ方向の刷毛目の本数は11－10/2㎝である。

173～175は内面にヨコ方向の刷毛目のある円筒埴輪の第4段である。173は外面タテ方向の刷毛目の本数は13－9/2㎝である。174は外面タテ方向の刷毛目の本数は13/2㎝である。175は外面タテ方向の刷毛目の本数は12－11/2㎝である。

176は内面にナナメ方向の刷毛目のある円筒埴輪の第4段で，外面タテ方向の刷毛目の本数は10/2㎝である。177は内面にヨコ方向の刷毛目のある円筒埴輪の第4段で，外面タテ方向の刷毛目の本数は11－10/2㎝である。

178は内面にナナメ方向の刷毛目のある円筒埴輪の第4段で，外面タテ方向の刷毛目の本数は13－9/2㎝である。179は内面にヨコとナナメ方向の刷毛目のある円筒埴輪の第4段で，外面タテ方向の刷毛目の本数は13－10/2㎝である。

180～184は内面にヨコ方向の刷毛目のある円筒埴輪の第4段である。180は外面タテ方向の刷毛目の本数は少ない14/2㎝である。181は外面タテ方向の刷毛目の本数は22/2㎝である。182は外面タテ方向の刷毛目の本数は16－14/2㎝である。183は外面タテ方向の刷毛目の本数は21/2㎝である。184は外面タテ方向の刷毛目の本数は22－21/2㎝である。

185は内面にヨコとナナメ方向の刷毛目のある円筒埴輪の第4段で，外面タテ方向の刷毛目の本数は20/2㎝である。

第31図の186～188は内面にヨコ方向の刷毛目のある円筒埴輪の第4段である。

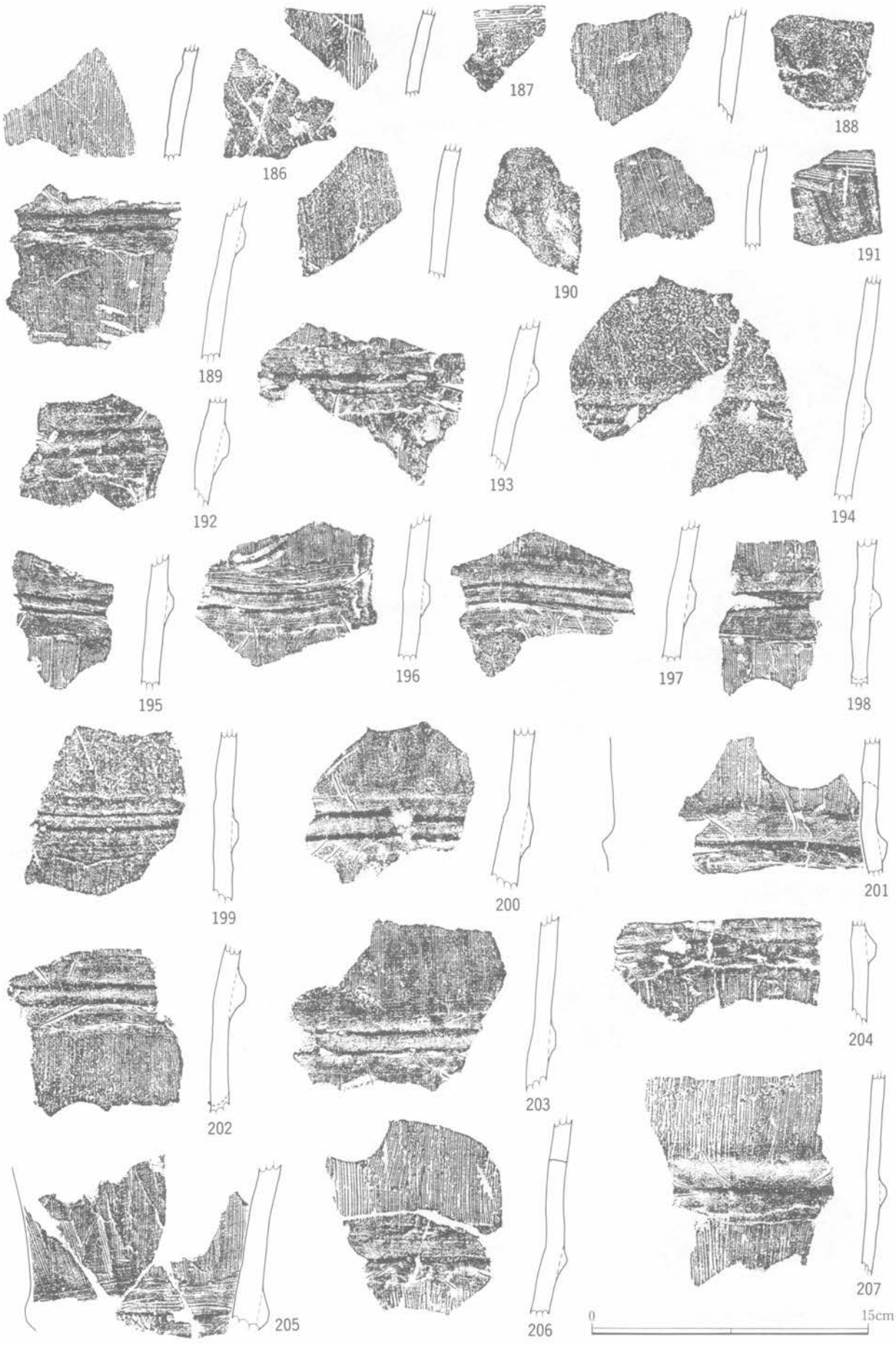
186は胎土に砂粒を含み，外面タテ方向の刷毛目の本数は18/2㎝である。

187～207は胎土に砂粒及び粘土粒を含む。

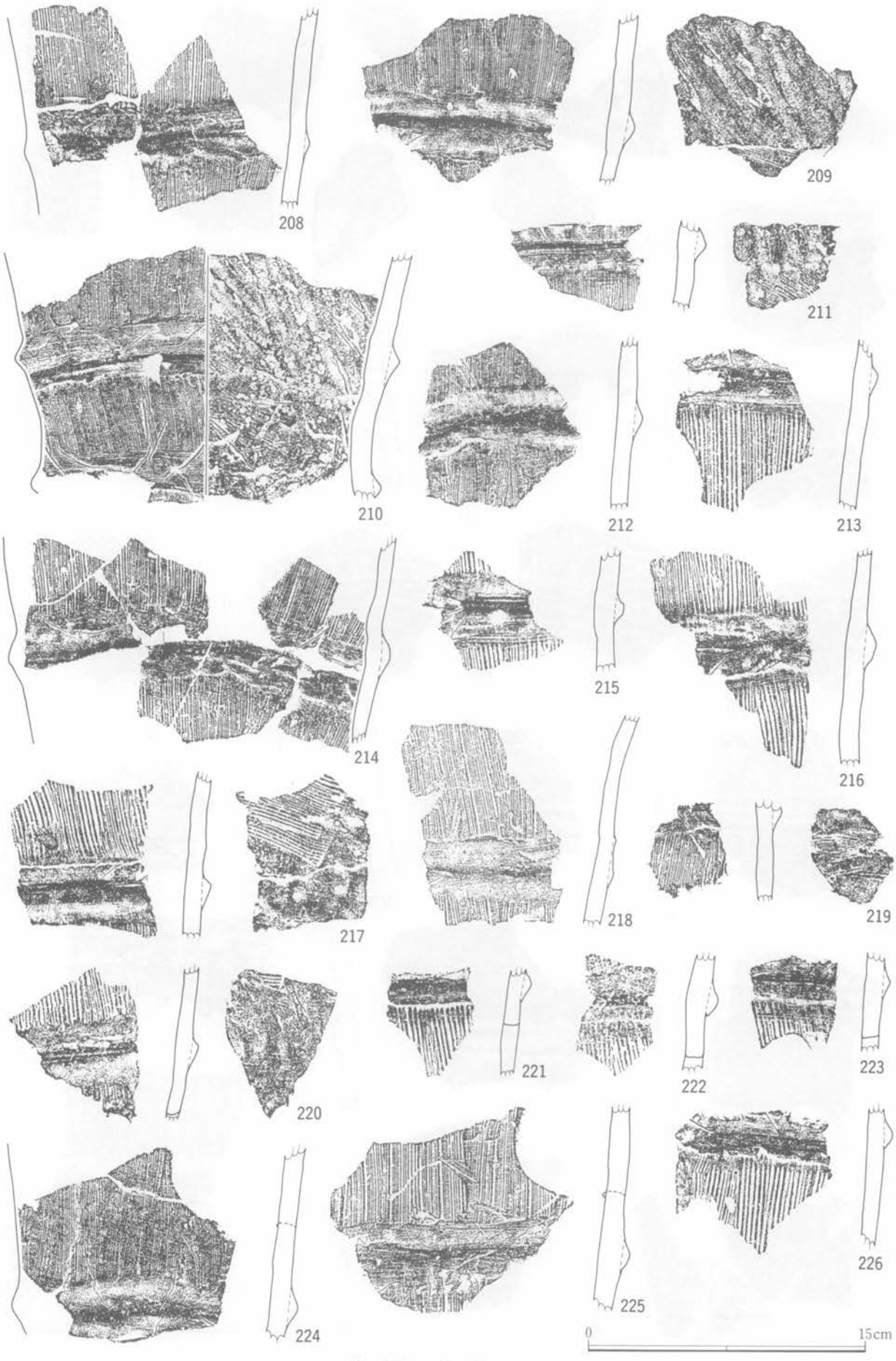
187・188・193・194・196～198・201・203・205は粘土紐の巻き上げは左方向である。187は外面タテ方向の刷毛目の本数は19－14/2㎝である。188は外面タテ方向の刷毛目の本数は21/2㎝である。

193は外面タテ方向の刷毛目の本数は20/2㎝である。194は外面タテ方向の刷毛目の本数は19/2㎝である。

196は外面タテ方向の刷毛目の本数は22/2㎝で，突帯の断面は台形状である。197は外面タテ方向の刷毛目の本数は21/2㎝で，突帯の断面は頂部の狭い台形状である。198は外面タテ方向の刷毛目の本数は20/2㎝で，透孔は楕円形である。また，突帯の断面は頂部の傾斜した台形状である。201は外面タテ方向の刷毛目の本数は21－20/2㎝で，突帯の断面は頂部の尖った三角形である。203は外面タテ方向の刷毛目の本数は24/2㎝で，突帯の断面は頂部の低い台形状である。205は外面タテ方向の刷毛目の本数は22/2㎝で，突帯の断面は頂部の緩やかな三角形である。


186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
0
15cm

第31図　円筒埴輪（16）


208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
0
15cm

第32図　円筒埴輪（17）

189・190・195・200・202・206・207は粘土紐の巻き上げは右方向である。

189は外面タテ方向の刷毛目の本数は21/2㎝で，突帯の断面は台形状である。190は内面にヨコ方向の刷毛目のある円筒埴輪の第4段で，外面タテ方向の刷毛目の本数は21/2㎝である。195は外面タテ方向の刷毛目の本数は21/2㎝で，突帯の断面は頂部の丸い三角形である。200は外面タテ方向の刷毛目の本数は21/2㎝で，突帯の断面は頂部の狭い台形状である。202は外面タテ方向の刷毛目の本数は22－21/2㎝で，突帯の断面は頂部の高い台形状である。206は外面タテ方向の刷毛目の本数は18－14/2㎝で，突帯の断面は頂部の低い三角形である。

207は外面タテ方向の刷毛目の本数は19/2㎝で，突帯の断面は頂部の丸い三角形である。

191は内面にヨコ方向の刷毛目のある円筒埴輪の第4段で，外面タテ方向の刷毛目の本数は21－19/2㎝である。192は外面タテ方向の刷毛目の本数は19/2㎝で，突帯の断面は頂部の広い台形状である。199は外面タテ方向の刷毛目の本数は23－21/2㎝で，突帯の断面は台形状である。204は外面タテ方向の刷毛目の本数は21/2㎝である。

第32図の208～226は胎土に砂粒及び粘土粒を含む。

208は外面タテ方向の刷毛目の本数は18－17/2㎝で，突帯の断面は三角形である。

209・210・212・216・218・221・226は粘土紐の巻き上げは左方向である。

209・210は内面にナナメ方向の刷毛目のある円筒埴輪の第4段で，209は外面タテ方向の刷毛目の本数は18－16/2㎝で，突帯の断面は頂部の緩やかな三角形である。210は外面タテ方向の刷毛目の本数は28－24/2㎝で，突帯の断面は頂部の稜線の明瞭な三角形である。

212は外面タテ方向の刷毛目の本数は18－17/2㎝で，突帯の断面は三角形である。216は外面タテ方向の刷毛目の本数は14－8/2㎝で，突帯の断面は三角形である。218は外面タテ方向の刷毛目の本数は15－14/2㎝で，突帯の断面は頂部の緩やかに窪んだ台形状である。221は外面タテ方向の刷毛目の本数は8/2㎝で，突帯の断面は頂部の稜線の明瞭な三角形である。226は外面タテ方向の刷毛目の本数は10－8/2㎝で，突帯の断面は頂部の丸い三角形である。

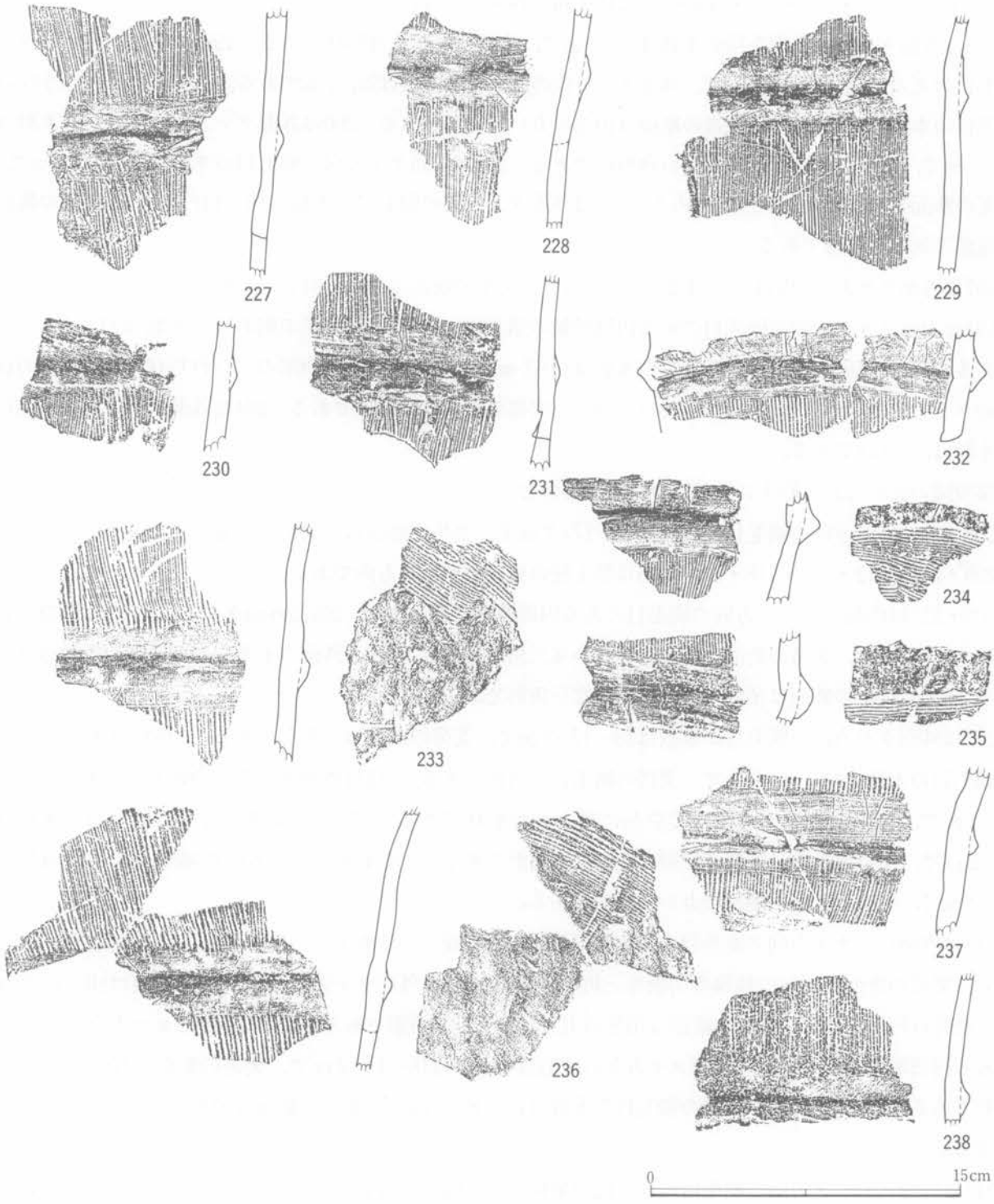
211は内面にナナメ方向の刷毛目のある円筒埴輪の第4段で，外面タテ方向の刷毛目の本数は18－15/2㎝で，突帯の断面は頂部の稜線の明瞭な三角形である。213は外面タテ方向の刷毛目の本数は10－9/2㎝で，透孔は円形である。突帯の断面は頂部の丸い小振りの三角形である。214は内面にヨコ方向の刷毛目のある円筒埴輪の第4段で，外面タテ方向の刷毛目の本数は18－14/2㎝で，突帯の断面は頂部の丸い三角形である。215は外面タテ方向の刷毛目の本数は10－8/2㎝で，突帯の断面は頂部の丸味を帯びた台形状である。

217は内面にナナメ方向の刷毛目のある円筒埴輪の第4段で，外面タテ方向の刷毛目の本数は11－8/2㎝で，突帯の断面は頂部の稜線の明瞭な三角形である。

219は内面にヨコとナナメ方向の刷毛目のある円筒埴輪の第4段で，外面タテ方向の刷毛目の本数は18－16/2㎝である。

220は内面にナナメ方向の刷毛目のある円筒埴輪の第4段で，外面タテ方向の刷毛目の本数は12－10/2㎝で，突帯の断面は頂部の稜線の明瞭な三角形である。

222は外面タテ方向の刷毛目の本数は10/2㎝で，突帯の断面は三角形である。223は外面タテ方向の刷毛目の本数は非常に少ない9/2㎝で，突帯の断面は頂部の稜線の明瞭な三角形である。224は外面タテ方



第33図　円筒埴輪（18）

向の刷毛目の本数は20/2㎝で，透孔は円形である。突帯の断面は裾の広い三角形である。225は外面タテ方向の刷毛目の本数は17－15/2㎝で，透孔は円形である。また，突帯の断面は頂部の緩やかな三角形である。

第33図の227～234は胎土に砂粒及び粘土粒を含む。

227～229・236・238は粘土紐の巻き上げは左方向である。227は外面タテ方向の刷毛目の本数は15－13/

2㎝で，突帯の断面は頂部の低い三角形である。228は外面タテ方向の刷毛目の本数は14/2㎝で，透孔は楕円形である。突帯の断面は頂部のなだらかな三角形である。229は外面タテ方向の刷毛目の本数は17/2㎝で，突帯の断面は頂部の大きく窪んだ台形状である。

236・238は内面にヨコ方向の刷毛目のある円筒埴輪の第4段で，236は外面タテ方向の刷毛目の本数は12－8/2㎝であり，透孔は楕円形である。突帯の断面は頂部の低い三角形である。238は外面タテ方向の刷毛目の本数は14/2㎝で，突帯の断面は三角形である。

230～233・237は粘土紐の巻き上げは右方向である。230は外面タテ方向の刷毛目の本数は16－12/2㎝で，突帯の断面は頂部の低い三角形である。231は外面タテ方向の刷毛目の本数は15－14/2㎝で，透孔は楕円形である。突帯の断面は頂部の低い三角形である。232は外面タテ方向の刷毛目の本数は12－10/2㎝で，突帯の断面は頂部の稜線の明瞭な三角形である。233は内面にナナメ方向の刷毛目のある円筒埴輪の第4段で，外面タテ方向の刷毛目の本数は11－8/2㎝であり，突帯の断面は頂部の傾斜した台形状である。237は外面タテ方向の刷毛目の本数は13－10/2㎝で，突帯の断面は三角形である。

234は外面タテ方向の刷毛目の本数は14－13/2㎝で，突帯の断面は頂部の高い稜線の明瞭な三角形である。

235は内面にヨコ方向の刷毛目のある円筒埴輪の第4段で，外面タテ方向の刷毛目の本数は13－12/2㎝であり，突帯の断面は頂部の丸味の強い三角形である。

第34図1～第37図47は円筒埴輪の第一段基部である。外面はタテ方向の刷毛目を基調とするが調整痕は重ねて施されており，表面の刷毛目は最下部まで達せず中途で終わるものが多い。

1～6は胎土に砂粒及び粘土粒を含む。

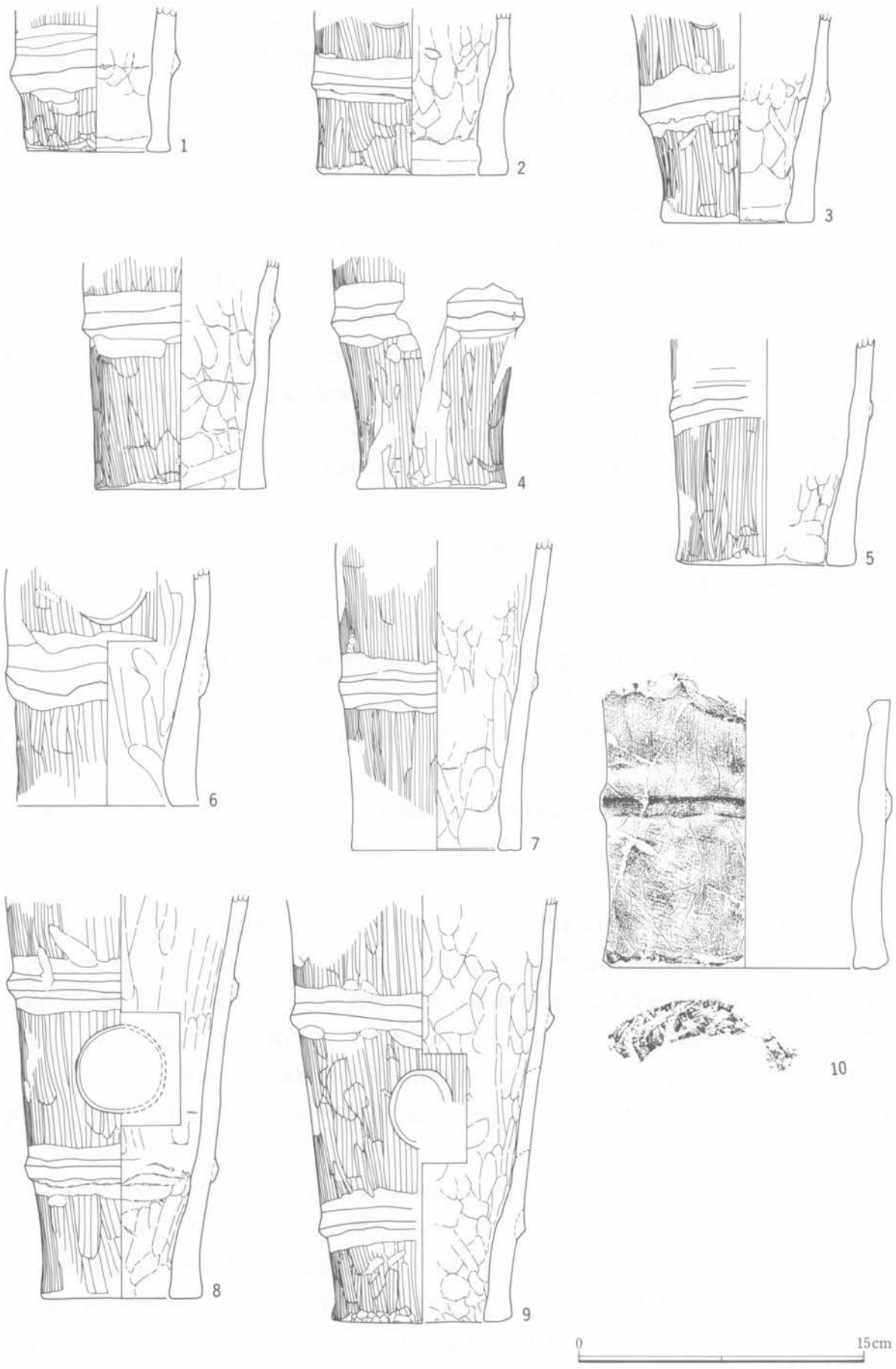
1は粘土紐の巻き上げは右方向である。外面タテ方向の刷毛目の本数は17/2㎝で，突帯の断面は頂部の稜線の明瞭な三角形である。

2は第一段・第二段ともに外面タテ方向の刷毛目の本数は17－16/2㎝である。また，突帯の断面は頂部の低い三角形である。

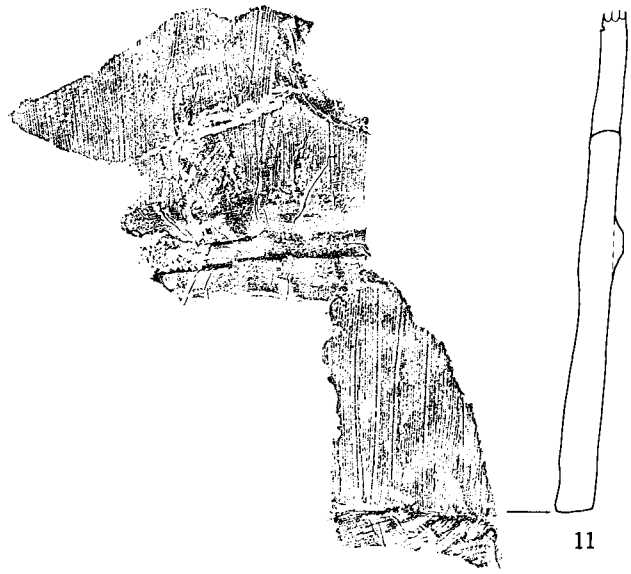
3～6は粘土紐の巻き上げは左方向である。3は第一段の外面タテ方向の刷毛目の本数は15－13/2㎝で，第二段の外面タテ方向の刷毛目の本数は17－12/2㎝である。突帯の断面は三角形で，底部径が強く絞り込まれている。4は第一段の外面タテ方向の刷毛目の本数は17－15/2㎝で，第二段の外面タテ方向の刷毛目の本数は15－14/2㎝である。突帯の断面は頂部の稜線の明瞭な三角形である。歪な円筒形であり底部における長径は9.0㎝，短径は7.8㎝である。5は外面タテ方向の刷毛目の本数は22－21/2㎝で，突帯の断面は頂部の低い台形状である。6は第一段の外面タテ方向の刷毛目の本数は12－10/2㎝で，第二段の外面タテ方向の刷毛目の本数は10－8/2㎝である。透孔は円形で，突帯の断面は頂部の低く幅の広い台形状である。突帯は歪に貼付されている。

7は胎土に砂粒を含み，透孔は楕円形である。第一段の外面タテ方向の刷毛目の本数は23/2㎝で，第二段の外面タテ方向の刷毛目の本数は23－21/2㎝である。突帯の断面は頂部の低い台形状である。

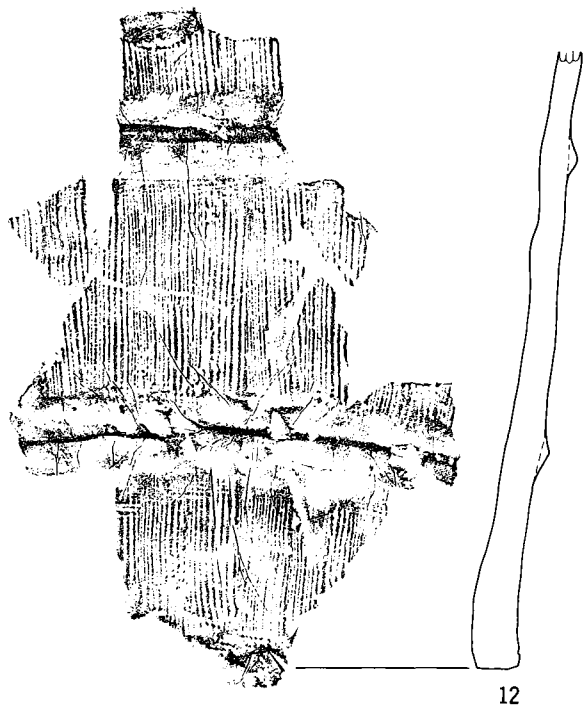
8～10は粘土紐の巻き上げは左方向である。8は第一段・第二段ともに外面タテ方向の刷毛目の本数は14－10/2㎝であり，突帯の断面は上段・下段ともに頂部の平坦な台形状である。底部径は強く絞り込まれている。9は第一段の外面タテ方向の刷毛目の本数は17－15/2㎝で，第二段の外面タテ方向の刷毛目の本数は16－14/2㎝である。また，透孔は楕円形で，突帯の断面は上段・下段ともに頂部の稜線の明瞭



第34図　円筒埴輪（19）



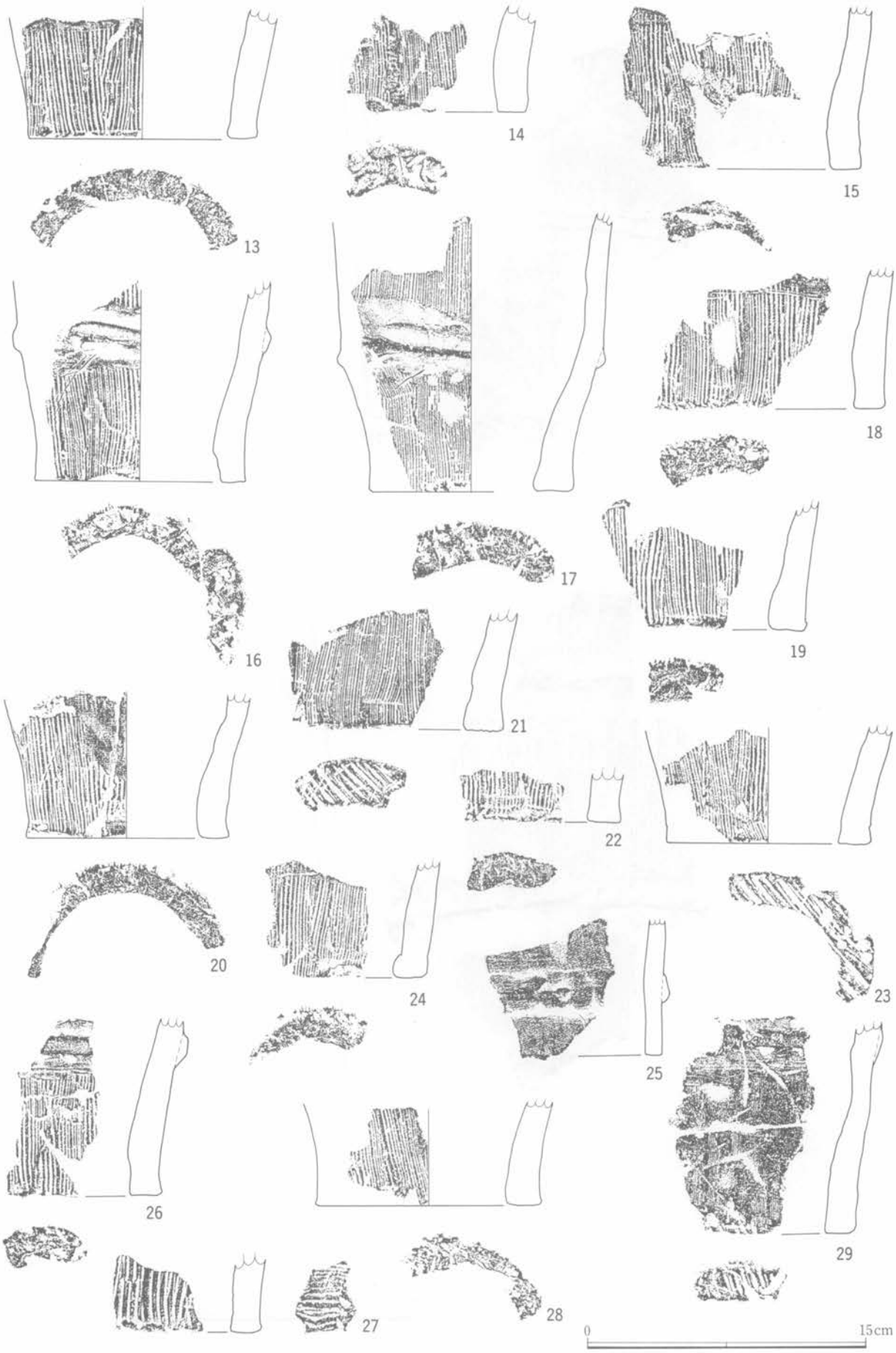
11



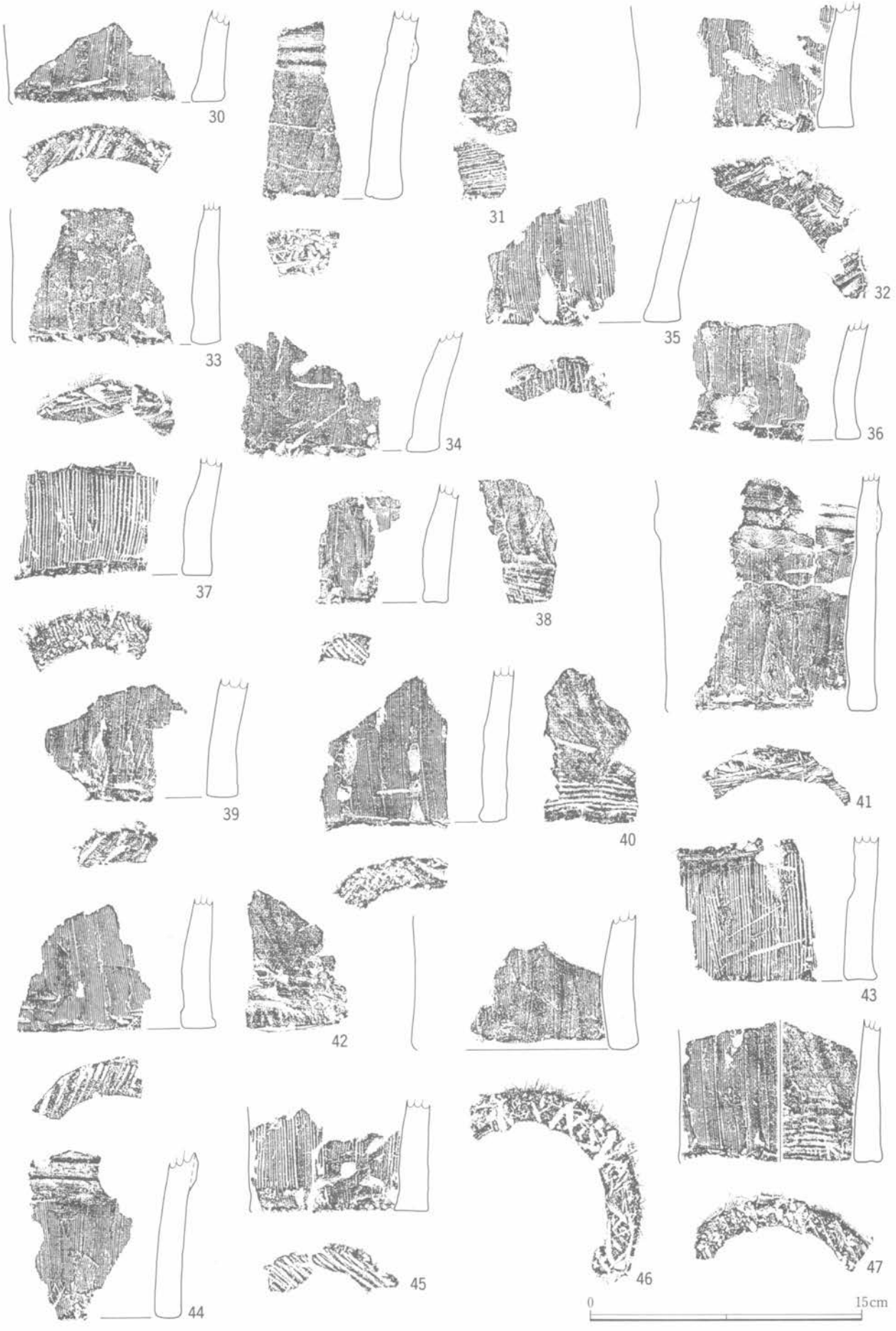
12

0 15cm

第35図　円筒埴輪（20）



第36図　円筒埴輪（21）



第37図　円筒埴輪（22）

第2表　円筒埴輪観察表（2－1）

挿図番号		図版番号		口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	刷毛目 外面	刷毛目 内面	内面調整	巻上げ	含有物	焼成	色調	透孔	突帯	刷毛目本数（第4段） 最大値	刷毛目本数（第4段） 最小値	刷毛目本数（第2・3段） 最大値	刷毛目本数（第2・3段） 最小値	刷毛目本数（第1段） 最大値	刷毛目本数（第1段） 最小値	内面 最大値	内面 最小値
16	1	9	1	18.5	11.7	43.8	タテ	ナナメ	ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	円	△	25	22	21	20	20	19	25	
16	2	9	2	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△	21	24					24	
16	3	9	3	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			19	17					19	
16	4	9	4	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		有	26	21					23	
16	5	9	5	－	－	－	タテ	ナナメ	ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸	12	10					8	
16	6	9	6	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			14	8					9	
17	7	10	7	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			23	22					22	
17	8	10	8	－	－	－	タテ	ヨコ，ナナメ	ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			23						26	
17	9	10	9	－	－	－	タテ	ナナメ	ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△	12	9	12	8			8	
17	10	10	10	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			18	15					19	
17	11	10	11	－	－	－	タテ	ナナメ	ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸	12	11	13	9			13	
17	12	10	12	－	－	－	タテ	ヨコ，ナナメ	ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸	13	10	11	8			7	
17	13	10	13	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	円	△	18	14	16	15			14	
17	14	10	14	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸	15	13					15	
17	15	10	15	－	－	－		ヨコ	ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△							23	
18	16	11	16	－	－	－	タテ	ヨコ，ナナメ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	楕円	△	21	20	23	21			18	
18	17	11	17	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	凸	21	20	22	20			23	
18	18	11	18	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	△	15	14	16	14			15	
18	19	11	19	－	－	－	タテ	ナナメ	ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	△	10	9	11	11			10	
18	20	11	20	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸	21	20	22	21			21	
18	21	11	21	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	暗茶褐色	有		13	10	12	10			8	
18	22	11	22	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			17	16						
19	23	12	23	－	－	－	タテ	ナナメ			砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			2.5	15	10				15	9
19	24	12	24	－	－	－	タテ	ヨコ			砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			19	15					15	
19	25	12	25	－	－	－	タテ	ヨコ			砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			13	9					12	
19	26	12	26	－	－	－	タテ	ヨコ			砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			19	15					15	
19	27	12	27	－	－	－	タテ	ナナメ			砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			15	9					13	11
19	28	12	28	－	－	－	タテ	ナナメ			砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			17						14	8
19	29	12	29	－	－	－	タテ	ヨコ			砂粒	良好	明茶褐色			15						16	
19	30	12	30	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			20	15					16	
19	31	12	31	－	－	－	タテ	ヨコ			砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			17						14	
19	32	12	32	－	－	－	タテ	ナナメ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			15	13					15	

第2表　円筒埴輪観察表（2－2）

挿図番号		図版番号		口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	刷毛目		内面調整	巻上げ	含有物	焼成	色調	透孔	突帯	刷毛目本数(第4段)		刷毛目本数(第2・3段)		刷毛目本数(第1段)		内面	
							外面	内面								最大値	最小値	最大値	最小値	最大値	最小値	最大値	最小値
19	33	12	33	－	－	－	タテ	ヨコ			砂粒	良好	明茶褐色			13						14	11
19	34	12	34	－	－	－	タテ	ナナメ			砂粒及び粘土粒		明茶褐色			18	11					9	
19	35	12	35	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ	左	砂粒及び粘土粒		明茶褐色			17	14					15	
19	36	12	36	－	－	－	タテ	ナナメ	ナデ		砂粒		明茶褐色			1.6	14					16	
19	37	12	37	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ		砂粒及び粘土粒		明茶褐色			15						10	
20	38	13	38	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ		砂粒		明茶褐色		凸	17	13					15	10
20	39	13	39	－	－	－	タテ	ヨコ			砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			15						15	9
20	40	13	40	－	－	－	タテ	ヨコ			砂粒	不良	明茶褐色			10						10	
20	41	13	41	－	－	－	タテ	ヨコ			砂粒及び粘土粒	不良	明茶褐色			10						10	
20	42	13	42	－	－	－	タテ	ヨコ			砂粒	不良	明茶褐色			9						9	
20	43	13	43	－	－	－	タテ	ヨコ			砂粒	不良	明茶褐色			18	9					11	
20	44	13	44	－	－	－	タテ	ナナメ			砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			13	9					14	9
20	45	13	45	－	－	－	タテ	ヨコ			砂粒及び粘土粒	不良	明茶褐色			9						10	
20	46	13	46	－	－	－	タテ	ナナメ			砂粒及び粘土粒	不良	明茶褐色			9						10	
20	47	13	47	－	－	－	タテ	ナナメ			砂粒及び粘土粒	不良	明茶褐色			9						13	
20	48	13	48	－	－	－	タテ	ナナメ			砂粒	不良	明茶褐色			12						10	
20	49	13	49	－	－	－	タテ	ナナメ			砂粒及び粘土粒	不良	明茶褐色			26	22					24	
20	50	13	50	－	－	－	タテ	ヨコ，ナナメ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			24	20					23	
20	51	13	51	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			22						24	
20	52	13	52	－	－	－	タテ	ナナメ			砂粒及び粘土粒	不良	明茶褐色			14						15	13
20	53	13	53	－	－	－	タテ	ナナメ			砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			27	24					20	
21	54	14	54	－	－	－	タテ	ナナメ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			29	22					23	
21	55	14	55	－	－	－	タテ	ヨコ			砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			19	15					15	
21	56	14	56	－	－	－	タテ	ナナメ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			25							
21	57	14	57	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			23						25	
21	58	14	58	－	－	－	タテ	ヨコ，ナナメ			砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			18						18	
21	59	14	59	－	－	－	タテ	ナナメ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			29	23					25	
21	60	14	60	－	－	－	タテ	ヨコ			砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			19						26	23
21	61	14	61	－	－	－	タテ	ナナメ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			25							
21	62	14	62	－	－	－	タテ	ナナメ	ナデ		砂粒及び粘土粒	不良	明茶褐色			29	22					27	
21	63	14	63	－	－	－	タテ	ヨコ，ナナメ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			22						24	
21	64	14	64	－	－	－	タテ	ヨコ			砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			17						18	

第2表　円筒埴輪観察表（2－3）

挿図番号		図版番号		口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	刷毛目 外面	刷毛目 内面	内面調整	巻上げ	含有物	焼成	色調	透孔	突帯	刷毛目本数(第4段) 最大値	刷毛目本数(第4段) 最小値	刷毛目本数(第2・3段) 最大値	刷毛目本数(第2・3段) 最小値	刷毛目本数(第1段) 最大値	刷毛目本数(第1段) 最小値	内面 最大値	内面 最小値
21	65	14	65	－	－	－	タテ	ナナメ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			24	22						
21	66	14	66	－	－	－	タテ	ヨコ			砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			26	22					24	
22	67	15	67	－	－	－	タテ	ナナメ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			30	21					23	
22	68	15	68	－	－	－	タテ	ヨコ			砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			18	14					16	
22	69	15	69	－	－	－	タテ	ナナメ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色										
22	70	15	70	－	－	－	タテ	ナナメ			砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			24							
22	71	15	71	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			16	14					18	
22	72	15	72	－	－	－	タテ	ナナメ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			18	15					18	
23	1	16	1	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	円	△			16	12				
23	2	16	2	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	円	△			23	20				
23	3	16	3	－	－	－	タテ	ナナメ	ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	円	凸+△			11	9				
23	4	16	4	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	△	24	22	26	23			22	
23	5	16	5	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	楕円	△			17	15				
23	6	16	6	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	楕円	凸			11	8				
23	7	16	7	－	－	－	タテ，ナナメ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	△								
24	8	17	8	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	円		19	15						
24	9	17	9	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	円	有	16	14						
24	10	17	10	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	円	有	23	21						
24	11	17	11	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒	良好	明茶褐色	円		23	16						
24	12	17	12	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有		17							
24	13	17	13	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	円		18							
24	14	17	14	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	円		12							
24	15	17	15	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	円		22							
24	16	17	16	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	円	有	28	21						
24	17	17	17	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	円		22							
24	18	17	18	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒	良好	明茶褐色	円	有	17	13						
24	19	17	19	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	円		18							
24	20	17	20	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			15							
24	21	17	21	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有		28	16						
24	22	17	22	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			22							
24	23	17	23	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			17	15						
24	24	17	24	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			19	16						

第2表　円筒埴輪観察表（2－4）

挿図番号		図版番号		口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	刷毛目 外面	刷毛目 内面	内面調整	巻上げ	含有物	焼成	色調	透孔	突帯	刷毛目本数(第4段) 最大値	刷毛目本数(第4段) 最小値	刷毛目本数(第2・3段) 最大値	刷毛目本数(第2・3段) 最小値	刷毛目本数(第1段) 最大値	刷毛目本数(第1段) 最小値	内面 最大値	内面 最小値
24	25	17	25	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			21	16						
24	26	17	26	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			15	13						
24	27	17	27	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			21	15						
24	28	17	28	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			21	16						
24	29	17	29	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		有	19	15						
24	30	17	30	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		有	15	10						
24	31	17	31	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	不良	明茶褐色			14							
24	32	17	32	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒	不良	明茶褐色			21							
24	33	17	33	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色			15	10						
24	34	17	34	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	不良	明茶褐色			11							
24	35	17	35	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	不良	明茶褐色			21							
24	36	17	36	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	不良	明茶褐色			18							
25	37	18	37	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△	30	22						
25	38	18	38	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸	24	19						
25	39	18	39	－	－	－	タテ	ナナメ	ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	△	22							
25	40	18	40	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	△	21							
25	41	18	41	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	円	△	26							
25	42	18	42	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	円	△	26							
25	43	18	43	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	円	△	24	22						
25	44	18	44	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	円	△	19							
25	45	18	45	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	円	△								
25	46	18	46	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△	22	19						
25	47	18	47	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△	27	22						
25	48	18	48	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		有	14							
25	49	18	49	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△	21							
25	50	18	50	－	－	－			ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸								
25	51	18	51	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸								
25	52	18	52	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△								
25	53	18	53	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			25					
25	54	18	54	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	△								
25	55	18	55	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			21					
25	56	18	56	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有				13	11				

第2表　円筒埴輪観察表（2－5）

挿図番号		図版番号		口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	刷毛目 外面	刷毛目 内面	内面調整	巻上げ	含有物	焼成	色調	透孔	突帯	刷毛目本数(第4段) 最大値	刷毛目本数(第4段) 最小値	刷毛目本数(第2・3段) 最大値	刷毛目本数(第2・3段) 最小値	刷毛目本数(第1段) 最大値	刷毛目本数(第1段) 最小値	内面 最大値	内面 最小値
25	57	18	57	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有				15	10				
25	58	18	58	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色					12	9				
25	59	18	59	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	有			14	12				
25	60	18	60	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		有			14	9				
25	61	18	61	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色					14	10				
25	62	18	62	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有				19	14				
25	63	18	63	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有				16	10				
25	64	18	64	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		有			15	9				
26	65	19	65	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	楕円				11	9				
26	66	19	66	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有				14	12				
26	67	19	67	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	楕円	有			16	10				
26	68	19	68	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			21					
26	69	19	69	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			20					
26	70	19	70	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			25					
26	71	19	71	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△								
26	72	19	72	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			23					
26	73	19	73	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			23					
26	74	19	74	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△								
26	75	19	75	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			26	22				
26	76	19	76	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			22					
26	77	19	77	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	△			20					
26	78	19	78	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	△								
26	79	19	79	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			12					
26	80	19	80	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			22					
26	81	19	81	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			22					
26	82	19	82	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			25					
26	83	19	83	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			24					
26	84	19	84	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			22	20				
26	85	19	85	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	凸			25	21				
26	86	19	86	－	－	－	タテ	ナナメ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			12				14	
26	87	19	87	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			24					
26	88	19	88	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			25	22				

第2表　円筒埴輪観察表（2－6）

挿図番号		図版番号		口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	刷毛目 外面	刷毛目 内面	内面調整	巻上げ	含有物	焼成	色調	透孔	突帯	刷毛目本数(第4段) 最大値	刷毛目本数(第4段) 最小値	刷毛目本数(第2・3段) 最大値	刷毛目本数(第2・3段) 最小値	刷毛目本数(第1段) 最大値	刷毛目本数(第1段) 最小値	内面 最大値	内面 最小値
26	89	19	89	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			23	20				
26	90	19	90	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			21					
26	91	19	91	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			15					
27	92	20	92	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	凸			26	23				
27	93	27	93	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			26	22				
27	94	27	94	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			24	20				
27	95	27	95	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	凸			19					
27	96	27	96	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	凸			30	20				
27	97	27	97	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			22					
27	98	27	98	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	凸			22					
27	99	27	99	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			25					
27	100	27	100	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	楕円	凸			22					
27	101	27	101	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	凸			22	19				
27	102	27	102	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	凸			22					
27	103	27	103	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			22					
27	104	27	104	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			21					
27	105	27	105	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	凸			25	22				
27	106	27	106	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	凸			22					
27	107	27	107	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			23	20				
27	108	27	108	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	△			18					
27	109	27	109	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			10					
27	110	27	110	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	凸								
27	111	27	111	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			18	16				
27	112	27	112	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒	良好	明茶褐色										
27	113	27	113	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			18	15				
27	114	27	114	－	－	－			ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△								
27	115	27	115	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒	良好	明茶褐色					11					
27	116	27	116	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色					15					
27	117	27	117	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒	良好	明茶褐色					9					
27	118	27	118	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒	良好	明茶褐色	有				13	9				
27	119	27	119	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		有			9					
27	120	27	120	－	－	－			ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸								

第2表　円筒埴輪観察表（2－7）

挿図番号		図版番号		口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	刷毛目 外面	刷毛目 内面	内面調整	巻上げ	含有物	焼成	色調	透孔	突帯	刷毛目本数(第4段) 最大値	刷毛目本数(第4段) 最小値	刷毛目本数(第2・3段) 最大値	刷毛目本数(第2・3段) 最小値	刷毛目本数(第1段) 最大値	刷毛目本数(第1段) 最小値	内面 最大値	内面 最小値
28	121	21	121	－	－	－	タテ，ナナメ	ナナメ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色					15	9				
28	122	21	122	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ	左	砂粒	良好	明茶褐色					8					
28	123	21	123	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色					12					
28	124	21	124	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有				14	11				
28	125	21	125	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色					27	25				
28	126	21	126	－	－	－	タテ	ナナメ			砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色					14				11	
28	127	21	127	－	－	－	タテ	ヨコ			砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色					16				15	9
28	128	21	128	－	－	－	タテ	ヨコ，ナナメ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色					20	18			19	
28	129	21	129	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	楕円				24					
28	130	21	130	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色					16	14				
28	131	21	131	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒	良好	明茶褐色	有				25	22				
28	132	21	132	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色					16					
28	133	21	133	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色					22					
28	134	21	134	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	有								
28	135	21	135	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒	良好	明茶褐色										
28	136	21	136	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			22					
28	137	21	137	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	楕円	△			20	18				
28	138	21	138	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			26	23				
28	139	21	139	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			9					
28	140	21	140	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			9					
28	141	21	141	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			24					
28	142	21	142	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	凸			24					
28	143	21	143	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			22					
28	144	21	144	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			23					
28	145	21	145	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			26	24				
28	146	21	146	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	凸			27	22				
28	147	21	147	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			24					
28	148	21	148	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			17					
29	149	22	149	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			21	19				
29	150	22	150	－	－	－	タテ	ナナメ	ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△							19	17
29	151	22	151	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	△			10	7				
29	152	22	152	－	－	－	タテ	ヨコ，ナナメ	ナデ	右	砂粒	良好	明茶褐色		△			10				9	

第2表　円筒埴輪観察表（2－8）

挿図番号		図版番号		口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	刷毛目 外面	刷毛目 内面	内面調整	巻上げ	含有物	焼成	色調	透孔	突帯	刷毛目本数(第4段) 最大値	刷毛目本数(第4段) 最小値	刷毛目本数(第2・3段) 最大値	刷毛目本数(第2・3段) 最小値	刷毛目本数(第1段) 最大値	刷毛目本数(第1段) 最小値	内面 最大値	内面 最小値
29	153	22	153	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			22					
29	154	22	154	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			16					
29	155	22	155	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			24	21				
29	156	22	156	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			21					
29	157	22	157	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	凸			22					
29	158	22	158	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	楕円	凸			15	12				
29	159	22	159	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			22	20				
29	160	22	160	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			24	21				
29	161	22	161	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	円	凸			24					
29	162	22	162	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			22					
29	163	22	163	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			21					
29	164	22	164	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			23					
29	165	22	165	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒	良好	明茶褐色		凸			20					
29	166	22	166	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			22					
29	167	22	167	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色									18	
30	168	23	168	－	－	－	タテ	ナナメ			砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色					12	9			13	
30	169	23	169	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色					12	10			12	
30	170	23	170	－	－	－	タテ	ヨコ			砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色					12	8			12	
30	171	23	171	－	－	－	タテ	ヨコ			砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色					13				14	
30	172	23	172	－	－	－	タテ	ナナメ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色					11	10			12	
30	173	23	173	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色					13	9				
30	174	23	174	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色					13				11	
30	175	23	175	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色					12	11				
30	176	23	176	－	－	－	タテ	ナナメ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色					10				8	
30	177	23	177	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色					11	10				
30	178	23	178	－	－	－	タテ	ナナメ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色					13	9			11	
30	179	23	179	－	－	－	タテ	ヨコ，ナナメ			砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色					13	10				
30	180	23	180	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色					14					
30	181	23	181	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色					22					
30	182	23	182	－	－	－	タテ	ヨコ			砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色					16	14			16	
30	183	23	183	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色					21					
30	184	23	184	－	－	－	タテ	ヨコ，ナナメ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色					22	21			25	

第2表　円筒埴輪観察表（2－9）

挿図番号		図版番号		口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	刷毛目 外面	刷毛目 内面	内面調整	巻上げ	含有物	焼成	色調	透孔	突帯	刷毛目本数(第4段) 最大値	刷毛目本数(第4段) 最小値	刷毛目本数(第2・3段) 最大値	刷毛目本数(第2・3段) 最小値	刷毛目本数(第1段) 最大値	刷毛目本数(第1段) 最小値	内面 最大値	内面 最小値
30	185	23	185	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色					20					
31	186	24	186	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ		砂粒	良好	明茶褐色					18					
31	187	24	187	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色					19	14				
31	188	24	188	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色					21					
31	189	24	189	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			21					
31	190	24	190	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色					21					
31	191	24	191	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色					21	19				
31	192	24	192	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			19					
31	193	24	193	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			20					
31	194	24	194	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	凸			19					
31	195	24	195	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	凸			21					
31	196	24	196	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			22					
31	197	24	197	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			21					
31	198	24	198	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	楕円	△			20					
31	199	24	199	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			23	21				
31	200	24	200	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	凸			21					
31	201	24	201	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	楕円	△			21	20				
31	202	24	202	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	凸			22	21				
31	203	24	203	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			24					
31	204	24	204	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			21					
31	205	24	205	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			22					
31	206	24	206	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	楕円	△			18	14				
31	207	24	207	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			9					
32	208	25	208	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	△			18	17				
32	209	25	209	－	－	－	タテ	ナナメ	ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			18	16				
32	210	25	210	－	－	－	タテ	ナナメ	ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			28	24				
32	211	25	211	－	－	－	タテ	ナナメ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			18	15				
32	212	25	212	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			18	17				
32	213	25	213	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	円形	△			10	9				
32	214	25	214	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			18	14				
32	215	25	215	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			10	8				
32	216	25	216	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	△			14	8				

第2表　円筒埴輪観察表（2－10）

挿図番号		図版番号		口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	刷毛目 外面	刷毛目 内面	内面調整	巻上げ	含有物	焼成	色調	透孔	突帯	刷毛目本数(第4段) 最大値	刷毛目本数(第4段) 最小値	刷毛目本数(第2・3段) 最大値	刷毛目本数(第2・3段) 最小値	刷毛目本数(第1段) 最大値	刷毛目本数(第1段) 最小値	内面 最大値	内面 最小値
32	217	25	217	－	－	－	タテ	ナナメ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			11	8			11	
32	218	25	218	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			15	14				
32	219	25	219	－	－	－	タテ	ヨコ，ナナメ			砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			18	16				
32	220	25	220	－	－	－	タテ	ナナメ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			12	10				
32	221	25	221	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	円	△			8					
32	222	25	222	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒	良好	明茶褐色	円	△			10					
32	223	25	223	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	円	△			9					
32	224	25	224	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	円	△			20					
32	225	25	225	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	円	△			17	15				
32	226	25	226	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			10	8				
33	227	26	227	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	△			15	13				
33	228	26	228	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	楕円	△			14					
33	229	26	229	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	△			17					
33	230	26	230	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			16	12				
33	231	26	231	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	楕円	△			15	14				
33	232	26	232	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	△			12	10				
33	233	26	233	－	－	－	タテ	ナナメ	ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸			11	8		12	13	
33	234	26	234	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			14	13			11	
33	235	26	235	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ		砂粒	良好	明茶褐色		△			13	12				
33	236	26	236	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	楕円	△			12	8			10	
33	237	26	237	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			13	10				
33	238	26	238	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			14					
34	1	27	1	－	10.6	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△					17			
34	2	27	2	－	12.8	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			17	16	17	16		
34	3	27	3	－	12.0	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			17	12	15	13		
34	4	27	4	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			15	14	17	15		
34	5	27	5	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	不良	明茶褐色		凸					22	21		
34	6	27	6	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	黒斑	明茶褐色	円	△			10	8	12	10		
34	7	27	7	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒	良好	明茶褐色	楕円	凸			23	21	23			
34	8	27	8	－	11.2	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	凸			14	10	14	10		
34	9	27	9	－	12.6	－	タテ			左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	楕円	△			16	14	17	15		
34	10	27	10	－	7.5	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	凸			23	22	23	20		

第2表　円筒埴輪観察表（2－11）

挿図番号		図版番号		口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	刷毛目 外面	刷毛目 内面	内面調整	巻上げ	含有物	焼成	色調	透孔	突帯	刷毛目本数(第4段) 最大値	刷毛目本数(第4段) 最小値	刷毛目本数(第2・3段) 最大値	刷毛目本数(第2・3段) 最小値	刷毛目本数(第1段) 最大値	刷毛目本数(第1段) 最小値	内面 最大値	内面 最小値
35	11	27	11	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	楕円	凸			24	23	22	21		
35	12	27	12	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色	有	凸+△			14	10	13	11		
36	13	28	13	－	6.2	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色							9	7		
36	14	28	14	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色							13	12		
36	15	28	15	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色							11	9		
36	16	28	16	－	6	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸					14	9		
36	17	28	17	－	6.6	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△			15	14	15	14		
36	18	28	18	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色							11	7		
36	19	28	19	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色							10	8		
36	20	28	20	－	5.5	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色							14	8		
36	21	28	21	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色							16	15		
36	22	28	22	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色							9	8		
36	23	28	23	－	5.7	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色							10	8		
36	24	28	24	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色							12	9		
36	25	28	25	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		△								
36	26	28	26	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸					12	7		
36	27	28	27	－	－	－	タテ	ヨコ			砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色							5		5	
36	28	28	28	－	6.6	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色							13	9		
36	29	28	29	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸								
37	30	29	30	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色							21	20		
37	31	29	31	－	－	－	タテ	ナナメ	ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸	1.1				21		12	
37	32	29	32	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色							18			
37	33	29	33	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色							22	21		
37	34	29	34	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色							24	23		
37	35	29	35	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色							17	16		
37	36	29	36	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色							21	20		
37	37	29	37	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色							11	8		
37	38	29	38	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ	左	砂粒及び粘土粒	不良	明茶褐色							22		6	
37	39	29	39	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色							23	22		
37	40	29	40	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色							21	20	7	
37	41	29	41	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸					21	20		
37	42	29	42	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	暗茶褐色							22	21		

第2表　円筒埴輪観察表（2－12）

挿図番号		図版番号		口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	刷毛目		内面調整	巻上げ	含有物	焼成	色調	透孔	突帯	刷毛目本数(第4段)		刷毛目本数(第2・3段)		刷毛目本数(第1段)		内面	
							外面	内面								最大値	最小値	最大値	最小値	最大値	最小値	最大値	最小値
37	43	29	43	－	－	－	タテ		ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色							14	10		
37	44	29	44	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色		凸					23	22		
37	45	29	45	－	－	－	タテ		ナデ	右	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色							15	13		
37	46	29	46	－	－	－	タテ		ナデ		砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色							22	21		
37	47	29	47	－	－	－	タテ	ヨコ	ナデ	左	砂粒及び粘土粒	良好	明茶褐色							22	20	6	

な三角形である。底部径は強く絞り込まれ，下段の突帯は低い位置に貼付されており，第一段が短い作りとなっている。10は第一段の外面タテ方向の刷毛目の本数は23－20/2㎝で，第二段の外面タテ方向の刷毛目の本数は23－22/2㎝である。突帯の断面は頂部のなだらかな台形状である。基底部の接地面は網代様の圧迫痕が残されている。

第35図11・12は胎土に粘土粒及び砂粒を含み，粘土紐の巻き上げは左方向である。いずれも基底部には網代様の圧迫痕が見られる。11は第一段の外面タテ方向の刷毛目の本数は22－21/2㎝で，第二段の外面タテ方向の刷毛目の本数は24－23/2㎝である。また，透孔は楕円形で，突帯の断面は頂部の低く幅の狭い三角形である。12は第一段の外面タテ方向の刷毛目の本数は13－112/2㎝で，第二段の外面タテ方向の刷毛目の本数は14－10/2㎝である。また，二条見られる突帯のうち上段は頂部の丸味の強い三角形で，下段は頂部の稜線の明瞭な三角形である。

第36図13～29は胎土に砂粒及び粘土粒を含む。基底部には網代様の圧迫痕が見られる。

13・16～18・20・23・25・26・29は粘土紐の巻き上げは左方向である。13は外面タテ方向の刷毛目の本数は9－7/2㎝である。16は外面タテ方向の刷毛目の本数は14－9/2㎝で，突帯の断面は頂部の傾斜した台形状である。17は第一段・第二段ともに外面タテ方向の刷毛目の本数は15－14/2㎝で，突帯の断面は頂部の丸い三角形である。底部が強く絞り込まれており，最下段の突帯の位置が低いため第一段が短い作りである。18は外面タテ方向の刷毛目の本数は11－7/2㎝である。20は外面タテ方向の刷毛目の本数は14－8/2㎝で，底部は強く絞り込まれている。23は外面タテ方向の刷毛目の本数は10－8/2㎝で，底部の絞り込みは強い。25は突帯の断面は頂部の低い三角形である。26は外面タテ方向の刷毛目の本数は12－7/2㎝で，突帯の断面は頂部の低い台形状である。29は突帯の断面は頂部の緩やかな台形状である。

14は外面タテ方向の刷毛目の本数は13－12/2㎝である。15は外面タテ方向の刷毛目の本数は11－9/2㎝である。24は外面タテ方向の刷毛目の本数は12－92/2㎝である。27は外面タテ方向の刷毛目，内面のヨコ方向の刷毛目ともに本数は5/2㎝である。28は外面タテ方向の刷毛目の本数は13－9/2㎝である。また，底部は強く絞り込まれている。

19・21は粘土紐の巻き上げは右方向である。19は外面タテ方向の刷毛目の本数は10－8/2㎝である。21は外面タテ方向の刷毛目の本数は16－15/2㎝である。

第37図30～47は胎土に砂粒及び粘土粒を含む。基底部には網代様の圧迫痕が残されている。

30・35・39・45は粘土紐の巻き上げは右方向である。30は外面タテ方向の刷毛目の本数は21－20/2㎝である。35は外面タテ方向の刷毛目の本数は17－16/2㎝であり，基底部は強く絞り込まれている。39は外面タテ方向の刷毛目の本数は23－22/2㎝である。45は外面タテ方向の刷毛目の本数は15－13/2㎝である。

31・32・36～38・40～43・47は粘土紐の巻き上げは左方向である。

31・32・36は，焼成は良好で，31は外面タテ方向の刷毛目の本数は21/2㎝，内面ヨコ方向の刷毛目の本数は12/2㎝である。また，突帯の断面は頂部が低く幅の広い台形状である。32は外面タテ方向の刷毛目の本数は18/2㎝である。36は外面タテ方向の刷毛目の本数は21－20/2㎝であり，基底部の絞り込みは強い。

37は焼成は不良で，外面タテ方向の刷毛目の本数は11－8/2㎝である。

38・40～43・47は，焼成は良好である。38は外面タテ方向の刷毛目の本数は22/2㎝で，内面の最下部

にはヨコ方向の刷毛目が見られ，その本数は6/2㎝である。40は外面タテ方向の刷毛目の本数は21－20/2㎝で，内面の最下部にはヨコ方向の刷毛目が見られ，その本数は7/2㎝である。41は外面タテ方向の刷毛目の本数は21－20/2㎝で，突帯の断面は頂部の狭い台形状である。42は外面タテ方向の刷毛目の本数は22－21/2㎝である。43は外面タテ方向の刷毛目の本数は14－10/2㎝である。47は外面タテ方向の刷毛目の本数は22－20/2㎝で，内面の最下部にはヨコ方向の刷毛目が見られ，その本数は6/2㎝である。

33は外面タテ方向の刷毛目の本数は22－21/2㎝である。34は外面タテ方向の刷毛目の本数は24－23/2㎝である。44は外面タテ方向の刷毛目の本数は23－22/2㎝で，突帯の断面は頂部の低く幅の広い台形状である。46は外面タテ方向の刷毛目の本数は22－21/2㎝である。

(2) 形象埴輪（第38図～第64図，図版30～図版47）

にわとり塚古墳の形象埴輪の構成は人物・武具・動物・家形の埴輪からなる。

第38図の1～第48図の37は人物埴輪である。

第38図の1は現在高55.6㎝，幅22.2㎝，奥行き16.4㎝のほぼ完形の人物埴輪である。顔立は鼻が高い丹精な造作である。胎土には砂粒及び粘土粒を含み，焼成は良好である。頭部の後ろと基台部側面に楕円形の透孔が存在する。頭部から胴部，腰部を経て基台部に至る外面には，タテ方向の刷毛目が施されている。刷毛目の本数は頭部は16－9/2㎝，腰部は15－9/2㎝，基台部は18－15/2㎝となっている。頭部には頭巾または帽子状の被り物を着け，着衣は合わせ部分の無い貫頭衣状の衣を腰部で帯に似せた断面台形状の突帯で絞り込んでいる。この人物埴輪の被り物は小見川町城山1号墳出土の人物埴輪[4]にも類例が見られる。裾から下は台部で省略されており，台部にも楕円形の透孔が見られる。目・口は切り抜きで表現されている。首には紐状の粘土帯の上にボタン状の粘土円板の貼付や耳から垂下するドーナツ状の飾りが見られ，匝瑳郡光町小川台5号墳[5]の№58の人物埴輪と共通する表現である。

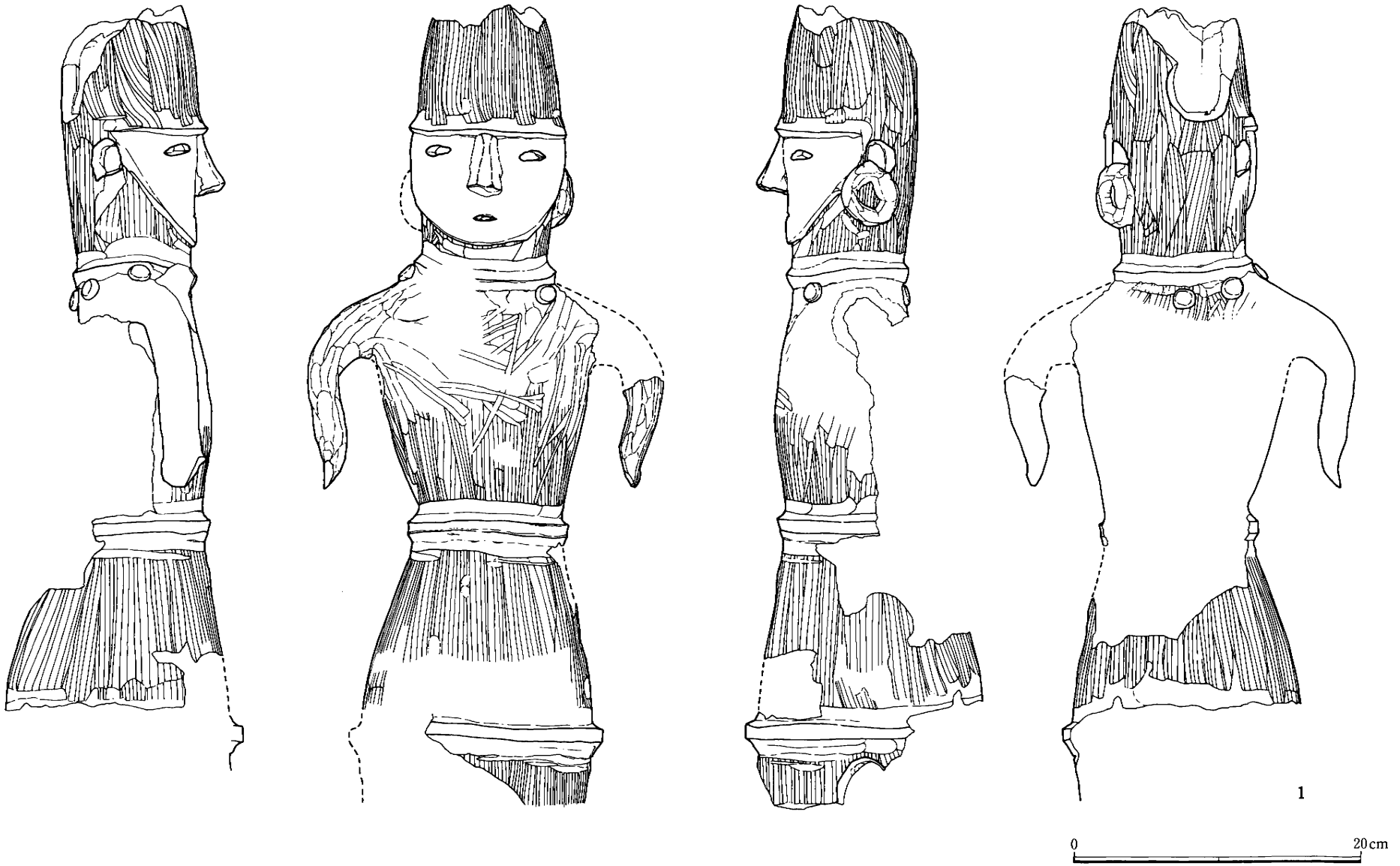
第39図の2は現在高49.2㎝，幅22.2㎝，奥行き15.4㎝で腰から下を欠損している。焼成は良好で，頭部及び腰部背面で観察されるタテ方向の刷毛目の本数は頭部では9－6/2㎝，腰部では8－6/2㎝となっている。頭部を欠損するため形状は不明であるが被り物を付けている。胴部も大きく欠損しているため着衣の観察はできないが，首には粘土紐上に小円板を添付している。目・口は切り抜き表現で，耳は粘土紐を環状に曲げたものを添付している。

第39図の3は顔面部分のみの人物である。頭部は額から上に真直ぐ伸びており，多くを欠損するため詳細は不明であるが，第38図の1の人物と同様の被り物を付けているものと考えられる。目・口は切り抜き表現で，鼻は高く，耳は環状に巡らした粘土紐で表現されている。胎土には砂粒及び粘土粒を含み，刷毛目の本数は8－6/2㎝である。

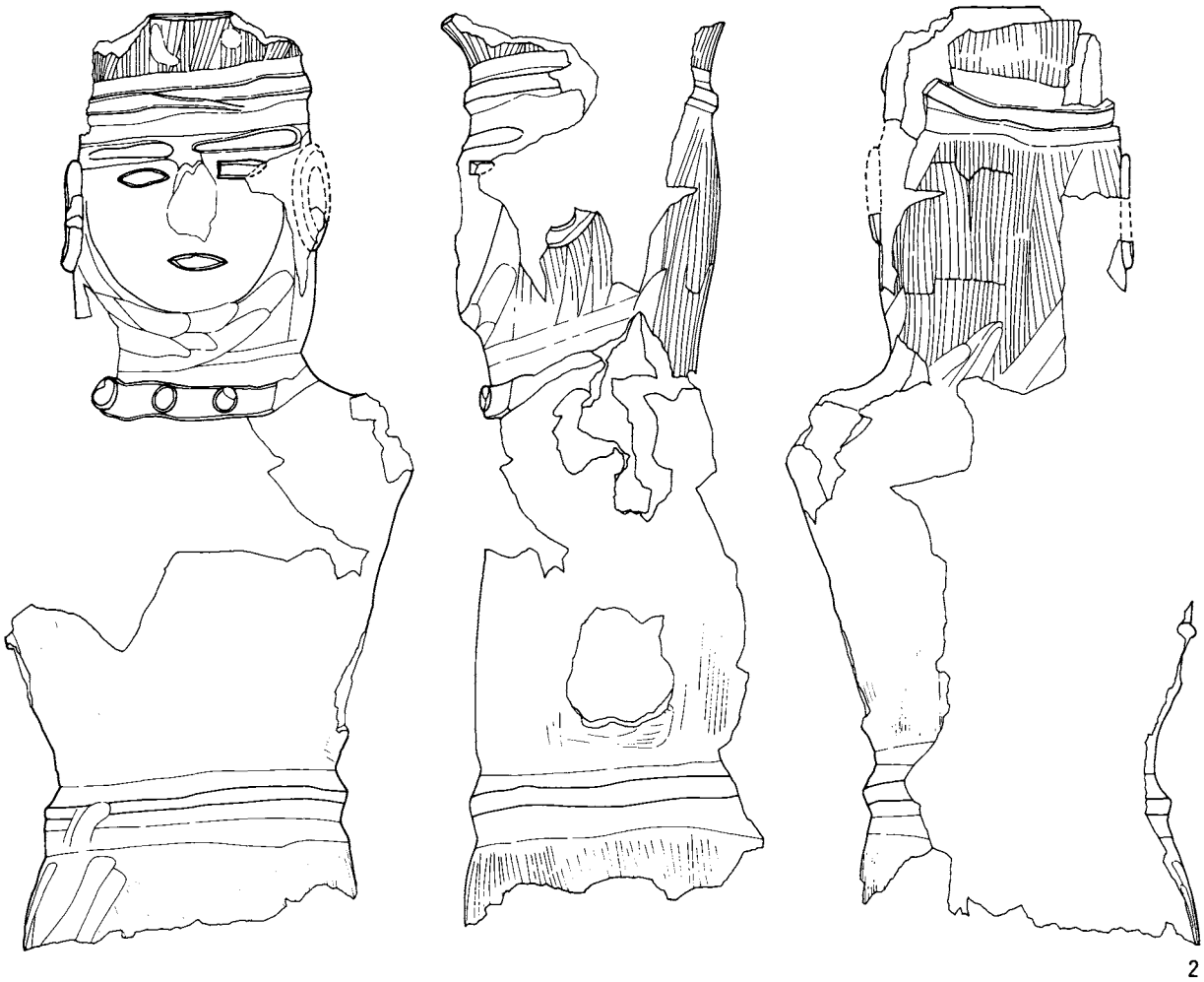
第40図の4・5は頭部のみの人物である。いずれも焼成は良好で，首には粘土紐の帯上に小円板を添付している。4は目の部分を欠損しているが，鼻は高く，耳は環状の粘土紐で表現されている。刷毛目の本数表示は1.9㎝で，内面は丁寧な斜め方向のナデ調整となっている。5は目・口は切り抜き表現で，鼻及び耳の表現は4と同様である。

第41図の6は頭に髷を乗せた頭部のみの人物である。髷は頭部とは別に作り，張り合わせている。張り合わせの際の結合部分となる頭頂部には円形の孔が見られる。目・口は切り抜きで鼻は高く，耳は環状の粘土紐で表現されている。小川台5号墳№59の人物[6]に同様の表現が見られる。

第42図の7及び第43図の8は頭部のみの武人である。いずれも目と口は切り抜きで鼻は高い。ともに冑

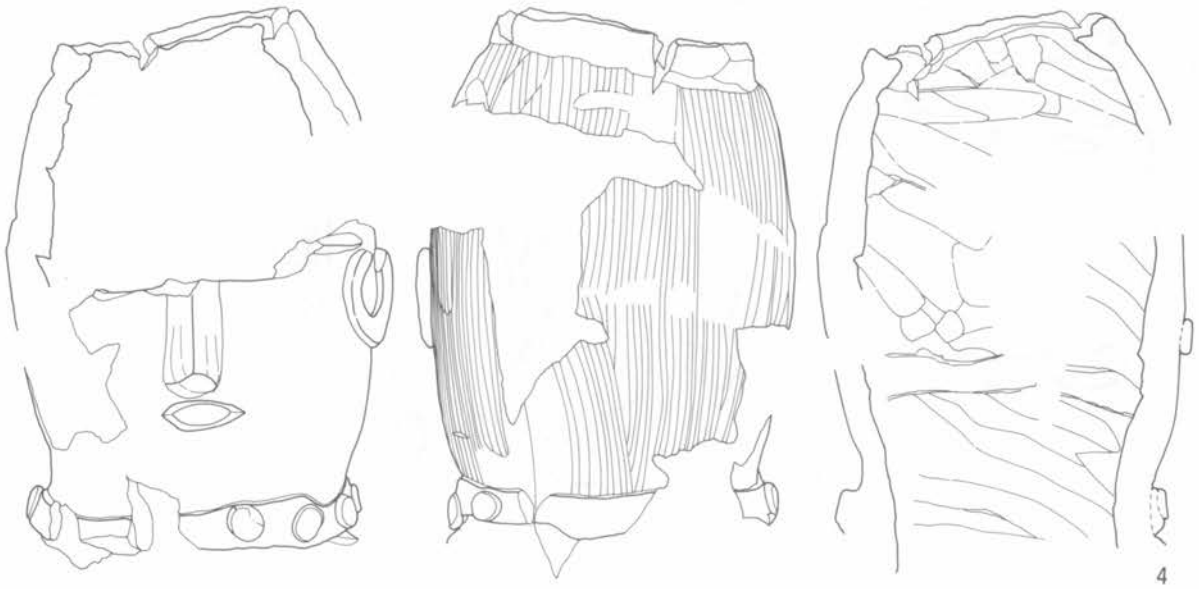


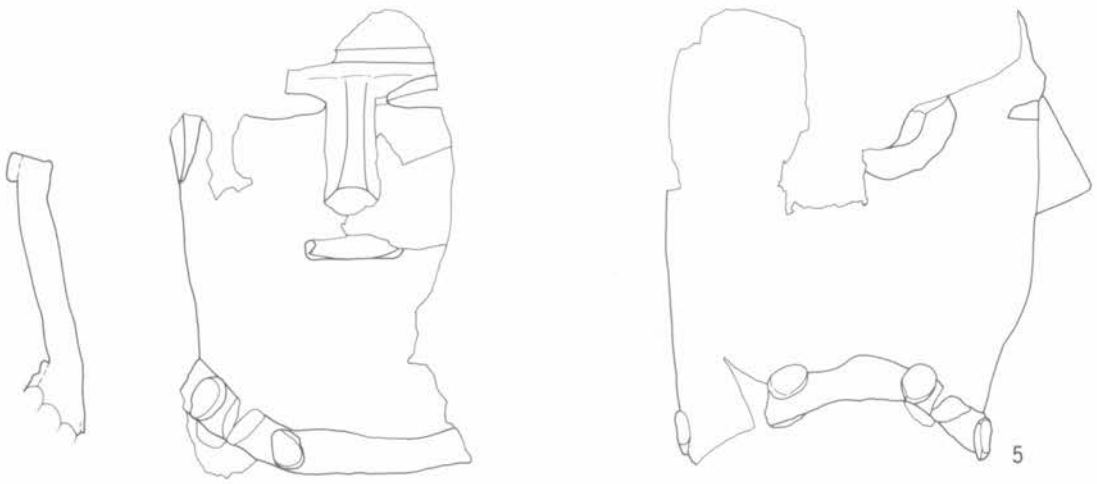
第38図　形象埴輪（1）



0 15cm

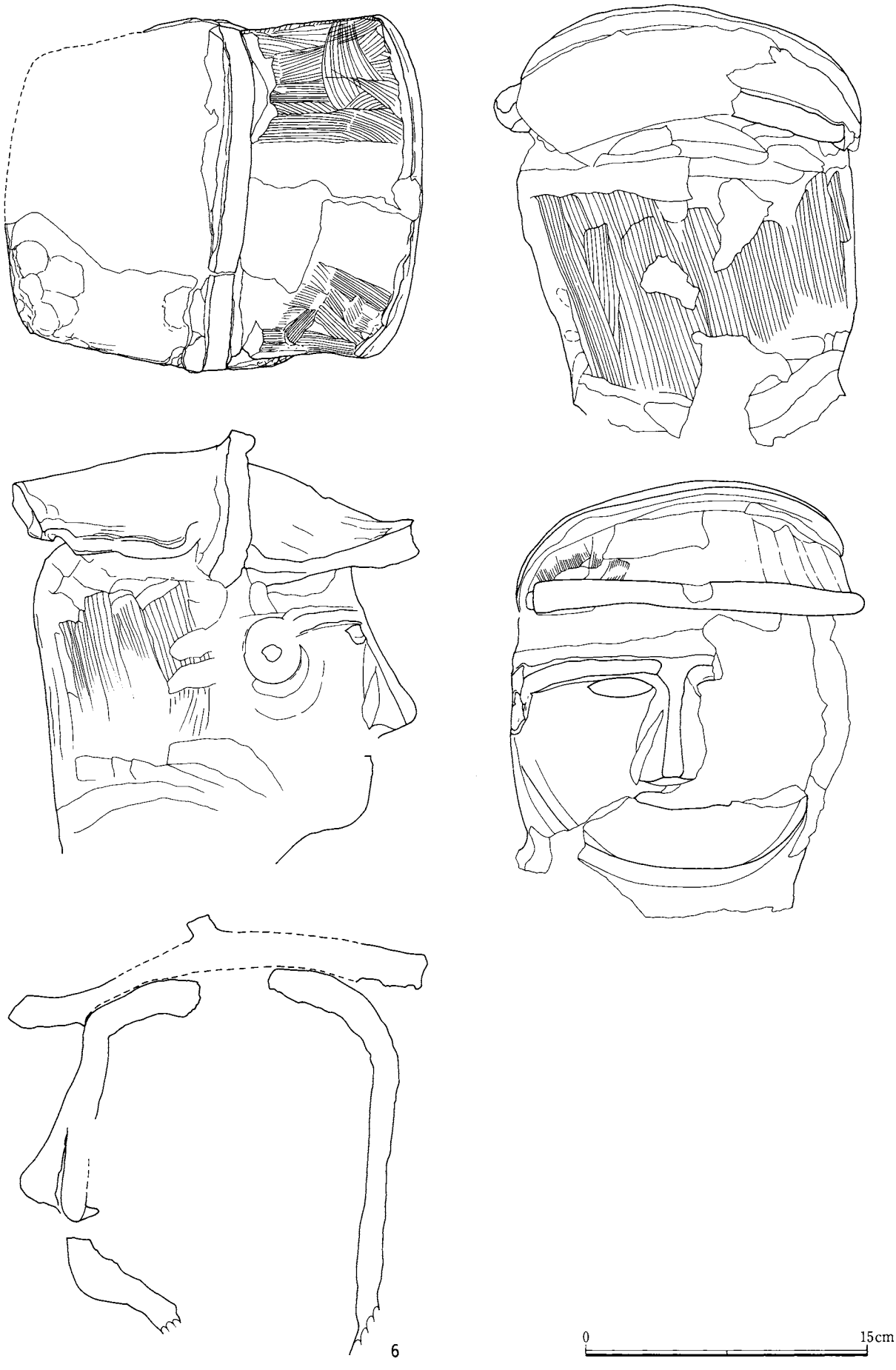
第39図　形象墳輪（2）



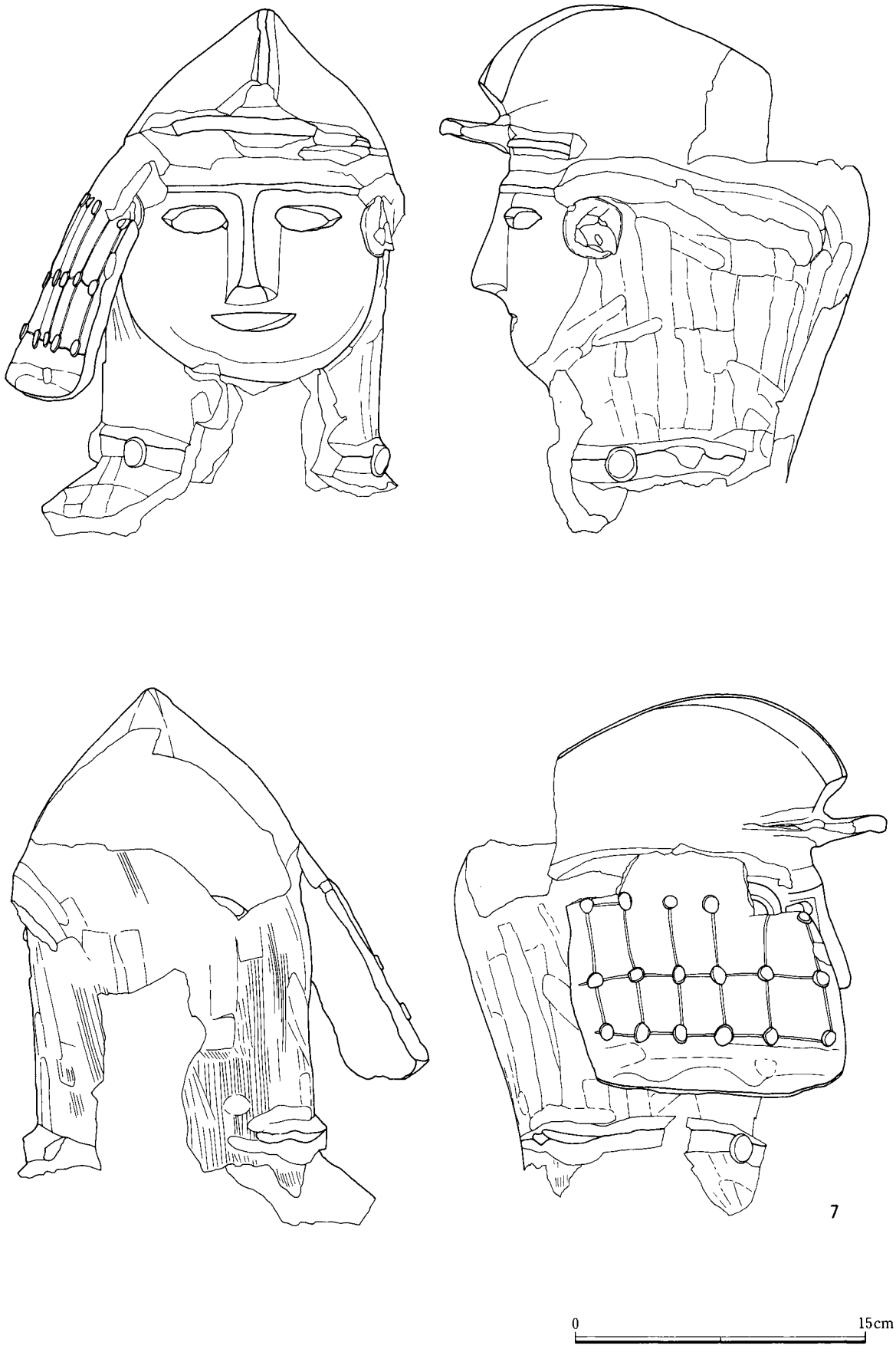


0 15cm

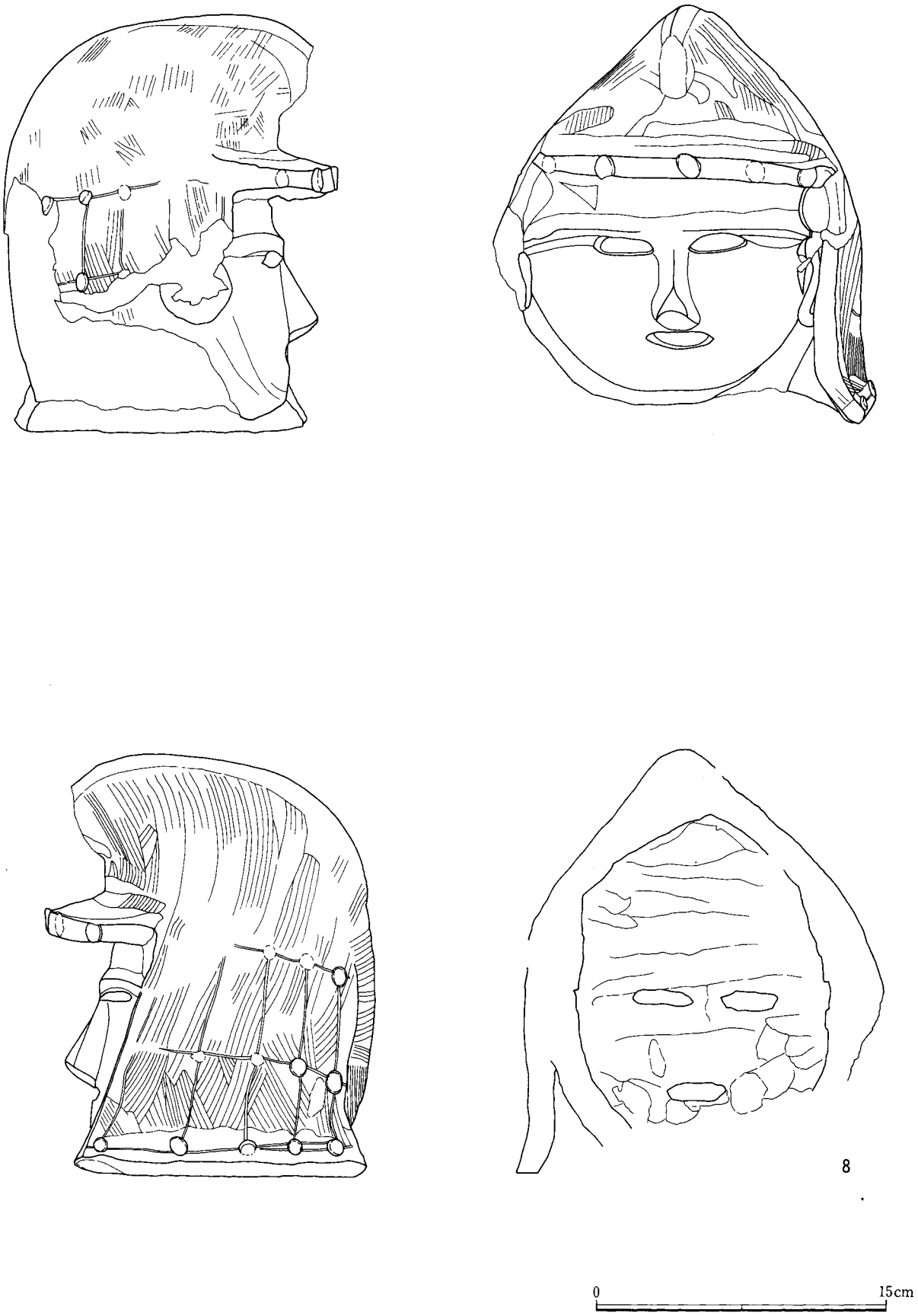
第40図　形象埴輪（3）



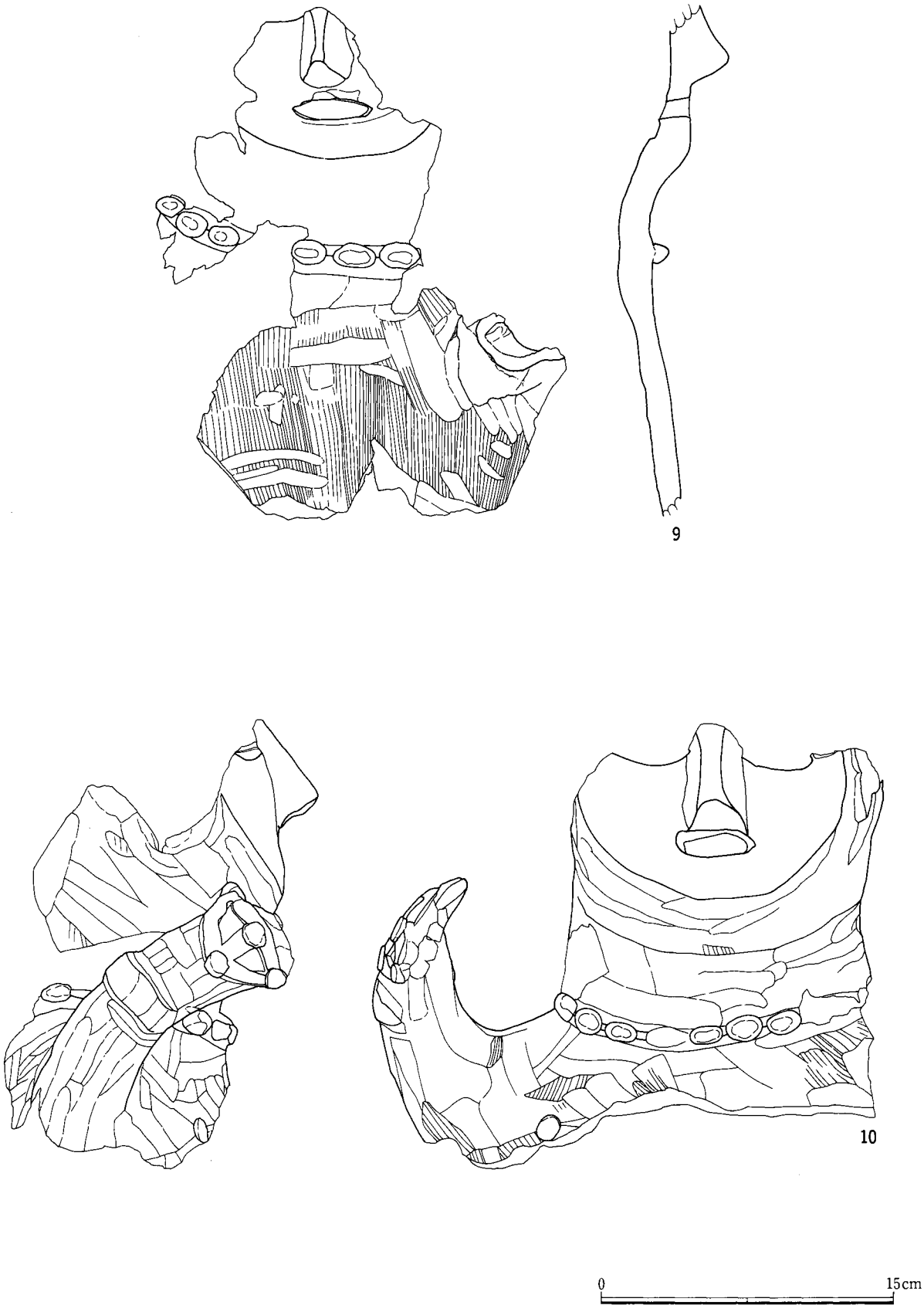
第41図　形象埴輪（4）



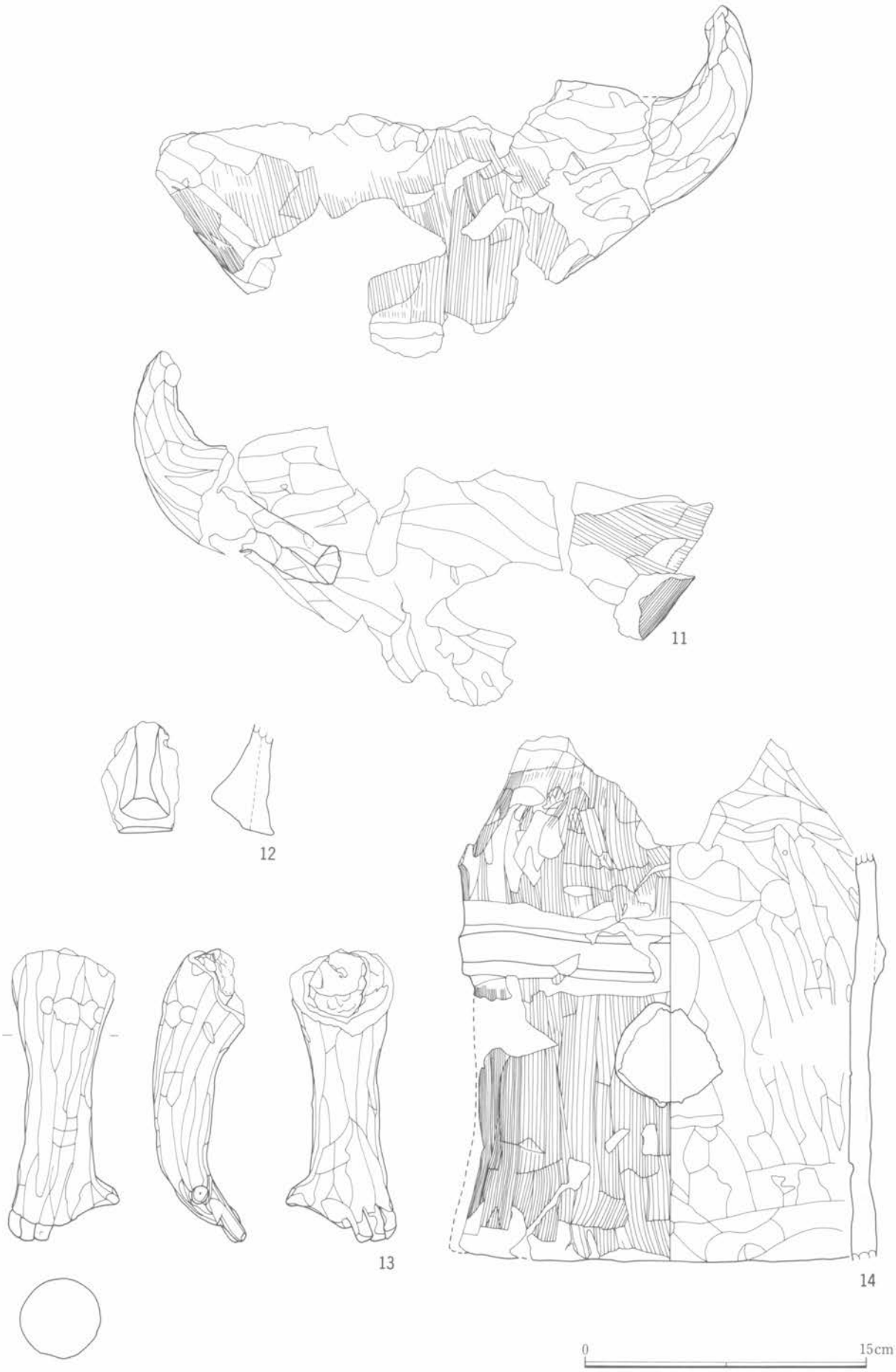
第42図　形象埴輪（5）



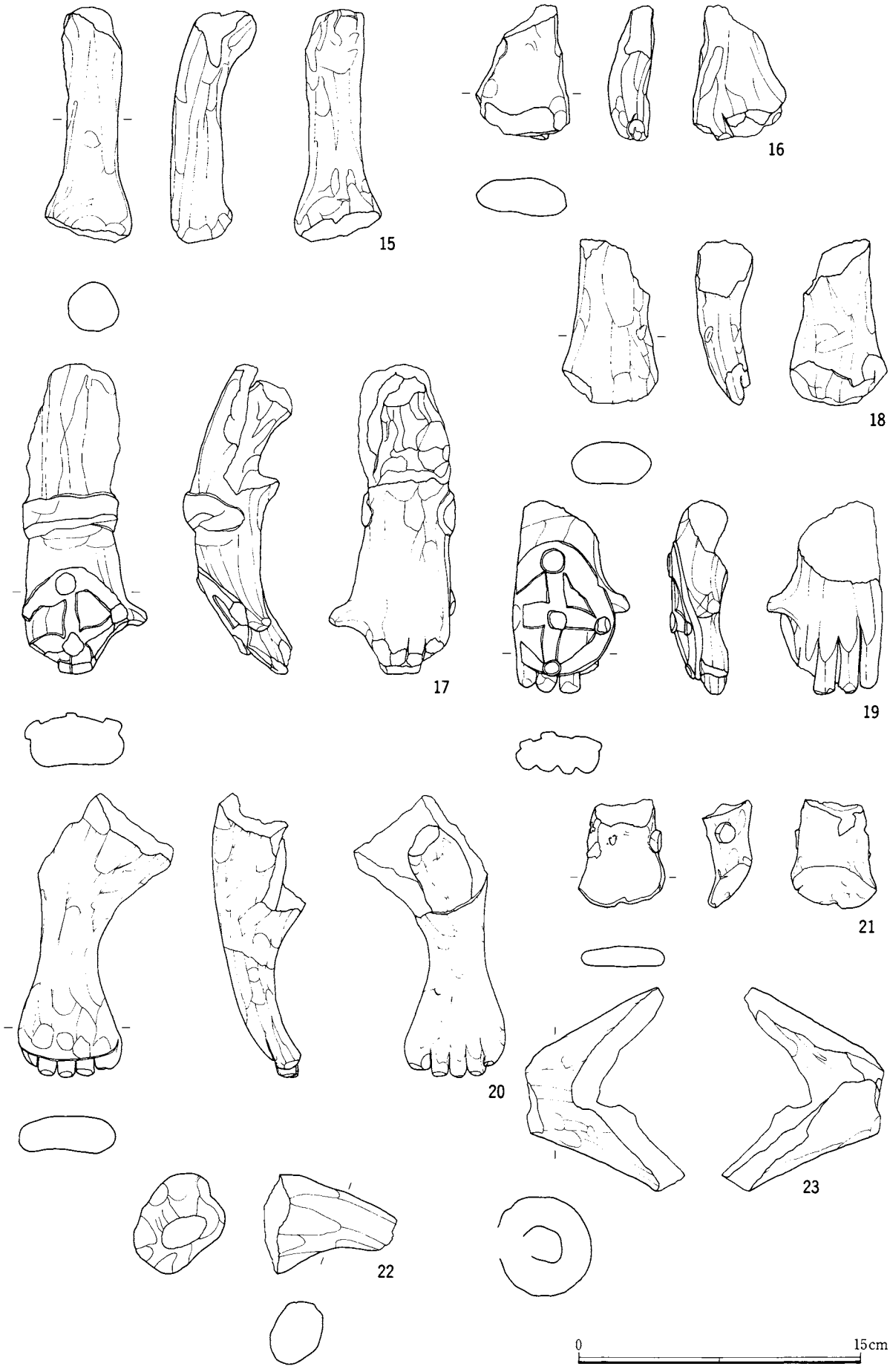
第43図　形象埴輪（6）



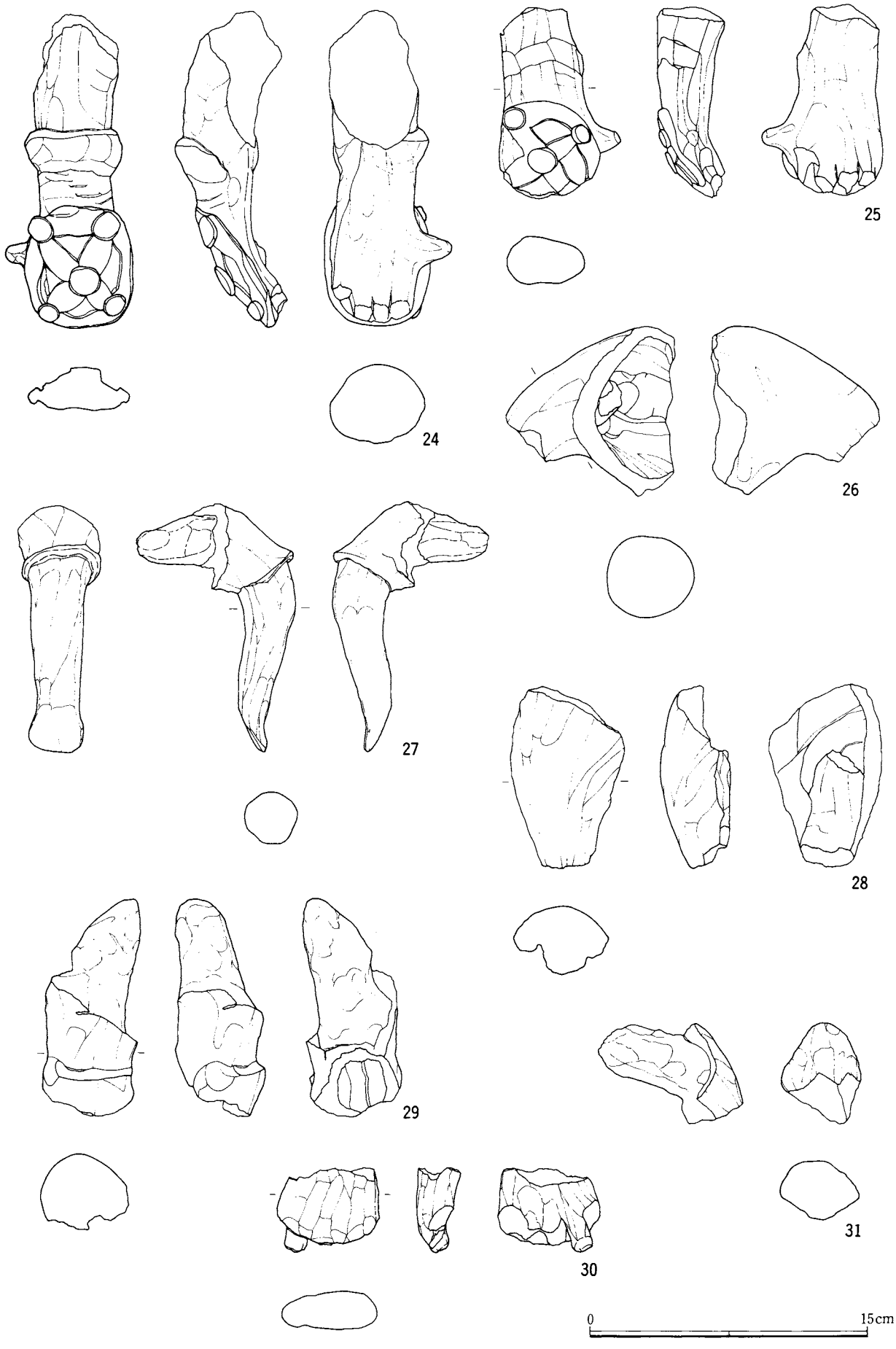
第44図　形象埴輪（7）



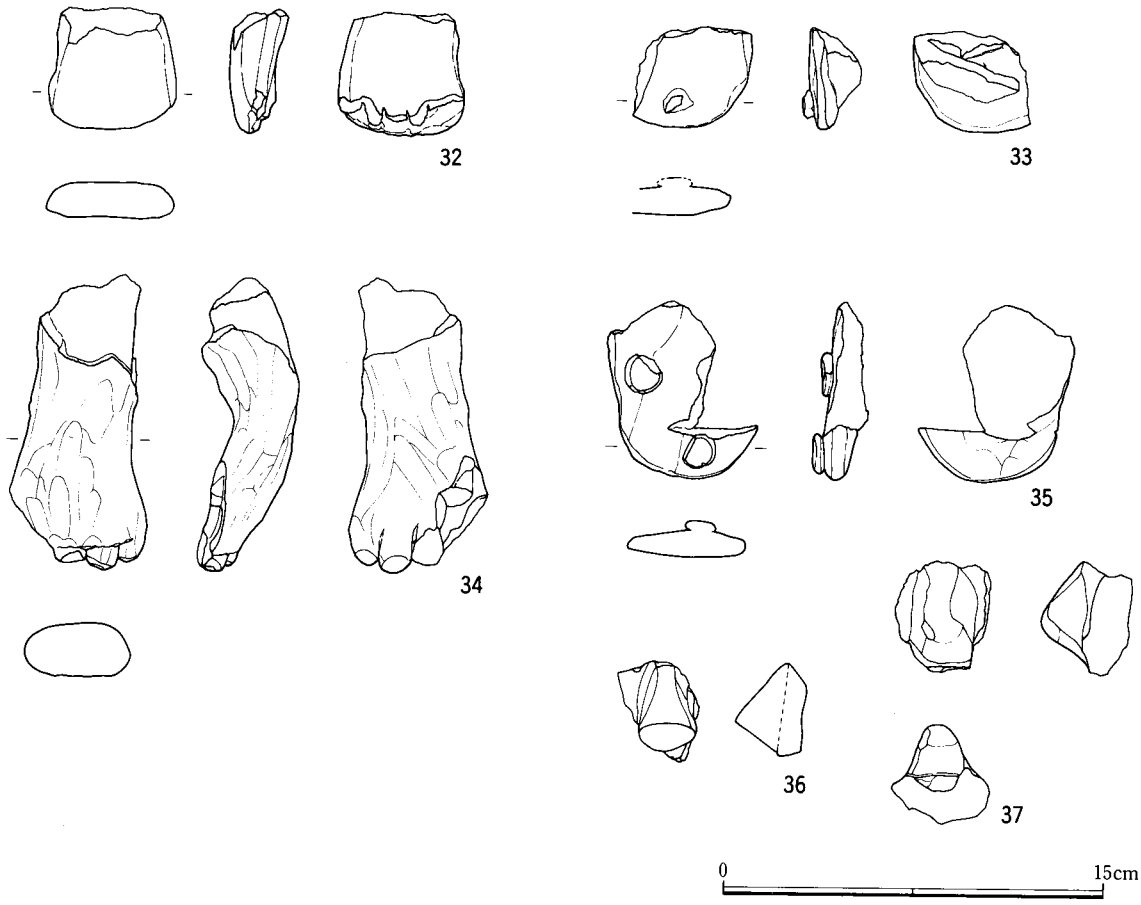
第45図　形象埴輪（8）



第46図　形象埴輪（9）



第47図　形象埴輪（10）



第48図　形象埴輪（11）

を付けているが，額上部に庇状の平らな突起が見られ，眉庇付の冑であるかの表現をしている。しかし，眉庇付冑であれば頂部の平坦な表現や受鉢・管・伏鉢の頂部の飾りの表現も求められるが，冑頂部から前部にかけて衝角の名残りとも考えられる稜も見られるが，衝角付冑であれば基本的には革綴式であり，通常庇は見られない。[7] 耳を覆う板錏の表現は写実的で小札を鋲留めした作りを再現しているが，板錏には小札ではなく四段程度の錏帯を連下するのが通例である点も眉庇付冑との違いを表現している。山武郡山武町小川崎台遺跡３号墳出土人物埴輪１－１及び１－２[8] に同様の表現が見られる。７は首には粘土紐の帯上に小円板を添付している。また，冑の庇の縁にも同様の小円板の貼付が見られる。

第44図９・10は人物の顔面である。９は欠損のため表情は観察できないが，幅の狭く高い鼻と切り抜かれた口が見られる。首に巻かれた粘土紐上には楕円形の粘土が貼付されており，間隔も狭く装飾品であると考えられる。10も欠損が大きく表情は観察できないが，わずかに残された切り抜き式の目と高い鼻が見られる。上に挙げた右手の甲には手甲が表現されている。

第45図11は人物の胸と左腕である。腕は内面から観察すると差し込み式で胴部から延びた肩に差し込まれていることがわかる。

12は人物の鼻で，幅の狭い高さのある端正な作りである。

13は人物の腕部である。欠損のため痕跡を残すのみとなっているが，肘部のあたりが差し込み部分である。

14は人物埴輪の基台部分である。直径23.2cm，現在高は26.2cmである。上部の形象部は欠損している。

外面にはタテ方向の粗い刷毛目が見られ，底部付近では幾重にも重ねた刷毛目調整が途中で止め放たれている。断面台形状の突帯が一周し，突帯の下には一対の透孔がある。

第46図15～21は人物の手である。いずれも差し込み式である。15は指及び肘の差し込み部分を欠損している。16は手の甲部分であるが，指をすべて欠損している。17は右手の甲部分であるが，親指以外の指を欠損している。手の甲には環状の粘土帯に十字の粘土帯を重ねた手甲が見られ，武人のものと考えられる。18は手の甲部分である。19は17と同様の手甲が見られる武人の右手甲部分である。20は右手の甲部分であるが指の先をすべて欠損している。手の甲には手甲が見られない。21は手首部分である。22は肘部の差し込み支え部分である。23は肩部から腕部の差し込み受け部である。

第47図24～31は人物の手である。24は武人左手の甲部分である。手甲の表現は環状の粘土帯とX状の粘土帯の重ね合わせとなっており，第46図の17及び19の手甲表現と少々異なっている。25は武人右手の甲部分である。親指以外の指を欠損している。手甲の表現は24と同様である。26・28は腕部の差し込み受け部である。27は肩部から先の肘部差し込み部分である。29・31は肘部の差し込み部分である。30は手の甲部分であるが，すべての指を欠損しており左右の判別はつかない。

第48図32は人物埴輪の手の甲部分であるが，すべての指が欠損している。33・35は人物埴輪が身につけていた衣装または装着具の一部と考えられるが小破片のため詳細は不明である。34は人物埴輪の手の甲部分で指の大半を欠損する。全体に粗いヘラ削りで整形され，手のひらから指先に向けて緩やかに弯曲する。

第3表　形象埴輪観察表（人物）

挿図	番号	図版	番号	器　種	現在高（cm）	刷毛目（外面）	内面調整	含有物	焼成	色調	透孔	突帯	刷毛目本数（最大値－最小値/2cm）			
38	1	30	1	人物	56.4	タテ	ナデ	砂粒	良好	明茶褐色	円	凸	16－9（頭部）	15－11（腕）	15－9（腰）	18－15（基台部）
39	2	31	2	人物（男子）	36.0	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	暗茶褐色		凸	9－6（頭部）	7－6（腕）	8－6（腰）	－
39	3	31	3	人物（頭部）	22.5	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	茶褐色			8－6	－	－	－
40	4	31	4	人物（頭部）	21.9	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	茶褐色			9－7	－	－	－
41	6	32	6	人物（頭部）	22.5	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	茶褐色			8－7	－	－	－
42	7	32	7	人物（武人）	26.4	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	明茶褐色			13－7	－	－	－
43	8	33	8	人物（武人）	21.6	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	明茶褐色			12－11	－	－	－
44	9	33	9	人物	－	タテ・ヨコ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	明茶褐色			11－8	－	－	－
45	11	34	11	人物	－	タテ・ヨコ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	明茶褐色			12－8	－	－	－
45	14	34	14	基台部	24.0	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	明茶褐色	円		12－9	－	－	－

36・37は人物埴輪の鼻である。36は，円錐形の粘土塊を押しつけるように張り付けており，丸みの強い形状となっている。37は，ヘラ状の工具により大きく面取りを行い形状を整えている。

第49図1～第52図の23はよろい形形象埴輪である。

第49図1は，中央腰部分の絞り込まれた無文帯を挟んで上下には小札を鋲留めした胴部と草摺部が表現されており，胴丸式挂甲を模したものと考えられる。胴部は縦横に走る直線的な沈線を交差させた上下に長い升目が見られ，沈線の交差部分には粘土の小円板による鋲表現が見られる。全体にタテ方向の刷毛目が重ねて調整されている。草摺部は沈線の交差による升目は胴部よりも大きな区画を作り出しており，やはり沈線の交差部分には粘土の小円板による鋲表現が見られる。焼成は良好で，丁寧な作りである。前出小川崎台遺跡3号墳の人物埴輪[9]の装着しているよろいと同様の表現である。

第50図2～12はよろい形形象埴輪の小破片である。1～7・9は胴丸式挂甲の肩部の破片である。いずれも沈線を交差させ，その交差部分には粘土の小円板による鋲留め表現が見られる。上端には2cmほどの無文部分が見られ，胴丸上端部の縁留め表現と考えられる。7は断面の観察から草摺部の裾である可能性

も考えられるが，器面に表現された沈線による升目が狭いことから胴丸上端部片としておくこととする。8・10は胴丸部分の絞り込まれた腰部の一部が見られる。沈線で区画された升目は上辺が下辺に比べて若干広い。また，沈線の交差する部分には小円版による鋲留め表現が見られる。

11・12は草摺部の破片である。いずれも沈線による交差とその交差部分の鋲表現によって区画された升目は，上辺よりも下辺が広くなるのが特徴である。

第51図13～14は胴丸式挂甲の草摺部である。13は，大きく絞り込まれた腰部付近で，断面の観察から草摺部の左右いずれかの脇付近と考えられる。14は，草摺部の腰部付近である。腰部は一段低い平坦な帯状の無文帯で，その下に草摺部を表現している。草摺部の小札の綴りは沈線による交差と交差部分の粘土小円板による鋲表現で升目区画で表現している。焼成は良好で作りも丁寧である。沈線により区画された升目は，上辺が下辺よりも狭い。内面はヨコ方向の丁寧なナデ調整となっている。

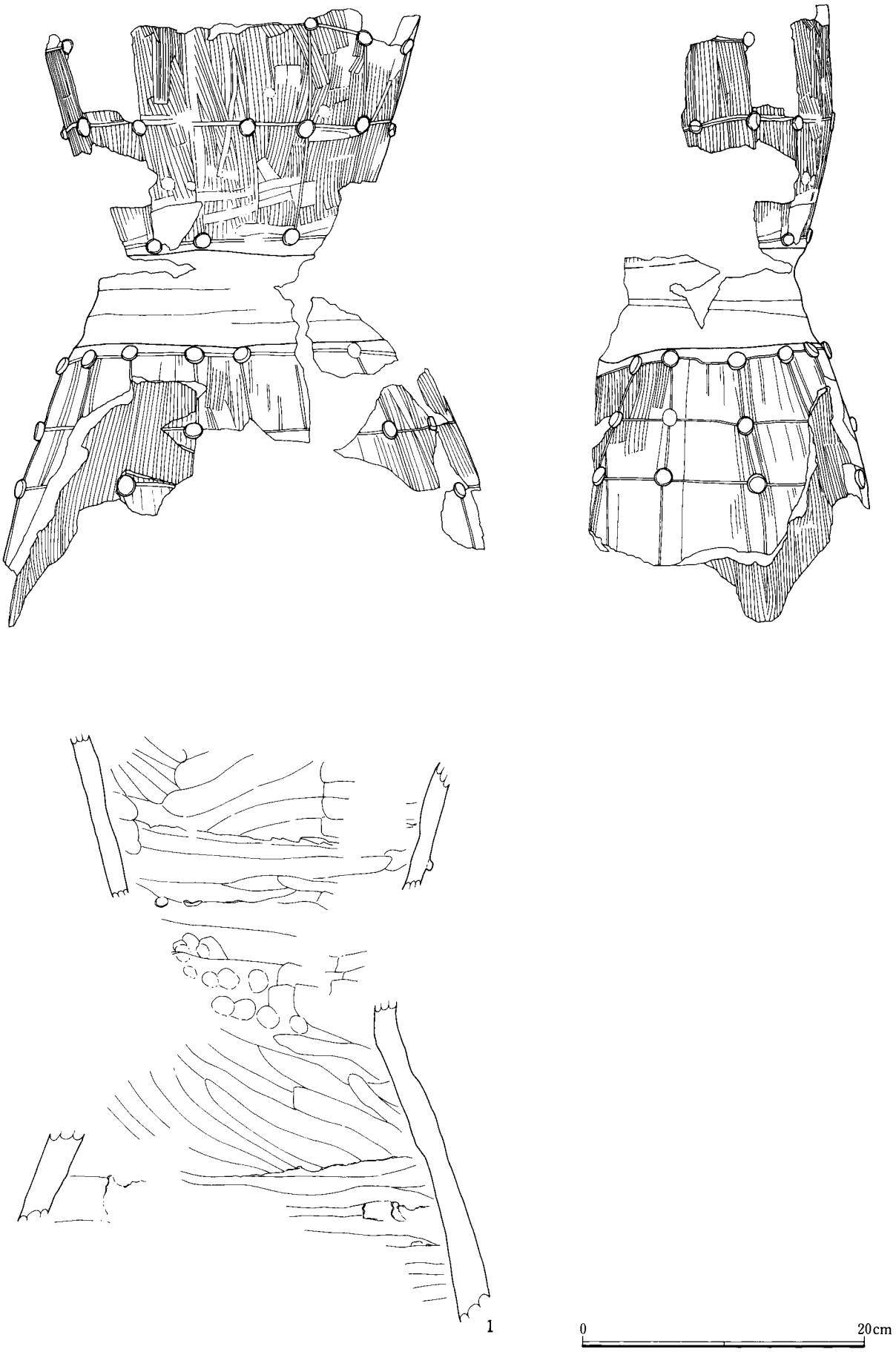
第52図15～23は胴丸式挂甲の草摺部の裾部分である。15は，縁部に3㎝ほどの無文帯が見られるが肩部の無文部分より幅が広い。また，縁部は緩やかにカーブしており，沈線と小円版によって区画された升目は幅の広い共通な性格を見せている。15・16・19・20は縁部付近の内面に基台部との接合部の痕跡が見られる。21・22は断面の形状や無文部分の幅を観察すると，胴丸部分の肩部である可能性も考えられるが，いずれも小破片であり特定する根拠に欠ける。沈線と小円版によって区画された升目の幅が広いことや縁部付近の無文部分の幅が広いことから草摺部の裾とする。

23は，よろい形埴輪の基台部である。器面にはタテ方向の刷毛目が見られ，円形の透孔を有する。内面は丁寧なナデ調整となっている。

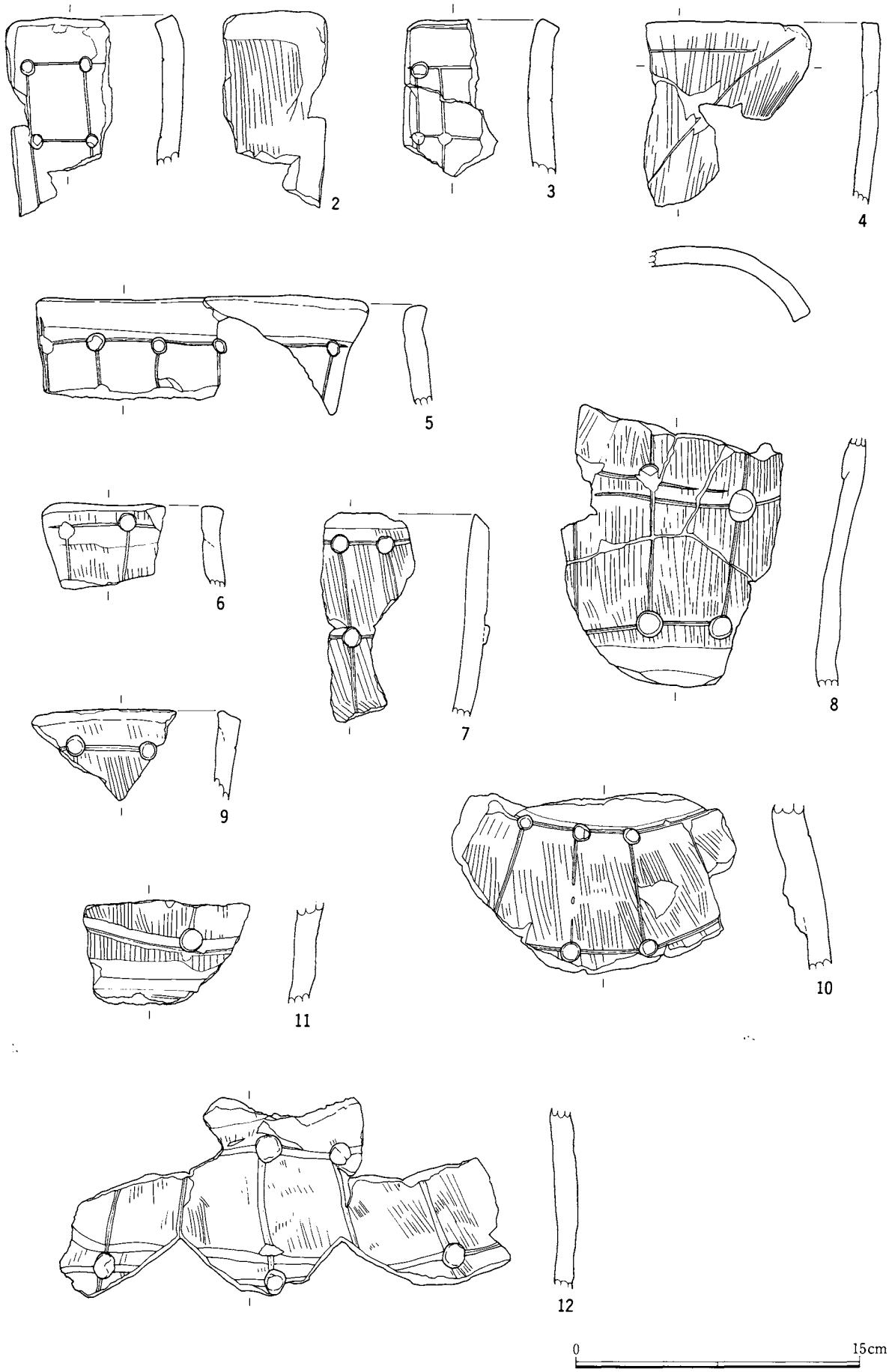
第4表　形象埴輪観察表（よろい形）

挿図	番号	図版	番号	器　種	現在高（㎝）	刷毛目（外面）	内面調整	含有物	焼成	色調	刷毛目本数（最大値－最小値/2㎝）	
49	1	37	1	よろい形埴輪	43.2	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	茶褐色	10－7（胴丸部）	12－9（草摺部）
50	2	38	2	よろい形埴輪	－	タテ・ナナメ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	茶褐色	11－8（胴丸部）	
50	3	38	3	よろい形埴輪	－	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	茶褐色	9－7（胴丸部）	
50	4	38	4	よろい形埴輪	－	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	茶褐色	11－9（胴丸部）	
50	5	38	5	よろい形埴輪	－	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	茶褐色	9（胴丸部）	
50	6	38	6	よろい形埴輪	－	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	茶褐色	8（胴丸部）	
50	7	38	7	よろい形埴輪	－	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	茶褐色	13－7（胴丸部）	
50	8	38	8	よろい形埴輪	－	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	茶褐色	12－7（胴丸部）	
50	9	38	9	よろい形埴輪	－	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	茶褐色	12（胴丸部）	
50	10	38	10	よろい形埴輪	－	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	茶褐色		
50	11	38	11	よろい形埴輪	－	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	茶褐色		
50	12	38	12	よろい形埴輪	－	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	茶褐色		10－9（胴丸部）
51	13	39	13	よろい形埴輪	－	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	茶褐色		9（胴丸部）
51	14	39	14	よろい形埴輪	22.5	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	茶褐色		11（胴丸部）
52	15	40	15	よろい形埴輪	－	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	茶褐色		9（胴丸部）
52	16	40	16	よろい形埴輪	－	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	茶褐色		10（胴丸部）
52	17	40	17	よろい形埴輪	－	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	茶褐色		10－8（胴丸部）
52	18	40	18	よろい形埴輪	－	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	茶褐色		8（胴丸部）
52	19	40	19	よろい形埴輪	－	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	茶褐色		12－11（胴丸部）
52	20	40	20	よろい形埴輪	－	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	茶褐色		8－7（胴丸部）
52	21	40	21	よろい形埴輪	－	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	茶褐色		9（胴丸部）
52	22	40	22	よろい形埴輪	－	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	茶褐色		8（胴丸部）
52	23	40	23	よろい形埴輪	15.0	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	茶褐色		11－8（胴丸部）

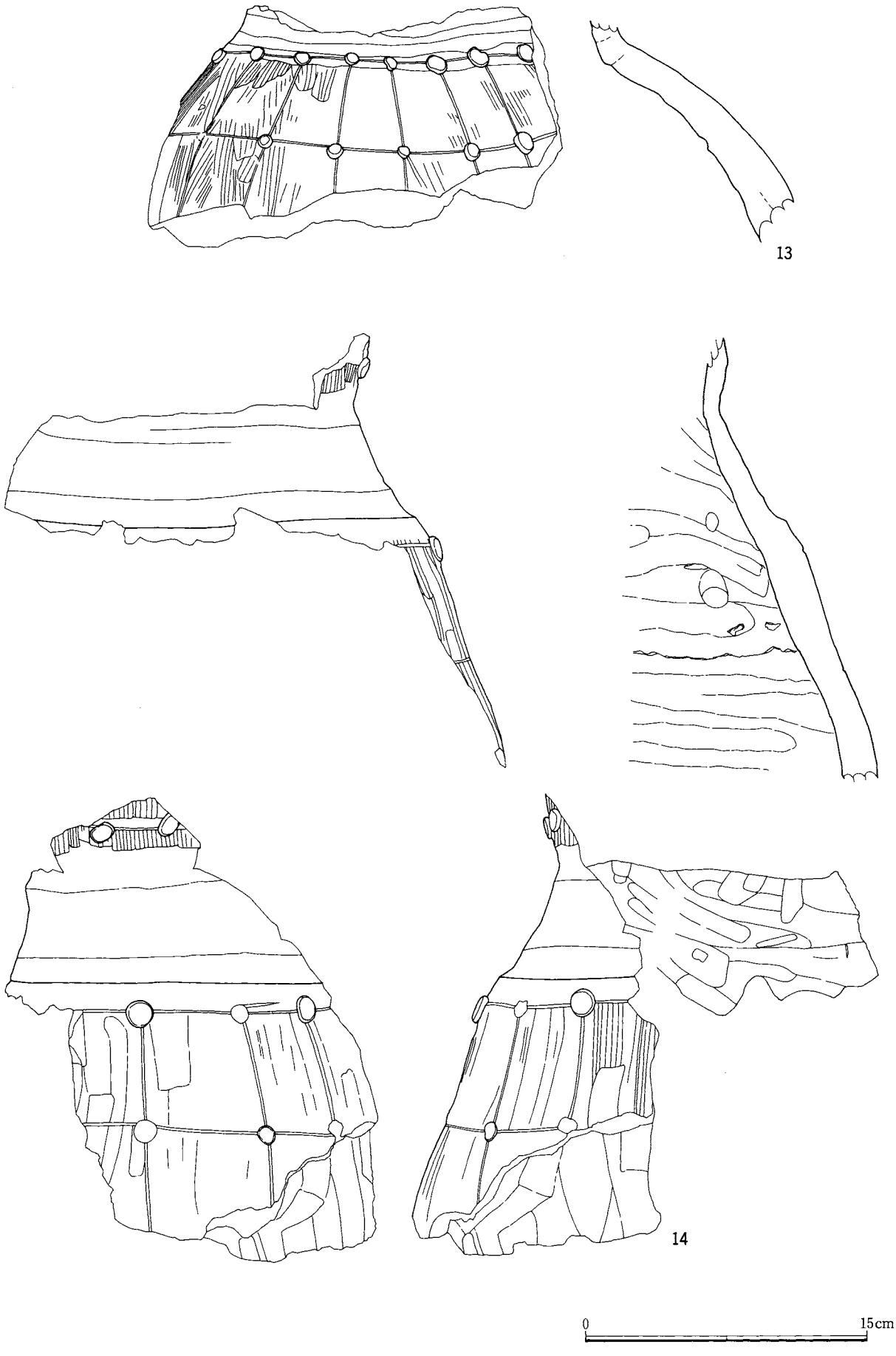
第53図～第54図は家形形象埴輪である。第53図1・2及び第55図3は家形埴輪の屋根部分である。いずれも寄棟式の屋根部分であるが，1は外面にタテ方向の刷毛目を施した後，僅かであるが屋根葺きを表現したと考えられる連続する三角文を沈線で描いている。三角文は交互に上下を組み替えて連続させている。



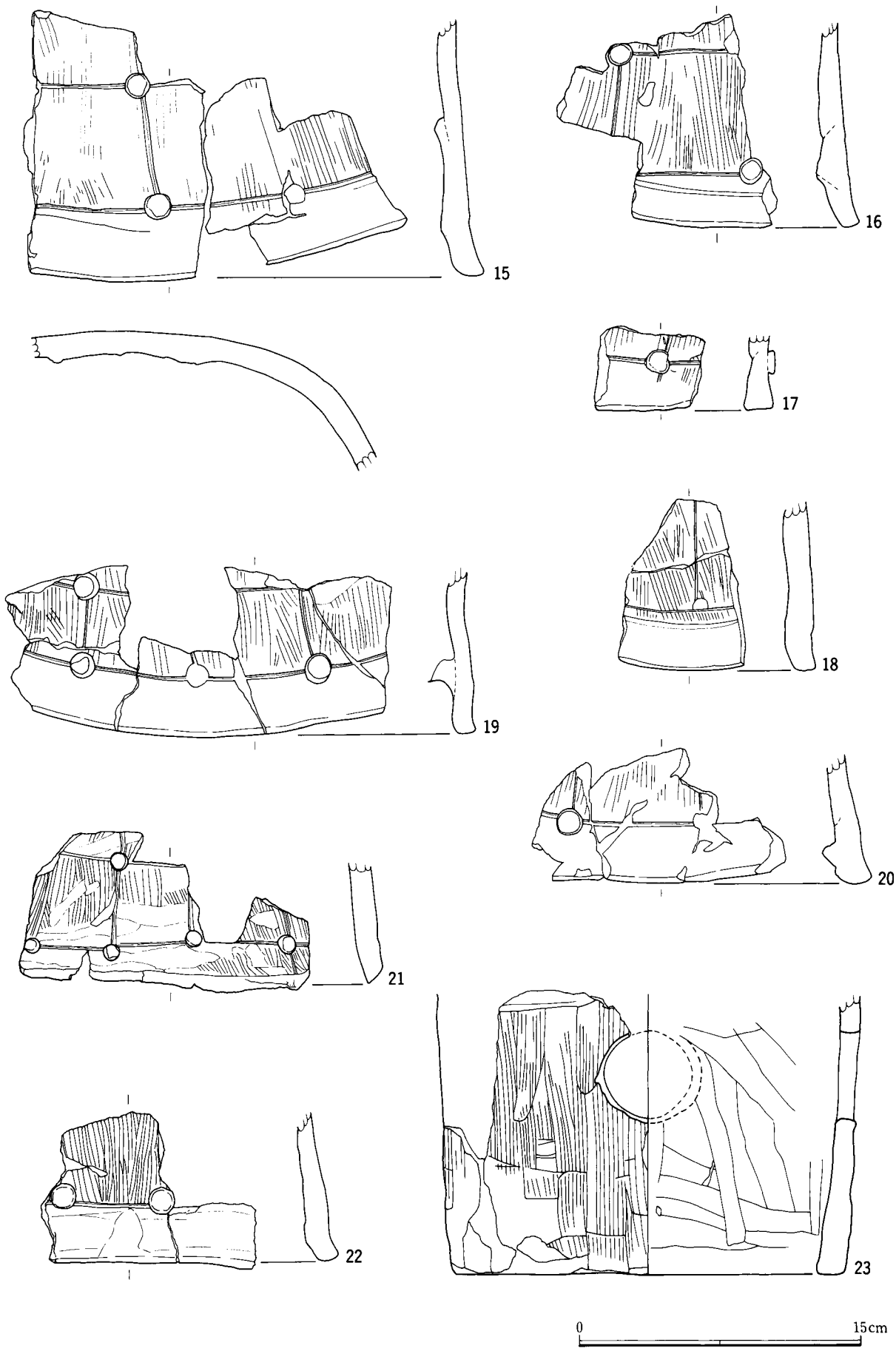
第49図　形象埴輪（12）



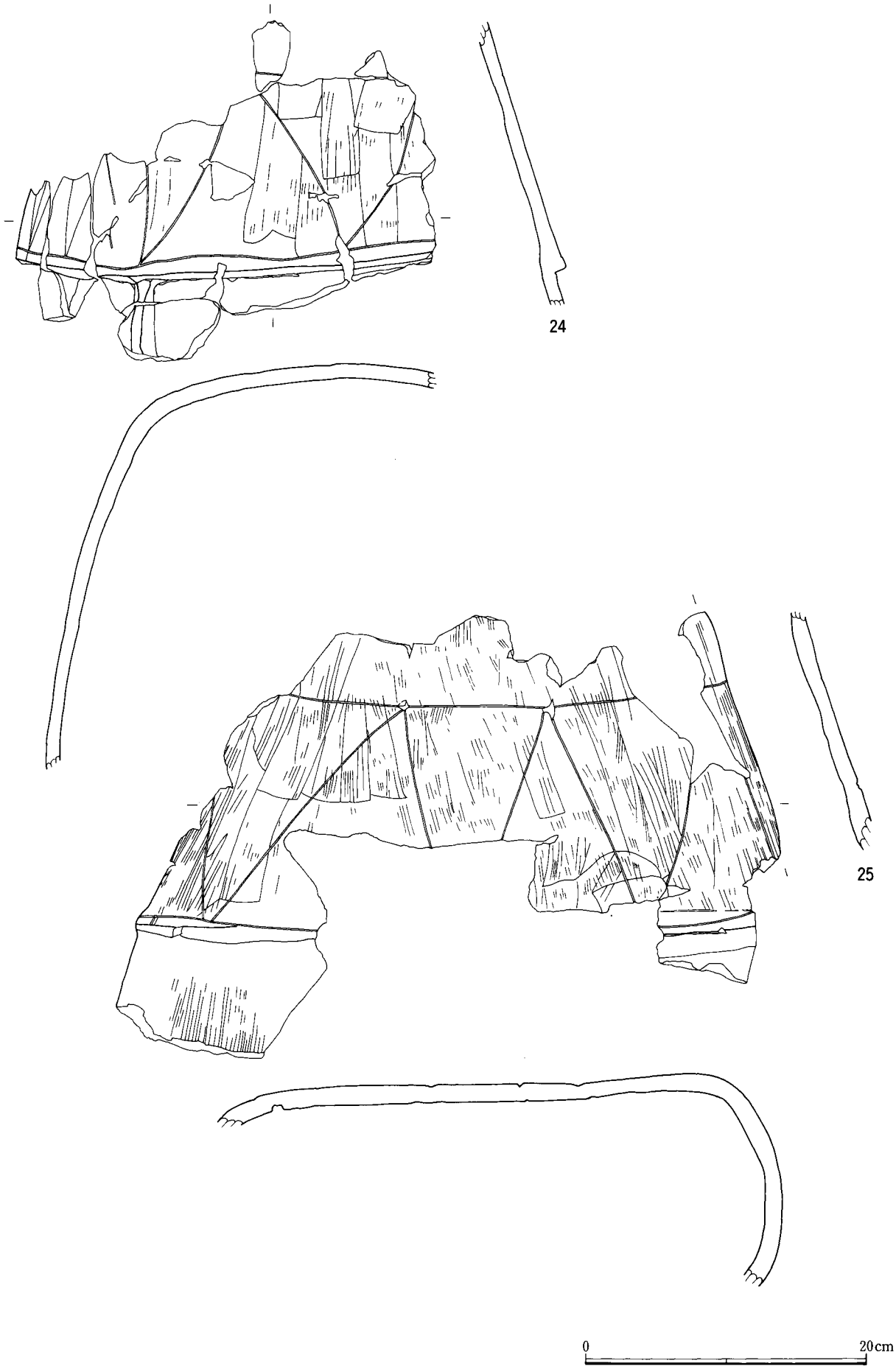
第50図　形象墳輪（13）



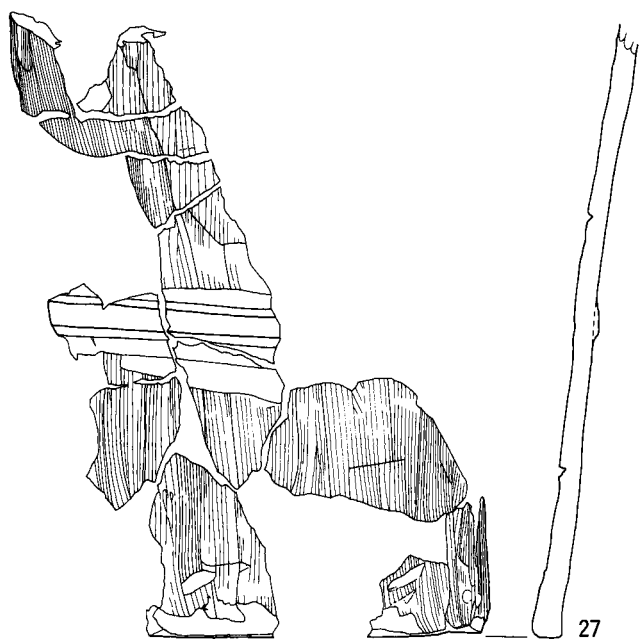
第51図　形象埴輪（14）



第52図　形象埴輪（15）



第53図　形象埴輪（16）



0 20cm

第54図　形象埴輪（17）

屋根上端部は幅広の粘土紐が貼付されており，焼成は良好である。欠損部分が多く詳細は不明であるが，平面の形状は隅の丸い方形と成っている。屋根は平坦なまま下端に達し，一段低い位置から居住部分の外壁が始まる。屋根に続く外壁に太めの柱表現も見られ，四柱式の家屋を模したものと考えられる。

2は，外面にタテ方向の刷毛目を施した後，1と同様の屋根葺きを表現したと考えられる連続する三角文を沈線で描いているが，平面の形状は隅の丸い長方形となっており1とは異なっている。焼成は良好で，屋根部分の下端には軒表現と考えられる頂部の丸い粘土帯が見られる。この下部に続く部分は外壁と考えられるが，屋根とほぼ同じ角度で裾方向に向かって延びている。

3は，外面にタテ方向の刷毛目を施しているが，1・2で見られた沈線による三角文は見られない。焼成は良好であるが表面の摩滅が著しい。平面の形状は2とほぼ同様の隅の丸い長方形であるが，色調は茶褐色で他の屋根とは別個体と考えられる。屋根の下端部には僅かに軒表現と考えられる頂部の丸い粘土帯が2筋見られ，この表現も他の屋根には見られない。

第54図4は家形埴輪の母屋居住部分の外壁あるいは基台部である。中央に一条の突帯があり，その上下はタテ方向の刷毛目で全面を調整している。突帯の断面は頂部が低く平坦な台形状である。家形埴輪には，芝山町殿部田1号墳№19の家形埴輪[10]のように母屋の居住部分の外壁の上に屋根の載るタイプと，群馬県吉井町神保下條2号墳出土の家形埴輪[11]のような基台部の上に載るタイプのものがある。前者の家形埴輪は居住部分の外壁はまっすぐ立ち上がるものが多く，山田宝馬にわとり塚古墳出土の家形埴輪の場合には

第5表　形象埴輪観察表（家形）

挿図	番号	図版	番号	器　種	現在高（cm）	刷毛目（外面）	内面調整	含有物	焼成	色調	突帯	刷毛目本数（最大値－最小値/2cm）
53	1	41	1	家形埴輪	－	タテ	ナデ	砂粒・細石粒	良好	黄褐色		12－10
53	2	41	2	家形埴輪	－	タテ	ナデ			黄褐色		8－7
54	3	41	3	家形埴輪	37.2	タテ	ナデ			茶褐色		8－7
54	4	41	4	家形埴輪	31.6	タテ	ナデ			黄褐色	凸	8－7

外壁とするにはやや外側に膨らみながら立ち上がっており，基台部の可能性を否定できない根拠となっている。

第55図1～第62図の38は動物形の形象埴輪である。

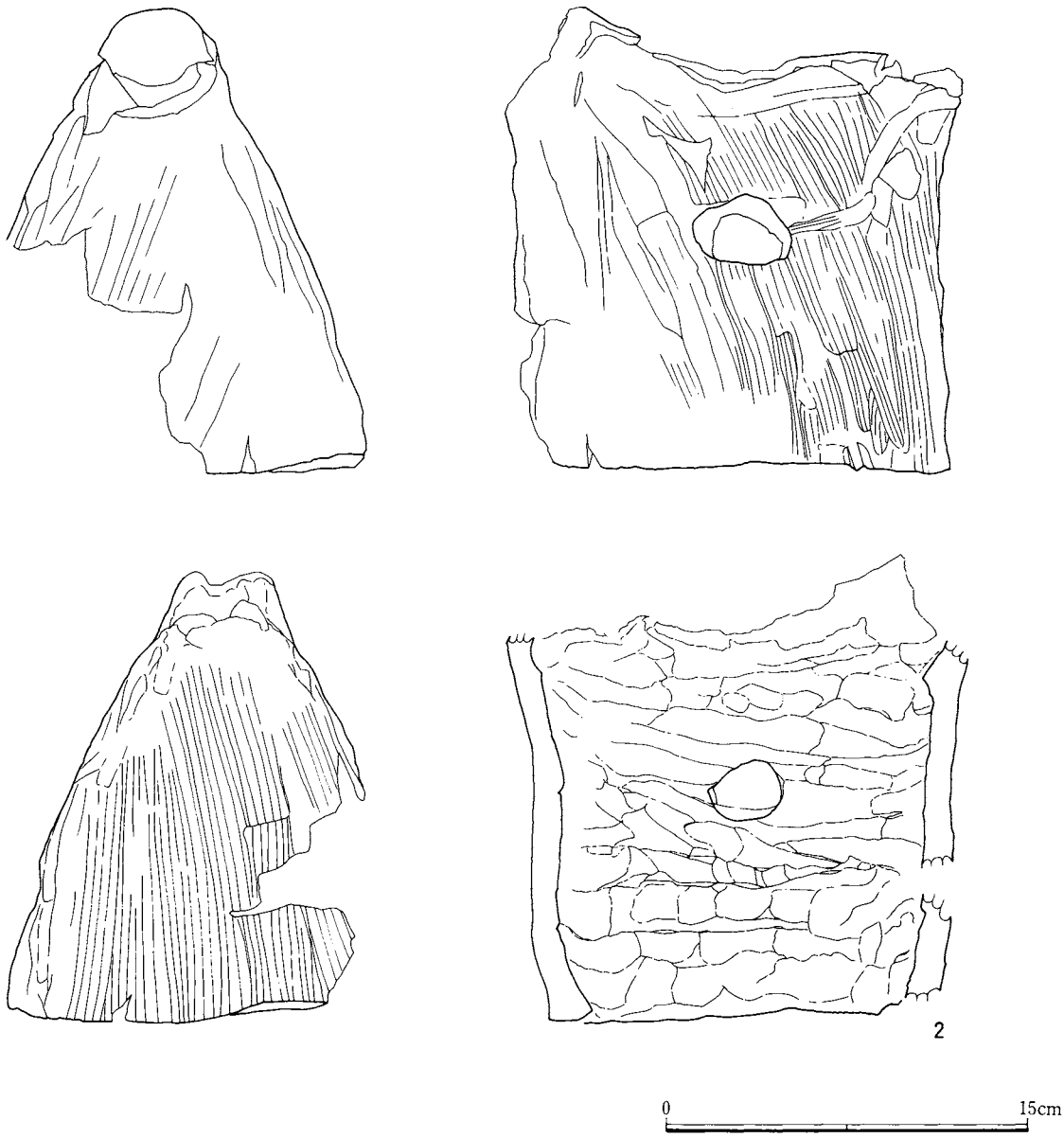
第55図1は鶏で，全長27.2cm，幅9.6cm，高さ19.5cmのほぼ完形品である。表面は2cmあたり最大で11本，最小で9本の粗い刷毛目を施すが規則性はあまり認められない。背中の羽部分はヘラ状工具による削りで面取りが行われた後，指頭によるナデ調整となっている。基部は円筒状で，粘土紐を積み上げ鶏の頭部まで一体で作られており，足の表現は見られない。基部と鶏の接合部には一対の透孔が見られる。また，頭頂部には僅かに鶏冠状の盛り上がりがみられ雄鳥であることを表現している。小川崎台遺跡3号墳出土の鳥形埴輪2[12]に同様の鶏形埴輪が見られるが，第56図の1の鶏は正面から見ると羽が胴部よりも飛び出しており，基部との境にタガ状の突帯は見られない。

第56図2は鳥形の埴輪の胴部である。頭部と尻尾部分を欠損しているため断定はできないが，胴部と基部がほぼ同じ幅で作られており，足の上に胴部を降ろして伏せている鶏のを表現したものであると考えられる。外面は全体に粗い刷毛目で調整され，羽の表現は見られない。また，基部には一対の透孔がある。

第57図3・第58図の4は馬形の形象埴輪である。復元できた馬はいずれも頭部を中心としたもので，全体を観察できる資料はない。

第57図3は首部のみの遺存であるが，たてがみ・轡及び鏡板・面繋の辻金具が丁寧に表現されている。

第55図　形象埴輪（18）

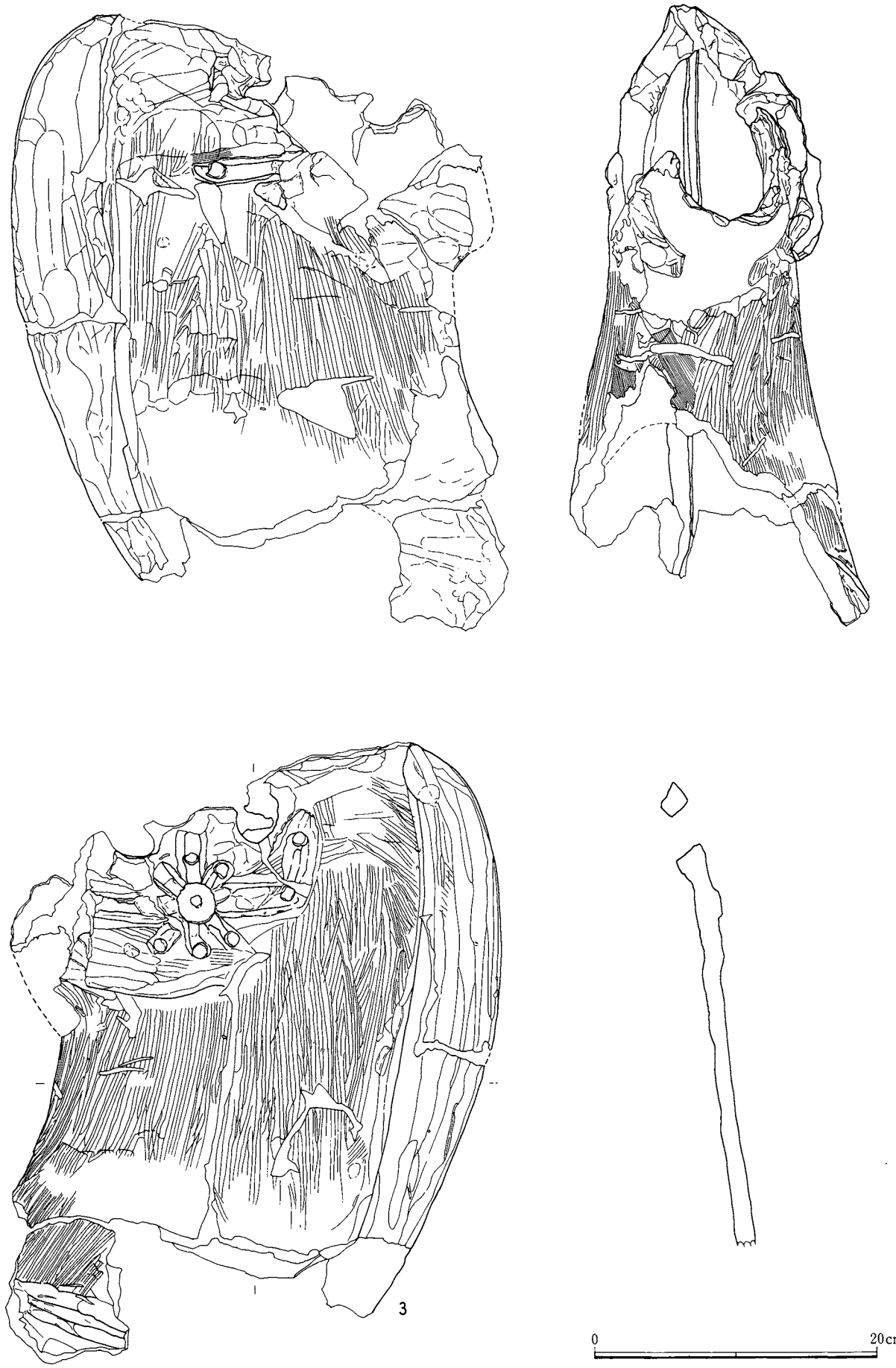


第56図　形象埴輪（19）

全体にタテ方向の刷毛目で外面を調整しており，目は切り抜き式である。首は幅広の粘土帯を一周させた後，たてがみ部で折り返したものをはりあわせ，終端を首の中に挟み込む状態で断面楕円形の円筒を作り出している。轡には幅の広い三日月形の鏡板が付され表面には数点の粘土小円板が貼付されている。面繋には等間隔で粘土小円板が貼付され手綱との連結ケ所である辻金具へと連なっている。辻金具は中心にやや大きな粘土円板を置き周囲に半円形の花弁状の飾りを配置している。

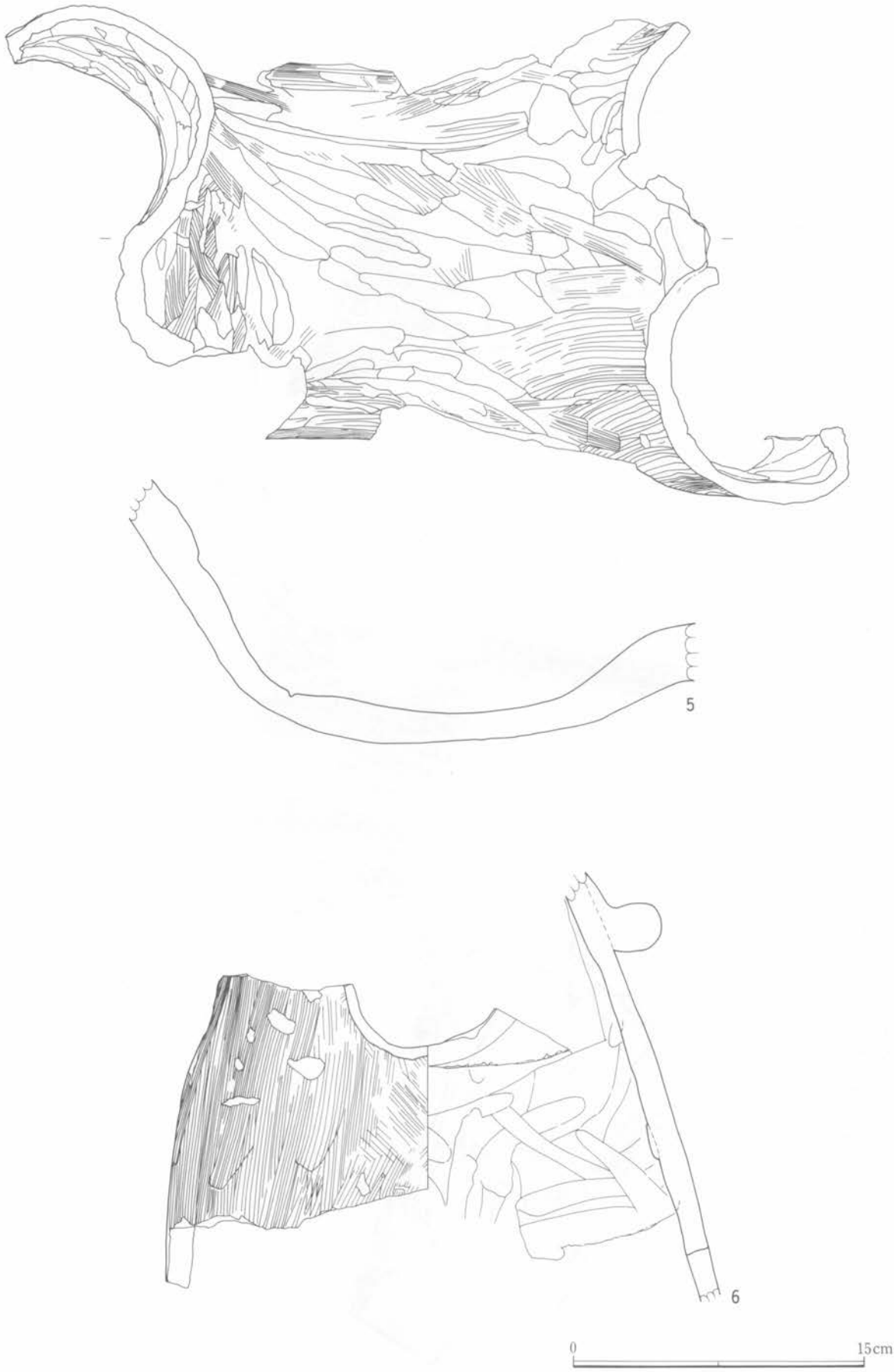
第58図４は飾り馬の頭部から首部の遺存である。頭部はたてがみを縛った角と扇状の飾りが表現されており，轡の飾りも第57図３と同様のものである。首部は幅の広い粘土帯を一周させた後片方の粘土帯のみ張り出す形でたてがみとする簡易な方法をとっている。首部に続いて僅かに鞍の一部も見られるが頭部から首部にかけての作りと比べるときわめて小型でバランスに欠ける。

第59図５は馬の胴部であるが，腹部面のみの遺存でいずれの馬のものか判断できない。全体に粗い刷毛目を基調とする。一部で腹部の形を整えるためと考えられるヘラ状工具による削り痕が目立っている。

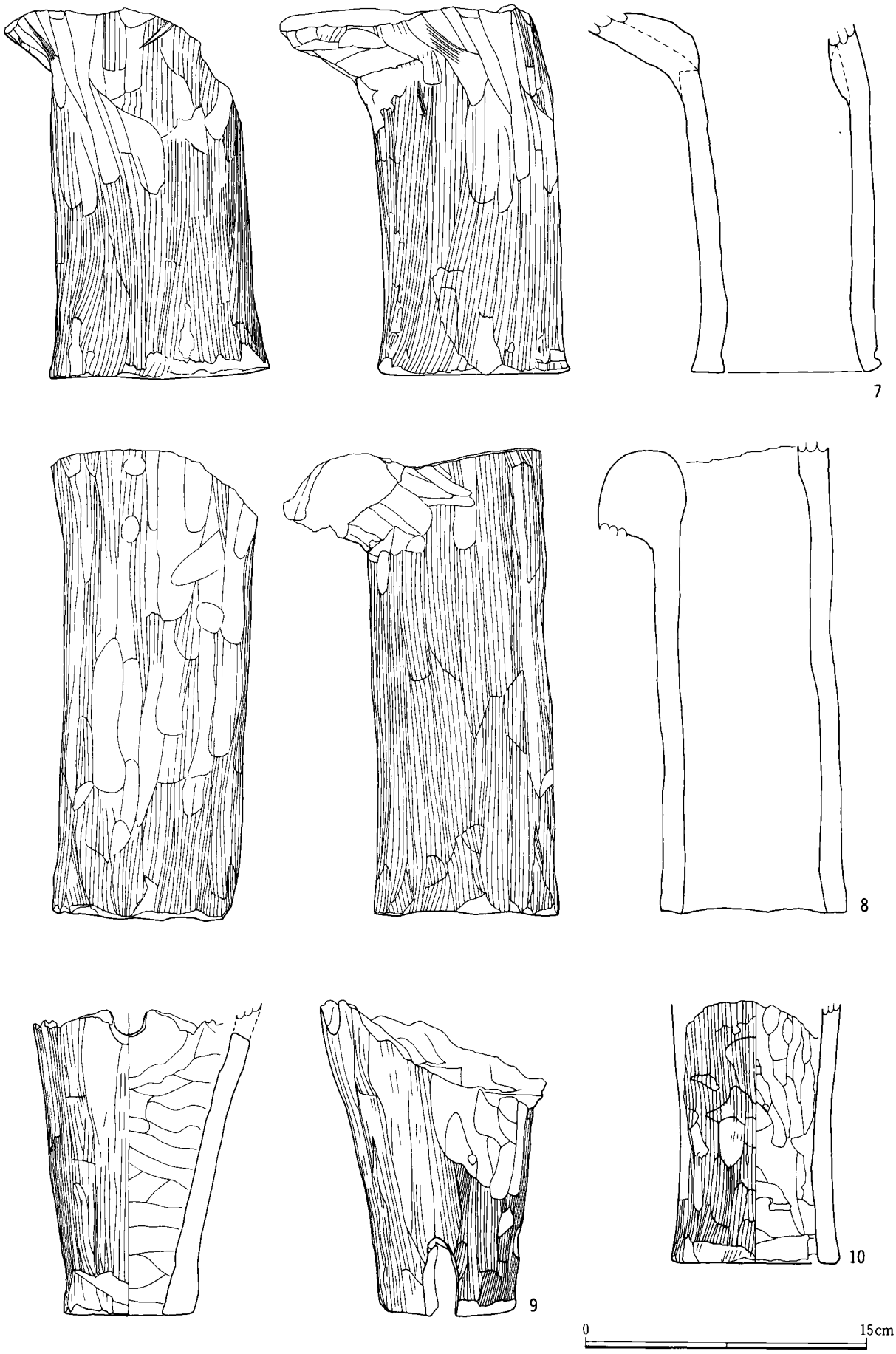


第57図　形象埴輪（20）

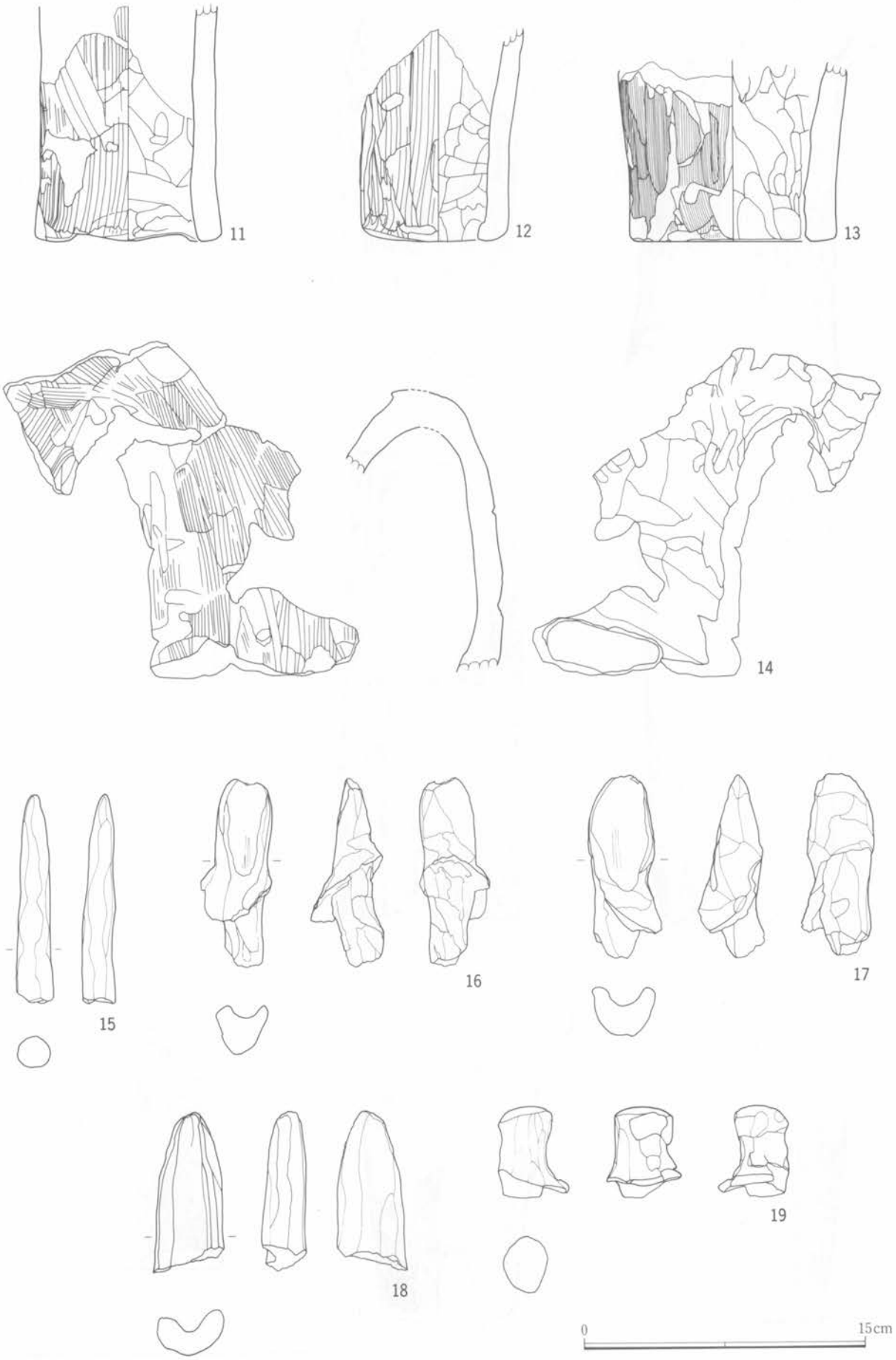
第58図　形象埴輪（21）



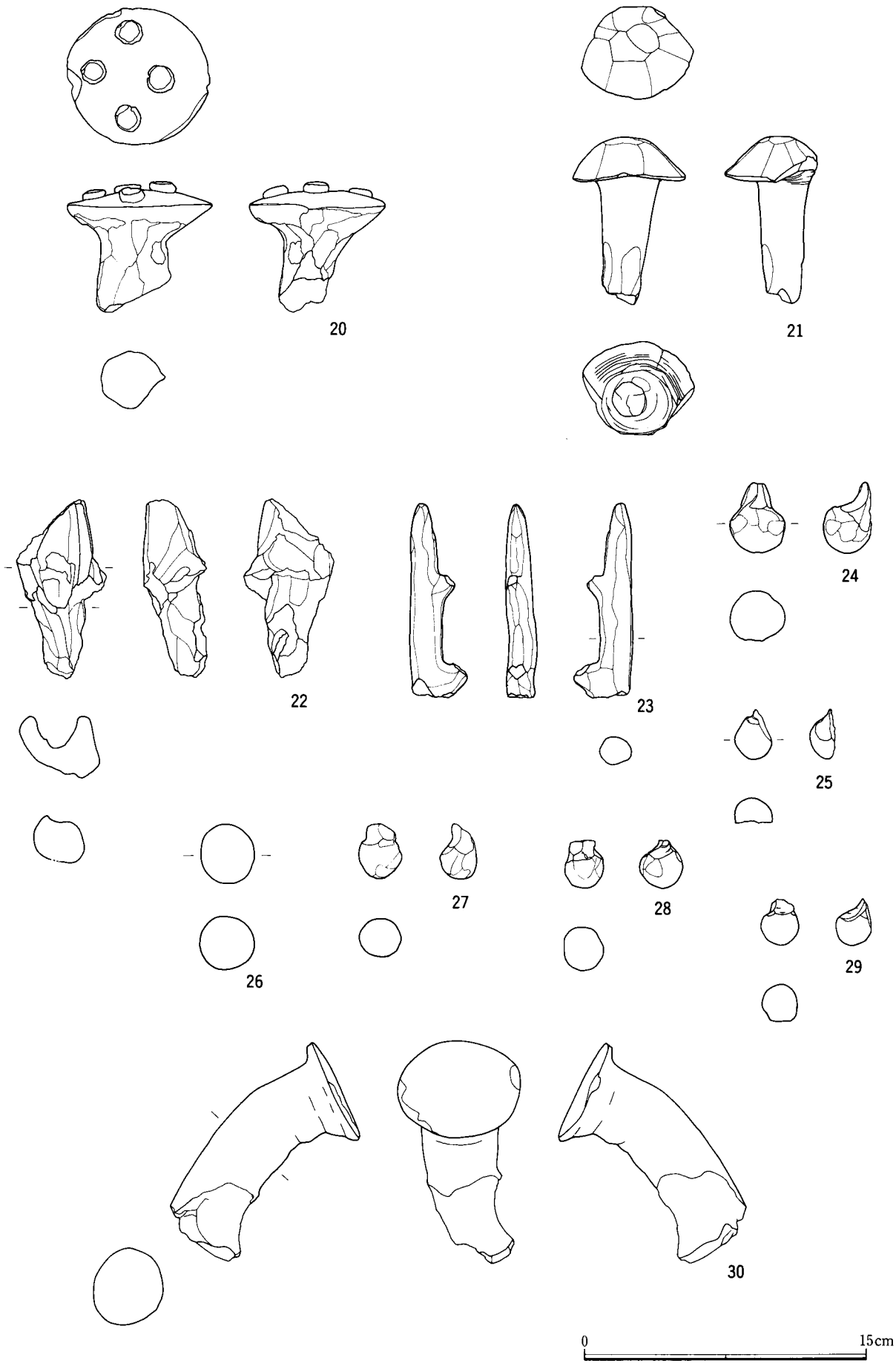
第59図　形象埴輪（22）



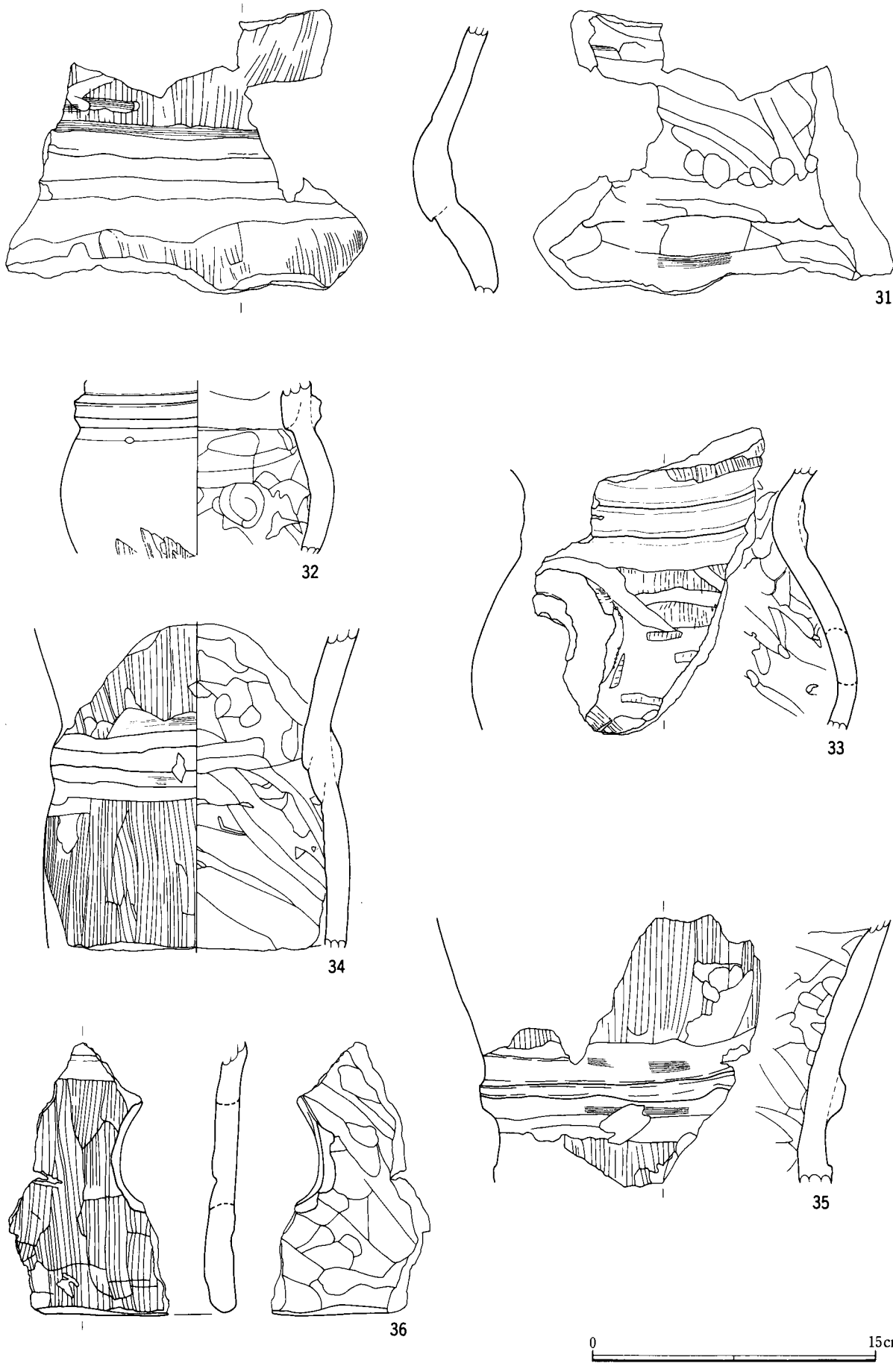
第60図　形象埴輪（23）



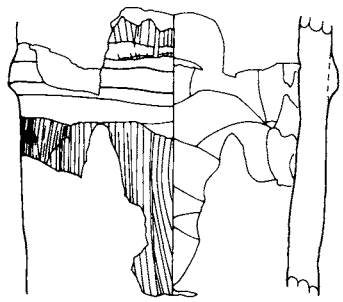
第61図　形象埴輪（24）

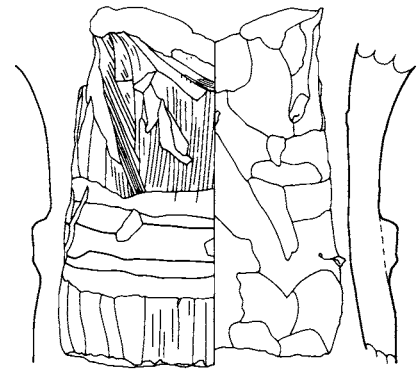


第62図　形象埴輪（25）



第63図　形象埴輪（26）





第64図　形象埴輪（27）

第59図６は馬の胸部付近の破片である。大きめの透孔が見られ，側面には鈴と考えられる球状の突起物が貼付されている。外面は丁寧な刷毛目調整である。

第60図７～10は動物の足部である。７・10については出土位置から見て馬のも考えられるが，８・９・第61図11・12はやや小型であり他の動物埴輪の存在も考えられる。７は直径14.8cm，脚部の高さ19.5cmの円筒形で，外面にタテ方向の刷毛目が見られる。刷毛目は，粗いヘラ削りで成形された器面上を，下から上にに向かって位置をずらしながら継ぎ重ねている。10は底径9.3cm，現存する脚部の高さ11cmの円筒形で，粗いヘラ削りで成形された器面上に，下から上に向かって刷毛目が継ぎ重ねられている。

８は直径12.9cm，脚部の高さは24.6cmの円筒形である。外面にタテ方向の刷毛目が見られ，刷毛目は下から上へ継ぎ重ねている。９は底径10.2cm，現存する脚部の高さ15.9cmの底部の絞り込まれた円筒形の脚部である。また，上部の欠損部分には透孔の痕跡が見られる。11は径10.9cm，現存する脚部の高さ12.6cmの円筒形で，外面は粗いヘラ削りによる成形後，タテ方向の刷毛目が下から上に向かって継ぎ重ねられている。12は径8.4cm，現存する脚部の高さ11.1cmの円筒形で，刷毛目は下から上に向かって継ぎ重ねられている。

13は底径11.1cm，現存する脚部の高さ9.6cmの円筒形で，底部がやや絞られている。外面は粗いヘラ削りで成形された後に，タテ方向の刷毛目が下から上に向かって継ぎ重ねられている。

14は動物埴輪の前足または後ろ足の股部分である，外面には丁寧な刷毛目が脚部ではタテ方向に，足の付け根部分ではカーブに沿って小刻みに継ぎ重ねられている。

第61図15～第62図30は動物埴輪の小部品である。15は動物埴輪の尾部である。先端の尖った形状で，外面は丁寧に削られている。

16・17・18は動物埴輪の耳である。16・17は出土位置から観察すると付近から出土している馬形埴輪のものと考えられる。19は動物埴輪の尾部。

第62図20・21は，出土位置がともに馬形埴輪の周辺であることや，馬の飾りと考えられるが具体的な部位は不明である。

22は動物埴輪の耳であるが，出土位置を考慮すれば第54図18と同一個体の可能性もあるが直接の接合関

係はない。23は第61図15と酷似し先端が尖っているが，途中に突起が観察され鹿の角に似ている。24～29は馬鈴である。表面を粗い削りで成形し放ちており，2㎝～3㎝程の大きさである。

30は長さ14.4㎝，径3.6㎝，端部は平坦なつくりで，この部分の径は6.6㎝である。平坦面は丁寧にナデ調整されており，山武町小川崎台3号墳出土の馬形埴輪A－1に見られる尻尾に酷似する。

第63図31～第64図38は形象埴輪の基台部である。いずれも上部に載っていた形象部は特定できない。

31はくびれ部に突帯を有する。突帯の高さは低く，くびれ部に張り付いており，僅かに窺われる稜線からようやく突帯と認められる程度である。また，突帯の上下にはタテ方向の刷毛目が見られる。

32・33は丸味のある器形で突帯を有する。32の突帯は頂部の高い断面台形状で，稜線も明瞭である。33の突帯は頂部の低い断面台形状で，頂部は緩やかに内弯する。

34は円筒状の器形を絞り込むように突帯が張り付く。突帯の断面は稜線の脆弱な台形状で，突帯を挟んで上下にはタテ方向の刷毛目が見られる。刷毛目は小刻みに継ぎ重ねている。

35は逆ハの字に絞り込まれる器面に断面台形状の突帯が張り付き，突帯の上下にはタテ方向の刷毛目が見られる。突帯の頂部は，高さがあるものの平坦面の幅は不安定である。

36は透孔を有する基台部である。外面にはタテ方向の刷毛目が見られ，欠損部分には突帯の一部が窺われるが断面の形状等は不明である。透孔はヘラ状工具で丁寧に整形されており，刷毛面は短く継ぎ重ねられている。

37は円筒状の断面台形状の突帯が張り付いており，突帯の上下にはタテ方向の刷毛目が見られる。

38は内弯する器形に断面台形状の突帯が貼付され，突帯の上部にはタテ方向の刷毛目が見られ，下部にも僅かにタテ方向の刷毛目の痕跡が見られる。

第6表　形象埴輪観察表（動物）

挿図	番号	図版	番号	器　種	現在高（㎝）	底径（㎝）	刷毛目（外面）	内面調整	含有物	焼成	色　調	透孔	刷毛目本数（最大値－最小値/2㎝）
55	1	43	1	鶏形埴輪	35.1	10.9	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	黄褐色	円	11－9
56	2	44	2	鶏形埴輪	18.9	16.5	タテ・ヨコ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	黄褐色	楕円	9－7（頭部）
57	3	44	3	馬形埴輪	39.2	－	タテ・ヨコ・ナナメ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	暗茶褐色		－
58	4	44	4	馬形埴輪	48.8	－	タテ・ヨコ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	暗茶褐色		－
59	5	44	5	馬形埴輪	－	－	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	暗茶褐色		14－7
59	6	44	6	馬形埴輪	－	－	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	暗茶褐色	円	12－7
60	7	45	7	動物埴輪	19.5	11.7	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	暗茶褐色		16－9
60	8	45	8	動物埴輪	23.7	10.2	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	暗茶褐色		12－7
60	9	45	9	動物埴輪	15.9	6.9	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	暗茶褐色		8－7
60	10	45	10	動物埴輪	13.5	9.0	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	暗茶褐色		13－6
61	11	45	11	動物埴輪	12.6	10.2	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	暗茶褐色		11－8
61	12	45	12	動物埴輪	10		タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	暗茶褐色		10－7
61	13	45	13	動物埴輪	10.2	8.1	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	暗茶褐色		6
61	14	45	14	動物埴輪	9.9	11.1	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	暗茶褐色		11－6

第7表　形象埴輪観察表（基台部）

挿図	番号	図版	番号	器　種	現在高（㎝）	刷毛目（外面）	内面調整	含有物	焼成	色　調	透孔	突帯	刷毛目本数（最大値－最小値/2㎝）
63	31	46	31	基台部	－	タテ	ナデ	細石粒	良好	暗褐色		凸	18
63	32	46	32	基台部	9.0	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	普通	暗褐色		凸	－
63	33	47	33	基台部	15.9	タテ	ナデ	粘土粒	普通	暗褐色		凸	10－8
63	34	47	34	基台部	16.9	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	暗褐色		凸	7
63	35	47	35	基台部	13.8	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	良好	暗褐色		凸	10－8
63	36	47	36	基台部	14.1	タテ	ナデ	砂粒・粘土粒	普通	暗褐色	円	凸	6
64	37	47	37	基台部	10.8	タテ・ヨコ	ナデ	細石粒	良好	暗褐色		凸	9
64	38	47	38	基台部	14.1	タテ	ナデ	砂粒	良好	暗褐色		凸	9－6

4　その他の出土遺物

第65図1～17は，山田宝馬にわとり塚古墳出土の土器及び金属製品である。いずれも周溝内の出土であり，山田宝馬にわとり塚古墳の時期決定の証左には至らない。

1・2は土師器甕である。1の口縁部は胴部から外に向かってくの字状に外反する。胴部外面はヘラ削り，口縁部はヨコナデ調整である。2の口縁部は球状の胴部から短く立ち上がり，胴部外面はナナメ及びタテ方向のヘラ削りが見られる。口縁部はヨコナデ調整である。

3～5は須恵器である。3は蓋坏の坏身である。体部と口縁部の境の受部はほぼ水平に延び，口縁部の立ち上がりは内傾する。外面は回転ヘラ削りが全面に及び，内面は回転ナデ調整である。4は蓋坏の蓋である。頂部は比較的高く，外面は回転ヘラ削りで，内面は回転ナデ調整である。5は短頸壺である。体部は中位が最大径となる球状で，底部は平坦面となっている。また，口縁部は体部との境から短く外反する。体部下位から底部にかけては回転ヘラ削り，それより上位は回転ナデ調整である。

6は土師質の須恵器坏である。体部外面は回転ナデ調整，底部付近は手持ちヘラ削り，底部は手持ちヘラ削りとなっている。

第8表　土器観察表

挿図番号	図版番号	器　種	法　量（cm）					成形・調整の特徴	胎土・焼成・色調
			口縁部径	体部径（胴部径）（底部径）	受部長	口縁部高	器　高		
65　1	44	土師器甕	24.6	6.7	－	3.9	26.5	輪積み成形 胴部外面ヘラ削り 口縁部ヨコナデ	細石粒・粘土粒を含む 焼成は良好 暗茶褐色
65　2	44	土師器甕	14.5	－	－	3.0		輪積み成形 胴部外面ヘラ削り 口縁部ヨコナデ	砂粒・粘土粒をを含む 焼成は良好 暗茶褐色
65　3	44	須恵器蓋坏（坏蓋）	13.2	－	－	－	4.1	ロクロ成形 体部外面回転 ヘラ削り 体部内面回転 ナデ	細石粒を含む 焼成は良好 青灰色
65　4	44	須恵器蓋坏（坏身）	14.5	－	0.8	1.5	4.0	ロクロ成形 体部外面回転 ヘラ削り 体部内面回転 ナデ	細石粒を含む 焼成は良好 青灰色
65　5	44	須恵器短頸壺	9.8	4.6	－	1.2	6.5	ロクロ成形 体部下位外面 回転ヘラ削り 体部中位以上 回転ナデ 体部内面回転 ナデ	細石粒を含む 焼成は良好 青灰色
65　6	44	須恵器坏（土師質）	11.7	6.9	－	－	3.8	ロクロ成形 体部外面回転 ヘラ削り 体部内面回転 ナデ	細石粒・粘土粒を含む 焼成は良好 灰褐色

7～16は鉄製品であるが，いずれも製品の大半を欠損する。

7は鉄製の刀子片であるが，大半を欠損する。8は台形状の鉄製品である。幅のある先端部に刃部状の

反りが見られるものの詳細は不明である。9は断面方形の鉄製棒状品であるが詳細は不明である。10は板状の鉄製品であるが欠損部が大きく詳細は不明である。11は板状の片端がU字状に削ぎ込まれた鉄製品であるが，帰属する時代及び性格については不明である。12は鉄製の鎌である。長さ13.5㎜，幅2.3㎜の比較的小型の製品であるが，柄の装着部分の作りが古墳時代の鎌ではない。13は9と同様の棒状鉄製品であるが，断面は円形である。14・15は鉄製釘である。16は鉄製の留め金具である。目釘孔が見られるが欠損部分が大きいため詳細は不明である。

17は近世の銭貨である寛永通宝で，縁外径24.4㎜，縁内径19.7㎜（表），郭外径7.7㎜（表），郭内径6.1㎜（表），縁内径17.4㎜（裏），郭外径10.1㎜（裏），郭内径5.9㎜（裏）である。

注1　芝山町立芝山古墳・はにわ博物館福間元氏のご教示によれば，内面が朱塗りの箱式石棺であったと伝えられている。

2　山田宝馬古墳群と隣接する芝山町浅間台遺跡では，整理作業の過程で山田宝馬にわとり塚古墳の周溝を切断する調査区ラインに並行して円筒埴輪片が大量に出土していたことが判明した。これらの円筒埴輪片は，山田宝馬にわとり塚古墳の後円部墳丘が周溝沿いの裾部を大きく削平されているため，墳丘の喪失とともに散逸した円筒埴輪の一部であると考えられる。また，後円部南端の4Bグリッド・4Cグリッドでは円筒埴輪片は出土しておらず，にわとり塚古墳の長軸延長部分にあたるこの付近の墳丘には円筒埴輪列の有無は確認できない。

3　1973　轟俊二郎『埴輪研究』第1冊

円筒埴輪の刷毛目の違いから，円筒埴輪を製作した工人の使用した工具の異同を観察するため，任意の単位幅内における刷毛目の本数を計測し，表記した。本報告書では，轟の行った2㎝幅内の刷毛目の本数計測を踏襲し，同幅内における刷毛目の本数について（本数/2㎝）で表記し，部位によって異なる刷毛目の本数が認められる場合にはその最大の本数と最小の本数を計測し，（最大値－最小値/2㎝）と表記することとした。

1999　『山武町小川崎台遺跡』千葉東金（二期）埋蔵文化財調査報告書3　㈶千葉県文化財センター

突帯の断面形については，埴輪凡例の中で，突帯をM形，台形，三角形，丸形，平形に細分しているが，山田宝馬にわとり塚古墳出土の円筒埴輪の観察では断面が台形状のものと三角形のものに集約され，同じ個体に双方の断面形が併存することが認められ，断面の形状の違いが工人の差を反映する可能性が低いと考えられるため，本報告書では三角形タイプと台形状タイプに大別するに留めた。

4　1978　丸子実他『城山1号前方後円墳』千葉県香取郡小見川町教育委員会

5　1975　椙山林継他　下総町小川台古墳群　芝山はにわ博物館（P.55）

6　同上（P.56）

7　1976　北野耕平　河内野中古墳の研究　大阪大学文学部国史研究室研究報告第二（P.95－P.102）

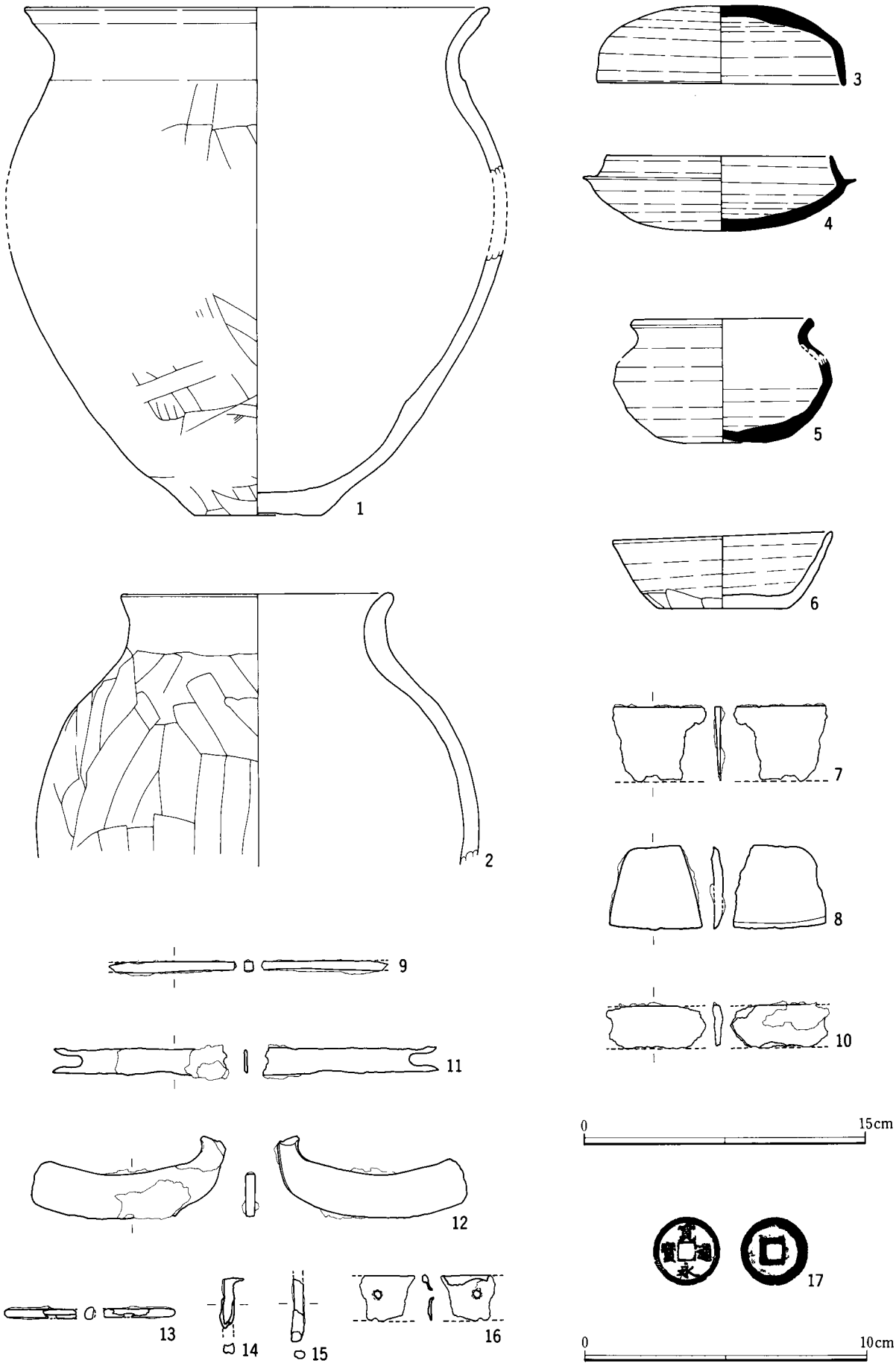
8　1999　『山武町小川崎台遺跡』千葉東金（二期）埋蔵文化財調査報告書3　㈶千葉県文化財センター（P.100・P.101）

9　同上（P.99－P.101）

10　1980　濱名徳永他『上総殿部田古墳宝馬古墳－千葉県山武郡芝山町殿部田・宝馬所在古墳調査報告書－』芝山はにわ博物館

11　1992 『神保下條古墳』群馬県教育委員会他

12　1999 『山武町小川崎台遺跡』千葉東金（二期）埋蔵文化財調査報告書 3　㈶千葉県文化財センター（P.129）



第65図　その他の出土遺物

第4章　まとめ

山田宝馬古墳群は，総数195基の古墳の所在が知られている。山田宝馬にわとり塚古墳は，昭和32年の調査の際，鶏形埴輪を始めとする形象埴輪の出土が伝えられている。[1] 今回の調査では円筒埴輪と形象埴輪はいずれも小破片での出土であった。復元作業によって元の姿を再現できた埴輪は円筒埴輪1個体，形象埴輪では鶏形埴輪1個体，人物埴輪1個体である。多くの埴輪が部分的な姿に留まっているのは，今回の調査範囲が周溝部分を中心としていたことが原因の一端と考えられる。

山田宝馬にわとり塚古墳に設置された埴輪は，各個体の復元率がきわめて低いことから，さまざまな形態の埴輪について，各個体単独での分析が困難なため，形象埴輪相互の位置関係や円筒埴輪との関わりを中心に検証を行うこととしたい。

山田宝馬にわとり塚古墳の埴輪は，整理作業の結果円筒埴輪と形象埴輪から構成されていることが明らかとなった。「第3章第1節2埴輪の出土状況」により，円筒埴輪が前方部からくびれ部を経て後円部の周溝まで比較的広い範囲で出土していることが判明した。一方，形象埴輪はその種別により出土位置に特徴のあることも併せて判明した。

形象埴輪の出土位置を整理すると，前方部先端に近い1A43グリッド・2A03グリッドでは動物埴輪の出土が顕著である。北から鶏形埴輪2羽分に続き馬形埴輪2頭分が検出された。その南2A13グリッド・2A14グリッドでは大型のよろい形埴輪が検出された。

よろい形埴輪の出土地点と重なるように，家形埴輪が2A13グリッド・2A14グリッド，2A33グリッド・2A34グリッドで検出されている。

また，ほぼ同じ2A03グリッド・2A04グリッド，2A13グリッド・2A14グリッドからは武人埴輪2体分が検出されている。人物埴輪はこの付近から南に展開しており，武人埴輪のすぐ南には肩部裸で，周辺から検出された裸足の足に関わりをもつと考えられる人物が続く。

その南の2A23グリッド・2A24グリッド，2A33グリッド・2A34グリッドからは首に飾りを付けた人物の頭部が2体分検出されている。

2A33グリッド・2A34グリッドは，にわとり塚古墳のくびれ部に相当する地点であるが，頭部に被り物を装着した人物が2体検出されている。さらに2A42グリッド付近にはやはり頭部に被り物を装着した人物の頭部が検出されている。これらの人物埴輪は，着衣の様子や被り物から明らかに武人ではなく，被葬者の近従者であると考えられる。これより南には動物埴輪片が散発的に検出されたにすぎない。

山田宝馬にわとり塚古墳の形象埴輪は，前方部から鶏形・馬形を含む動物埴輪，人物埴輪（武人）・よろい形埴輪，家形埴輪，人物埴輪（近従者），動物埴輪と続く埴輪列が想定され，特に家形埴輪の出土地点がくびれ部付近であることは注目される。

また，形象埴輪の出土位置の概況と円筒埴輪の出土状況（第7図）を観察すると，山田宝馬にわとり塚古墳の埴輪配列は形象埴輪と円筒埴輪が混在して列を構成していた可能性が考えられる。現在確認できる限られた情報の中で山田宝馬にわとり塚古墳の埴輪列について理解を進めるためには，類例となる周辺の古墳の調査結果と比較検討することは不可欠である。そこで，山田宝馬古墳群周辺の埴輪列を持つ古墳の

状況を観察することで，山田宝馬にわとり塚古墳の埴輪配列復元の可能性について検討を加えることとする。

山田宝馬にわとり塚古墳と同じ山田宝馬古墳群の宝馬35号墳（旧宝馬古墳）では，埴輪列は前方部東側のくびれ部を中心に，前方部先端に近い部分からの形象埴輪群と円筒埴輪群がやや墳丘裾に出土位置を下げながらも連続的に後円部にかけて列を成している。形象埴輪は，前方部方向より人物埴輪・靫形埴輪・人物（女子）埴輪の順に列を成し，くびれ部には円筒埴輪列が形象埴輪に続いて樹立されている。[2)]

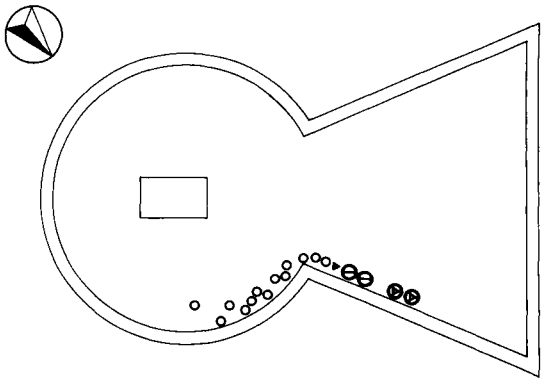
芝山町殿部田１号墳（武射）の埴輪列の場合には，くびれ部を中心に前方部方向より飾り馬・人物・馬・挂甲の武人・衝角付冑の武人・帽子を被る人物・人物埴輪（女子）と続き円筒埴輪を挟みながら人物埴輪が続く。くびれ部には家形埴輪が位置し，これより後円部側には円筒埴輪が列を成す。[3)]

芝山町高田木戸前１号墳（武射）の埴輪列では，前方部と後円部の境にあたるくびれ部から後円部を取り巻くように検出されており，形象埴輪と円筒埴輪が同じ埴輪列内に混在している。また，くびれ部付近には正装した女子や武人の人物埴輪に混じり大刀形埴輪や家形埴輪が配置され，後円部に向けて巫女や武人の人物埴輪が続き円筒埴輪を交えて三度人物埴輪となる。その後，埴輪列は円筒埴輪のみの編成となり西側後円部のくびれ部に向かって続いている。前方部北端の周溝と考えられる付近には４羽以上の鶏形埴輪が検出されている。[4)]

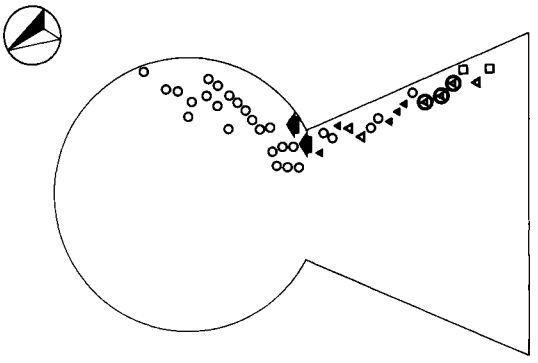
山武町小川崎台遺跡３号墳（武射）の埴輪列では，北側墳丘のくびれ部付近に頭部に被り物を装着した人物，鶏形埴輪，武人埴輪，家形埴輪に続いて馬形埴輪が馬子とも理解できそうな人物とともに列を成している。

また，形象埴輪はくびれ部付近にのみ配列され，形象埴輪に続く円筒埴輪列は墳丘のほぼ全域に列を成している。[5)]

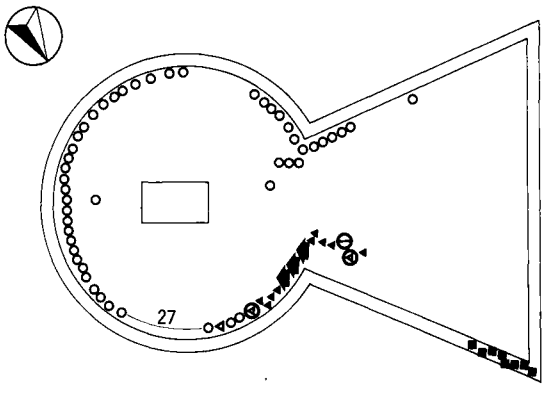
山武町芝山古墳群姫塚古墳（武射）の埴輪列は，墳丘をほぼ全周していたものと考えられており，北側墳



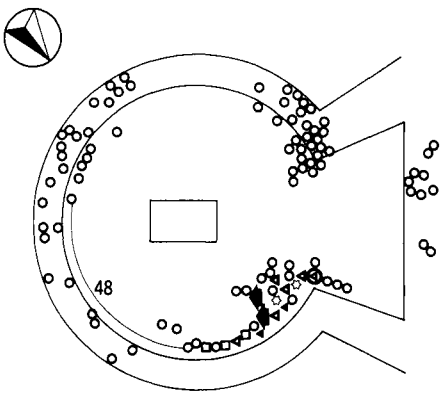
宝馬35号墳



殿部田１号墳

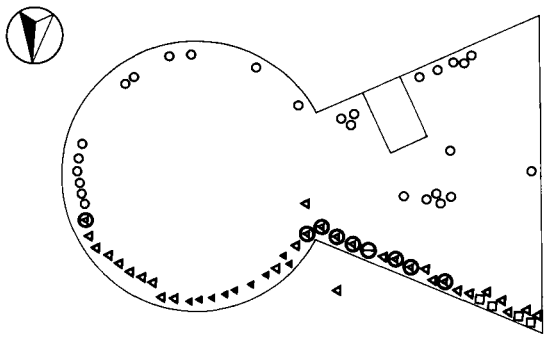


高田木戸前１号墳

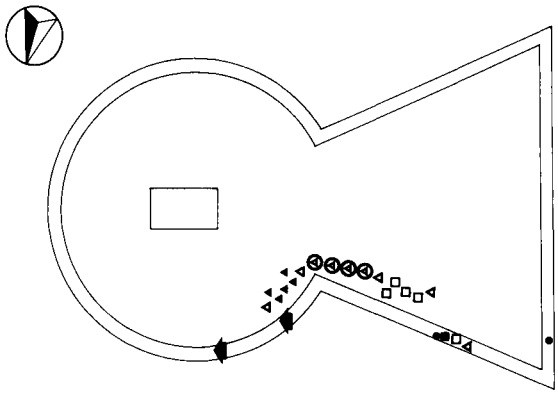


小川崎台遺跡３号墳

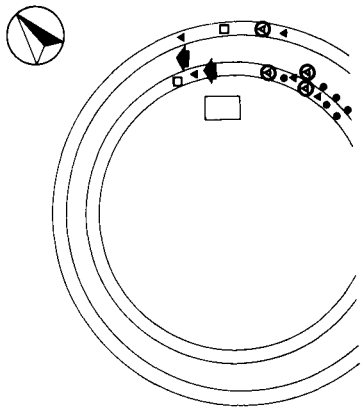
第66図　周辺古墳の墳輪列模式図（１）



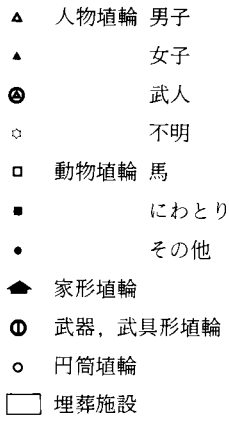
姫塚古墳



小川台古墳群５号墳



竜角寺101号墳



第67図　周辺古墳の埴輪列模式図（２）

丘は前方部から後円部にかけて形象埴輪が，南側墳丘には全面的に円筒埴輪が同一の列を構成している。埴輪列のうち，形象埴輪は前方部北西端の4組の馬子と馬及び男女の人物や武人が列を成し，くびれ部付近には胡座して天冠を被る人物埴輪や琴を弾く人物が位置し，さらに後円部に向かって男女の人物埴輪の列が続き，後円部北東端の左腰に佩刀の人物埴輪を最後に円筒埴輪列となっている。また，北側墳丘を下った平坦面から形象埴輪列を見上げ跪く人物埴輪も検出されている。[6)]

匝瑳郡光町小川台古墳群５号墳（下海上）の埴輪列の場合には，くびれ部を中心に形象埴輪列があり，前方部方向より馬形埴輪・馬子とされる人物埴輪・馬形埴輪と続き，くびれ部には武人埴輪が４体列を成し，後円部に向かって人物埴輪・家形埴輪の順となっている。[7)]

また，印旛郡栄町竜角寺古墳古墳群101号墳（印波）の埴輪列の場合には，円筒埴輪が後円部の全周に樹立されていたものと考えられており，形象埴輪は４か所ある埋葬施設のうち，第２主体部付近に集中して検出されたことが報告されている。[8)] 竜角寺101号墳は，二重周溝を有し北東隅の内周溝に中提造り出しを備えた帆立貝式の前方後円墳である。形象埴輪は第2主体部に面した中提造り出し部分付近から家形埴輪・馬形埴輪・人物埴輪（女子）が検出され，第２主体部付近からは楯を持つ武人・猪・水鳥・犬・鹿などの動物埴輪が検出されている。

以上の古墳における埴輪列の観察によれば，宝馬35号墳・殿部田１号墳・木戸前１号墳・小川崎台遺跡３号墳・姫塚古墳では，円筒埴輪と形象埴輪が同一標高値で検出される，いわゆる下総型埴輪配列の特徴が見られる。くびれ部には家形埴輪や武器・武具形の形象埴輪を伴い，馬形・鶏形の埴輪が埴輪列に加わっている。これらの古墳においては，円筒埴輪は形象埴輪を補完する位置に，あるいは従属的に列に加えられたかの印象がある。

隣接する印波国造の領域に属する竜角寺101号墳で

も，円筒埴輪と形象埴輪が配置位置を明確に区別し，埋葬施設を強く意識した位置に家形埴輪・武人埴輪・動物埴輪が配置されている。ところが，栗山川東岸の下海上国造の領域に属する小川台５号墳では，家形埴輪はくびれ部からやや距離を置き，くびれ部には４体の武人埴輪が位置している。これは，姫塚古墳の埴輪列が埋葬施設の位置とは無関係なくびれ部において人物に主眼をおいた配列を行っていることと通じるものがある。

竜角寺101号墳が埋葬施設と密接に関わる位置に形象埴輪群を配置したのに対して，山田宝馬にわとり塚古墳の形象埴輪列は前方部北西端からくびれ部を通過し，後円部の一部にまで達している。形象埴輪の出土位置はいずれも周溝内であり，墳丘からの転落を考慮すれば墳丘上に位置していたと考えられる埴輪配列の状況は多少の変更の余地はあるものとしても，周辺古墳の埴輪列を検討した結果，形象埴輪列の配列は概ね出土位置に反映されているものと考えられる。

さらに，この地域の古墳の埴輪列が円筒埴輪と形象埴輪を混在させていることから，形象埴輪列に続いて後円部には円筒埴輪列が加えられていたものと考えられる。このことは，昭和62年度に調査された隣接する浅間台遺跡から大量の円筒埴輪片が出土したことも傍証となっている。

また，昭和32年の調査の際の墳丘上における埴輪列の実体が明らかでないため，墳丘全体の埴輪列について断定することはできないが，後円部に想定される円筒埴輪列は，後円部南側の周溝内及び付近には検出されておらず，後円部西側墳丘で絶たれる可能性もある。

山田宝馬にわとり塚古墳周辺の古墳に見られる埴輪列の状況は，竜角寺101号墳に見られた埋葬施設の存在を意識した埴輪の配列とは明らかに異り，墳丘（古墳）周辺に向けて，くびれ部を中心とした墳丘上の形象埴輪の列を誇示しているかのような印象を与えている。山田宝馬にわとり塚古墳の埴輪列は，このような当該地域の古墳文化の特性に強く影響された形象埴輪列を擁していたものと理解される。

注１　芝山町観音教寺はにわ博物館には，昭和32年調査時の出土と伝えられる鶏形埴輪が収蔵されている。

２・３　1980　濱名徳永他『上総殿部田古墳宝馬古墳－千葉県山武郡芝山町殿部田・宝馬所在古墳調査報告書－』芝山はにわ博物館

４　坂井利明「千葉県芝山町高田第1号墳発掘調査概報」『塔影』第1集本郷学園

５　1999　『山武町小川崎台遺跡』千葉東金道路（二期）埋蔵文化財調査報告書３　㈶千葉県文化財センター

６・７　1975　濱名徳永他『下総小川台古墳群』芝山はにわ博物館

８　1988　竜角寺古墳群調査会『千葉県成田市所在竜角寺古墳群第101号墳発掘調査報告書』千葉県教育委員会

報告書によれば，竜角寺101号墳は当初二重周溝を持つ円墳として構築され，短い前方部を付け足したものとされている。第２主体部及び第４主体部はくびれ部付近に位置していることになる。

写 真 図 版

遺跡周辺航空写真

図版 2

にわとり塚古墳近景
（南から）

にわとり塚古墳近景
（南西から）

にわとり塚古墳近景
（北西から）

墳丘土層堆積状況
（北から）

墳丘土層堆積状況
（南から）

墳丘土層堆積状況
（北西から）

図版 4

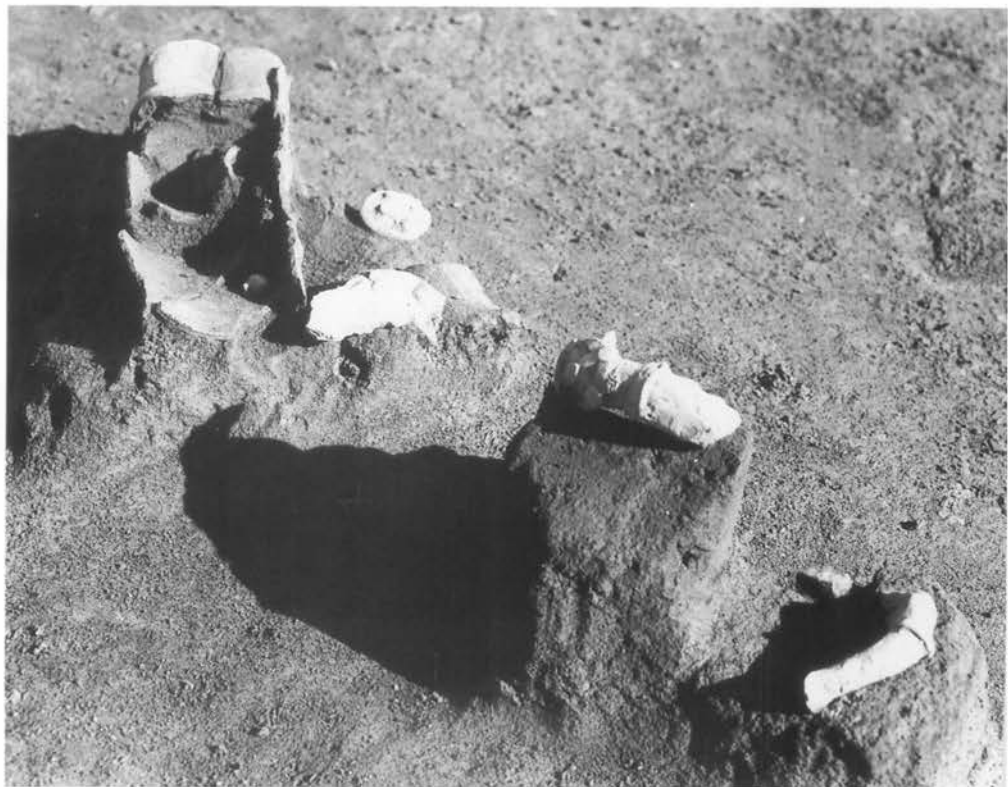
墳丘土層堆積状況
（西から）

周溝（南西から）

遺物出土状況
（南西から）

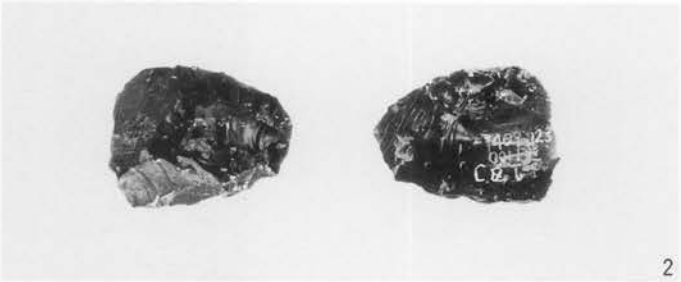
埴輪出土状況

埴輪出土状況

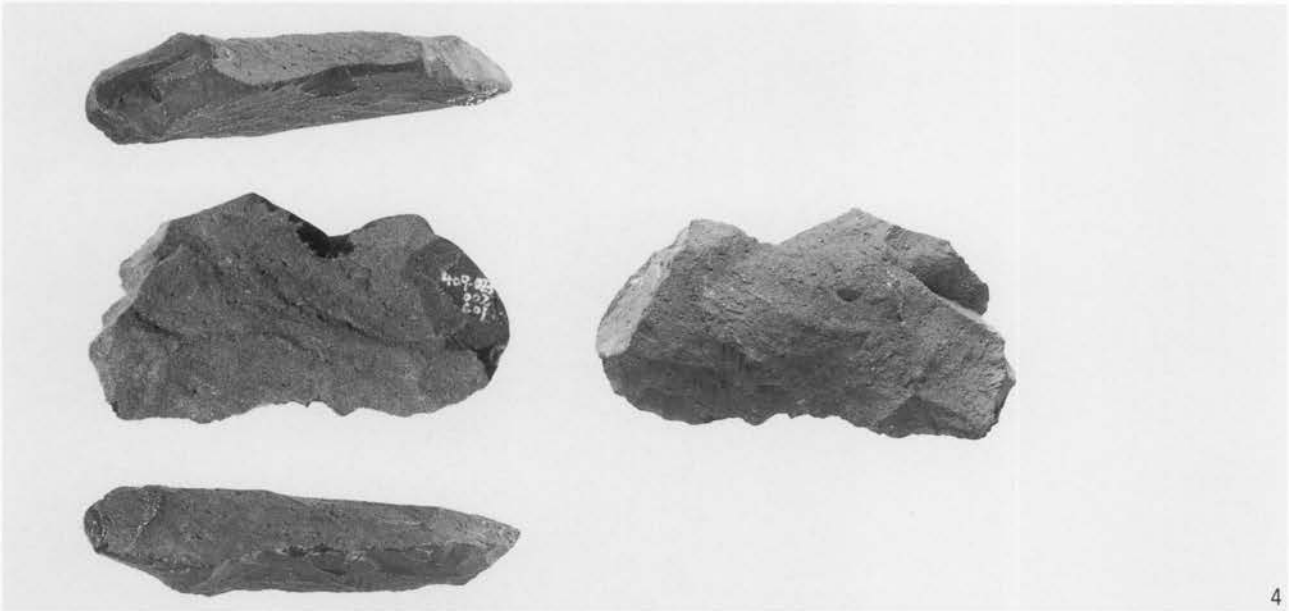


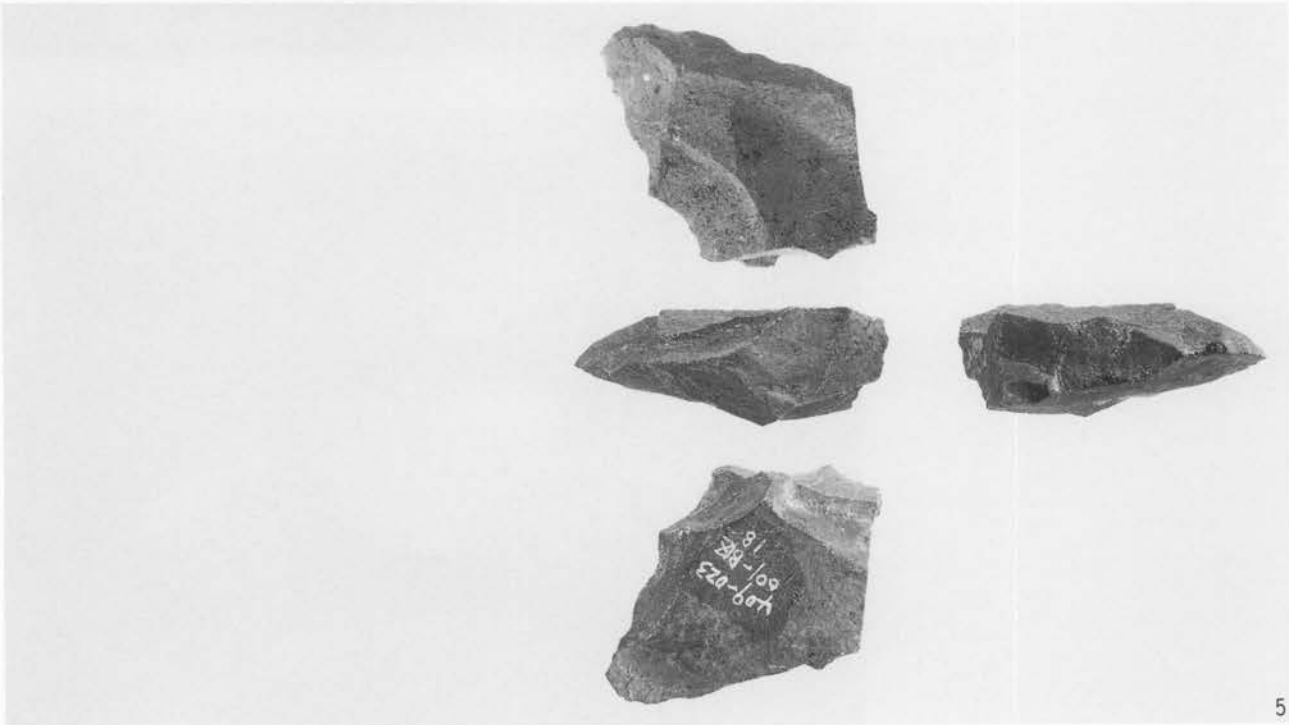
埴輪出土状況

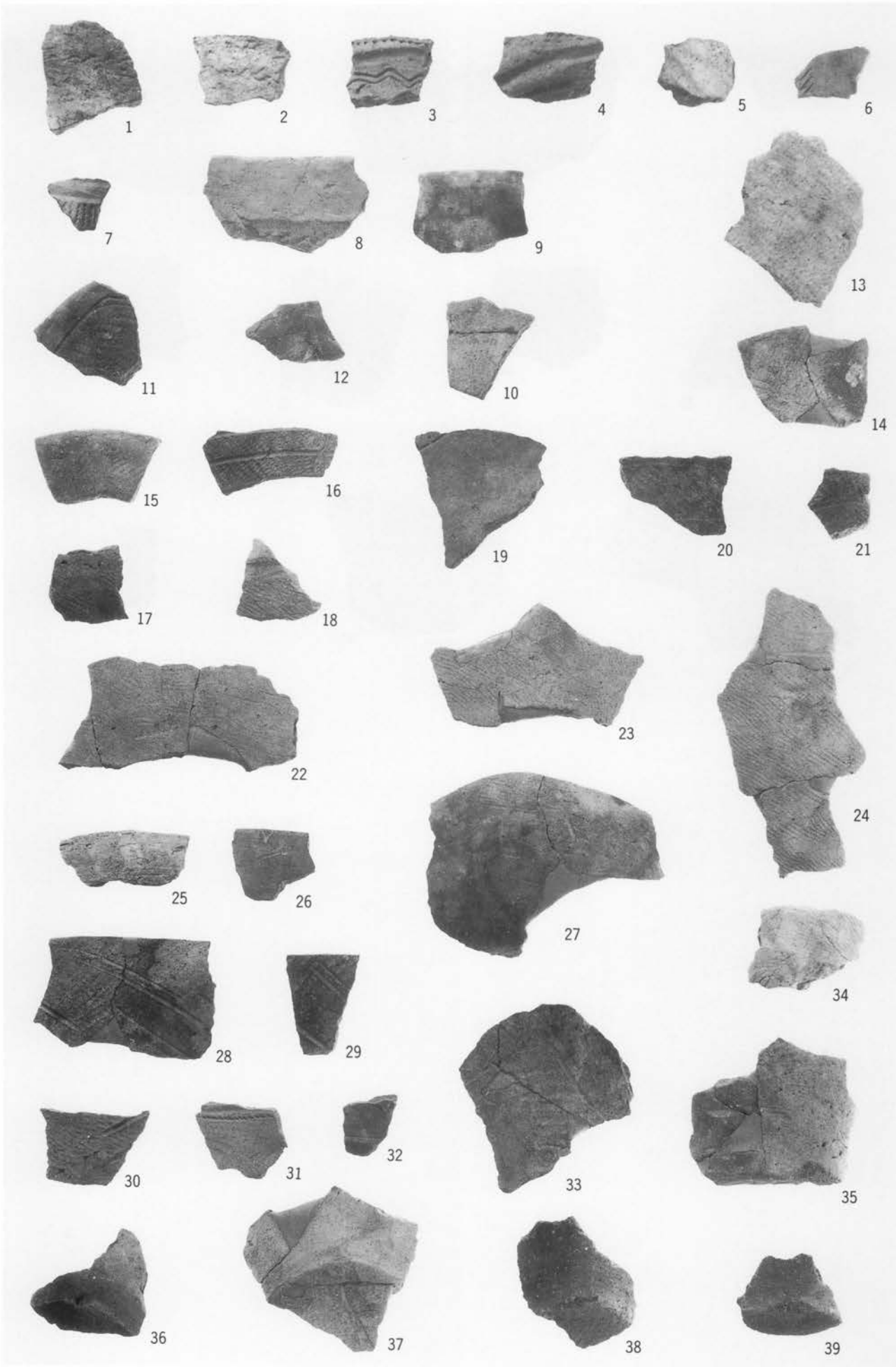
1

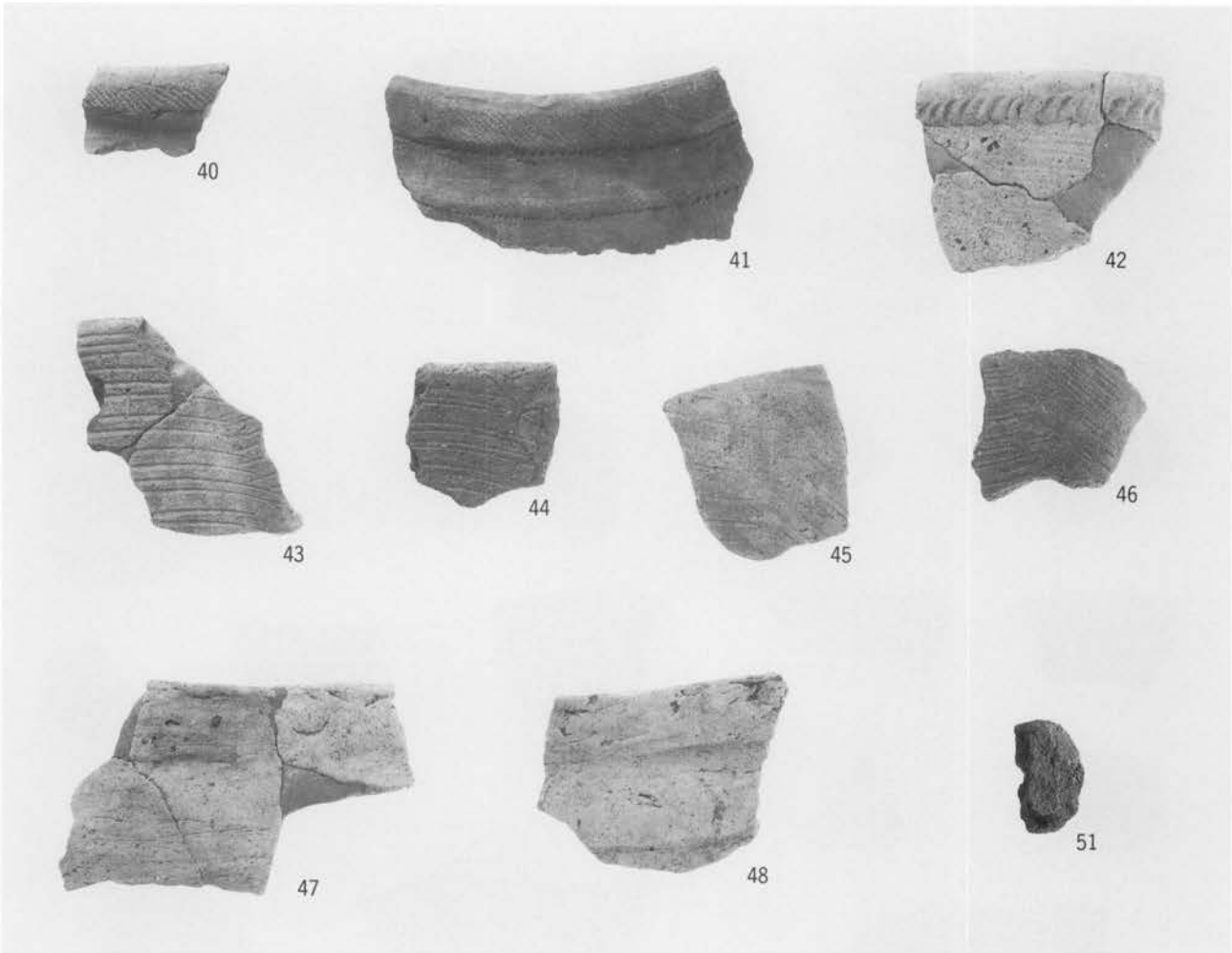

2

3

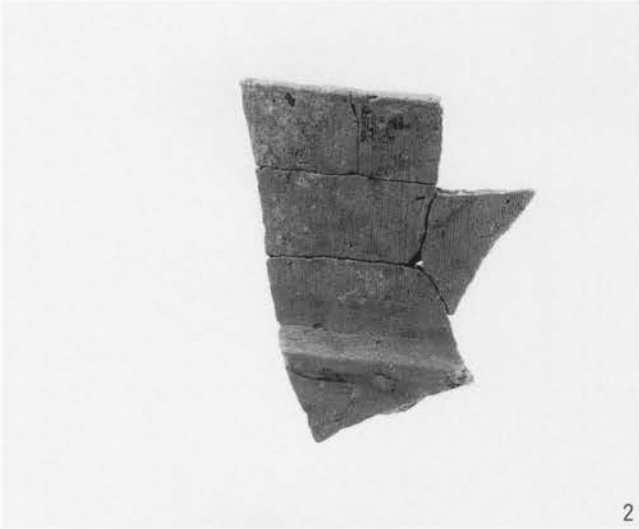

4


5


1
2
3
4
5
6
7
8
9
13
11
12
10
14
15
16
19
20
21
17
18
23
22
24
25
26
27
34
28
29
30
31
32
33
35
36
37
38
39

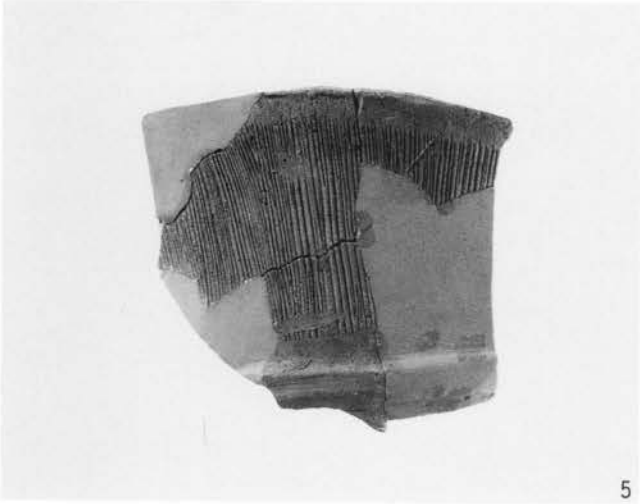

40
41
42
43
44
45
46
47
48
51

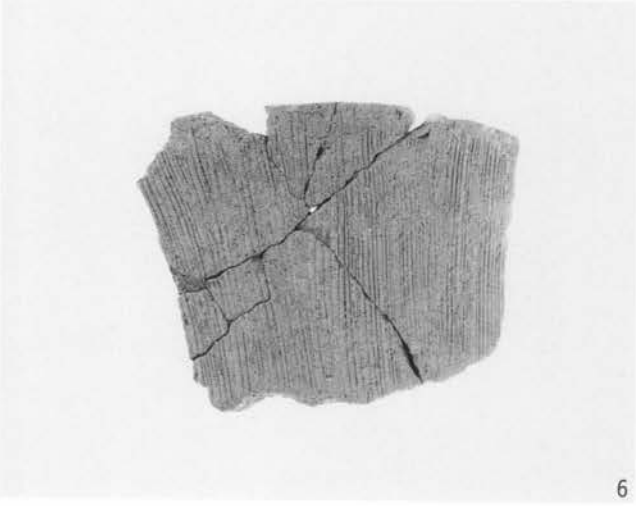
1


2

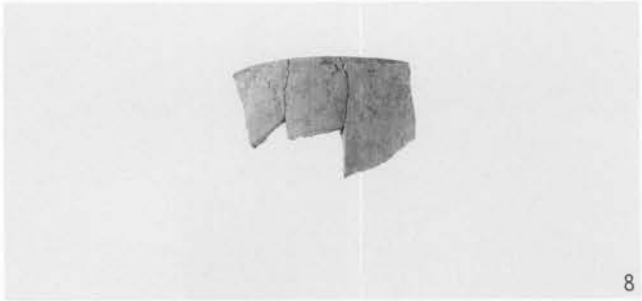
3

4


5


6

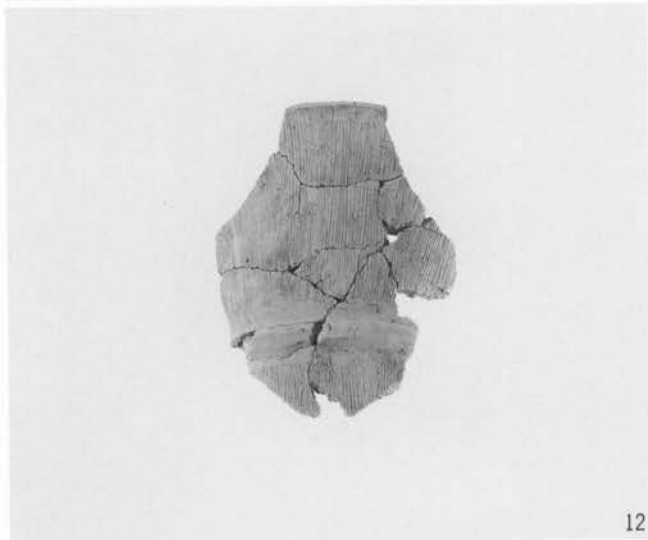
7


8

9

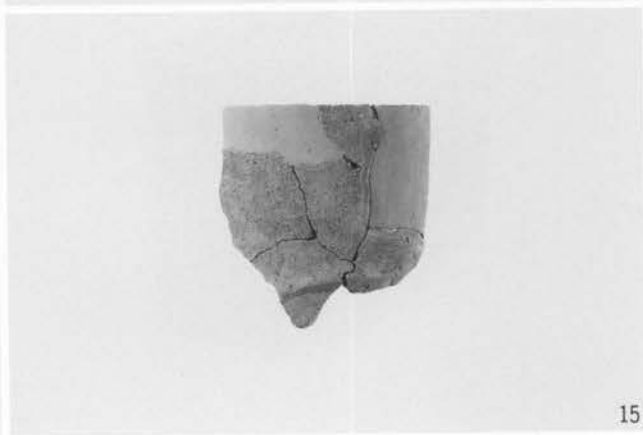
10

11


12

13

14


15

16

17

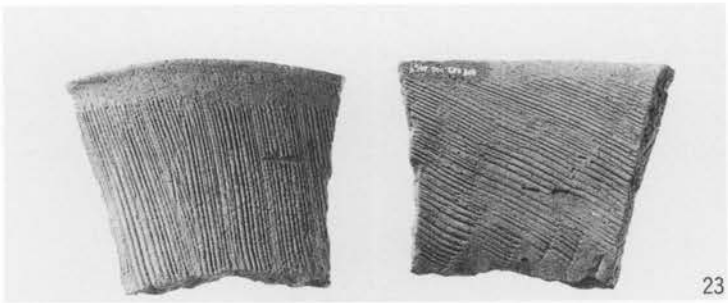
18

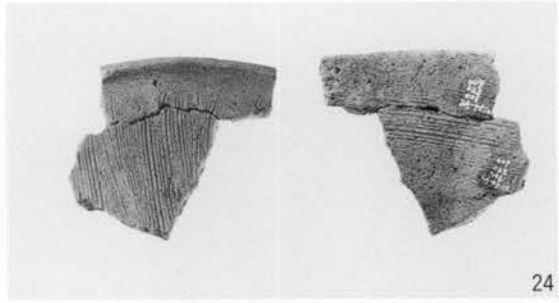
19

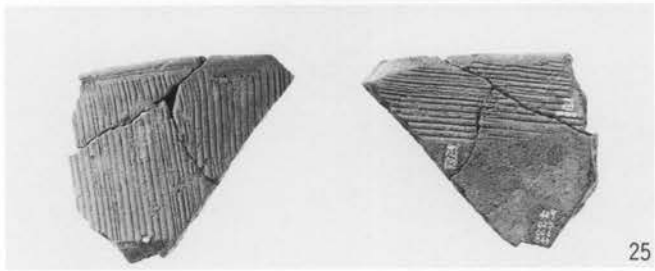
20

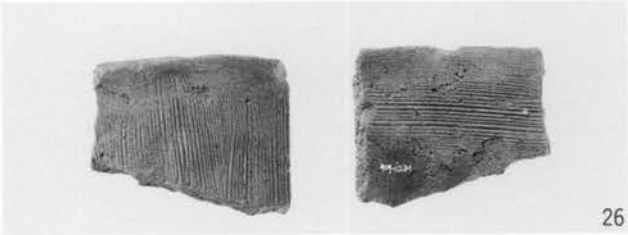
21

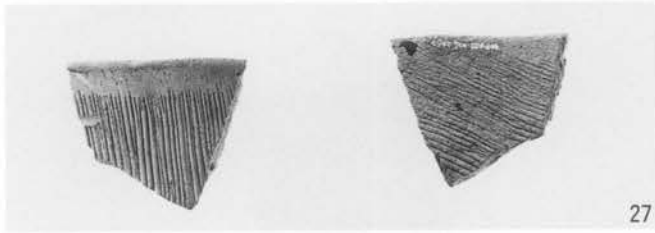
22

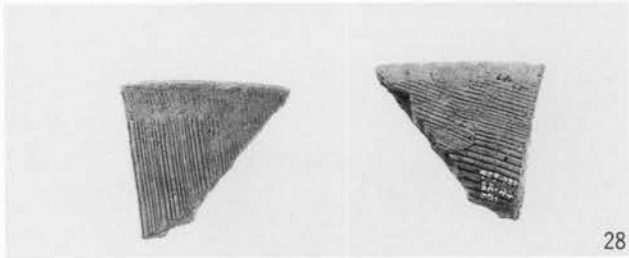

23


24

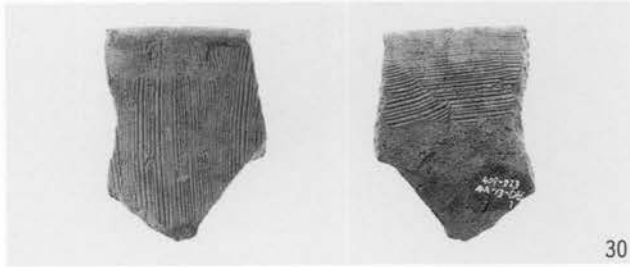

25


26

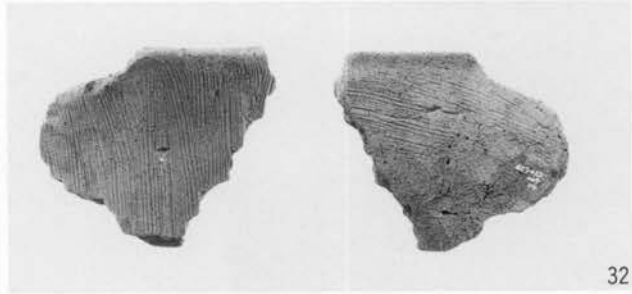

27

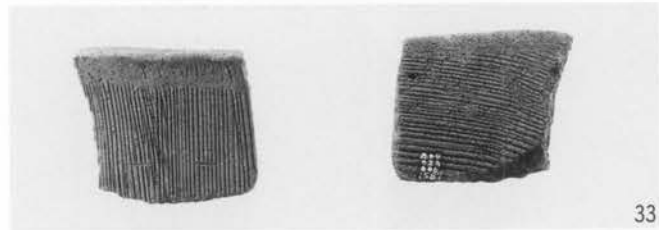

28

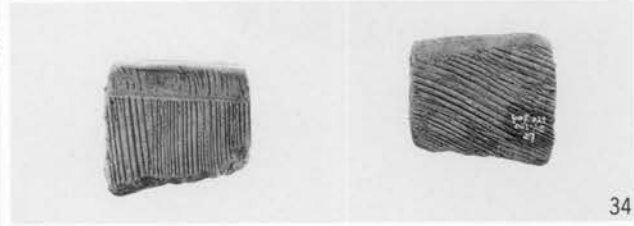
29

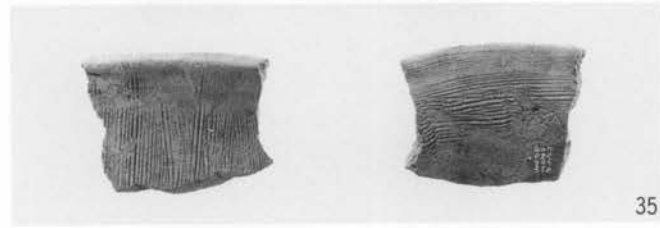

30

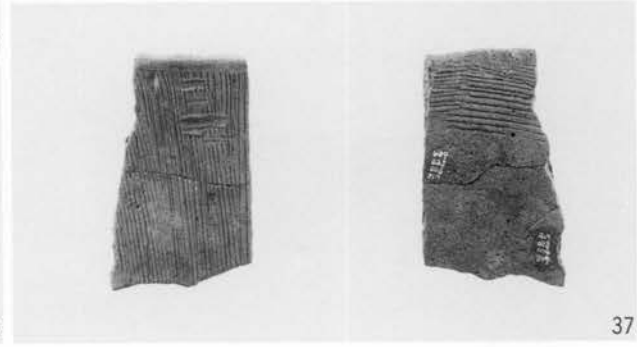
31

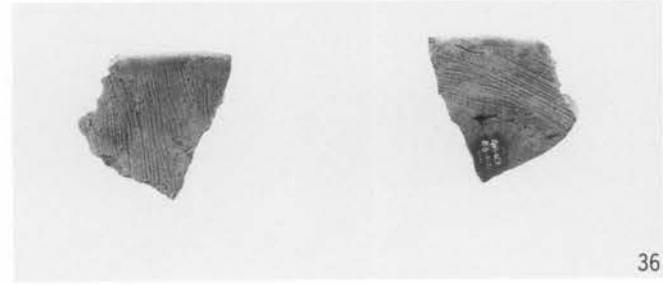

32

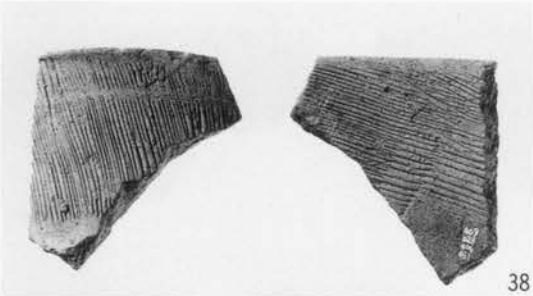

33

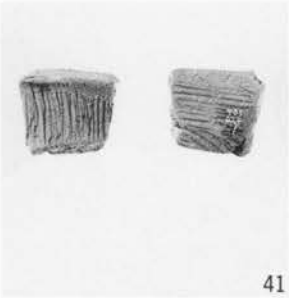

34

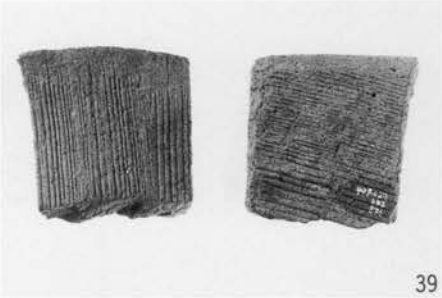

35

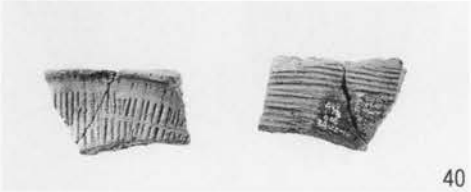

37

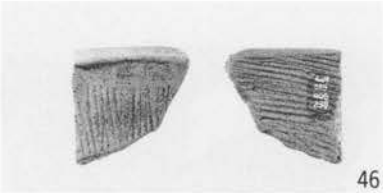

36


38

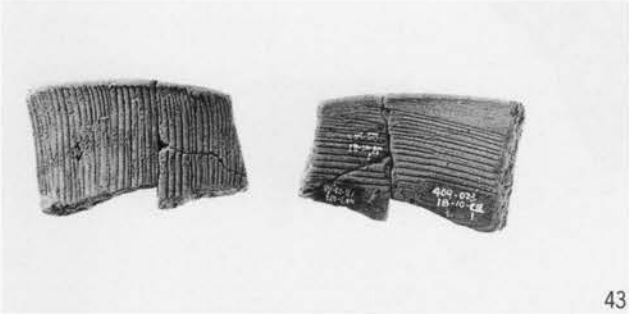

41


39


40


46

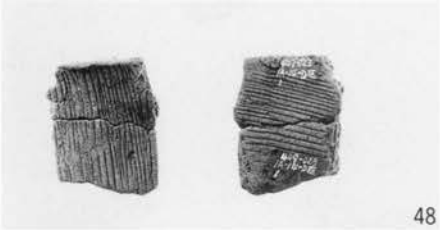
42

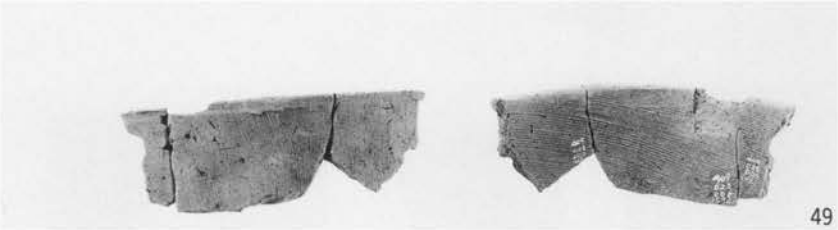

43

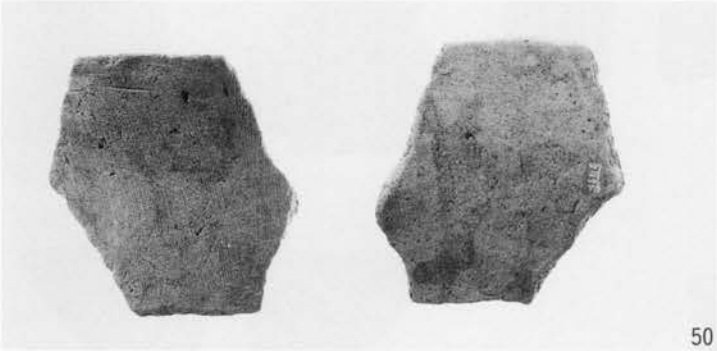
44

45

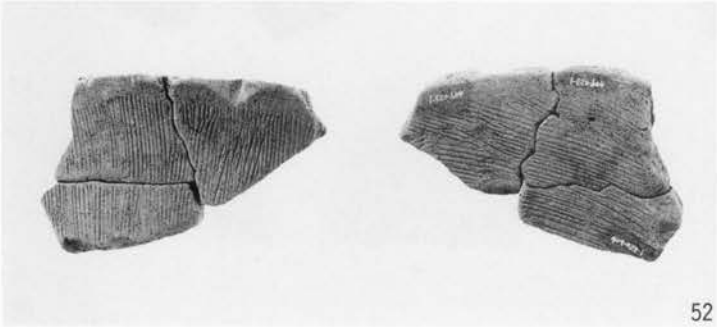
47

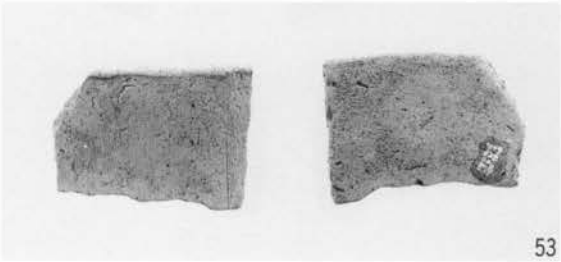

48

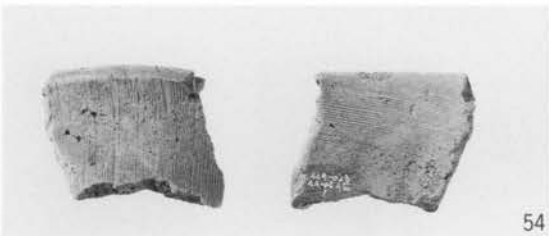

49

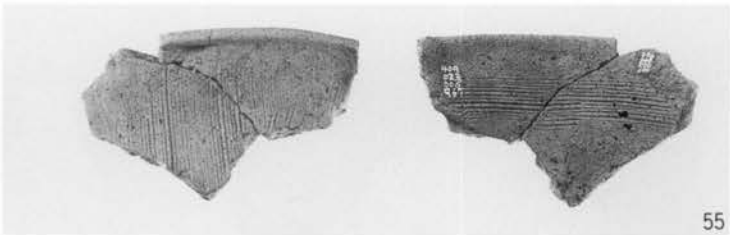

50

51


52

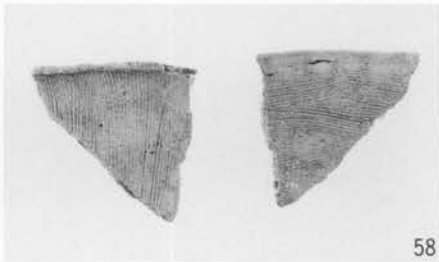

53

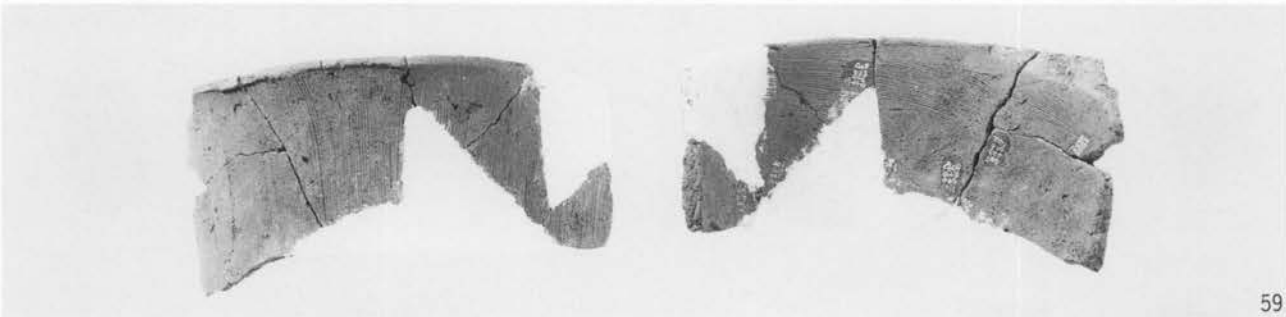

54


55

56

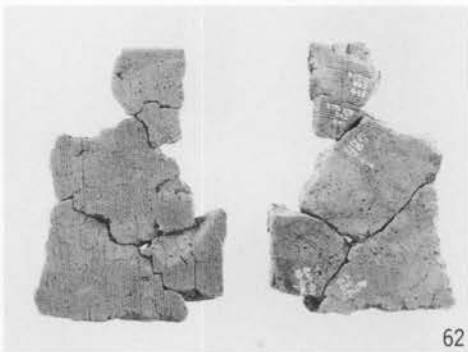
57

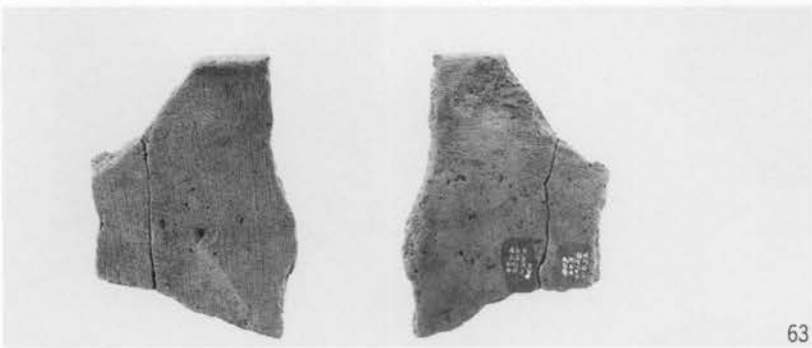

58

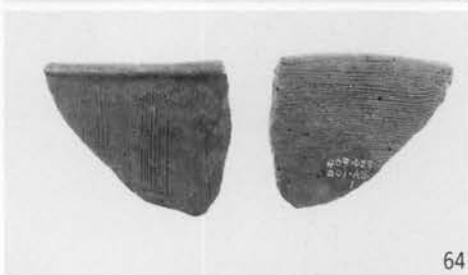

59

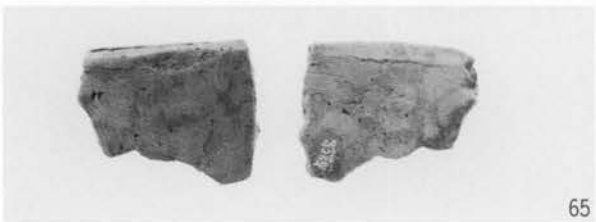
60

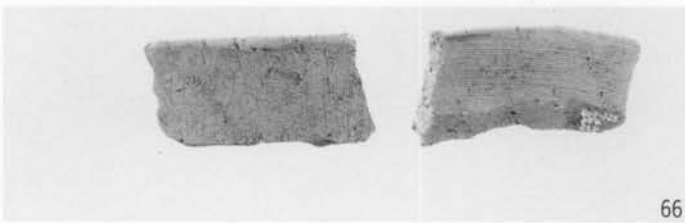
61

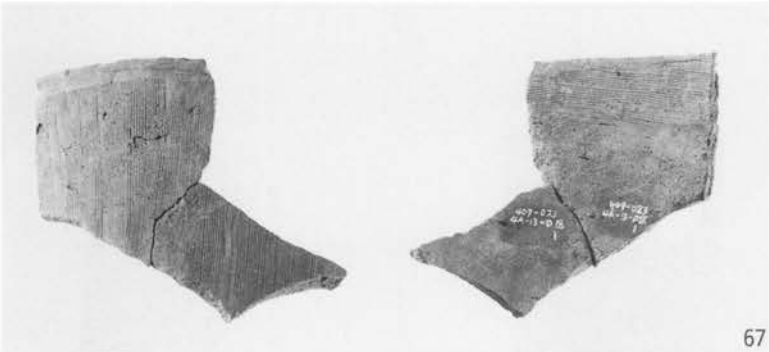

62

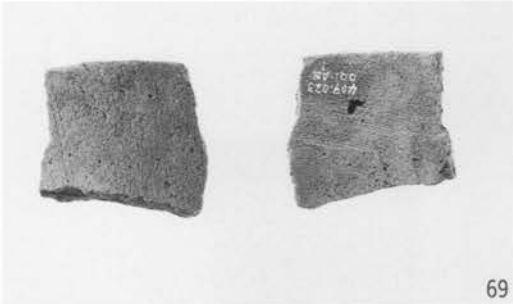

63

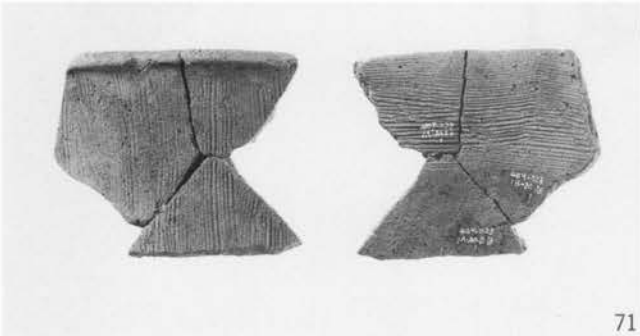

64


65

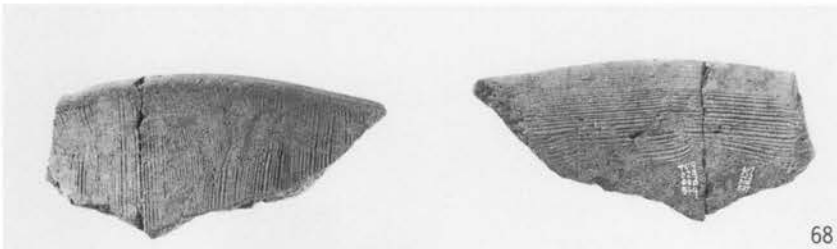

66

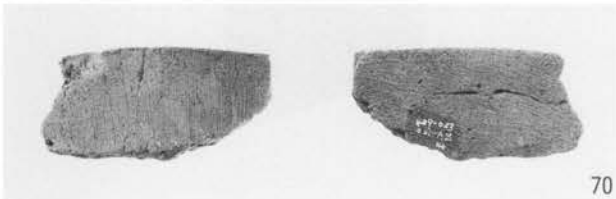

67


69


71

12


68


70

1

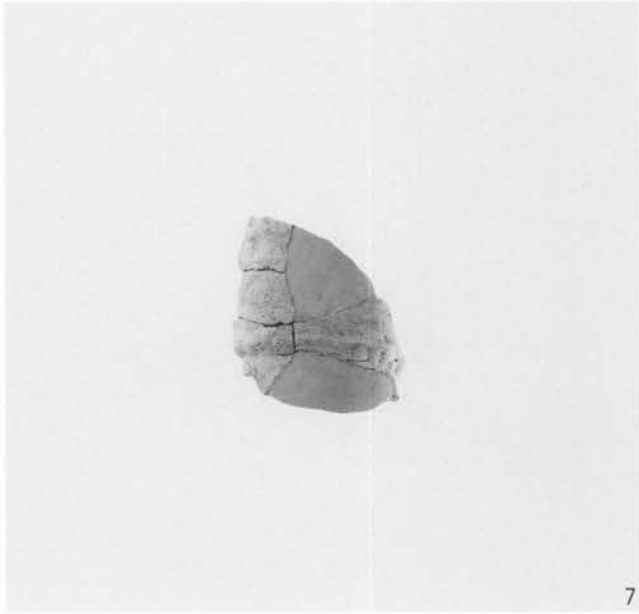
2

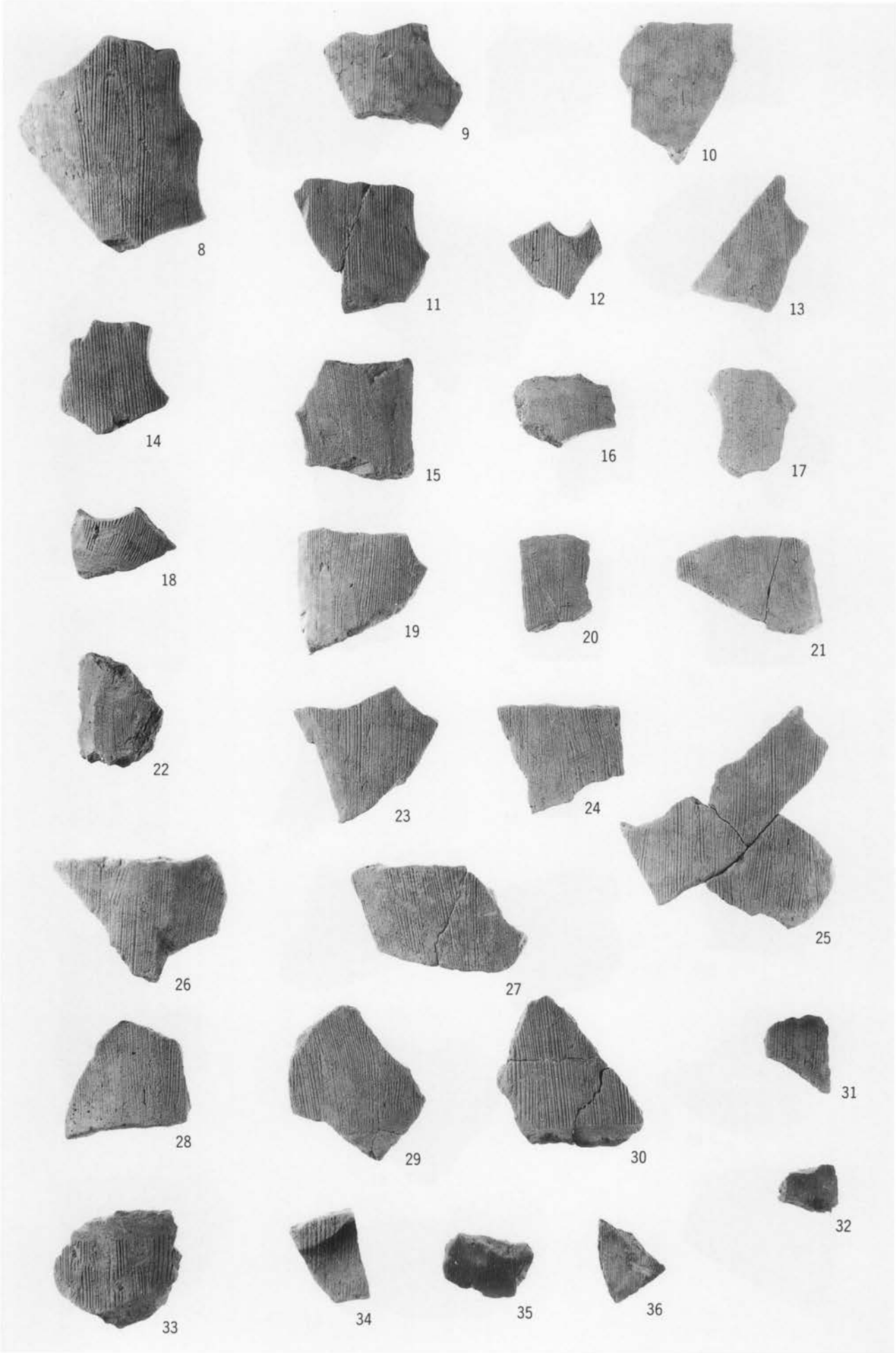
3

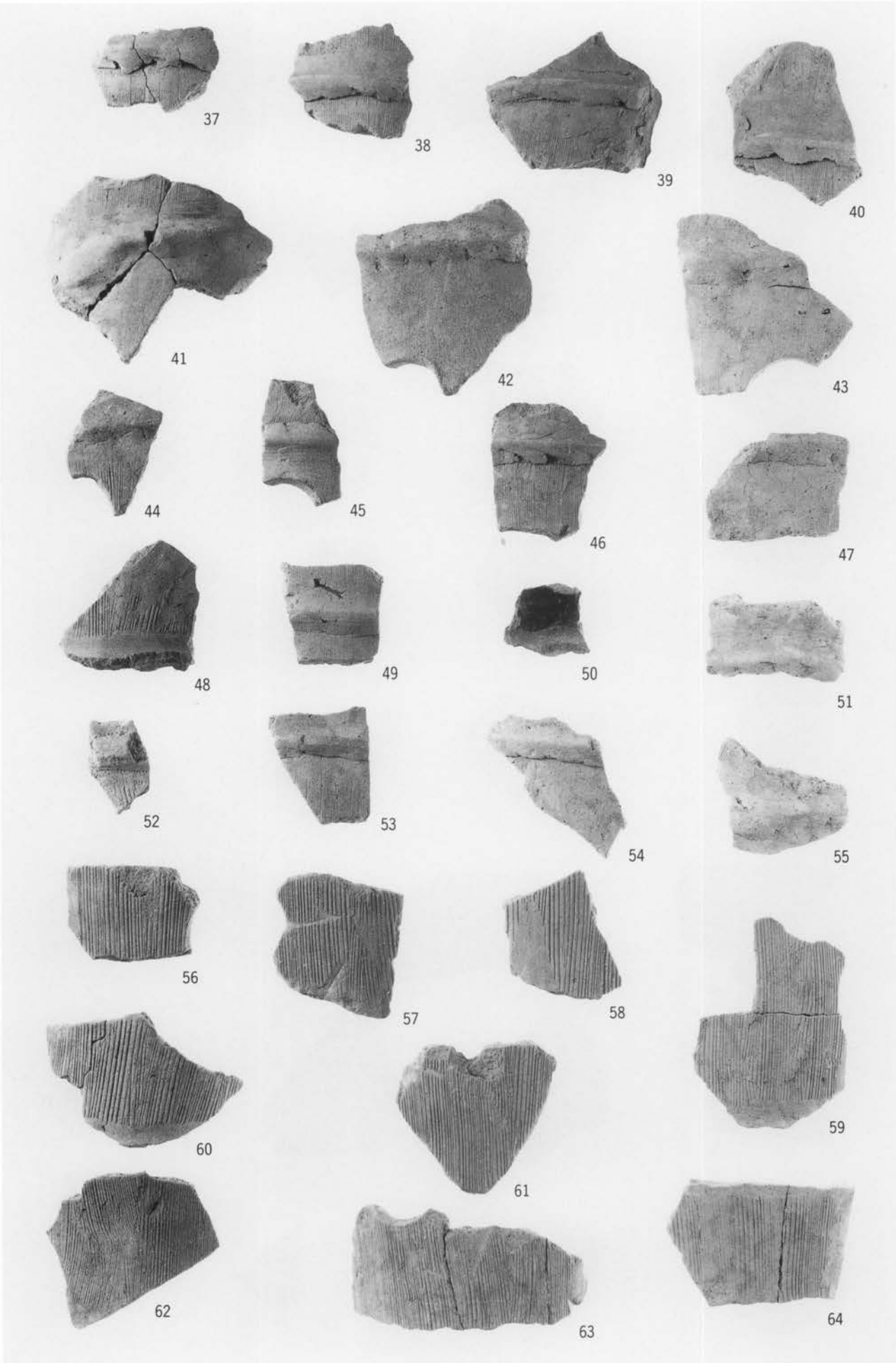
4

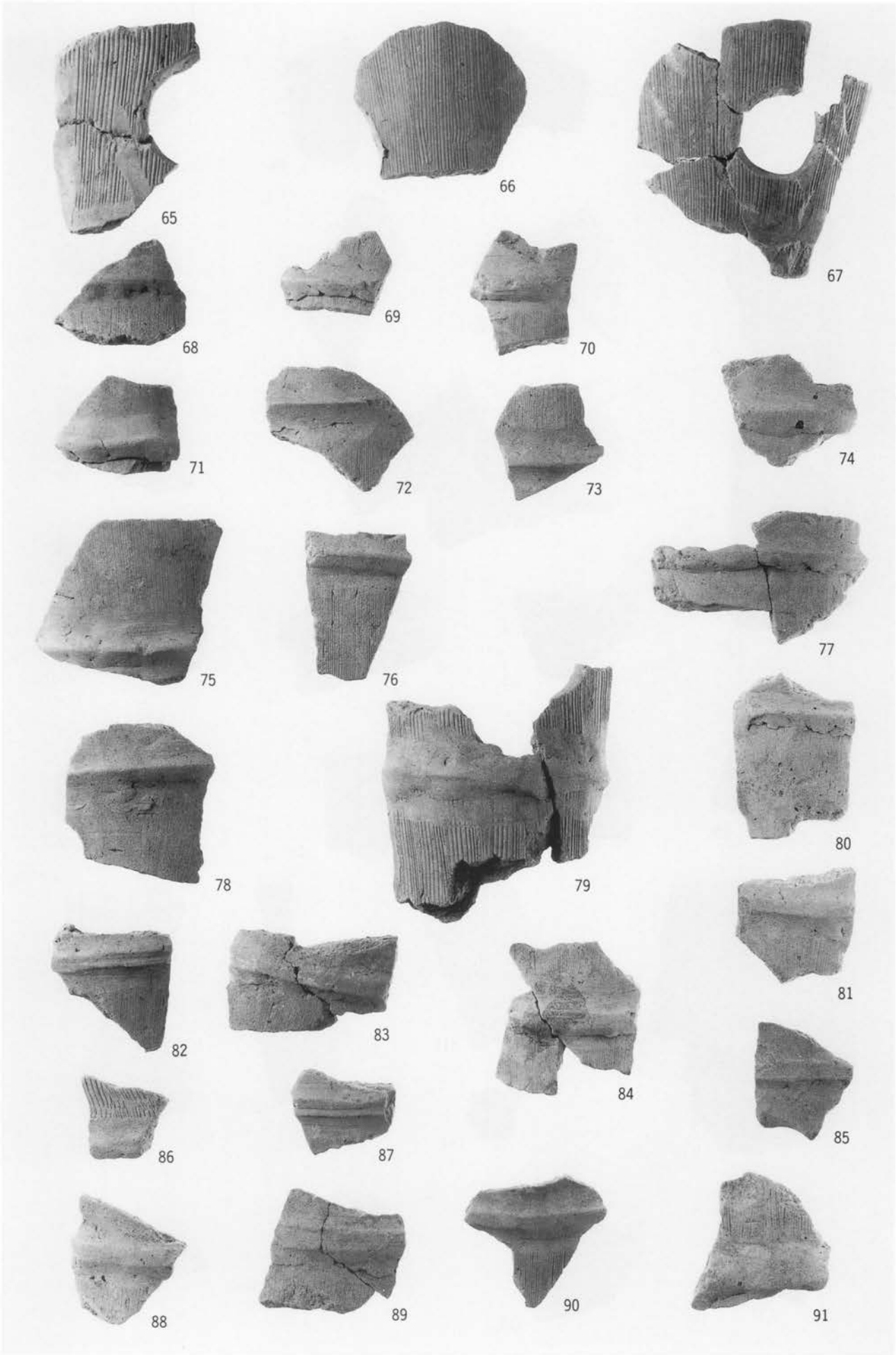
5

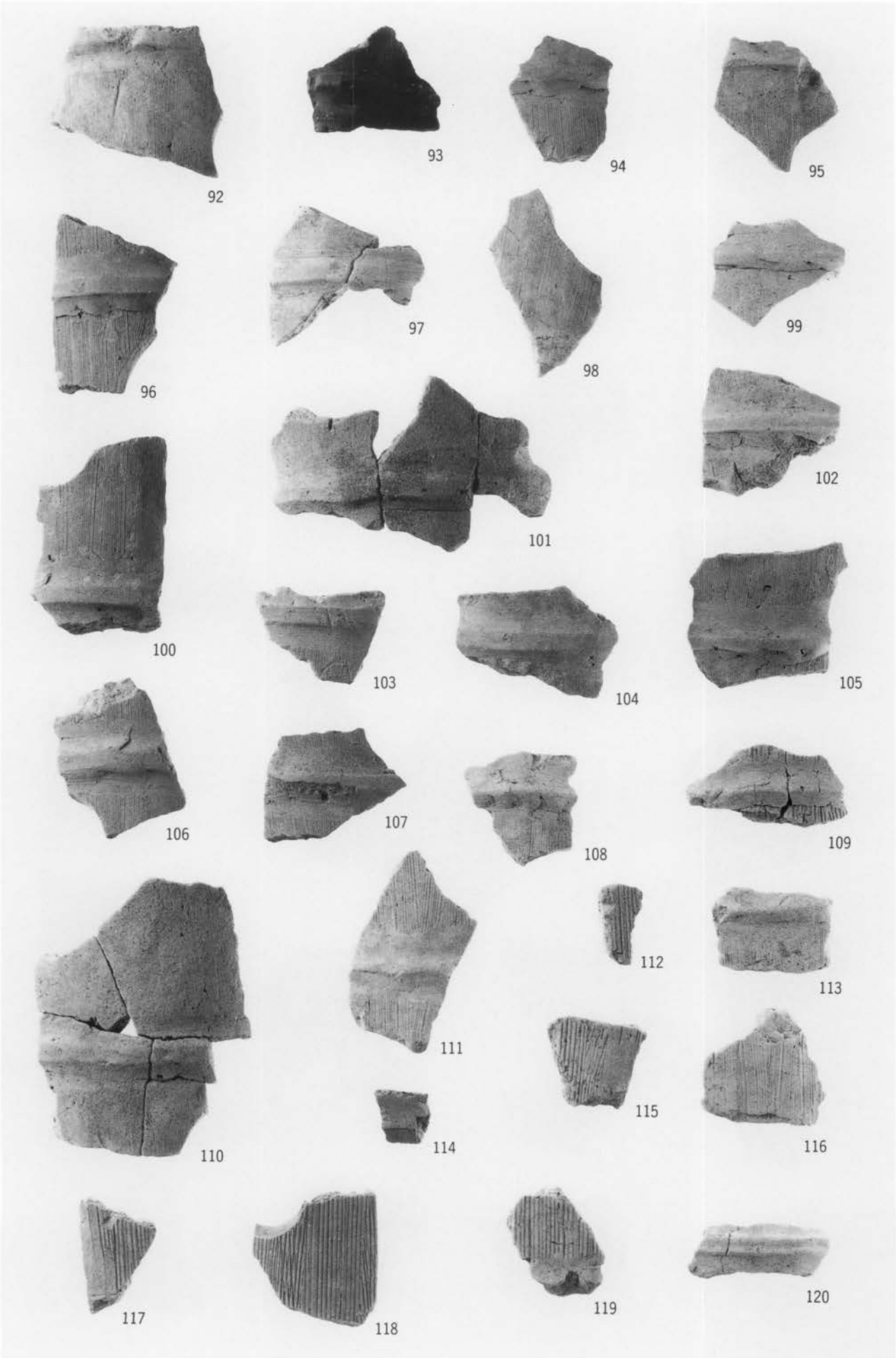
6

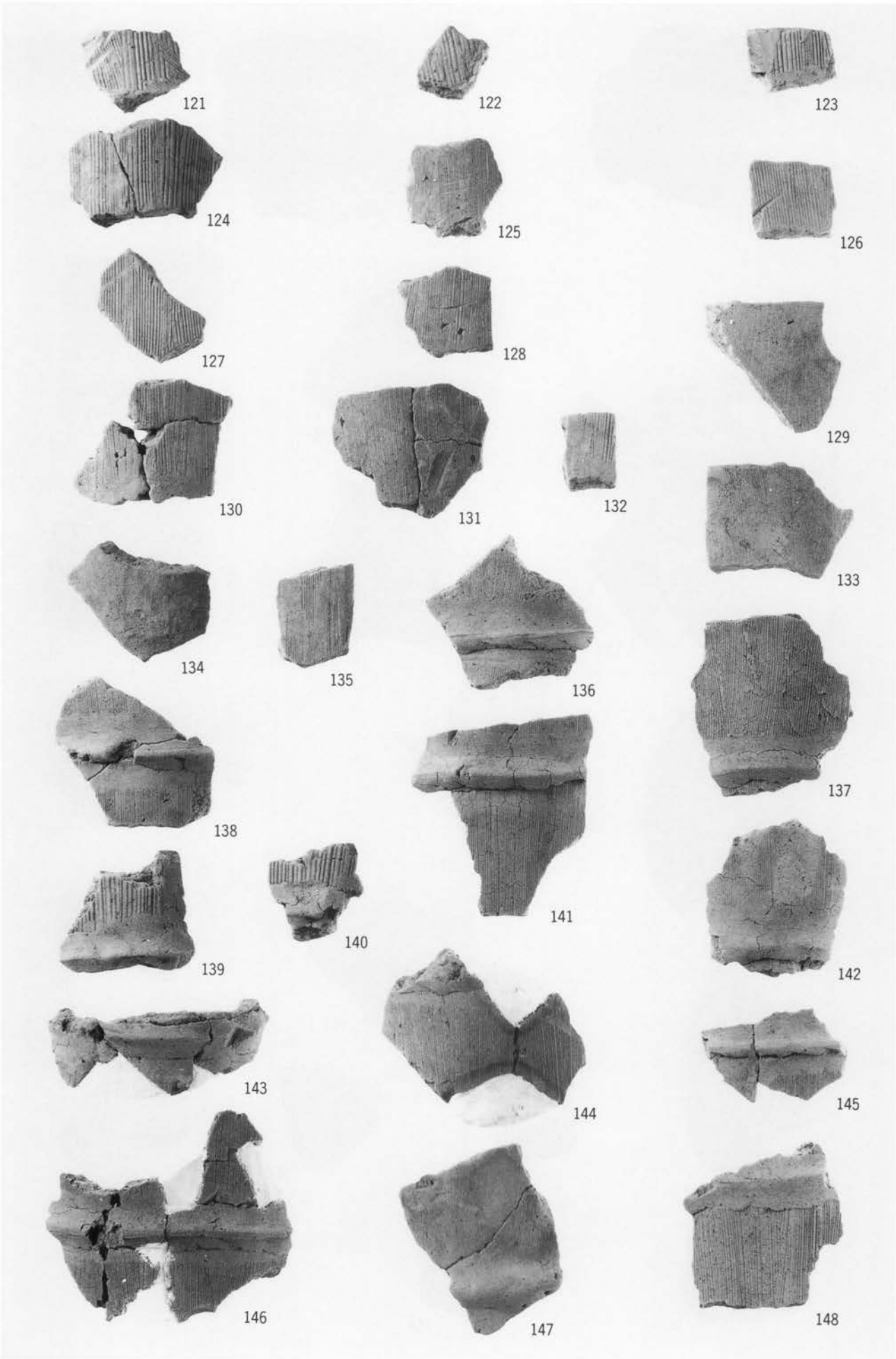

7

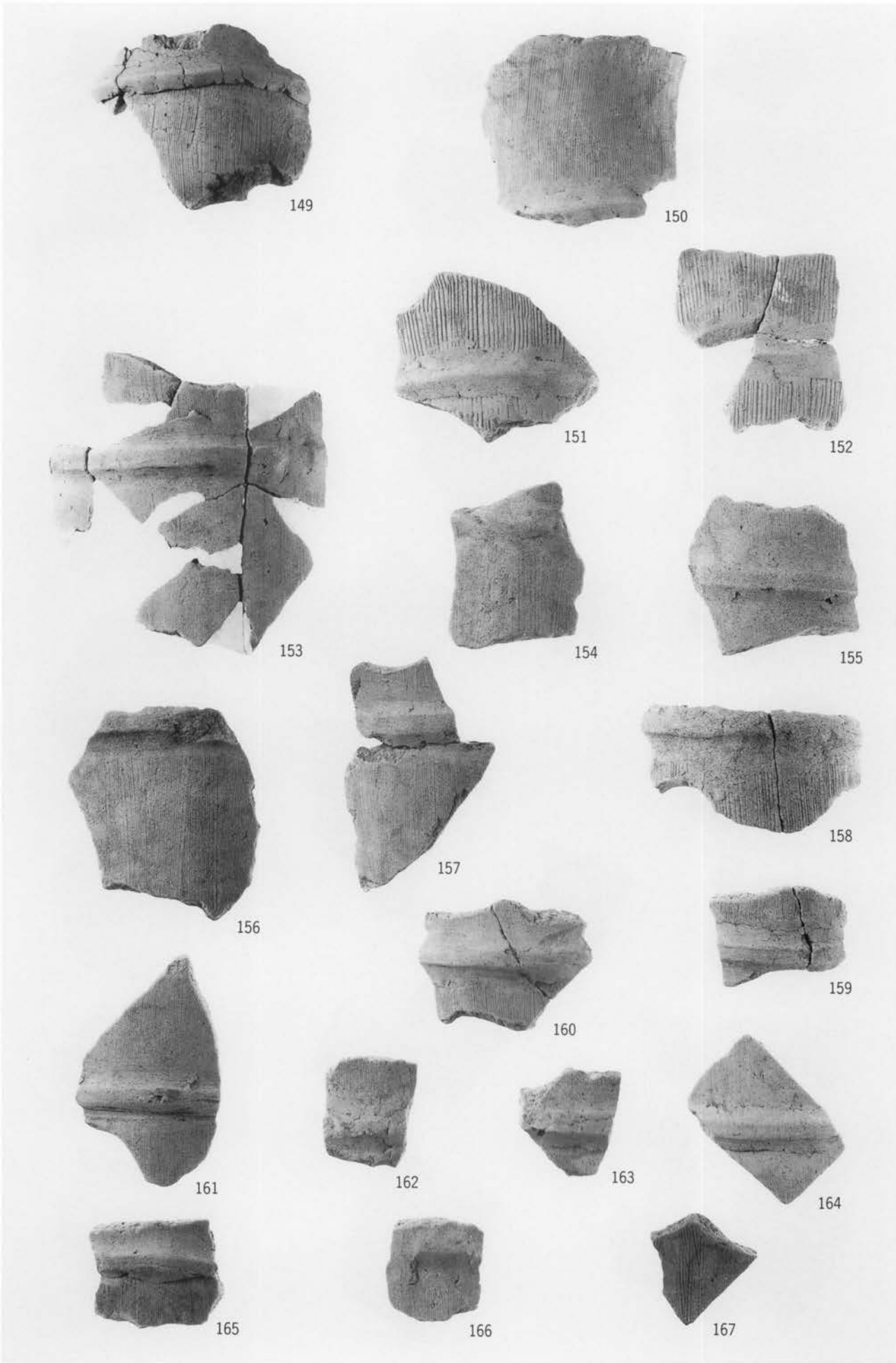

8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36


37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64

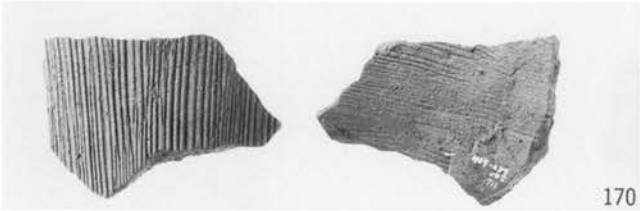

65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91


92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120

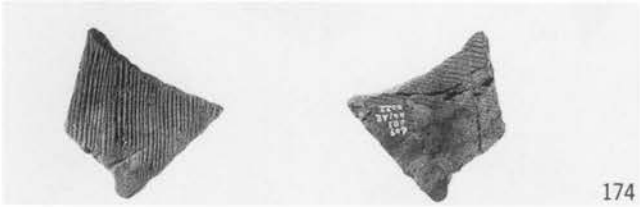

121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148


149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167

168


170

172

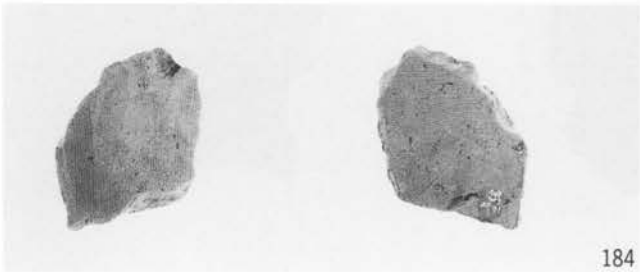

174

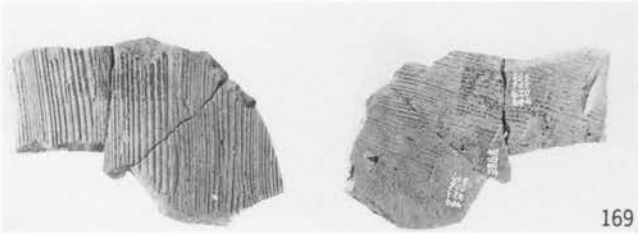
176

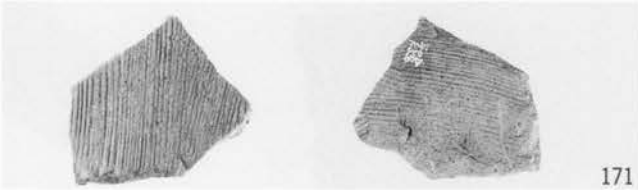
178

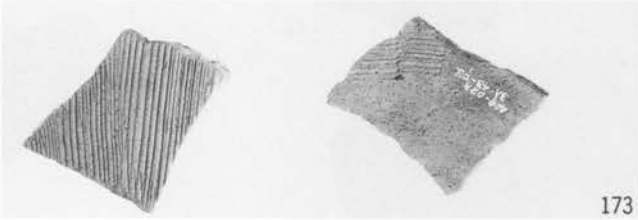
180

182

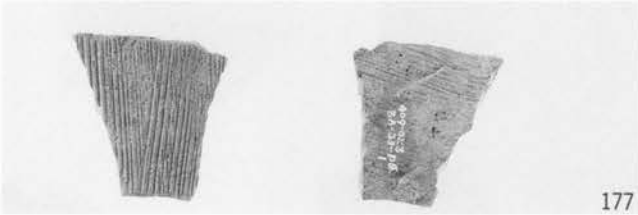

184

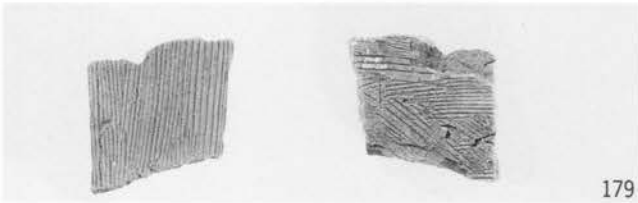

169


171

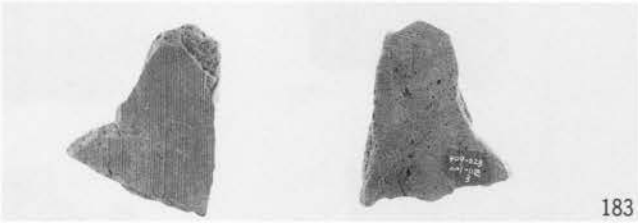

173

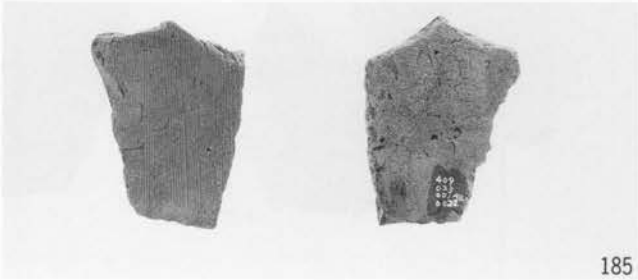
175

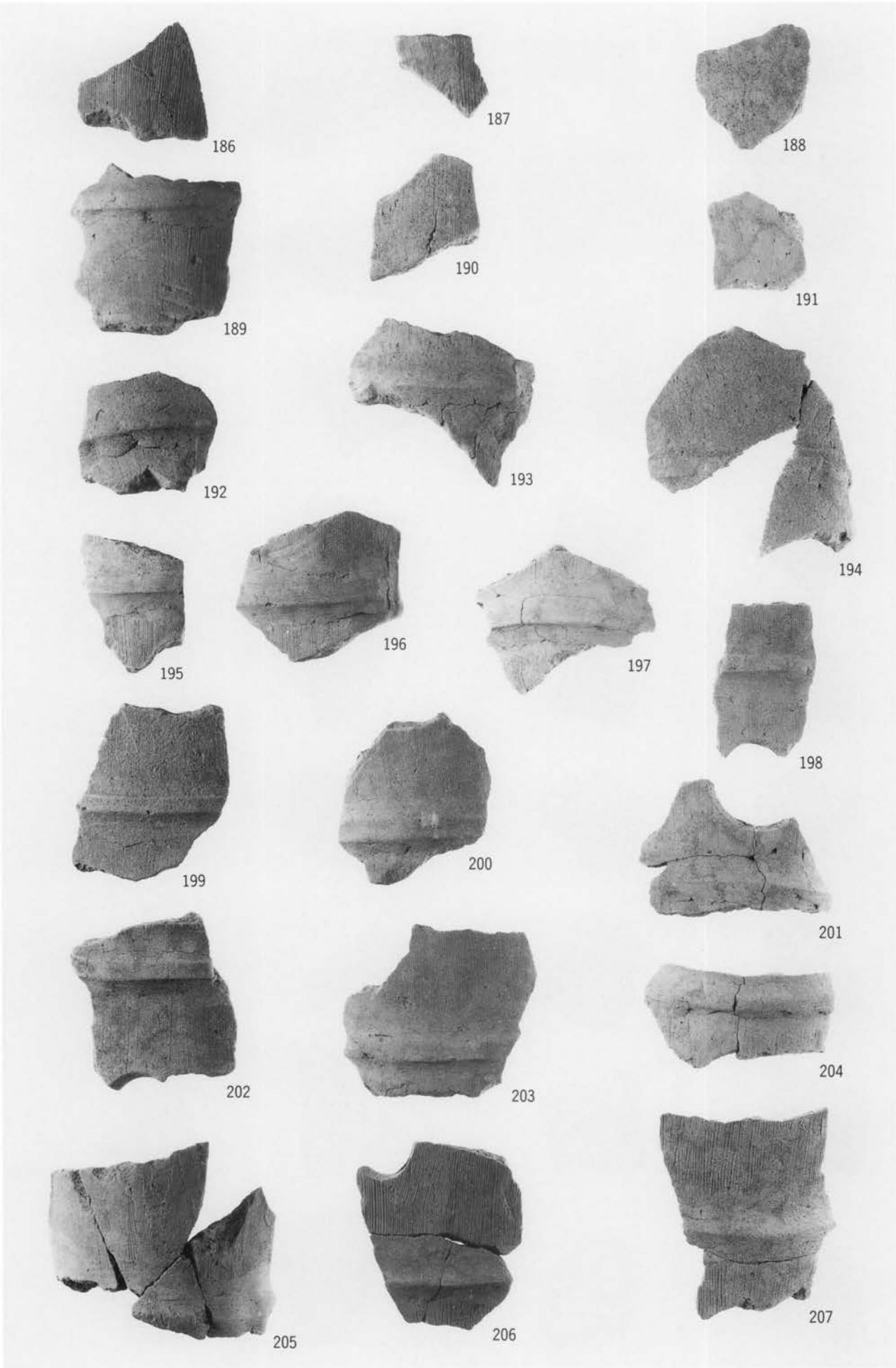

177

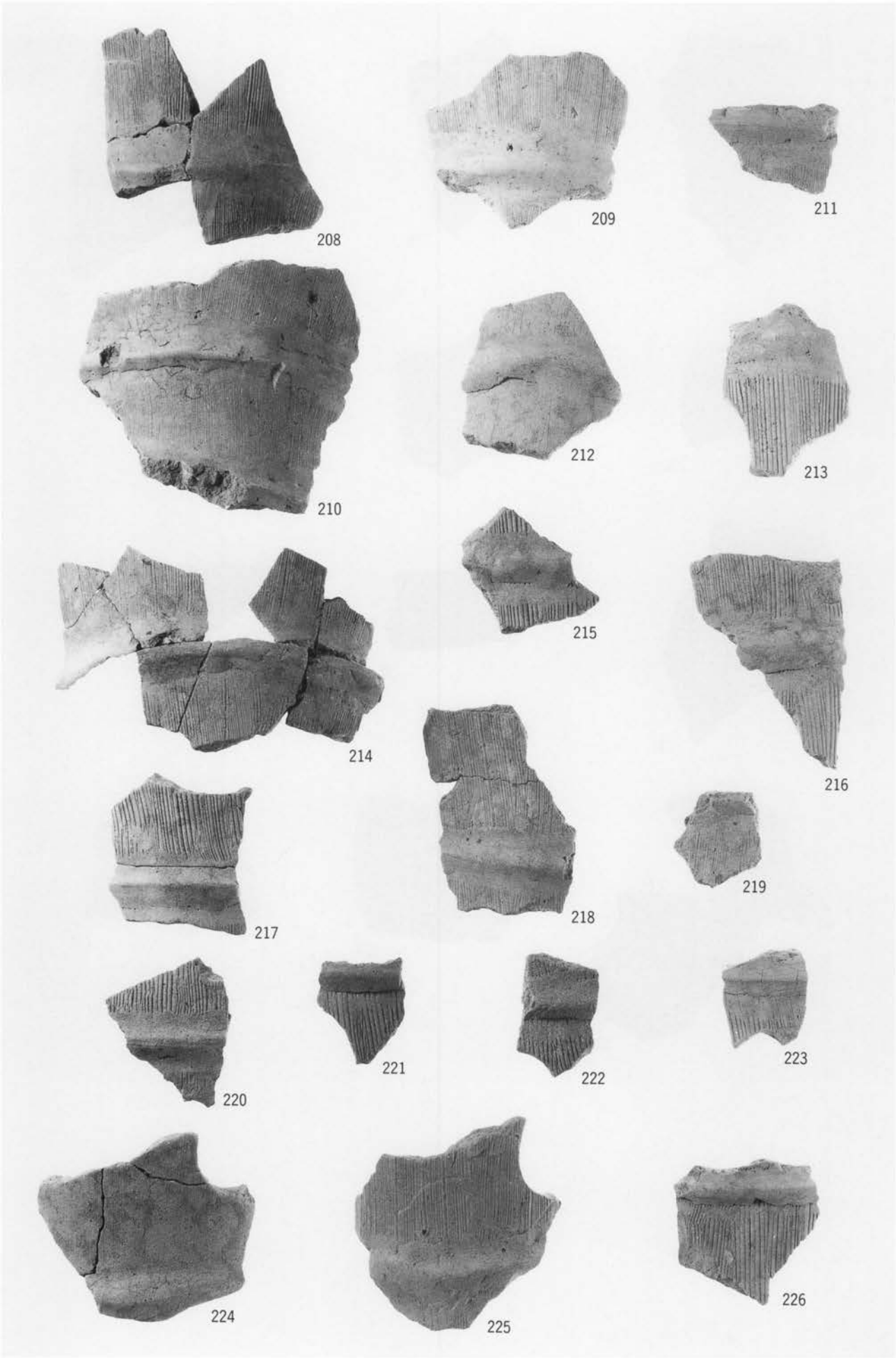

179

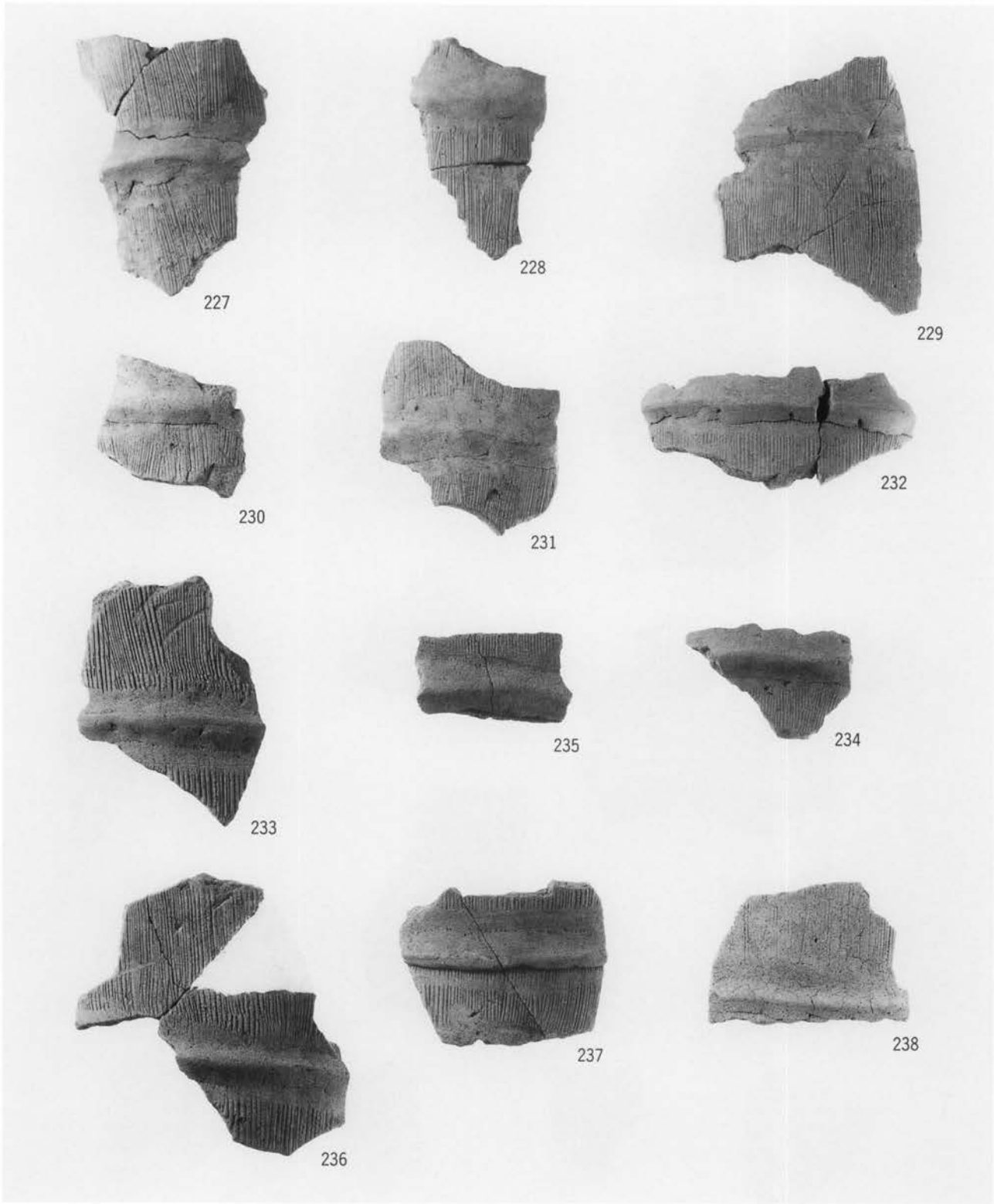
181


183


185


186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207


208
209
211
210
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226


227
228
229
230
231
232
233
235
234
236
237
238

1

2

3

4

4

5

6

7

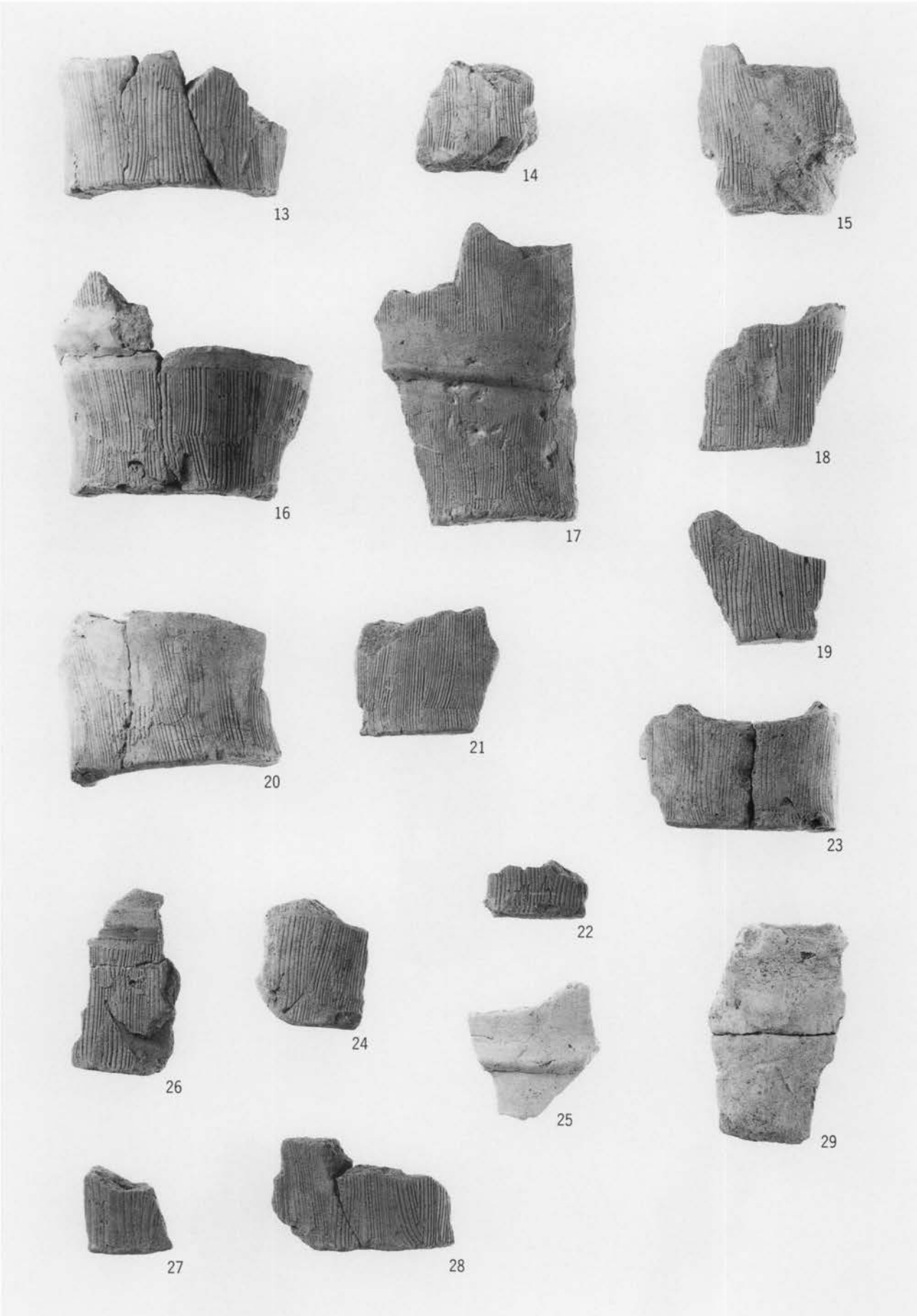
8

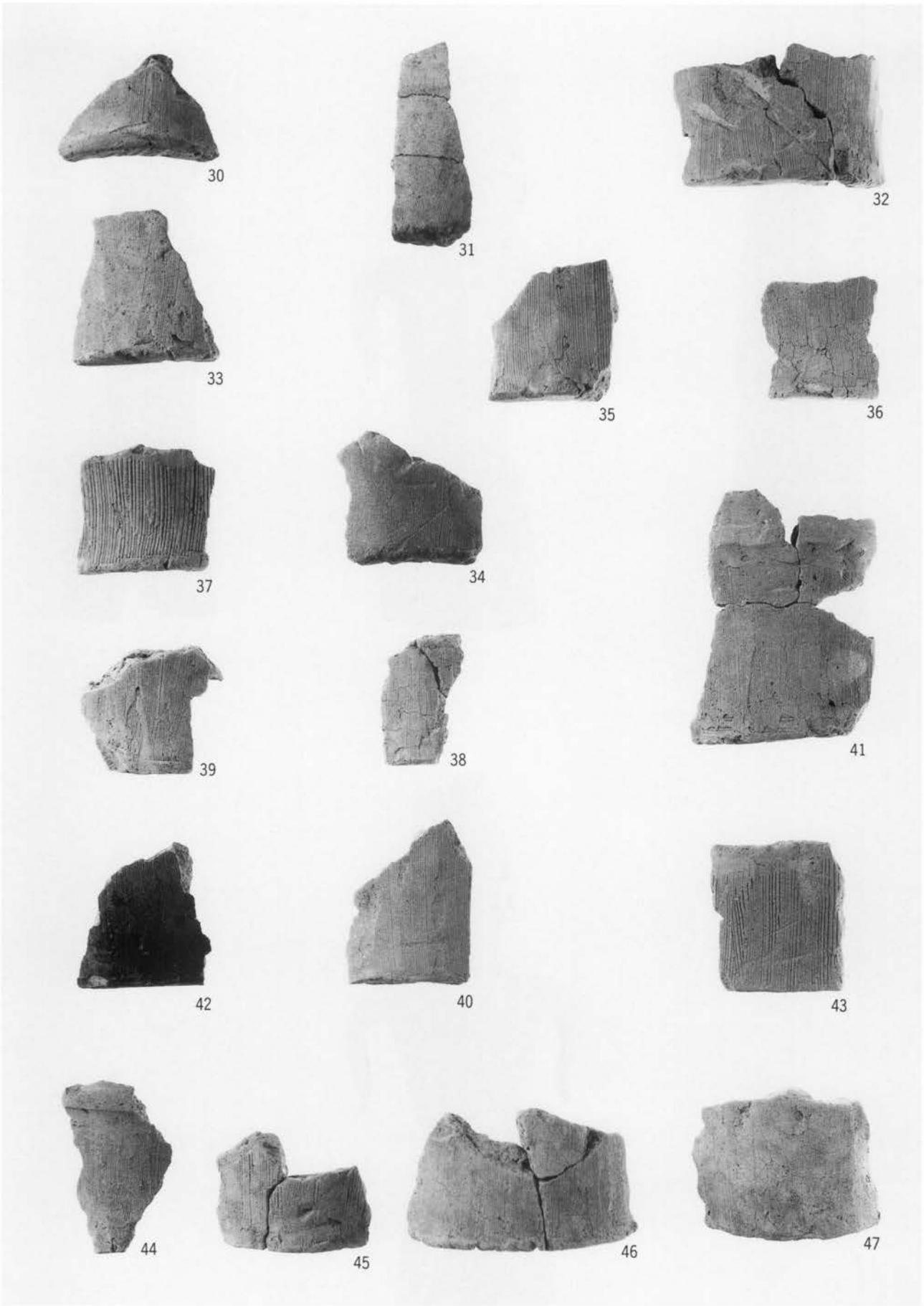
9

10

11

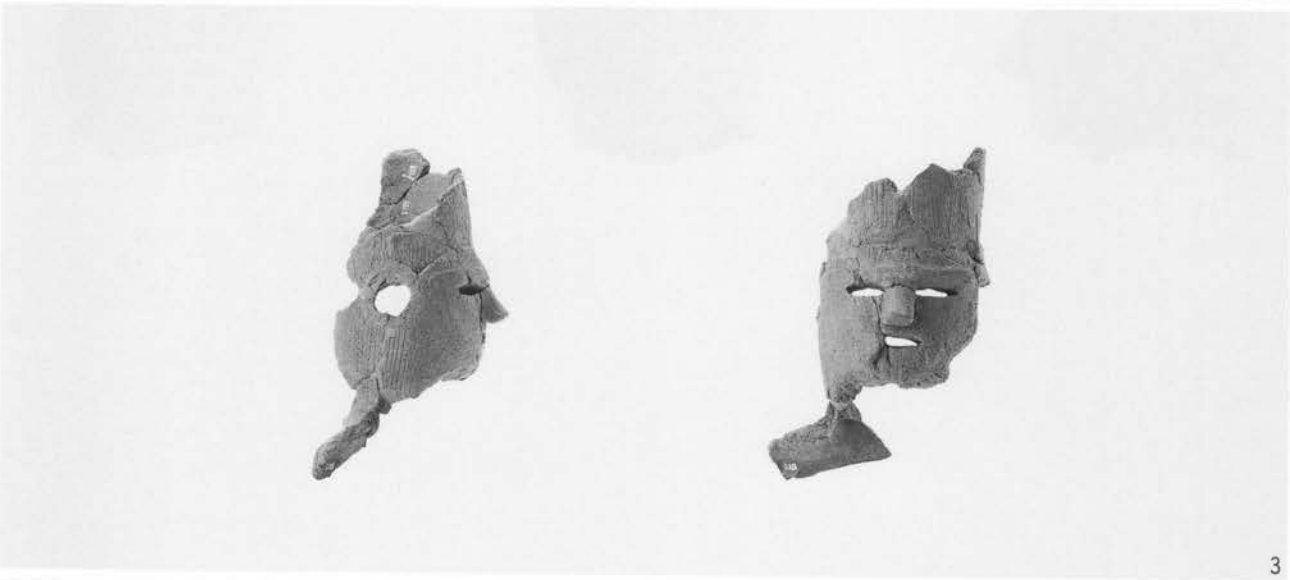
12


13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29

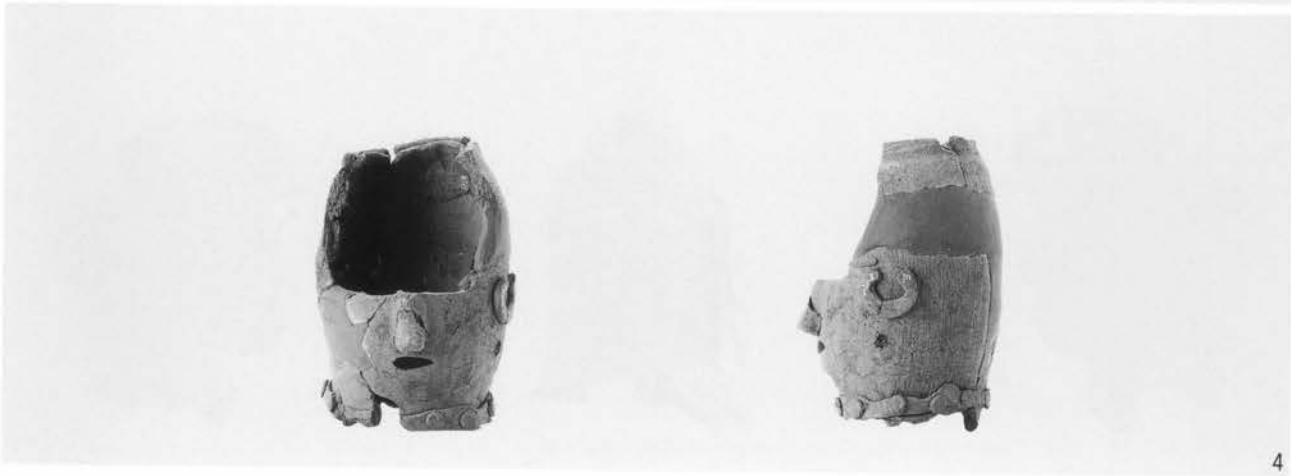

30
31
32
33
35
36
37
34
41
39
38
42
40
43
44
45
46
47

1

2

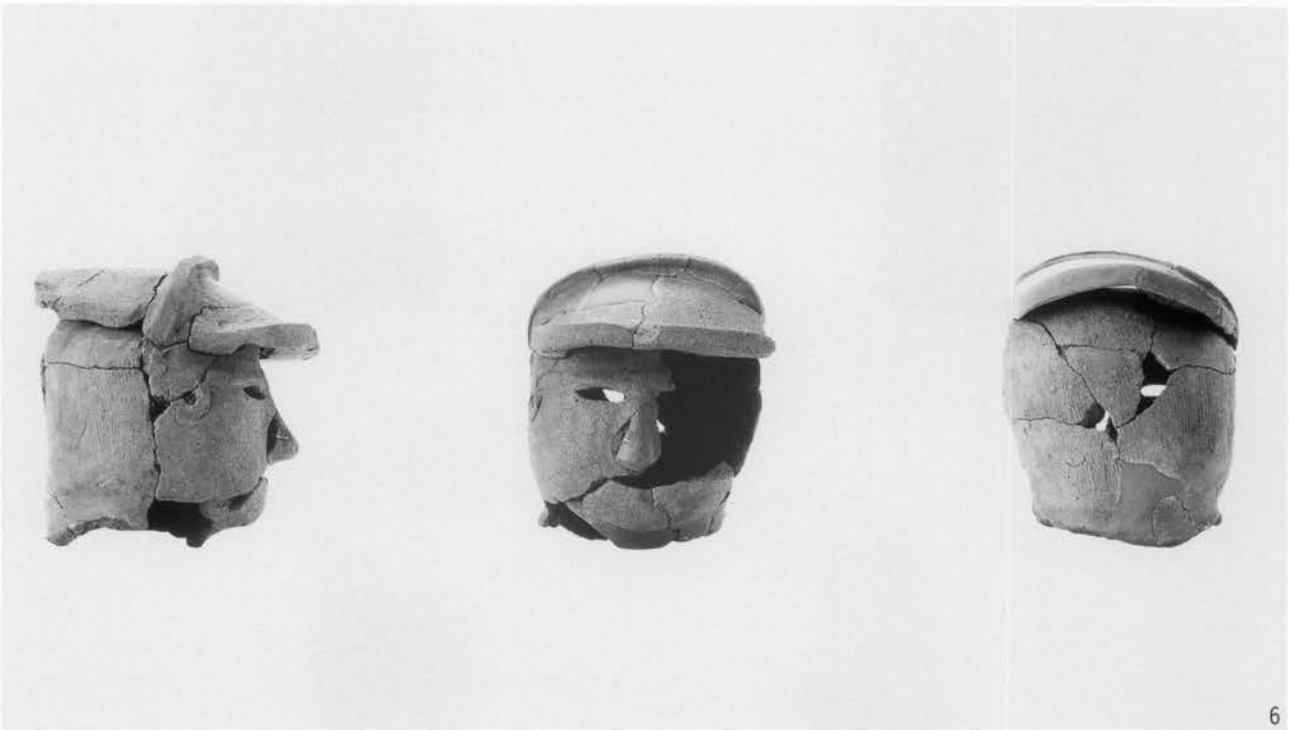


3



4

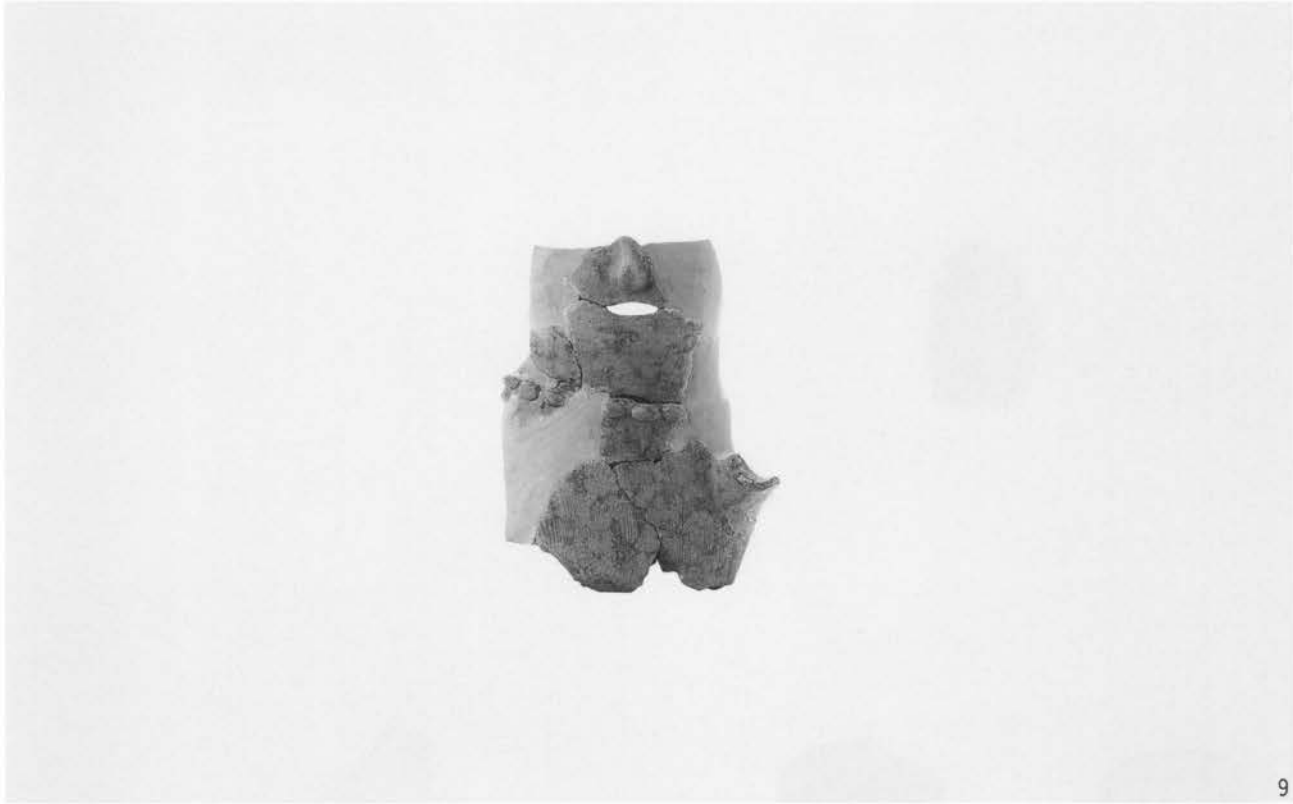
5



6

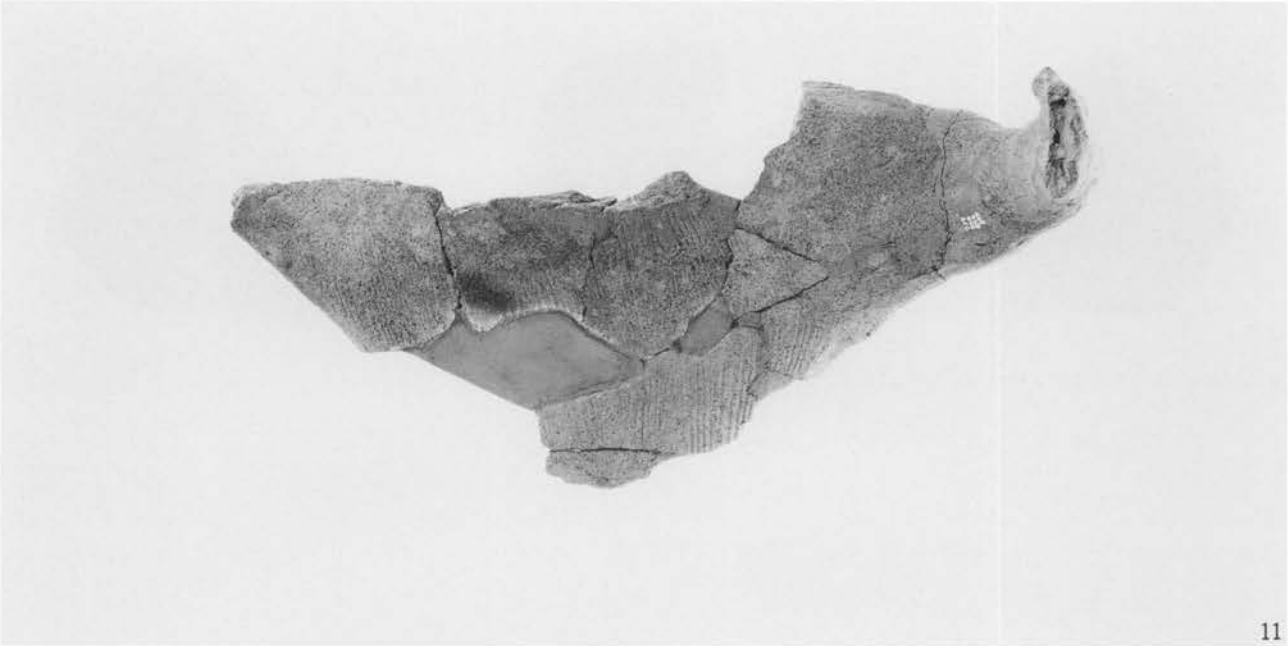
7

8



9

10


11

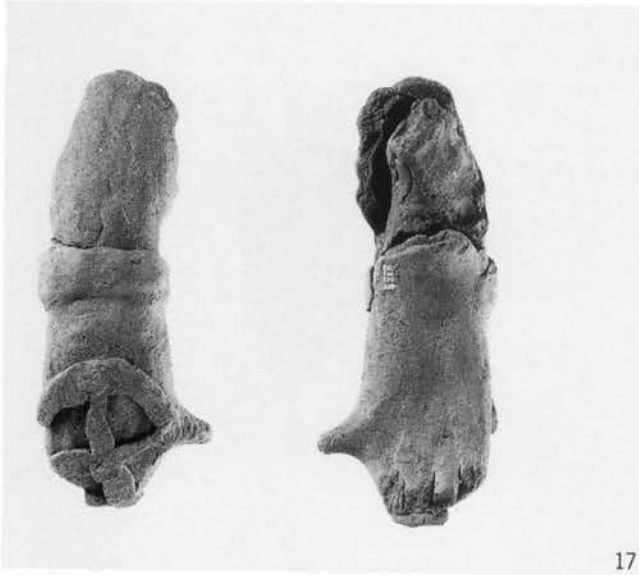
12

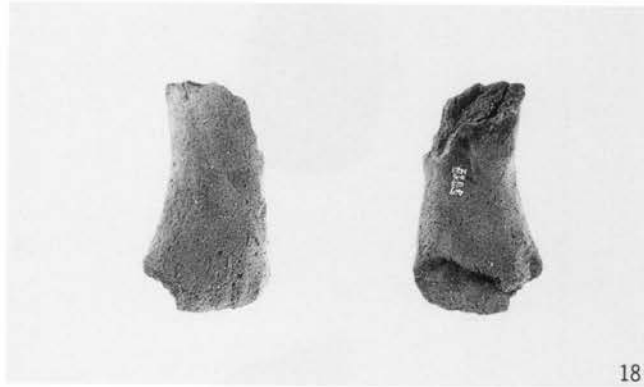
13

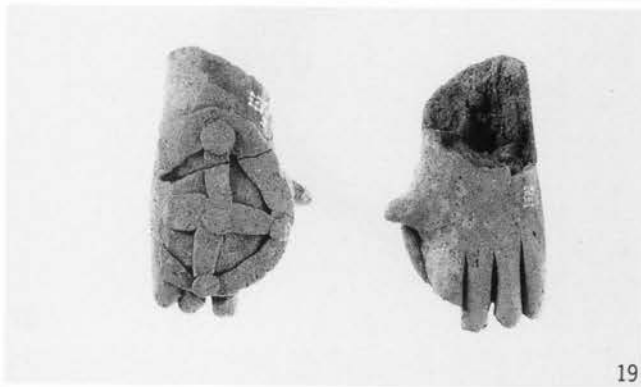
14

15

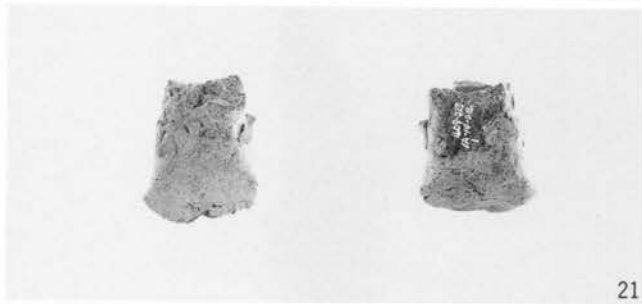
16


17

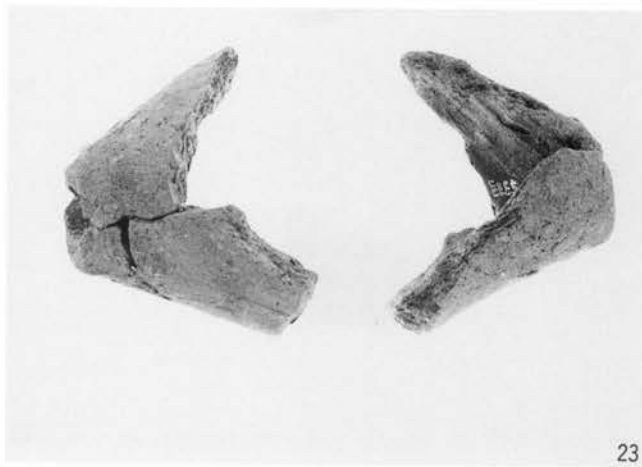

18


19

20


21

22


23

24

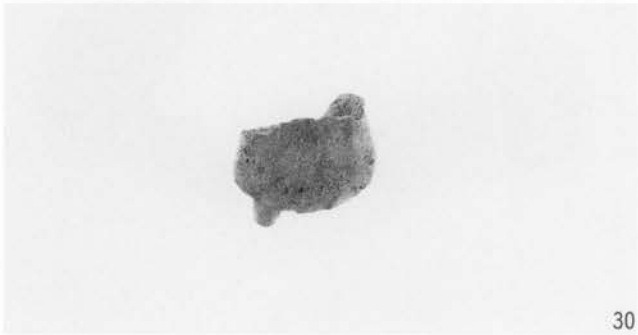
25

27

26

29

28


30

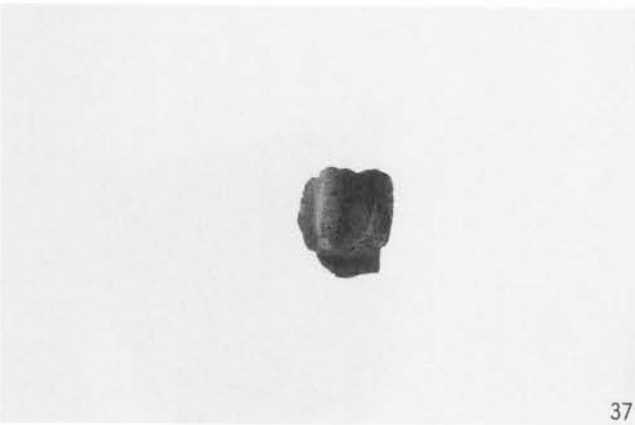
31

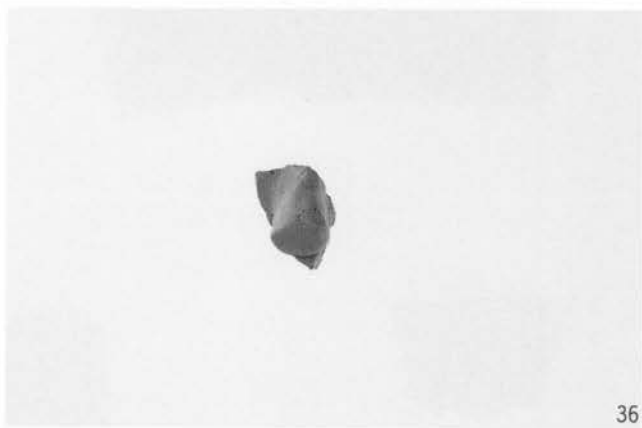
32

33

34

35


37


36

1

2

3

4

5

6

7

8

9

11

10

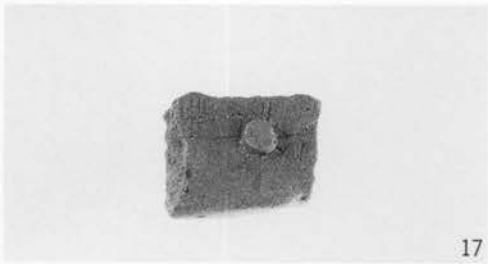
12

13

14

15

16

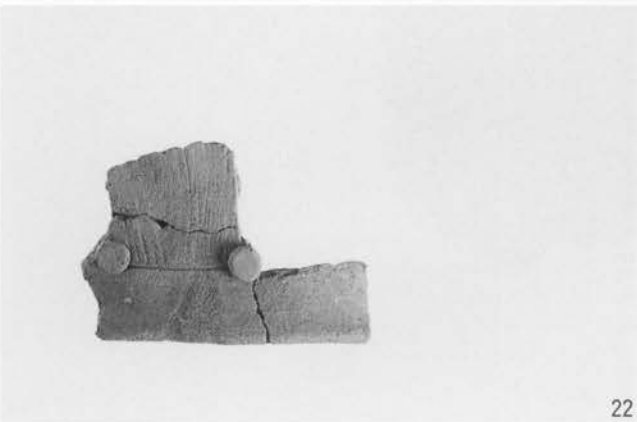

17

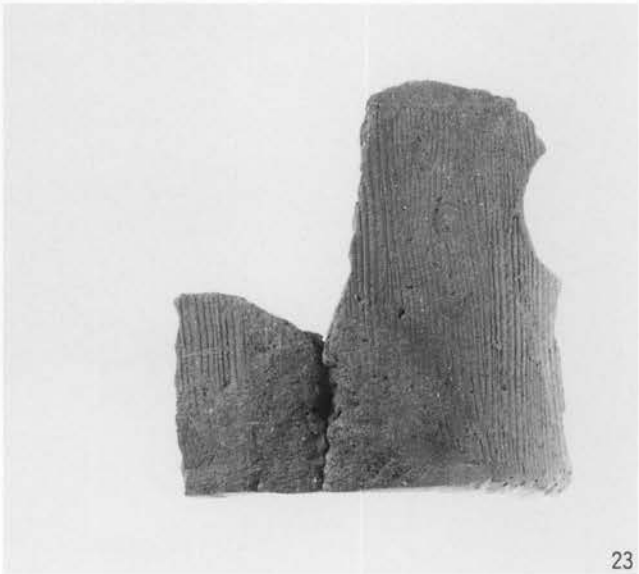
19

18

21

20


22


23

1

2

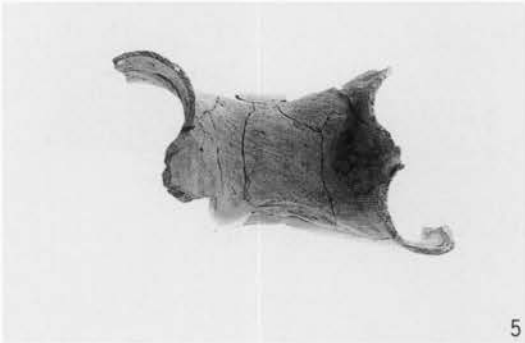
3

4

1

2

3



5

6

4

7

8

9

10

11

12

13

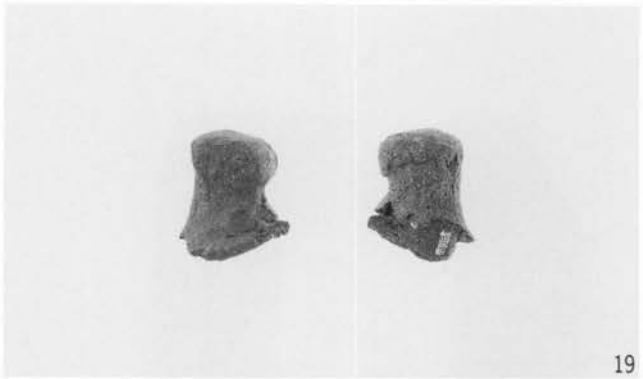
14

15

16

17

18


19

20

21

22

23

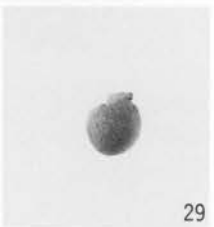
24

25

26

27

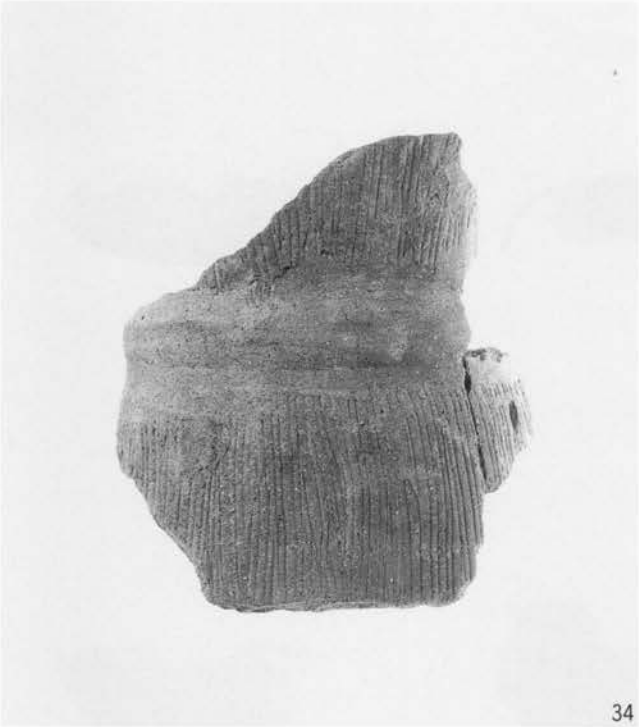
28


29

31

30

32


34

33

36

35

37

38

1

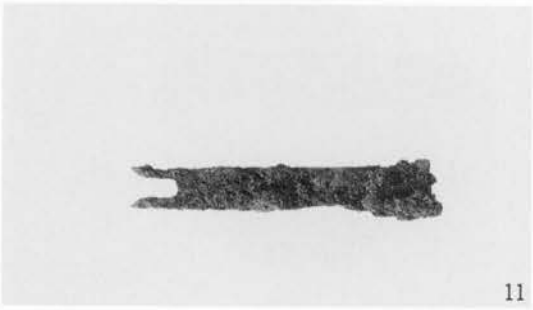
3

4

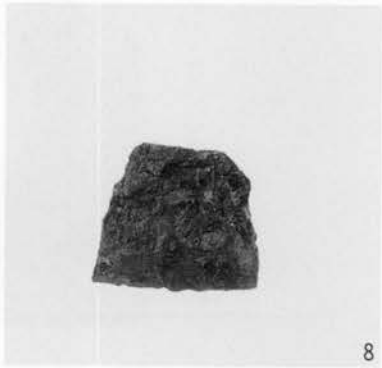
2

5

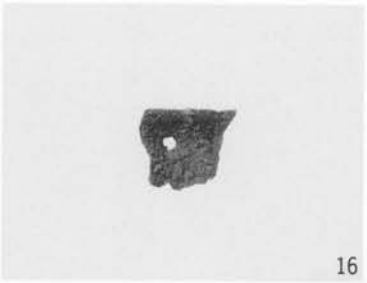
6


11

7


8

12


16

10

9

13

14

15

17

報告書抄録

ふりがな	しゅようちほうどうなりたまつおせん
署名	主要地方道成田松尾線XI
副書名	芝山町山田宝馬古墳群
巻次	XI
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告
シリーズ番号	第391集
編著者名	石倉亮治・安井健一
編集機関	財団法人　千葉県文化財センター
所在地	〒284－0003　千葉県四街道市鹿渡809－2　TEL043-422-8811
発行年月日	西暦2000年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
山田宝馬 古墳群	千葉県山武郡芝山町高田字権現333	409	023	35 42 21.1	140 24 29.1	19870918～ 19871030 19890301～ 19890331	1,680 1,450	主要地方道成田松尾線建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
山田宝馬 古墳群	墓	古墳	前方後円墳　1基	円筒埴輪，形象埴輪， 土師器，須恵器	

千葉県文化財センター調査報告第391集

主要地方道成田松尾線XI

－芝山町山田宝馬古墳群－

平成12年3月31日発行

編　　集　　財団法人　千葉県文化財センター

発　　行　　千　葉　県　土　木　部
千葉市中央区市場町1－1

財団法人　千葉県文化財センター
四街道市鹿渡809－2

印　　刷　　株式会社　正　文　社
千葉市中央区都町2－5－5